

平成 30 年度 全国学力・学習状況調査
報 告 書

平成 30 年 9 月

香川県教育センター

目 次

目次	1
はじめに	2
I 調査の概要	3
平成 30 年度 全国学力・学習状況調査の結果について	4
数値，グラフ等を見るうえでの留意点	6
香川県重点項目に関わる質問事項	8
II 調査結果（概論）	9
全体的な状況	10
正答数分布，全問不正解率，無解答率【小学校】	12
正答数分布，全問不正解率，無解答率【中学校】	14
結果に特徴の見られる質問【児童生徒質問紙】	16
全国の結果から，教科の平均正答率と一定の関係が見られると報告された質問【児童生徒質問紙】	17
香川の教科に関する調査結果と児童生徒質問紙調査結果のクロス集計	18
結果に特徴の見られる質問【学校質問紙】	20
「学習意欲に関わる質問項目」	22
「言語活動に関わる質問項目」	24
「自尊意識等に関わる質問項目」	25
「規範意識に関わる質問項目」	26
「家庭学習に関わる質問項目」	27
特集 1 「学校の取組等と学力層との関連」	28
特集 2 「家庭や地域社会との連携・協働」	30
特集 3 「カリキュラム・マネジメント」	32
特集 4 「主体的・対話的で深い学び」	34
III 教科に関する調査結果及び分析	35
1 小学校国語	36
2 小学校算数	46
3 小学校理科	58
4 中学校国語	66
5 中学校数学	76
6 中学校理科	88
教科等横断的な視点からの授業改善に向けて	96
IV 質問紙調査結果（児童生徒質問紙・学校質問紙）	97
1 児童生徒質問紙 調査結果一覧	98
2 児童生徒質問紙回答結果グラフ	103
3 学校質問紙 調査結果一覧	117
4 学校質問紙回答結果グラフ	122

I 調査の概要

II 概
論

III 小
国語

III 小
算数

III 小
理科

III 中
国語

III 中
数学

III 中
理科

IV 児童生徒質問紙

IV 学校質問紙

はじめに

この全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まり、平成23年度を除いて毎年実施されています。改めて調査の目的を確認させていただきます。

この調査の目的は、「児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。」です。そして、そのような取組を通じて、「教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。」ということです。

改善を推進するためには、まずは、現状の把握が必要不可欠です。「家計費を20%抑制したい」ということを例に考えてみましょう。光熱水費、食費、医療費、教育費等にそれぞれいくら使っているかという現状を把握せずして改善は期待できないわけです。また、現状を把握したとしても、細かな分析なくして改善は難しいのです。

例えば、「光熱水費が、平均的な家庭と比べて2倍以上もかかっている。」という現状の把握とともに、「特に、水道代が多くかかっている。」という分析が必要であり、「家族がそれぞれ好きな時間帯に風呂に入ったりシャワーを使ったりしている。風呂の残り湯の活用は一切していない。」というような実情と結び付けた細かな分析の結果、「家族ができるだけ同じ時間帯に入浴し、残り湯を洗濯に活用する」という改善策が生まれるのです。

家計費の抑制の場合は、何より、「何のために家計費を抑制するのか」という目的が明確になっていなければいけません。また、家族構成やその家族の生活スタイル、優先事項によって「何をどう改善するのか」という視点も変わってくるでしょう。そして、その家族が最も効果的だと考えた改善策を講じてみたところ、翌月はこうなった、翌々月はこうなったという結果が出て、その効果が実感され、家計費の他の項目についても考えていこうとなるわけです。

この調査に話を戻しますと、香川県教育センターでは、県内公立小中学校の約16,000人のデータを、全国状況と比べながら、香川県全体の分析を行うとともに、経年比較ができるよう過去5年間の推移を本報告書にてお示ししています。また、実際の調査問題を例に挙げ、分析・考察し授業改善のポイントを提案させていただいております。さらに、改善のポイントとなる情報を「Column」に掲載しております。

しかし、本報告書にお示ししたものは、あくまでも本県全体に関する状況や分析、改善のポイントであります。各市町（学校組合）教育委員会や各学校におかれましては、本報告書で香川県の課題を把握するとともに、各学校の現状把握・分析、さらには改善にご活用いただきますようお願いいたします。また、自校の分析には、既に当センターWebサイトに掲載しております「活用ツール」をご活用いただき、それぞれの実情に照らし合わせた分析と検証を行い、全教職員で自校の課題を共有し、授業実践の改善等によって課題解決に取り組んでいただきますようお願いいたします。

当センターといたしましては、ご要望があれば、指導主事等が直接学校等に出向き「家計費削減アドバイザー」のように各校の状況や分析、改善について一緒に考えていく事業も行っております。ぜひご活用ください。

最後になりましたが、本報告書の作成に関しましてご指導・ご助言をいただきました香川大学教育学部の佐藤 明宏教授、松島 充准教授、岡田 涼准教授、経済学部の横山 佳充教授に深く感謝の意を表します。

平成30年 9月

香川県教育センター
所長 真鍋 佳樹

I 調査の概要

平成 30 年度 全国学力・学習状況調査の結果について

1 調査の概要

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象（全数調査）

- ① 国・公・私立学校の以下の学年の原則として全児童生徒を対象とする。なお公立学校には公立大学法人が設置する学校（公立大学附属学校）を含む。

ア（小学校調査）小学校第 6 学年，義務教育学校前期課程第 6 学年，
特別支援学校小学部第 6 学年

イ（中学校調査）中学校第 3 学年，義務教育学校後期課程第 3 学年，
中等教育学校第 3 学年，特別支援学校中学部第 3 学年

- ② 特別支援学校及び小中学校の特別支援学級に在籍している児童生徒のうち，調査の対象となる教科について，以下に該当する児童生徒は，調査の対象としないことを原則とする。

ア 下学年の内容などに代替して指導を受けている児童生徒

イ 知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の教科の内容の指導を受けている児童生徒

(3) 調査事項

- ① 教科に関する調査（国語，算数・数学，理科）

- ・国語，算数・数学はそれぞれ，「主として知識に関する問題」※¹と「主として活用に関する問題」※²を出題。
- ・理科については，「主として知識に関する問題」と「主として活用に関する問題」を一体的に出題。

※1 主として知識に関する問題（A問題）

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や，実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

※2 主として活用に関する問題（B問題）

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や，様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

- ② 質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する質問紙調査	学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査

(4) 調査実施日

平成30年 4 月 17 日（火）

(5) 調査を実施した本県の学校・児童生徒数

【小学校調査】

	学校数	児童数
公立小学校	157 校	8,141 人

【中学校調査】

	学校数	生徒数
公立中学校	70 校	7,949 人

2 調査結果の示し方

文部科学省は、小学校調査及び中学校調査のそれぞれについて、以下の事項等を示す。

(1) 教科に関する結果として

- ① 国語、算数・数学のそれぞれ、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題に分けた四つの区分ごとの平均正答数、平均正答率、中央値、標準偏差等
理科については、
 - ・ 理科の問題の全体の平均正答数、平均正答率、中央値、標準偏差等
 - ・ 理科の問題のうち、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題に分けた二つの区分ごとの平均正答数、平均正答率、中央値、標準偏差等
- ② 平均正答数等の分布等が分かるグラフ
- ③ 各教科の設問ごとの正答率等
- ④ 各教科の設問ごとの解答類型別児童生徒数の割合

(2) 児童生徒質問紙調査及び学校質問紙調査の結果として

- ① 児童生徒質問紙調査及び学校質問紙調査の回答状況
- ② 児童生徒質問紙調査の回答状況と教科に関する調査の正答率等との相関関係の分析
- ③ 学校質問紙調査の回答状況と教科に関する調査の平均正答率等との相関関係の分析
- ④ その他、調査の目的の達成に資する分析

3 調査結果の活用

各教育委員会、学校等及び文部科学省においては、調査の目的を達成するため、以下のよう調査結果を活用した取組に努めることとする。

- ① 各教育委員会、学校等においては、多面的な分析を行い、自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握・検証し、保護者や地域住民の理解と協力のもとに適切に連携を図りながら、教育及び教育施策の改善に取り組むこと。
- ② 各学校においては、調査結果を踏まえ、各児童生徒の全般的な学習状況の改善等に努めるとともに、自らの教育指導等の改善に向けて取り組むこと。
- ③ 各教育委員会においては、調査結果を踏まえ、それぞれの役割と責任に応じて、学校における取組等に対して必要な支援等を行うなど、域内の教育及び教育施策の改善に向けた取組を進めること。
- ④ 文部科学省は、児童生徒の学力や学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善に取り組むこととする。また、各教育委員会、学校等における取組に対して必要な支援等を行うなど、教育及び教育施策の改善に向けた全国的な取組を進めることとする。

4 調査結果の取扱いに関する配慮事項

調査結果については、本調査の目的を達成するため、自らの教育及び教育施策の改善、各児童生徒の全般的な学習状況の改善等につなげることが重要であることに留意し、適切に取り扱うものとする。その際、本調査により測定できるのは学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえるとともに、序列化や過度な競争が生じないようにするなど教育上の効果や影響等に十分配慮することが重要である。

数値、グラフ等を見るうえでの留意点

■ 1 調査結果の推移について

全国学力・学習状況調査は、平成 19 年度より実施(平成 22・24 年度は抽出調査、平成 23 年度は未実施)されているが、本報告書では、過去 5 年間(平成 26 年度以降)の回答状況を分析している。(理科については 3 年に一度の調査のため、24, 27, 30 年度の結果を示している。)

なお、平成 28 年度には、熊本県並びに宮崎県及び大分県の一部の小中学校の調査結果の数値は含まれない。

■ 2 差について

「差」を表しているグラフや表の数値は、香川県の数値から全国の数値を引いたものを表す。

■ 3 散布図の見方

散布図は、各都道府県の回答状況について、小学校を縦軸、中学校を横軸に対応させ、全国と各都道府県のデータをプロットしたものである。

【散布図の見方】

- は、児童生徒質問紙を示す
- は、学校質問紙を示す
- 数 / 数 は、(小学校の番号) / (中学校の番号) を示す

- 質問内容を簡潔にした見出しでは、児童生徒質問紙と学校質問紙を次のように文字の背景色で区別している

児童生徒質問紙 → ○○○○
学校質問紙 → ■■■■

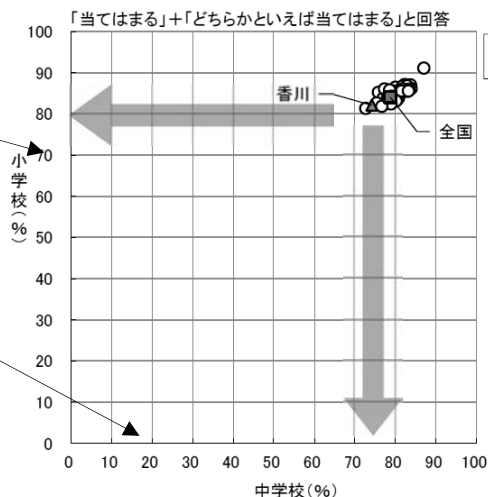
【規範意識、自己有用感等】

自分にはよいところがある

□ 1/1 自分には、よいところがあると思いますか

・縦軸は小学校の割合

・横軸は中学校の割合



※P115に拡大図

・香川県や他県に成果や課題があるが、特徴が分かりにくいものについては、別のページに拡大図を示している。

・香川県と全国の差を「n」で示す

$n = (\text{香川県}) - (\text{全国})$

(例)

$5 \leq n$	◎7.2pt
$3 \leq n < 5$	◎4.8pt
$0 < n < 3$	○2.3pt
$n = 0$	○0.0pt
$-3 < n < 0$	▽1.4pt
$-5 < n \leq -3$	▼3.6pt
$n \leq -5$	▼6.1pt

小 ▽1.9 pt
中 ▼4.6 pt

・▲は、香川県の、
■は、全国の結果をプロットしたものである

活用ツールで自校のデータを CHECK

香川県教育センター 検索

この報告書では全国と香川県の状況を分析して掲載しています。
活用ツール（Excelファイル）を使えば、全国と香川県の状況に加え、
自分の学校の状況をグラフや表に表示することができます。



① 活用ツールのダウンロード

香川県教育センターWebサイトから活用ツール（Excelファイル）と使用説明（PDFファイル）をダウンロードします。<http://www.kagawa-edu.jp/educ/htdocs>



② 学校データの用意

文部科学省から各学校に送付されたDVDから分析するファイルをコンピュータのデスクトップに展開します。（別途文部科学省から送付されているはがきのパスワードが必要です。）



③ 活用ツールの起動

必要なファイル名を選び、実行すると表示されます。



全体的な状況だけでなく、学校の研究主題に関すること、学校生活に関することなどに関係のある質問の結果を表とグラフに表示できます。各学校のカリキュラム・マネジメントの充実に向けて、必要なグラフを選んでまとめ直す際などにご活用ください。

Column

学力調査を活用した「カリキュラム・マネジメント」

全国学力・学習状況調査及び香川県学習状況調査からは、多様なデータを得ることができます。普段から気になっていることについて根拠を見付けたり、把握していなかった成果や課題に気付いたりすることができるようになります。

そこで、この2つの調査を学校にとっての定期健診（**学校ドック**）と考え、十分に活用しましょう。

全国学力・学習状況調査では、国から届いた「各学校の結果データ」や「支援ツール」とともに、香川県教育センターが作成した「活用ツール」や「報告書」等を上手に使って、全国と香川県、そして各学校の状況を比較しながら、自分の学校の良さや課題を明確にしましょう。

分析の際は、次のような観点から学校や児童生徒の状況をみる事で、組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと（カリキュラム・マネジメントの充実につなぐこと）が大切です。



- 今年度の結果だけでなく、経年変化によって児童生徒の変容を知る。
- 学校の取組と、児童生徒の意識の変化や教科に関する調査結果との関連を知る。
- 全国調査と県調査の結果を関連させて、PDCAサイクルを検証する。



活用ツールの使い方だけでなく、調査結果の活用や調査結果を基にした取組等、各学校で困っていることがありましたら、教育センターの「研究相談」や「研修サポート」をご利用ください。

香川県重点項目に関わる質問事項

重点項目	Q&A (ページ)	質問 番号	質問事項
学習意欲	Q1 (p.22)	2 7	算数(数学)の勉強は好きですか
		2 8	算数(数学)の勉強は大切だと思いますか
		2 9	算数(数学)の授業の内容はよく分かりますか
		3 2	算数(数学)の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか
		3 8	理科の勉強は好きですか
		3 9	理科の勉強は大切だと思いますか
		4 0	理科の授業の内容はよく分かりますか
		4 2	理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか
		55/52	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか
言語活動	Q2 (p.24)	56/53	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか
		57/54	学級の友達と(生徒)の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか
自尊意識等	Q3 (p.25)	1	自分には、よいところがあると思いますか
		3	将来の夢や目標を持っていますか
規範意識	Q4 (p.26)	4	学校のきまり(規則)を守っていますか
		5	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか
		6	人の役に立つ人間になりたいと思いますか

※ 質問番号の 数/数 は、(小学校の番号) / (中学校の番号) を示す。

Ⅱ 調査結果（概論）

平成 30 年度全国学力・学習状況調査

全体的な状況

Point

1. 教科に関する調査結果については、小学校において、国語 B，算数 B で全国平均を上回り，国語 A で下回った。中学校において，数学 A で全国平均を上回り，国語 B，数学 B で下回った。
2. 香川県重点項目に関わる質問項目では，「□^{57/54} 話し合いで，考えを深めたり，広げたりする」の質問に対して，肯定的に回答した児童生徒の割合は，小・中学校ともに昨年度より高くなっており，中学校では，12.7 ポイント高くなった。

※ 都道府県の調査区分ごとの平成 29 年度以降の平均正答率については，文部科学省から提供されている整数値で示す。

1 平成 26～30 年度平均正答率（※理科は，平成 24，27，30 年度）

【小学校調査】

調査区分	国語 A					国語 B				
調査年度	H30	H29	(参考) H28	(参考) H27	(参考) H26	H30	H29	(参考) H28	(参考) H27	(参考) H26
県（公立） 平均正答率（%）	69	75	75.0	72.3	75.5	58	59	59.5	69.5	58.8
全国（公立） 平均正答率（%）	71 (70.7)	75 (74.8)	72.9	70.0	72.9	55 (54.7)	58 (57.5)	57.8	65.4	55.5
県と全国との差(pt)	-2	0	+2.1	+2.3	+2.6	+3	+1	+1.7	+4.1	+3.3

調査区分	算数 A					算数 B				
調査年度	H30	H29	(参考) H28	(参考) H27	(参考) H26	H30	H29	(参考) H28	(参考) H27	(参考) H26
県（公立） 平均正答率（%）	64	79	78.2	74.3	78.5	53	48	46.7	47.0	59.5
全国（公立） 平均正答率（%）	64 (63.5)	79 (78.6)	77.6	75.2	78.1	52 (51.5)	46 (45.9)	47.2	45.0	58.2
県と全国との差(pt)	0	0	+0.6	-0.9	+0.4	+1	+2	-0.5	+2.0	+1.3

調査区分	理科		
調査年度	H30	(参考) H27	(参考) H24
県（公立） 平均正答率（%）	60	62.3	64.3
全国（公立） 平均正答率（%）	60 (60.3)	60.8	60.9
県と全国との差(pt)	0	+1.5	+3.4

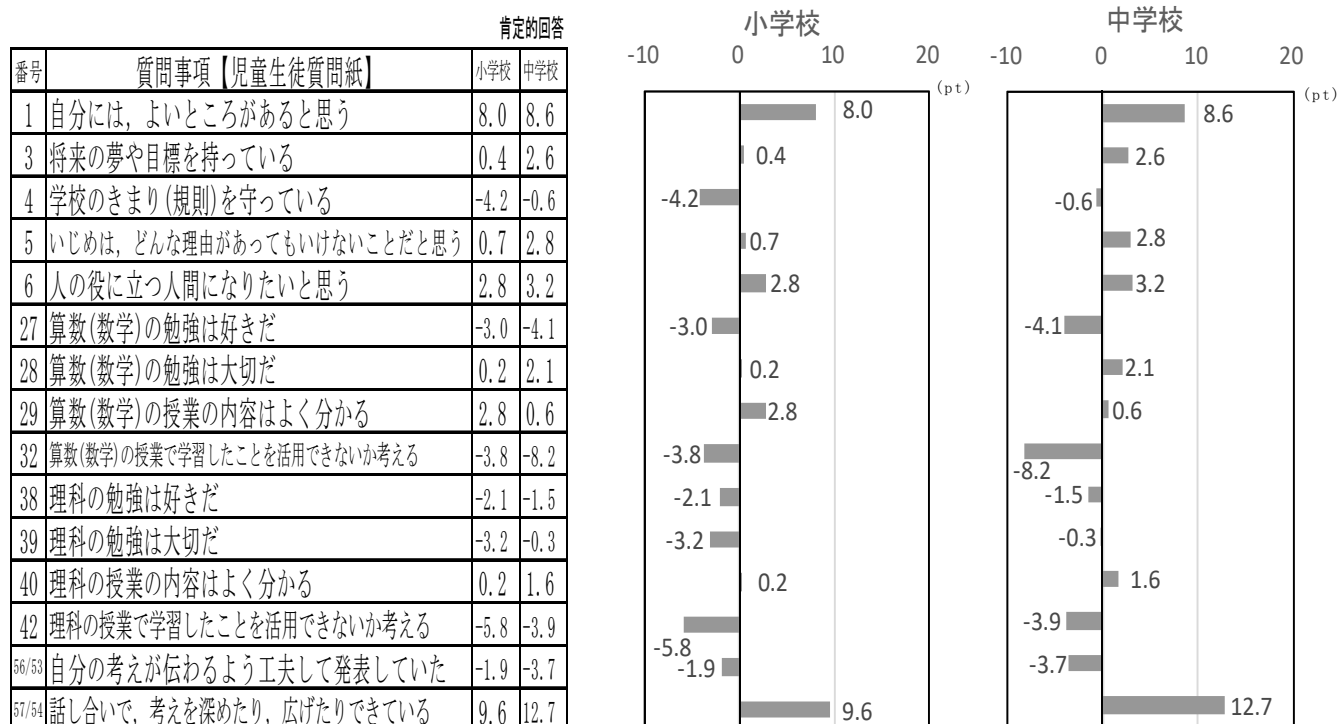
【中学校調査】

調査区分	国語A					国語B				
調査年度	H30	H29	(参考) H28	(参考) H27	(参考) H26	H30	H29	(参考) H28	(参考) H27	(参考) H26
県(公立) 平均正答率(%)	76	78	77.2	76.0	79.3	60	71	67.5	64.9	51.4
全国(公立) 平均正答率(%)	76 (76.1)	77 (77.4)	75.6	75.8	79.4	61 (61.2)	72 (72.2)	66.5	65.8	51.0
県と全国との差(pt)	0	+1	+1.6	+0.2	-0.1	-1	-1	+1.0	-0.9	+0.4

調査区分	数学A					数学B				
調査年度	H30	H29	(参考) H28	(参考) H27	(参考) H26	H30	H29	(参考) H28	(参考) H27	(参考) H26
県(公立) 平均正答率(%)	67	66	63.8	64.4	67.8	46	49	44.6	41.3	60.0
全国(公立) 平均正答率(%)	66 (66.1)	65 (64.6)	62.2	64.4	67.4	47 (46.9)	48 (48.1)	44.1	41.6	59.8
県と全国との差(pt)	+1	+1	+1.6	±0.0	+0.4	-1	+1	+0.5	-0.3	+0.2

調査区分	理科		
調査年度	H30	(参考) H27	(参考) H24
県(公立) 平均正答率(%)	66	53.2	51.5
全国(公立) 平均正答率(%)	66 (66.1)	53.0	51.0
県と全国との差(pt)	0	+0.2	+0.5

2 香川県重点項目に関わる質問事項を昨年度と比較(香川)



平成 30 年度全国学力・学習状況調査

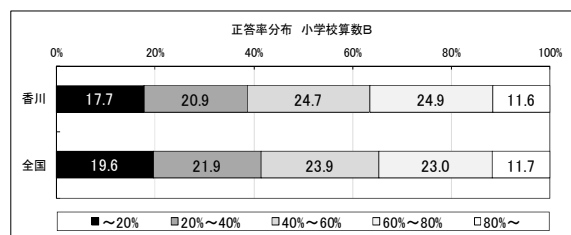
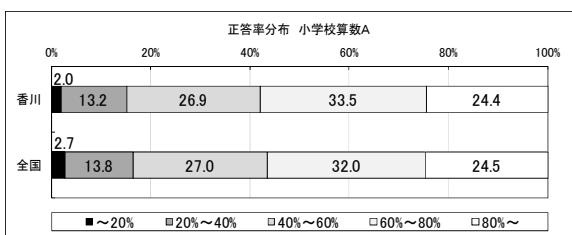
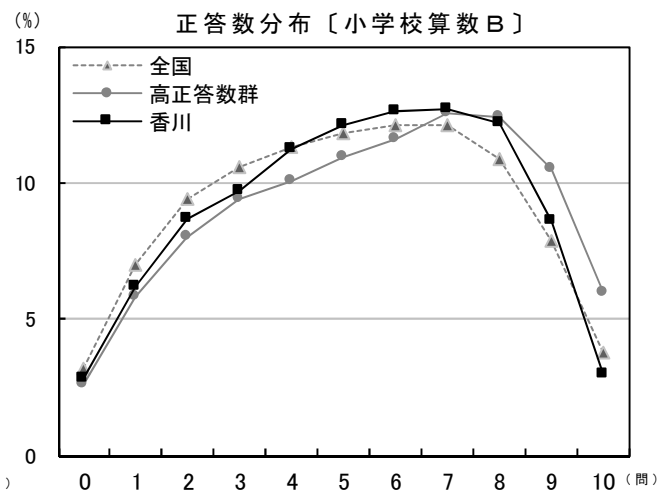
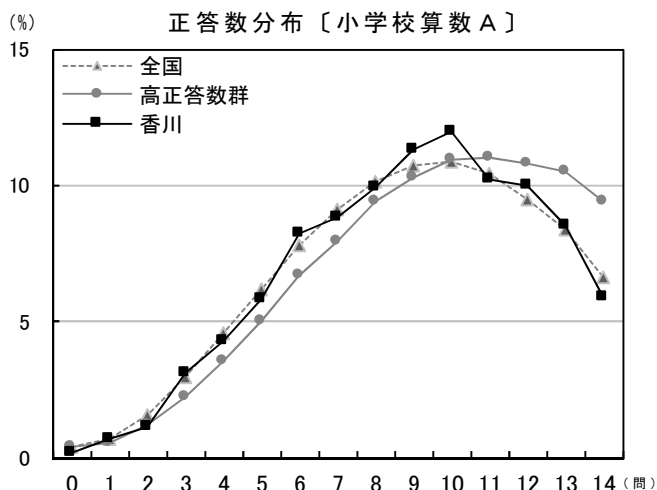
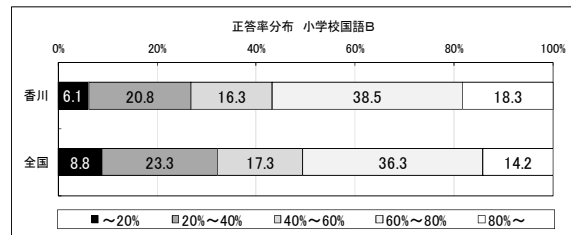
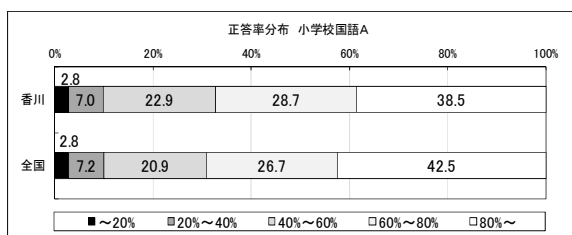
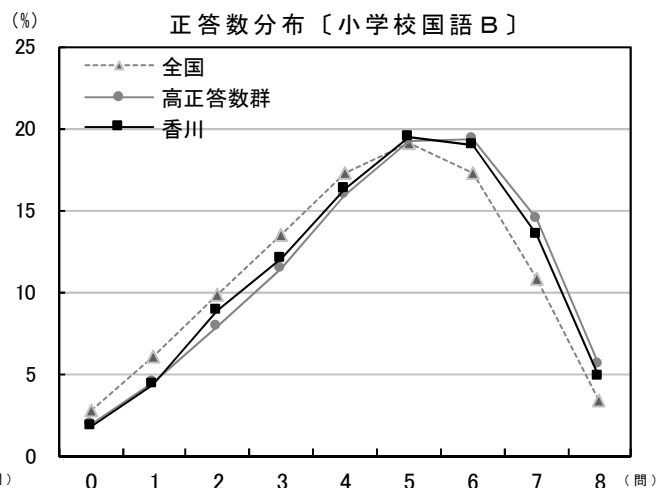
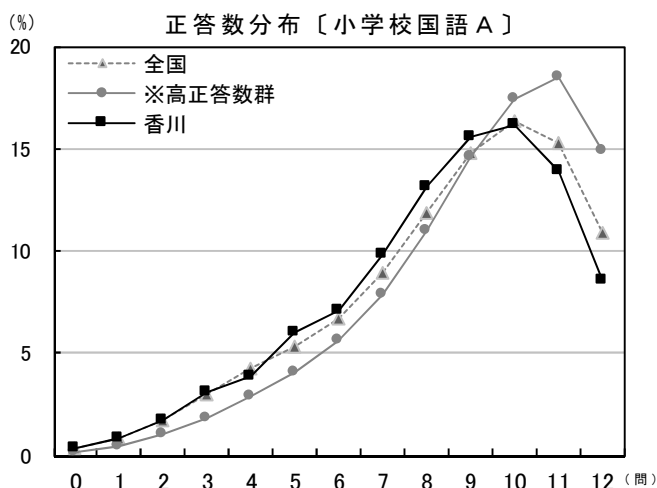
正答数分布，全問不正解率，無解答率【小学校】

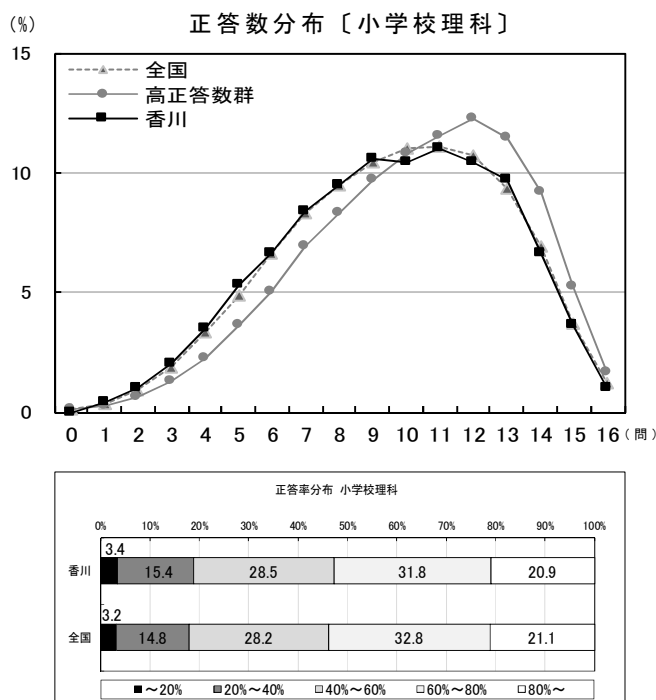
Point

1. 国語 A・B と算数 A・B の調査区分で，正答率が 40% 未満の児童の割合は，全国を下回っている。正答率が 80% 以上の児童の割合は，国語 B で 4.1 ポイント全国を上回っている。

2. 無解答率が全国を上回る問題数は，全 60 問中，0 問（0.0%）である。

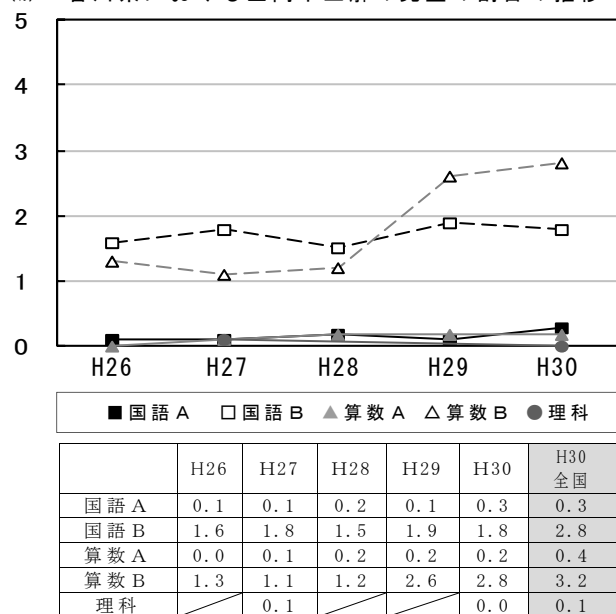
1 小学校正答数分布（※高正答数群：高正答数の 5 都道府県の平均）





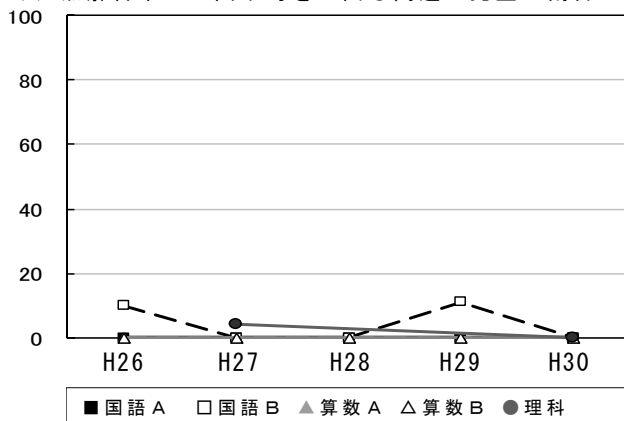
2 全問不正解の児童の割合

(%) 香川県における全問不正解の児童の割合の推移



3 無解答率が全国平均を上回る問題の割合

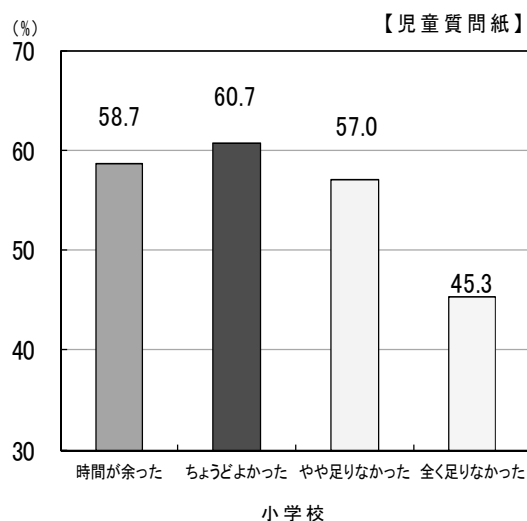
(%) 無解答率が全国平均を上回る問題の児童の割合の推移



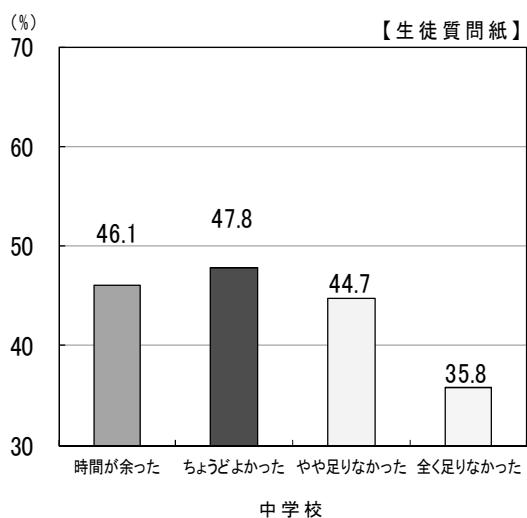
Column

p 113, 114

「□59 調査問題の解答時間は十分でしたか(小国B)」
に対して児童が回答した国語Bの選択肢別平均正答率



「□58 調査問題の解答時間は十分でしたか(中数B)」
に対して生徒が回答した数学Bの選択肢別平均正答率



小学校国語Bと中学校数学Bでは、(解答時間が)「ちょうどよかった」と回答した児童よりも、「時間が余った」と回答した児童の方が平均正答率が低く、この傾向は29年度にも見られます。時間配分を考え、必要に応じて見直す習慣を付けるとともに、日々の授業における振り返り活動の充実や自己評価活動の工夫を通して、見直す視点を身に付けておくことが大切です。

	H26	H27	H28	H29	H30
国語 A	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
国語 B	10.0	0.0	0.0	11.1	0.0
算数 A	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
算数 B	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
理科	4.2				0.0

平成 30 年度全国学力・学習状況調査

正答数分布，全問不正解率，無解答率【中学校】

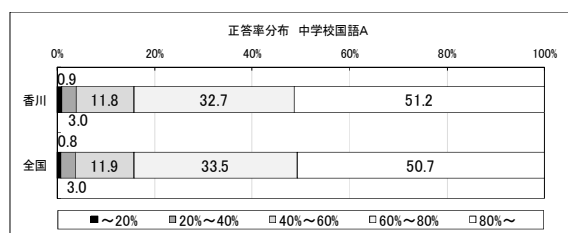
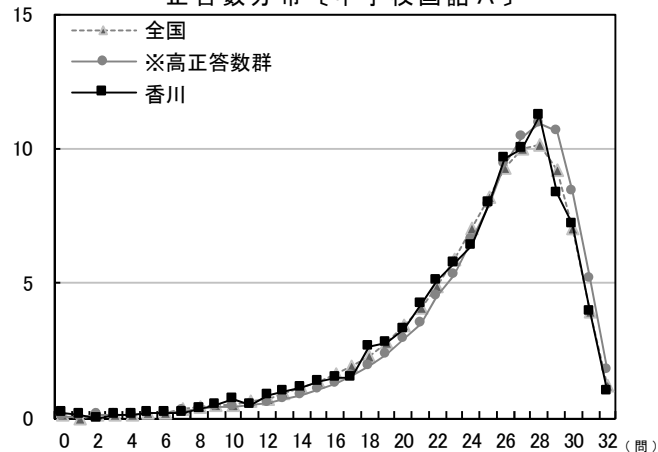
Point

1. 正答率が 40%未満の生徒の割合は，全ての調査区分において全国と比べてほぼ同等，または上回っている。また，正答率が 80%以上の生徒の割合は国語 A，数学 A で全国を上回っている。

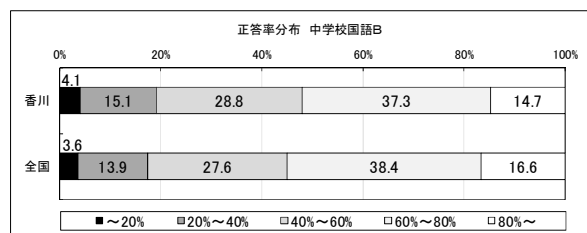
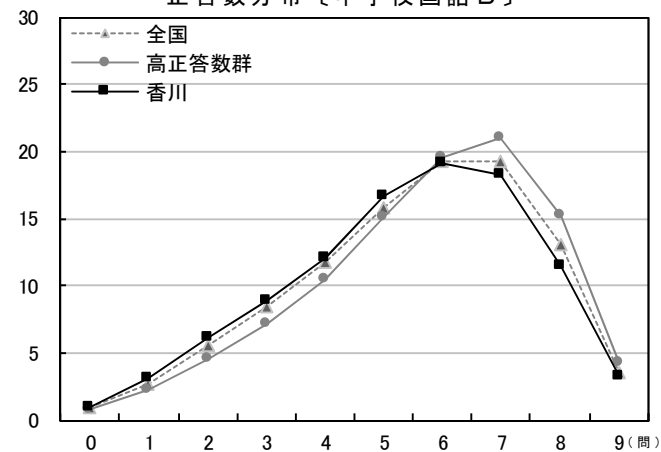
2. 全問不正解の生徒の割合は，数学 B において全国との差が大きくなった一方，国語 A・B，数学 A，理科において全国とほぼ同等または，差が年々減少している。

1 中学校正答数分布（※高正答数群：高正答数の 5 都道府県の平均）

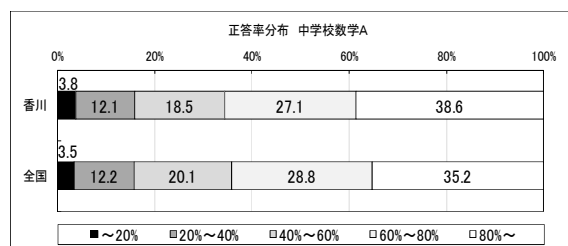
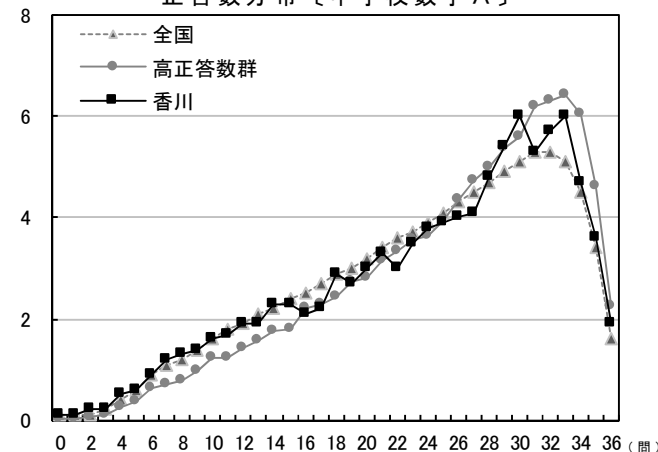
(%) 正答数分布【中学校国語 A】



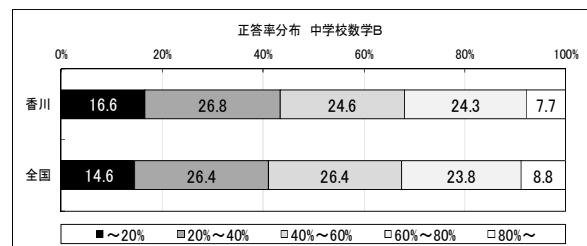
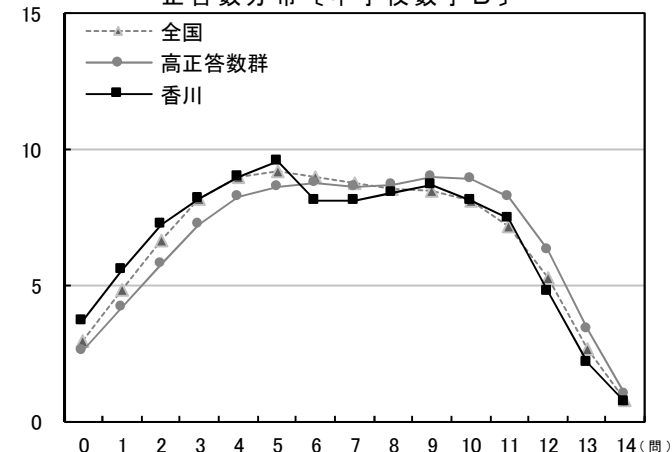
(%) 正答数分布【中学校国語 B】

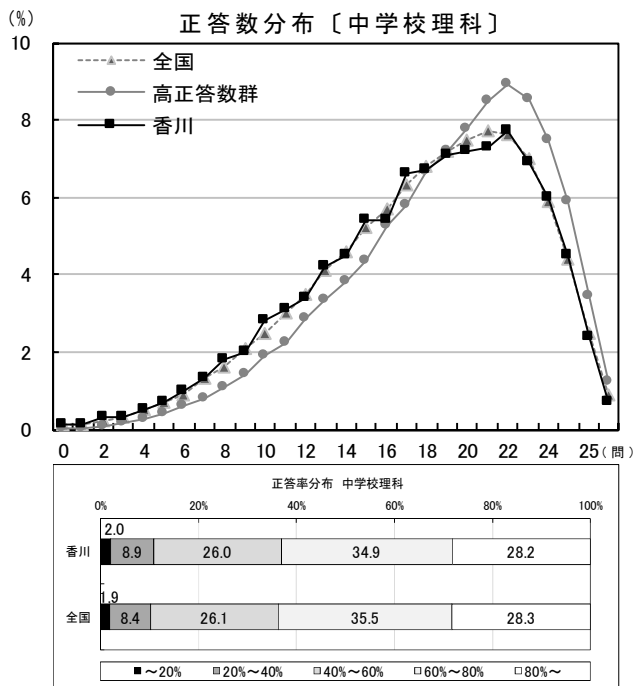


(%) 正答数分布【中学校数学 A】



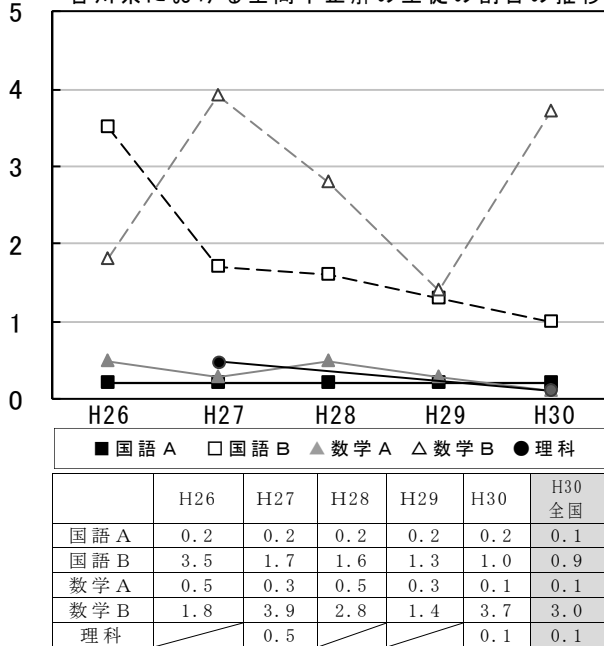
(%) 正答数分布【中学校数学 B】





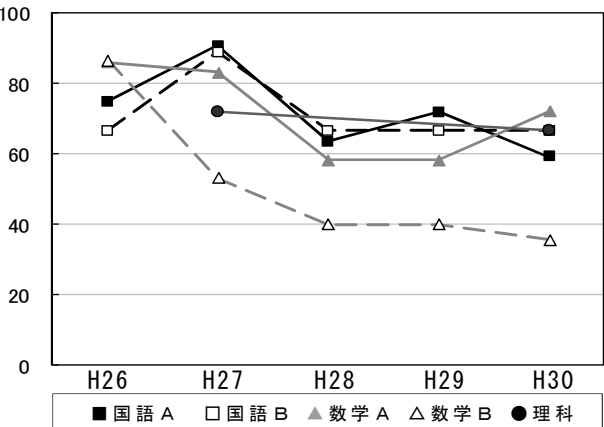
2 全問不正解の生徒の割合

(%) 香川県における全問不正解の生徒の割合の推移



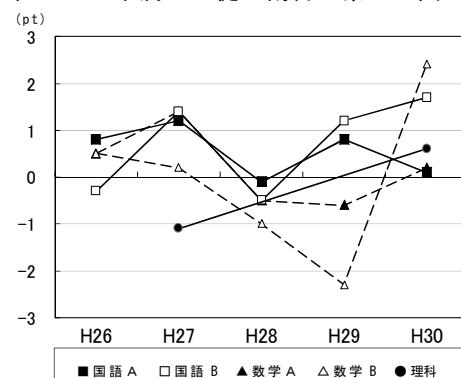
3 無解答率が全国平均を上回る問題の割合

(%) 無解答率が全国平均を上回る問題の割合の推移



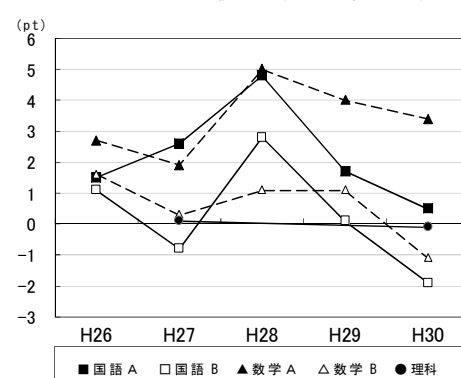
Column

正答率が 40%未満の生徒の割合の県と全国の差の推移



正答率が 40%未満の生徒の割合の県と全国の差は、全ての調査区分で全国を上回っており、課題と考えられます。正答率が 40%未満の生徒の多くは、学習内容が全く分からないわけではないが、定着が不十分だったり、力を十分発揮できていなかったりすることが考えられます。指導に当たっては、目的に合わせた少人数指導の工夫や聞き合えるクラスづくり等、個に応じた指導の工夫を進めましょう。

正答率が 80%以上の生徒の割合の県と全国の差の推移



正答率が 80%以上の生徒の割合の県と全国の差の数値は、全ての調査区分で平成 29 年度（理科は 27 年度）よりも下がっており、課題と考えられます。指導に当たっては、双方向の学び合いが生まれる交流活動を取り入れたり、習得した知識・技能を豊かに活用する場面を設定したりして、学びに積極的に関わろうとする生徒を育成することが大切です。

結果に特徴の見られる質問【児童生徒質問紙】

【小学校】肯定的な回答が3pt以上全国を上回る質問

質問番号	掲載P	H29 番号	質問事項	選択肢1 の差(pt)	選択肢1+2 の差(pt)
13	105	H28 25	家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか	18.7	14.3
19	106	65	5年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか	10.1	5.0
12	105	31・32	家で、学校の授業の予習・復習をしていますか	3.4	4.1
21	106	41	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか	1.7	3.3

【小学校】肯定的な回答が3pt以上全国を下回る質問

質問番号	掲載P	H29 番号	質問事項	選択肢1 の差(pt)	選択肢1+2 の差(pt)
58	113	89	調査問題の解答時間は十分でしたか(国語A)	-5.8	-4.6
27	107	78	算数の勉強は好きですか	-2.9	-3.7
55	113	新	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか	-4.4	-3.7
4	103	49	学校のきまりを守っていますか	-5.9	-3.3

【中学校】肯定的な回答が3pt以上全国を上回る質問

質問番号	掲載P	H29 番号	質問事項	選択肢1 の差(pt)	選択肢1+2 の差(pt)
46	111	H27 77	理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行いましたか	24.8	8.1
56	113	92	調査問題の解答時間は十分でしたか(国語B)	8.6	5.5

【中学校】肯定的な回答が3pt以上全国を下回る質問

質問番号	掲載P	H29 番号	質問事項	選択肢1 の差(pt)	選択肢1+2 の差(pt)
1	103	6	自分には、よいところがあると思いますか	-5.2	-4.6
27	107	80	数学の勉強は好きですか	-2.4	-4.1
53	113	62	1, 2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか	-1.0	-3.4

全国の結果から、教科の平均正答率と一定の関係が見られると 報告された質問【児童生徒質問紙】

※ 教科に関する質問を除く

国が設定した テーマ	質問番号	質問事項
規範意識・ 自己有用感 等	1	自分にはよいところがあると思いますか
	2	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか
	4	学校のきまり(規則)を守っていますか
	5	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか
	6	人の役に立つ人間になりたいと思いますか
地域や社会 に関わる活 動の状況等	19	5年生まで(1, 2年生のとき)に受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の 人と関わったりする機会があったと思いますか
	21	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか
	22	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか
	23	地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか
	25	新聞を読んでいますか
	26	テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか(携帯電話やスマートフォン を使ってインターネットのニュースを見る場合も含む)
主体的・対 話的で深い 学びの視点 からの授業 改善に関す る取組状況	55/52	5年生まで(1, 2年生のとき)に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分 から取り組んでいたと思いますか
	56/53	5年生まで(1, 2年生のとき)に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の 考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思います か
	57/54	学級の友達と(生徒)の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする ことができていると思いますか

※ 質問番号の 数/数 は、(小学校の番号) / (中学校の番号) を示す
 ※ 「平成 30 年度 全国学力・学習状況調査報告書【質問紙調査】」
 (平成 30 年 7 月 文部科学省、国立教育政策研究所)をもとに作成

香川の教科に関する調査結果と児童生徒質問紙調査結果のクロス集計

※調査区分全てにおいて、児童生徒質問紙調査結果の選択肢別平均正答率が、「回答1>回答2>回答3>回答4」の関係である調査結果を示す。
教科に関する質問を除く。

1 【小学校】教科の平均正答率と関係が見られた児童質問紙調査結果

	質問事項	選択肢	当該選択肢を選んだ児童の平均正答率(%)				
			国語A	国語B	算数A	算数B	理科
2	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	① 当てはまる	71.1	60.7	65.8	55.2	61.3
		② どちらかといえば、当てはまる	69.9	59.1	64.0	53.3	60.3
		③ どちらかといえば、当てはまらない	65.2	53.3	60.4	47.5	55.5
		④ 当てはまらない	61.0	46.8	57.7	42.3	52.3
		差①－④	10.1	13.9	8.1	12.9	9.0
4	学校のきまりを守っていますか	① 当てはまる	71.5	61.2	65.1	55.0	61.2
		② どちらかといえば、当てはまる	69.7	58.7	64.5	53.6	60.4
		③ どちらかといえば、当てはまらない	63.7	51.4	59.7	45.6	54.6
		④ 当てはまらない	58.5	43.0	55.6	36.2	49.5
		差①－④	13.0	18.2	9.5	18.8	11.7
6	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	① 当てはまる	70.8	60.3	65.1	54.6	60.9
		② どちらかといえば、当てはまる	66.1	54.4	61.2	48.6	57.4
		③ どちらかといえば、当てはまらない	63.2	49.7	60.2	45.7	53.5
		④ 当てはまらない	59.3	43.0	55.2	38.3	51.5
		差①－④	11.5	17.3	9.9	16.3	9.4
7	朝食を毎日食べていますか	① している	70.6	59.9	65.3	54.6	60.9
		② どちらかといえば、している	65.0	53.6	59.3	46.3	55.6
		③ あまりしていない	61.5	49.8	54.5	41.5	52.4
		④ 全くしていない	57.2	43.8	54.4	37.3	48.2
		差①－④	13.4	16.1	10.9	17.3	12.7
10	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	① している	72.3	61.7	66.8	57.0	62.0
		② どちらかといえば、している	70.4	59.7	64.5	53.9	60.5
		③ あまりしていない	67.1	56.2	61.8	49.8	58.2
		④ 全くしていない	61.5	48.0	57.9	42.5	53.2
		差①－④	10.8	13.7	8.9	14.5	8.8
11	家で、学校の宿題をしていますか	① している	71.0	60.3	65.3	54.9	61.0
		② どちらかといえば、している	60.8	48.5	57.5	42.1	53.2
		③ あまりしていない	54.3	40.2	49.7	32.0	48.7
		④ 全くしていない	50.7	33.4	46.0	30.6	42.6
		差①－④	20.3	26.9	19.3	24.3	18.4
12	家で、学校の授業の予習・復習をしていますか	① している	73.4	62.1	67.6	57.5	62.6
		② どちらかといえば、している	69.8	59.4	63.9	53.4	60.2
		③ あまりしていない	66.5	55.8	61.6	49.6	57.6
		④ 全くしていない	61.4	48.1	57.7	42.6	53.6
		差①－④	12.0	14.0	9.9	14.9	9.0
13	家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか	① している	72.2	61.4	66.2	55.7	62.0
		② どちらかといえば、している	67.6	57.2	62.7	51.7	58.6
		③ あまりしていない	64.5	53.2	60.0	47.3	56.2
		④ 全くしていない	58.4	42.6	53.8	39.1	48.6
		差①－④	13.8	18.8	12.4	16.6	13.4
14	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)	① 3時間以上	73.0	62.4	67.6	56.9	62.0
		② 2時間以上、3時間より少ない	72.2	61.0	65.6	54.9	61.9
		③ 1時間以上、2時間より少ない	70.8	60.4	65.2	54.5	60.8
		④ 30分以上、1時間より少ない	67.2	55.6	62.1	50.9	58.1
		⑤ 30分より少ない	60.0	49.3	57.5	43.5	53.3
18	家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をしますか	① している	72.0	61.4	65.3	55.4	61.4
		② どちらかといえば、している	68.7	58.0	64.0	52.4	59.8
		③ あまりしていない	64.1	52.6	60.9	47.5	56.7
		④ 全くしていない	58.0	43.6	57.0	40.1	49.4
		差①－④	14.0	17.8	8.3	15.3	12.0
19	5年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか	① 当てはまる	72.8	61.7	67.0	56.7	62.9
		② どちらかといえば、当てはまる	68.7	58.5	63.7	52.6	59.2
		③ どちらかといえば、当てはまらない	63.5	52.5	57.8	45.7	53.9
		④ 当てはまらない	58.9	46.0	55.1	39.4	51.2
		差①－④	13.9	15.7	11.9	17.3	11.7
21	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか	① 当てはまる	73.4	61.5	67.7	56.9	62.9
		② どちらかといえば、当てはまる	70.8	60.8	65.3	55.0	61.7
		③ どちらかといえば、当てはまらない	66.1	56.0	61.3	49.8	56.9
		④ 当てはまらない	60.6	47.4	55.3	40.8	50.8
		差①－④	12.8	14.1	12.4	16.1	12.1
25	新聞を読んでいますか	① ほぼ毎日読んでいる	76.5	64.4	70.9	61.1	65.8
		② 週に1～3回程度読んでいる	73.5	62.6	67.9	58.4	63.2
		③ 月に1～3回程度読んでいる	71.1	60.6	65.1	54.7	61.2
		④ ほとんど、または、全く読まない	66.7	55.7	61.6	49.5	57.5
		差①－④	9.8	8.7	9.3	11.6	8.3
26	テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか(携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む)	① よく見る	70.9	59.6	65.0	54.2	60.9
		② 時々見る	69.0	59.2	64.2	53.1	59.9
		③ あまり見ない	64.9	53.5	59.9	48.5	55.4
		④ ほとんど、または、全く見ない	62.3	50.0	58.2	44.0	53.6
		差①－④	8.6	9.6	6.8	10.2	7.3
55	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか	① 当てはまる	74.2	63.0	70.5	60.4	64.3
		② どちらかといえば、当てはまる	70.1	60.0	64.4	53.5	60.5
		③ どちらかといえば、当てはまらない	65.2	53.2	58.2	46.5	55.5
		④ 当てはまらない	58.8	45.4	53.4	37.7	49.9
		差①－④	15.4	17.6	17.1	22.7	14.4
56	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか	① 当てはまる	74.7	63.1	69.4	59.1	64.2
		② どちらかといえば、当てはまる	70.8	60.6	66.2	55.2	61.1
		③ どちらかといえば、当てはまらない	66.6	55.4	60.4	48.9	57.3
		④ 当てはまらない	62.4	51.5	56.6	44.6	53.8
		差①－④	11.5	17.3	9.9	16.3	16.3
57	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	① そう思う	72.2	61.0	66.7	56.0	61.7
		② どちらかといえば、そう思う	69.7	59.2	64.3	53.5	60.3
		③ どちらかといえば、そう思わない	65.2	54.9	60.0	48.3	56.7
		④ そう思わない	61.8	47.2	56.7	41.2	52.5
		差①－④	10.4	13.8	10.0	14.8	9.2

2 【中学校】教科の平均正答率と関係が見られた生徒質問紙調査結果

質問 番号	質問事項	選択肢	当該選択肢を選んだ生徒の平均正答率(%)				
			国語A	国語B	数学A	数学B	理科
4	学校の規則を守っていますか	① 当てはまる	77.6	61.5	69.2	48.0	67.6
		② どちらかといえば、当てはまる	75.6	58.9	66.0	44.4	64.6
		③ どちらかといえば、当てはまらない	68.2	50.0	54.5	33.4	55.8
		④ 当てはまらない	57.2	40.8	41.8	21.7	44.8
		差①－④	20.4	20.7	27.4	26.3	22.8
6	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	① 当てはまる	77.2	60.7	68.5	47.2	66.9
		② どちらかといえば、当てはまる	74.5	58.0	64.8	43.2	63.7
		③ どちらかといえば、当てはまらない	72.1	55.7	59.4	38.9	60.0
		④ 当てはまらない	67.9	53.9	56.7	34.2	54.0
		差①－④	9.3	6.8	11.8	13.0	12.9
7	朝食を毎日食べていますか	① している	77.3	61.1	69.3	47.7	67.3
		② どちらかといえば、している	73.2	55.9	60.8	40.8	61.5
		③ あまりしていない	72.0	54.0	56.5	35.9	58.5
		④ 全くしていない	64.9	47.1	48.7	26.8	50.1
		差①－④	12.4	14.0	20.6	20.9	17.2
10	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	① している	78.6	62.4	72.2	51.0	69.3
		② どちらかといえば、している	76.9	60.6	68.8	47.4	67.2
		③ あまりしていない	76.3	59.6	66.1	45.0	65.3
		④ 全くしていない	71.5	55.4	59.4	37.8	59.1
		差①－④	7.1	7.0	12.8	13.2	10.2
11	家で、学校の宿題をしていますか	① している	78.8	62.7	71.3	50.0	69.1
		② どちらかといえば、している	73.0	55.9	61.6	39.7	61.5
		③ あまりしていない	65.4	48.7	50.0	29.9	52.0
		④ 全くしていない	57.5	40.4	37.5	21.6	42.7
		差①－④	21.3	22.3	33.8	28.4	26.4
13	家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか	① している	79.3	63.2	72.2	51.2	69.8
		② どちらかといえば、している	76.4	60.0	67.2	45.5	66.1
		③ あまりしていない	74.0	57.5	63.5	42.2	62.5
		④ 全くしていない	67.8	50.9	54.4	33.3	54.9
		差①－④	11.5	12.3	17.8	17.9	14.9
18	家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をしますか	① している	78.3	62.2	69.3	48.2	68.0
		② どちらかといえば、している	76.4	59.9	67.4	46.3	65.8
		③ あまりしていない	73.5	56.4	64.7	42.6	63.0
		④ 全くしていない	65.7	49.8	54.3	32.4	54.7
		差①－④	12.6	12.4	15.0	15.8	13.3
21	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか	① 当てはまる	78.4	62.9	70.4	50.0	69.4
		② どちらかといえば、当てはまる	77.8	61.6	69.3	48.5	67.8
		③ どちらかといえば、当てはまらない	75.4	58.4	65.5	43.5	64.1
		④ 当てはまらない	70.4	53.1	59.4	36.6	57.8
		差①－④	8.0	9.8	11.0	13.4	11.6
23	地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか	① 参加したことがある	77.7	61.6	69.7	48.2	67.9
		② 参加したことがない	74.7	58.7	64.5	44.0	63.9
		③ 分からない	74.3	57.1	63.7	42.2	62.8
		差①－③	3.4	4.5	6.0	6.0	5.1
25	新聞を読んでいますか	① ほぼ毎日読んでいる	79.3	64.1	73.2	53.0	70.2
		② 週に1～3回程度読んでいる	78.6	63.6	71.3	51.4	69.2
		③ 月に1～3回程度読んでいる	77.5	61.3	70.1	49.2	68.6
		④ ほとんど、または、全く読まない	75.3	58.5	65.1	43.4	64.1
		差①－④	4.0	5.6	8.1	9.6	6.1
26	テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか(携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む)	① よく見る	77.5	61.5	68.7	47.7	67.4
		② 時々見る	75.8	58.9	66.4	44.8	65.1
		③ あまり見ない	74.2	57.5	63.8	42.1	62.6
		④ ほとんど、または、全く見ない	70.3	53.1	60.6	39.4	59.2
		差①－④	7.2	8.4	8.1	8.3	8.2
52	1, 2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか	① 当てはまる	79.7	64.1	75.1	54.3	71.7
		② どちらかといえば、当てはまる	77.1	60.8	68.5	47.1	67.0
		③ どちらかといえば、当てはまらない	73.3	55.9	60.0	38.3	60.4
		④ 当てはまらない	66.2	49.3	49.6	28.6	52.0
		差①－④	13.5	14.8	25.5	25.7	19.7
53	1, 2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか	① 当てはまる	78.8	63.6	73.6	52.8	70.0
		② どちらかといえば、当てはまる	77.6	61.1	69.8	48.6	68.3
		③ どちらかといえば、当てはまらない	76.0	59.4	66.2	44.7	65.0
		④ 当てはまらない	70.8	53.7	56.2	34.4	57.0
		差①－④	8.0	9.9	17.4	18.4	13.0
54	生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	① そう思う	78.4	62.2	71.3	50.2	68.9
		② どちらかといえば、そう思う	77.1	60.3	67.9	46.5	66.7
		③ どちらかといえば、そう思わない	72.2	56.4	61.0	39.6	60.7
		④ そう思わない	68.7	51.7	54.4	32.5	55.0
		差①－④	9.7	10.5	16.9	17.7	13.9

結果に特徴の見られる質問【学校質問紙】

【小学校】肯定的な回答が5pt以上全国を上回る質問

小学校 質問番号	中学校 質問番号	掲載P	H29 番号	質問事項	選択肢1 の差(pt)	選択肢1+2 の差(pt)
69	66	131	H27 97/95	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、理科の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えましたか	-1.6	16.7
71	68	131	H27 99/97	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、理科の指導として、児童に与えた家庭学習の課題（長期休業期間中の課題を除く）について、評価・指導しましたか	2.6	11.3
70	67	131	H27 98/96	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、理科の指導として、長期休業期間中に自由研究や課題研究などの家庭学習の課題を与えましたか	-5.6	9.5
76	—	132	102 (小のみ)	個々の教員が、自らの専門性を高めていこうとしている教科・領域等を決めており、校外の教科教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか	18.2	8.4

【小学校】肯定的な回答が5pt以上全国を下回る質問

小学校 質問番号	中学校 質問番号	掲載P	H29 番号	質問事項	選択肢1 の差(pt)	選択肢1+2 の差(pt)
34	33	125	79/78	平成29年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校と成果や課題を共有しましたか	-8.2	-18.7
44	42	127	H27 71/70	調査対象学年の児童に対する理科の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	-3.5	-17.6
29	28	124	新	調査対象学年の児童に対する指導において、前年度に、児童がコンピュータ等のICTを活用する学習活動を1クラス当たりどの程度行いましたか	-3.5	-16.9
55	53	129	82/81	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、博物館や科学館、図書館を利用した授業を行いましたか	-3.7	-16.5
54	52	128	81/80	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、ボランティア等による授業サポート（補助）を行いましたか	-5.7	-14.2
21	20	123	78/77	前年度までに、近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	-7.9	-12.8
38	37	126	71	調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	-6.7	-11.0
43	41	127	H27 70/69	調査対象学年の児童に対する理科の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか	-6.1	-8.6
49	47	128	H27 76/75	調査対象学年の児童に対する理科の指導として、前年度までに、観察や実験におけるカードやノートへの記録・記述の方法に関する指導を行いましたか	-11.4	-6.5
13	13	122	新	調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか	-7.0	-5.8
77	74	132	77/76	前年度までに、近隣等の中学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか	-5.4	-5.2

p 132

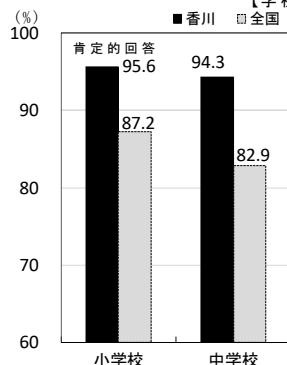
Column

◆異校種連携の推進を◆

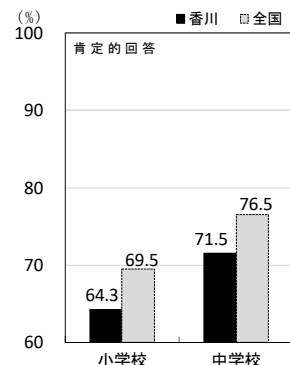
香川県では、校外の教科教育に関する研究会等に参加している割合は、全国と比較して高いですが、近隣等の中学校（小学校）と合同研修を行っている割合は、全国よりも低くなっています。

子供の学びや生活の連続性、系統性を踏まえ、教科指導や生徒指導等に関する研修について、小中連携の視点からの合同研修等も大切にしましょう。

- 76/*（小学校において）個々の教員が、自らの専門性を高めていこうとしている教科・領域等を決めており、校外の教科教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか 【学校質問紙】
- */73（中学校において）教員は、校外の教科教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか 【学校質問紙】



- 77/74 前年度までに、近隣等の中学校（小学校）と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか 【学校質問紙】



【中学校】肯定的な回答が5pt以上全国を上回る質問

小学校 質問番号	中学校 質問番号	掲載P	H29 番号	質問事項	選択肢1 の差(pt)	選択肢1+2 の差(pt)
—	73	132	100 (中のみ)	教員は、校外の教科教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか	23.6	11.4
69	66	131	H27 97/95	調査対象学年の生徒に対する理科の指導として、前年度までに、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか	7.9	7.7
84	81	134	111/109	校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか	17.6	7.4
70	67	131	H27 98/96	調査対象学年の生徒に対する理科の指導として、前年度までに、長期休業期間中に自由研究や課題研究などの家庭学習の課題を与えましたか	12.4	7.4
56	54	129	83/82	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えさせるような指導を行いましたか	5.0	6.9
71	68	131	H27 99/97	調査対象学年の生徒に対する理科の指導として、前年度までに、生徒に与えた家庭学習の課題(長期休業の課題を除く)について、評価・指導しましたか	12.7	6.8
24	23	123	46	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか	1.3	5.0
39	38	126	72	調査対象学年の生徒に対する数学の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	-4.7	5.0
52	50	128	75/74	学校の教員は、特別支援教育について理解し、前年度までに、調査対象学年の生徒に対する授業の中で、生徒の特性に応じた指導上の工夫(板書や説明の仕方、教材の工夫など)を行いましたか	7.6	5.0

【中学校】肯定的な回答が5pt以上全国を下回る質問

小学校 質問番号	中学校 質問番号	掲載P	H29 番号	質問事項	選択肢1 の差(pt)	選択肢1+2 の差(pt)
54	52	128	81/80	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、ボランティア等による授業サポート(補助)を行いましたか	-4.9	-23.0
49	47	128	H27 76/75	調査対象学年の生徒に対する理科の指導に関して、前年度までに、観察や実験のレポートの作成方法に関する指導を行いましたか	-12.8	-18.4
35	34	125	60	調査対象学年の生徒に対して、数学の授業において、前年度に、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか	-13.6	-17.2
38	37	126	71	調査対象学年の生徒に対する数学の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	-2.1	-16.5
29	28	124	新	調査対象である第3学年の生徒に対する指導において、前年度に、生徒がコンピュータ等のICTを活用する学習活動を1クラス当たりどの程度行いましたか	-5.4	-14.9
36	35	125	61	調査対象学年の生徒に対して、数学の授業において、前年度に、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱いましたか	-10.1	-14.3
44	42	127	H27 71/70	調査対象学年の生徒に対する理科の指導に関して、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	-4.0	-13.3
28	27	124	新	調査対象である第3学年の生徒に対する指導において、前年度に、教員が大型提示装置(プロジェクター、電子黒板等)等のICTを活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか	-17.6	-11.9
21	20	123	78/77	前年度までに、近隣等の小学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	-8.4	-10.7
53	51	128	80/79	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか	-9.8	-10.1
61	58	130	新	地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、(57)の質問にあるような保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか	-12.1	-9.3
17	16	122	29	教育課程表(全体計画や年間指導計画等)について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか	-9.3	-8.7
73	70	132	99/97	学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか	-9.0	-8.5
34	33	125	79/78	平成29年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小学校と成果や課題を共有しましたか	-4.8	-6.8
26	25	124	49	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか	-5.6	-5.0
77	74	132	77/76	前年度までに、近隣等の小学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか	-10.9	-5.0

Question 1 学習意欲 に関する 質問項目

本県の課題とされている「学習意欲」に関わる質問紙調査結果については、具体的にどのような課題が見られましたか。また、どのような回答状況の変化が見られましたか。

Answer

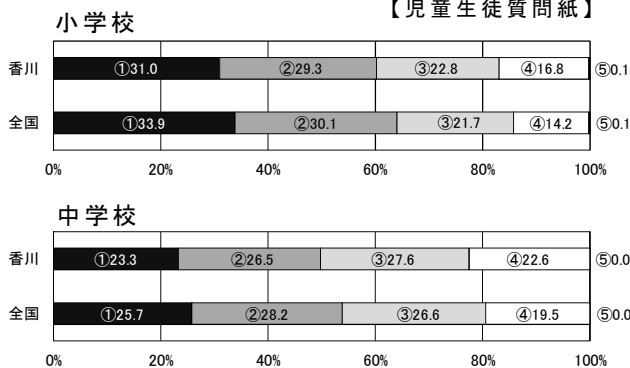
1. 「□27 算数（数学）の勉強は好きですか」の質問に対して、肯定的に回答している児童生徒の割合は、小学校で 3.7 ポイント、中学校で 4.1 ポイント全国を下回り、小・中学校ともに過去 5 年間で最も低くなっている。
2. 「□29 算数（数学）の授業の内容はよく分かりますか」の質問に対して、肯定的に回答している児童生徒の割合は、小・中学校ともに全国を下回るが、増加傾向が見られ、過去 5 年間で最も高くなっている。
3. 「□32・42 ○○の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」の質問とその教科の平均正答率の関係を見ると、肯定的に回答した児童生徒ほど、平均正答率が高い。

1 学習意欲の状況

p 107, 110

□27 算数（数学）の勉強は好きですか

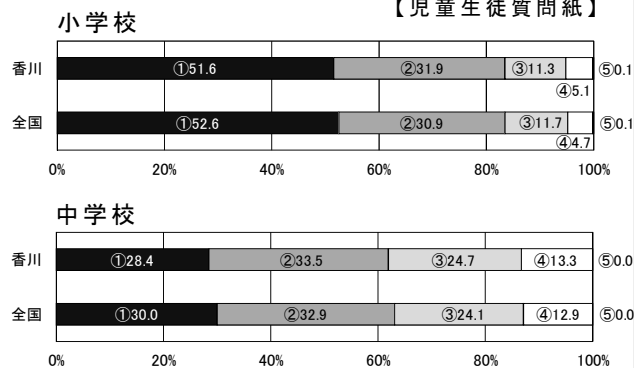
【児童生徒質問紙】



- ① 当てはまる ② どちらかといえば、当てはまる
③ どちらかといえば、当てはまらない
④ 当てはまらない ⑤ 無解答・その他

□38 理科の勉強は好きですか

【児童生徒質問紙】



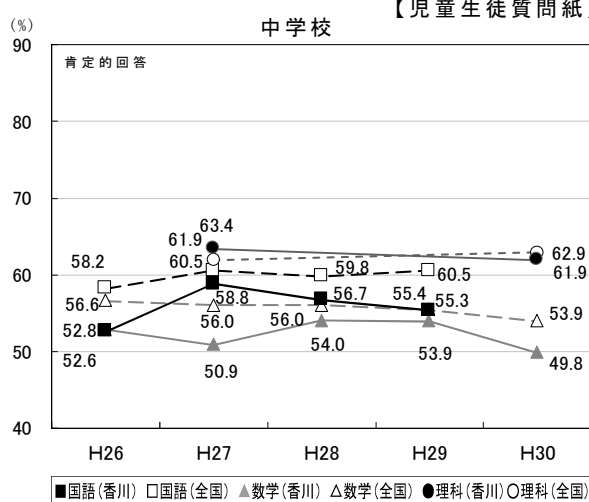
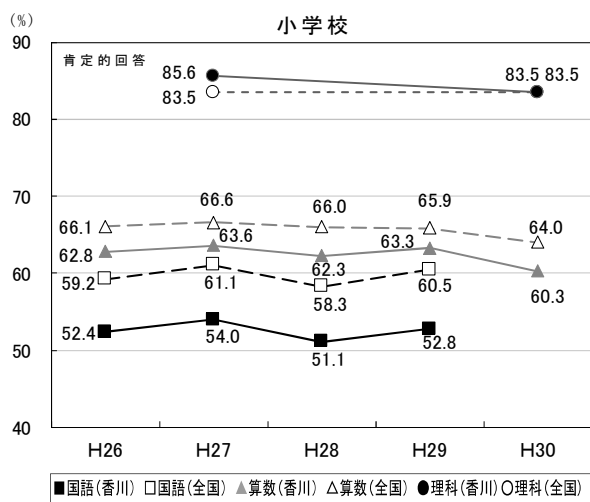
- ① 当てはまる ② どちらかといえば、当てはまる
③ どちらかといえば、当てはまらない
④ 当てはまらない ⑤ 無解答・その他

2 学ぶことに対する意識

p 107, 110

□27・38 ○○の勉強は好きですか

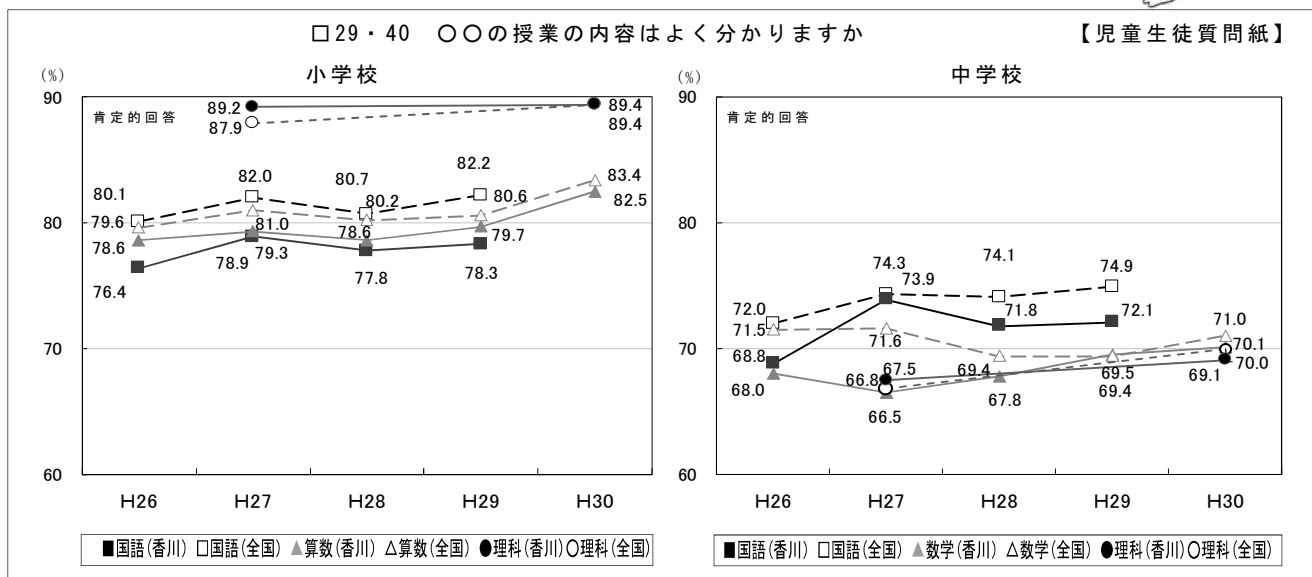
【児童生徒質問紙】



H30 は、国語に関する質問無し

3 授業の内容に対する意識

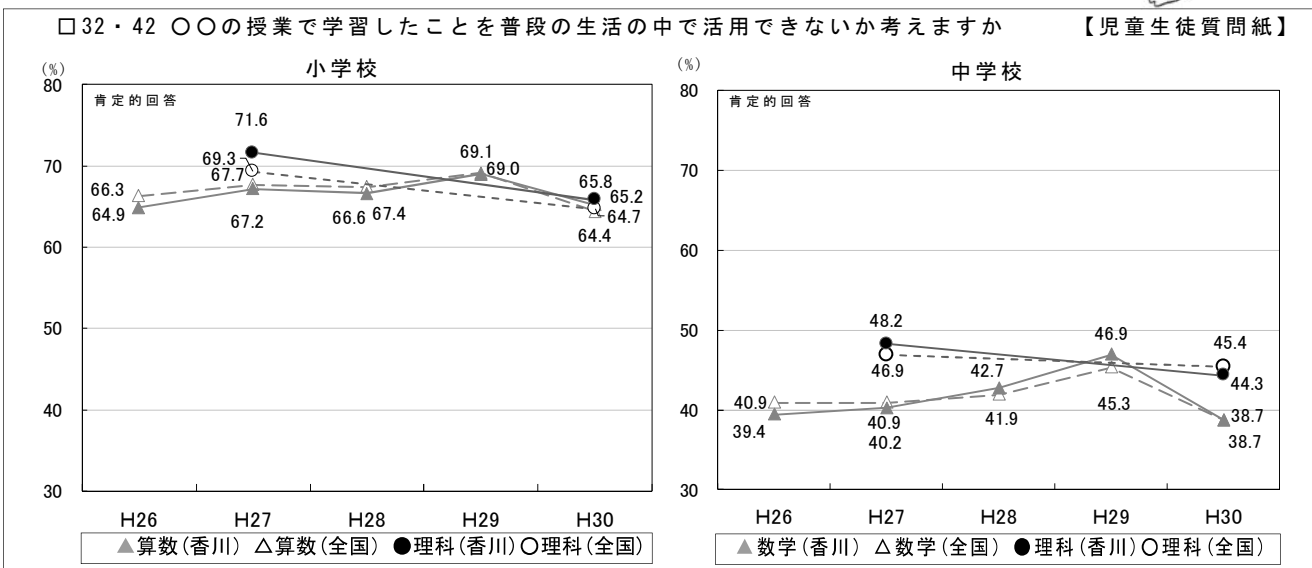
p 108, 110



H30は、国語に関する質問無し

4 活用に対する意識

p 108, 110

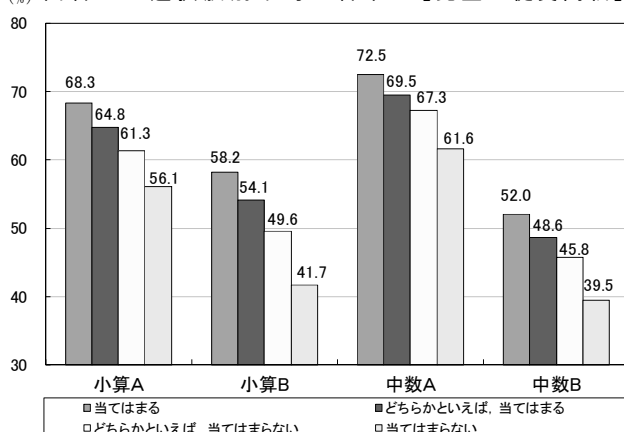


H30は、国語に関する質問無し

Column

p 108

「□ 32 算数(数学)の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」に対して児童生徒が回答した選択肢別平均正答率 【児童生徒質問紙】



算数(数学)の授業で学習したことを生活の中で活用できないか考えることと、平均正答率との間には相関があると考えられます。

例えば、新学習指導要領算数科の目標には、「数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を」育成するために、「…日常の事象を数理的に処理する技能を身に付ける…」 「日常の事象を数理的に捉え…」 「…算数で学んだことを生活や学習に活用…」等が示されており、授業においても生活での活用を意識することが求められます。

各教科等を通して育成する資質・能力が、汎用的なものとして児童生徒に意識され、学びの喜びや意欲につながるとともに、「○○の勉強が好き」と感じられるよう、今後も児童生徒の実態を踏まえた授業改善に取り組みましょう。

Question 2 言語活動 に関わる 質問項目

本県の課題とされている「言語活動」に関わる質問紙調査結果については、具体的にどのようなところに課題が見られましたか。また、どのような回答状況の変化が見られましたか。

Answer

1. 「□56/53 授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか」の質問に対して、肯定的に回答している児童生徒の割合は、小・中学校ともに全国を下回っている。
2. 「□57/54 学級の友達と(生徒の)間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」の質問に対して、「そう思う」と回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに大きく増加し、全国を上回っている。

1 言語活動の実施状況

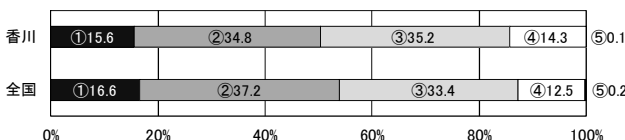
p 113

□56/53 授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか
【児童生徒質問紙】

小学校



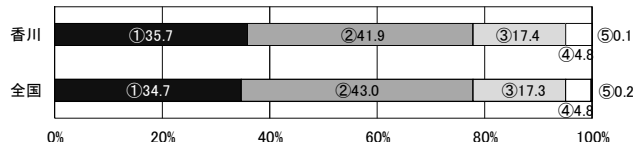
中学校



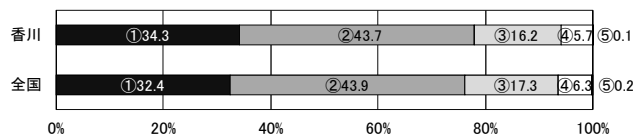
- ① 当てはまる ② どちらかといえば、当てはまる
③ どちらかといえば、当てはまらない
④ 当てはまらない ⑤ 無解答・その他

□57/54 学級の友達と(生徒の)間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか
【児童生徒質問紙】

小学校



中学校

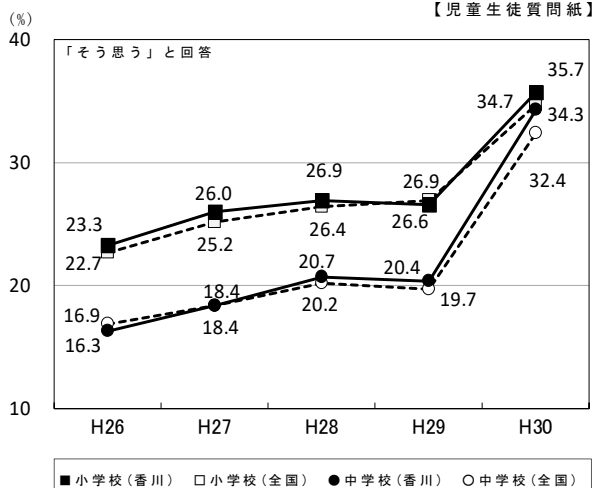


- ① そう思う ② どちらかといえば、そう思う
③ どちらかといえば、そう思わない
④ そう思わない ⑤ 無解答・その他

2 話し合う活動を通じて、考えを深めたり、広げたりする

p 113

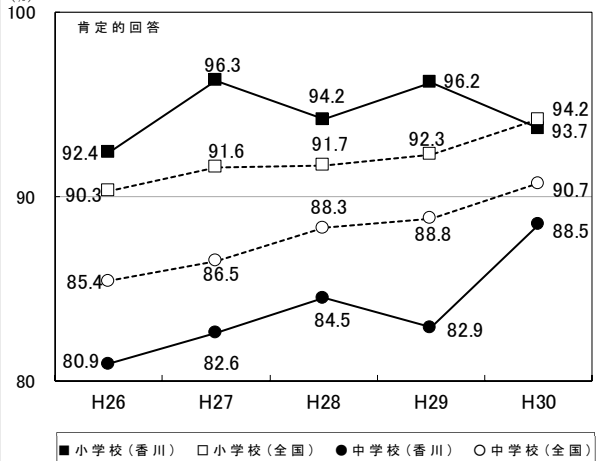
□57/54 学級の友達と(生徒の)間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか
【児童生徒質問紙】



3 言語活動の学校全体としての取組

p 133

■81/78 言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、(外国語活動)、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか
【学校質問紙】



Question 3 自尊意識等 に関わる 質問項目

本県の課題とされている「自尊意識等」に関わる質問紙調査結果については、どのようになっていましたか。また、平均正答率との関係は見られましたか。

Answer

1. 「□¹自分にはよいところがあると思いますか」の質問に対して、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに全国より低くなっているが年々増加しており、過去5年間の中で最も高くなっている。
2. 「□³将来の夢や目標を持っていますか」の質問に対して、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに全国より低くなっている。
3. 「□²先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問と平均正答率の関係を見ると、小学校では肯定的に回答した児童ほど平均正答率が高く、「当てはまる」と回答した児童の割合と「当てはまらない」と回答した児童の割合は、全ての調査区分で8～13ポイントの差がある。

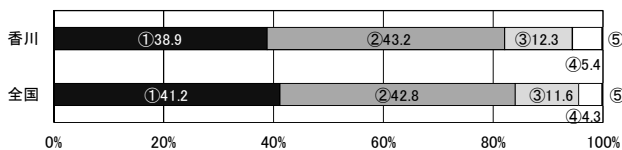
1 自尊意識等の状況

p 103

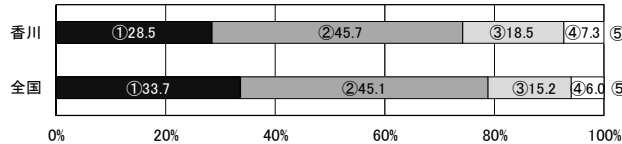
□1 自分にはよいところがあると思いますか

【児童生徒質問紙】

小学校



中学校

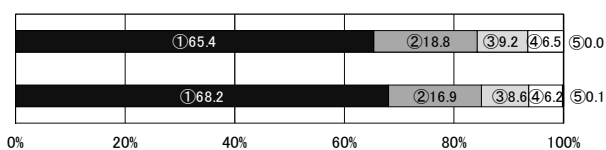


- ① 当てはまる ② どちらかといえば、当てはまる
③ どちらかといえば、当てはまらない
④ 当てはまらない ⑤ 無解答・その他

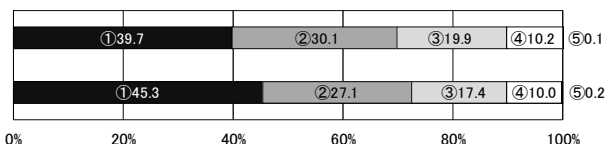
□3 将来の夢や目標を持っていますか

【児童生徒質問紙】

小学校



中学校



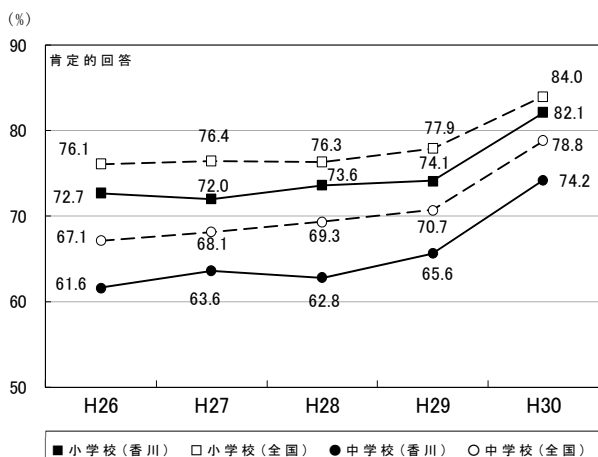
- ① 当てはまる ② どちらかといえば、当てはまる
③ どちらかといえば、当てはまらない
④ 当てはまらない ⑤ 無解答・その他

2 自分にはよいところがある

p 103

□1 自分にはよいところがあると思いますか

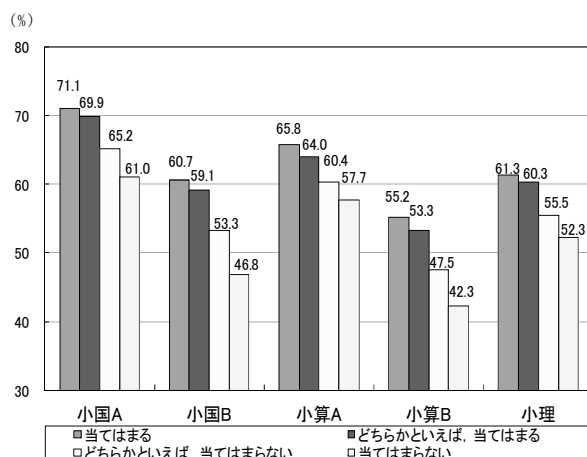
【児童生徒質問紙】



3 自尊意識等と平均正答率の関係

p 103

「□2 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」に対して児童が回答した選択肢別平均正答率 【児童質問紙】



Question 4 規範意識 に関わる 質問項目

本県の課題とされている「規範意識」に関わる質問紙調査結果については、具体的にどのようなところに課題が見られましたか。また、どのような回答状況の変化が見られましたか。

Answer

1. 「^{□4}学校のきまり(規則)を守っていますか」の質問に対して、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小学校で5.9ポイント、中学校で5.4ポイント全国を下回っている。
2. 「^{□5}いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に対して、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに昨年度より増加し、全国を上回っている。

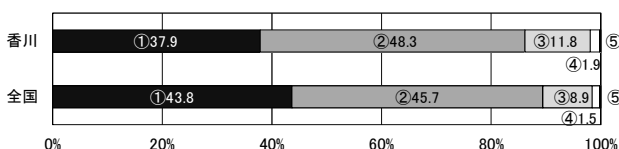
1 規範意識の状況

p 103

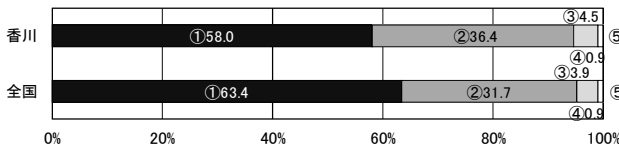
□4 学校のきまり(規則)を守っていますか

【児童生徒質問紙】

小学校



中学校

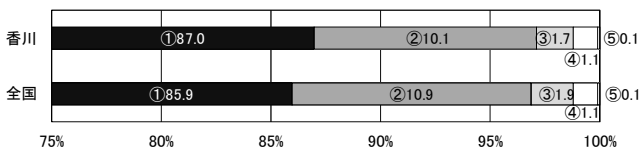


- ① 当てはまる ② どちらかといえば、当てはまる
③ どちらかといえば、当てはまらない
④ 当てはまらない ⑤ 無解答・その他

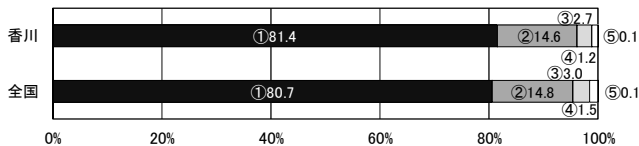
□5 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

【児童生徒質問紙】

小学校



中学校



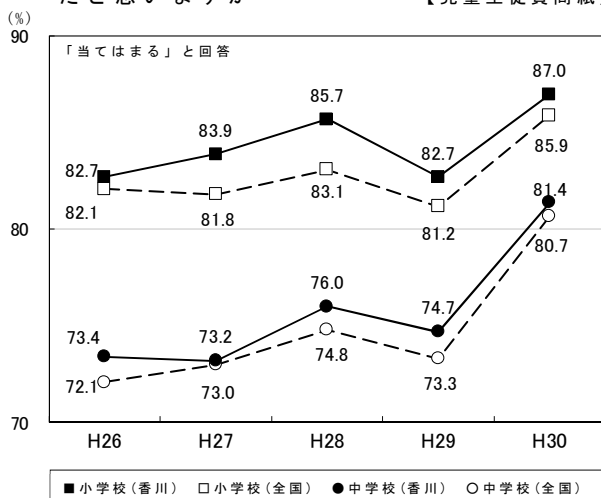
- ① 当てはまる ② どちらかといえば、当てはまる
③ どちらかといえば、当てはまらない
④ 当てはまらない ⑤ 無解答・その他

2 他の人との関わりに関することについて

p 103

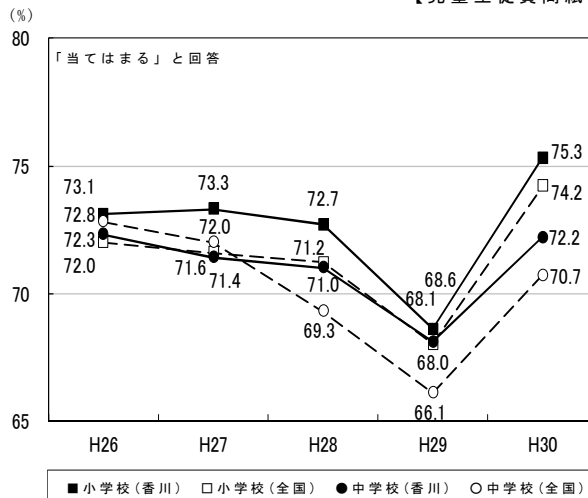
□5 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

【児童生徒質問紙】



□6 人の役に立つ人間になりたいと思いますか

【児童生徒質問紙】



Question 5 家庭学習 に関わる 質問項目

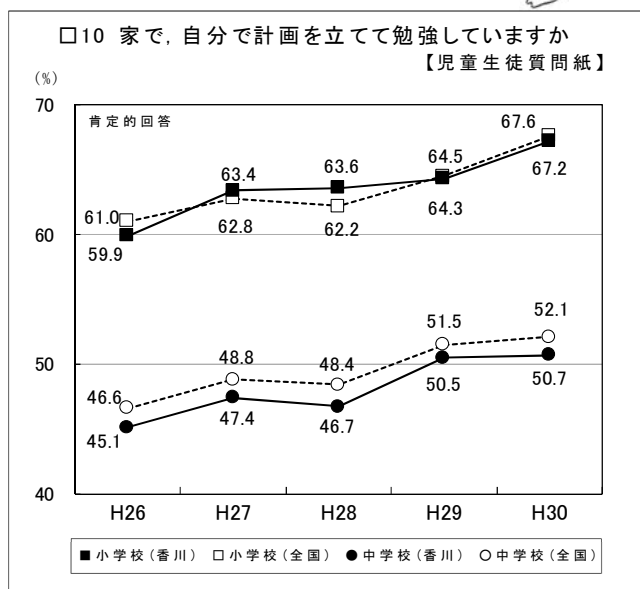
「家庭学習」に関わる質問項目について、どのような結果になっていましたか。また、1日当たりの勉強時間は、どのような結果になっていましたか。

Answer

1. 「□¹⁰ 家で、自分で計画を立てて勉強していますか」の質問に対して、肯定的に回答している児童生徒の割合は、小・中学校ともに増加傾向にあり、過去5年間で最も高くなっている。
2. 「■^{66/63} 家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか」の質問に対して、「よく行った」と回答している学校の割合は、中学校で昨年度より2.8ポイント増加している。
3. 「□¹⁴ 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問に対して、小・中学校ともに1～2時間と回答した児童生徒の割合が大きい。

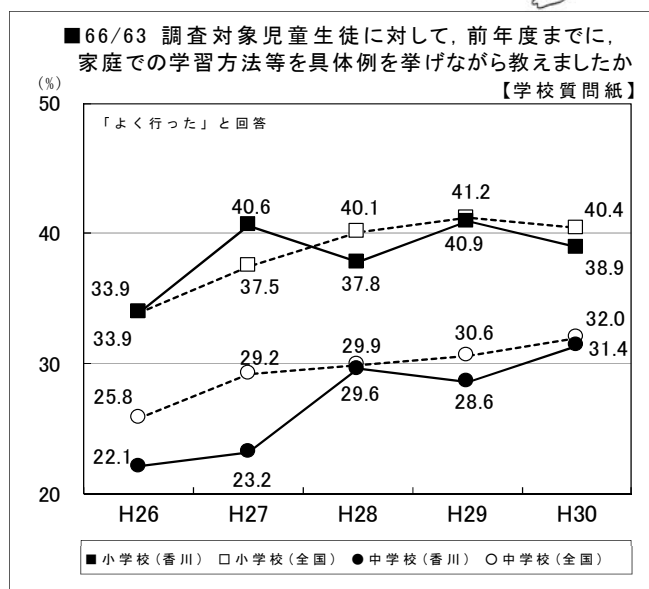
1 家庭での計画的な学習

p 104



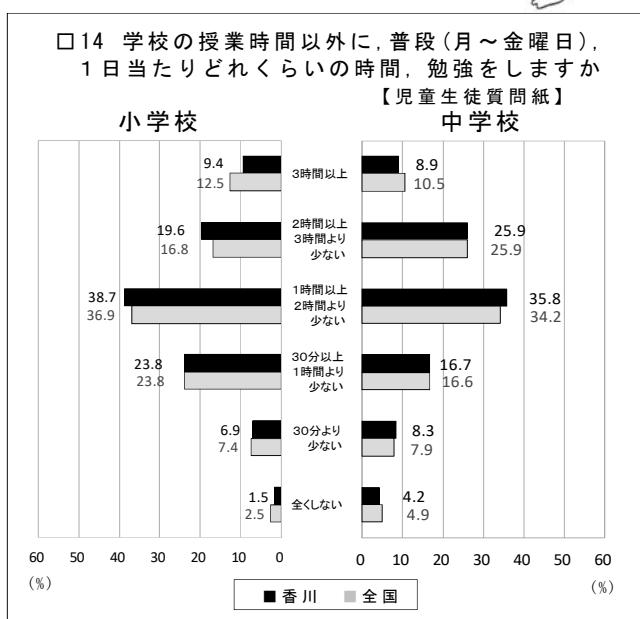
2 家庭での学習方法等の指導

p 130



3 普段の1日当たりの勉強時間

p 105



Column

家庭で学校の宿題をすることや、授業の予習・復習をすることと、各教科の平均正答率との間には関連があると考えられます。

(P18, 19 参照)

効果的に家庭学習を行うためには、その量を増やすだけでなく、質を高め、計画的に継続して取り組む習慣を身に付けることが大切です。例えば、①新しい単元の学習が始まる前に関連のある既習内容の復習をする、②単元あるいは毎時間の学習後、期間を空けて繰り返し復習をする、③難易度の少し高い問題や自ら設定した課題に挑戦する等、具体的な学習方法を示すとともに、計画的に予習・復習を行うことの効果を実感できるように、評価・指導することが考えられます。

自ら学ぶ力の育成につながるよう、家庭学習の工夫・改善に取り組みましょう。

～特集1～

学校の取組等 と学力層との 関連

1. 「□11 家で、学校の宿題をしていますか」については、学力層 A 及び D との関連が見られ、特に、学力層 D との関連が強いと考えられる。

2. 「□55/52 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか」については、小学校では学力層 A に、中学校では学力層 D に関連が見られる。

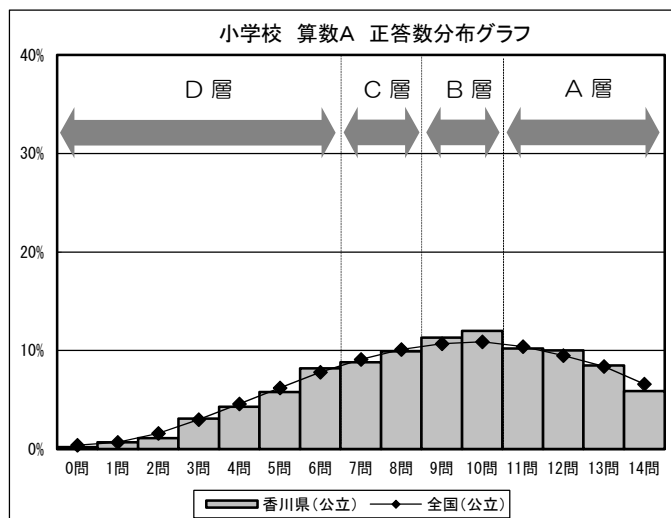
学校における指導方法や各学校の児童生徒の意識が、各教科の正答数の分布と関連しているかを検証するために、学力層による分析を行いました。

学力層は、香川県の児童生徒全員を調査区分ごとに正答数の多い順に並べ、人数比率により4等分して層分けを行ったものです。上位から学力層 A、学力層 B、学力層 C、学力層 D と呼んでいます。

香川県の学力層ごとの正答数は下記の表のようになっています。なお、正答数が同じ場合は、上位の層に含んでいます。

学力層と正答数の関係（香川県公立学校）

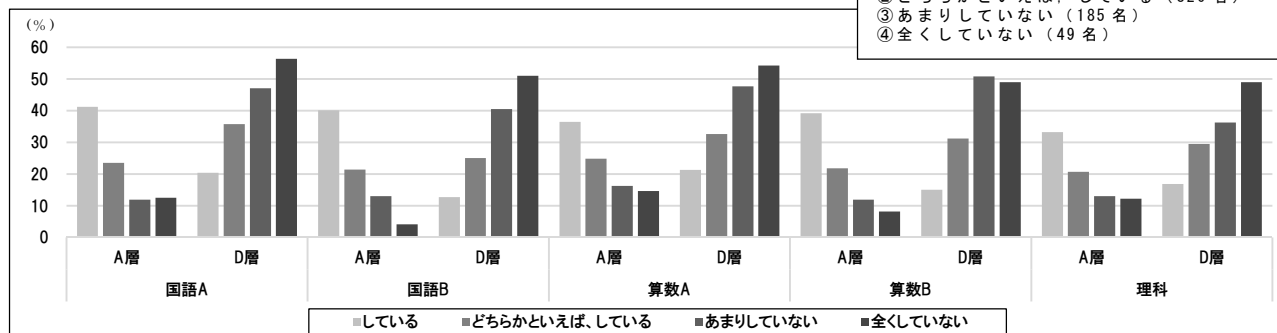
校種	学力層	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
小学校	A 層	10～12問	6～8問	11～14問	7～10問	12～16問
	B 層	9問	5問	9～10問	5～6問	10～11問
	C 層	7～8問	3～4問	7～8問	3～4問	8～9問
	D 層	0～6問	0～2問	0～6問	0～2問	0～7問
校種	学力層	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
中学校	A 層	28～32問	7～9問	31～36問	9～14問	22～27問
	B 層	26～27問	6問	26～30問	6～8問	18～21問
	C 層	22～25問	4～5問	18～25問	4～5問	14～17問
	D 層	0～21問	1～3問	1～17問	0～3問	0～13問



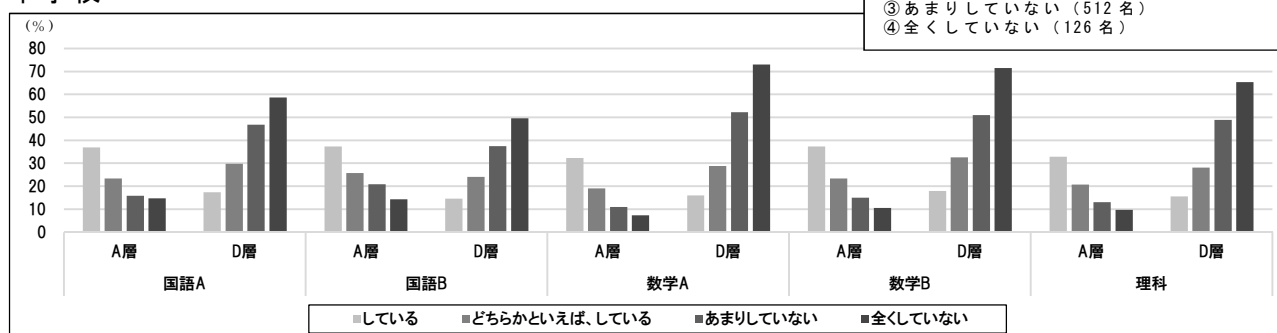
□11 家で、学校の宿題をしていますか

小学校

【児童生徒質問紙】



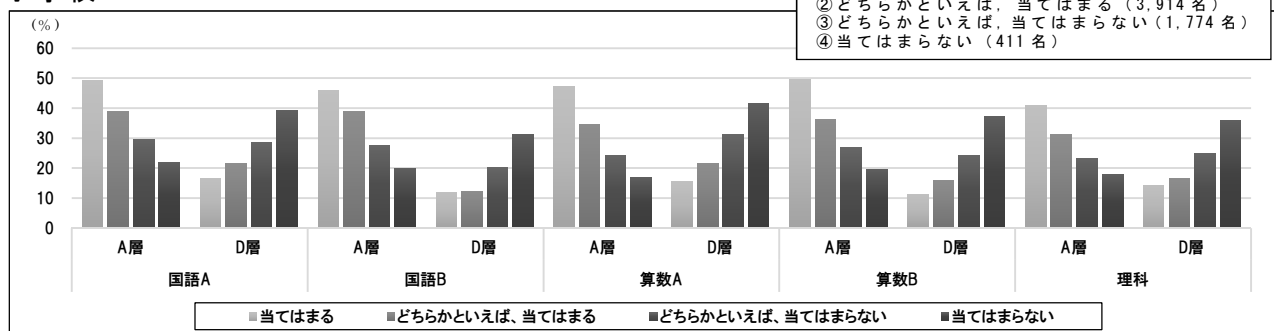
中学校



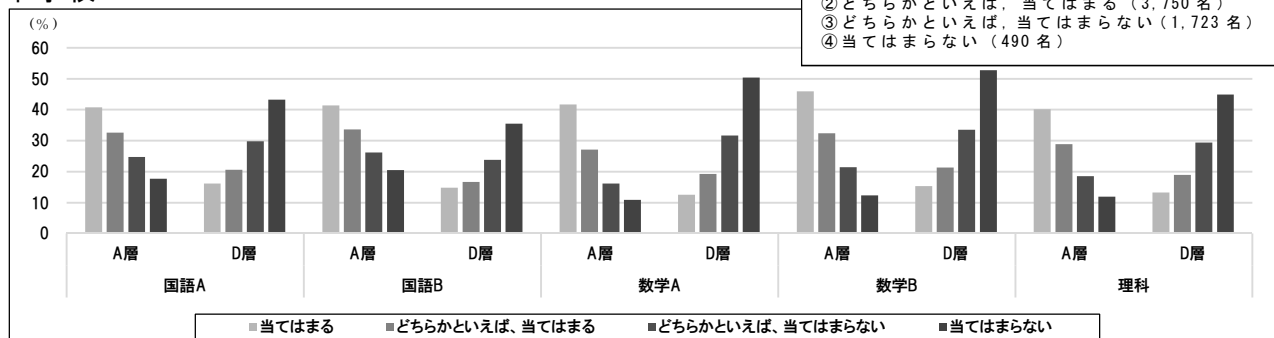
□55/52 5年生まで(1,2年生のとき)に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか

【児童生徒質問紙】

小学校



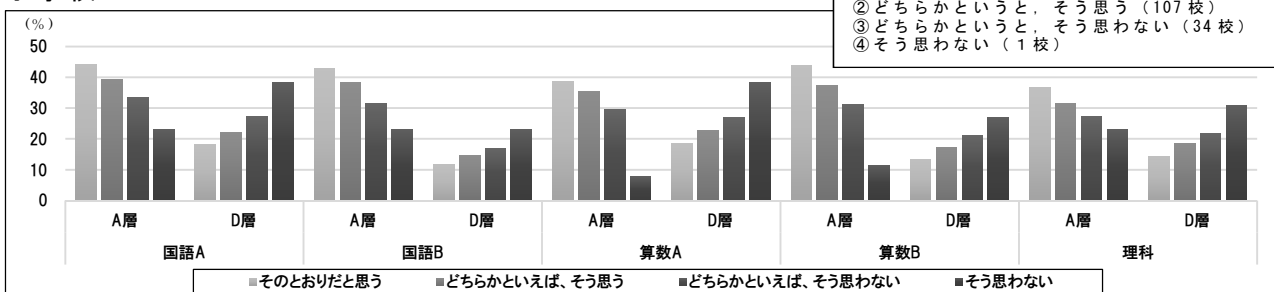
中学校



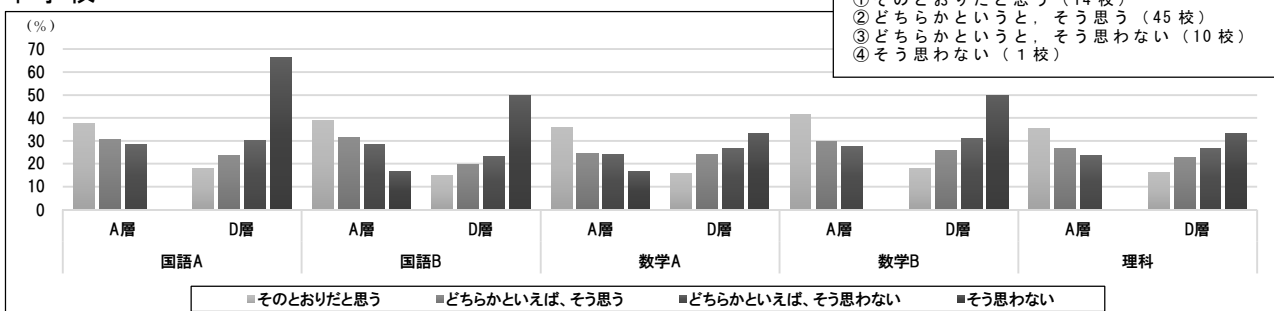
■13 調査対象学年の児童(生徒)は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

【学校質問紙】

小学校



中学校



Column

「授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むこと」については、児童生徒の「当てはまる」～「当てはまらない」が学力層 A では一貫して減少し、学力層 D では増加しています。また、学校質問紙における同様の質問においても、学力層 A 及び D において「そのとおりだと思う」～「そう思わない」に同様の関連が見られることから、この指導方法への取組が学力層と関連があると考えられます。特に中学校においては、学力層 D との関連が見られることから、授業を通して意識的に「自分で考え、自分から取り組む」学習過程を充実することが、学力の向上につながる手立てとなると考えられます。

～特集2～

家庭や地域 社会との連携・ 協働

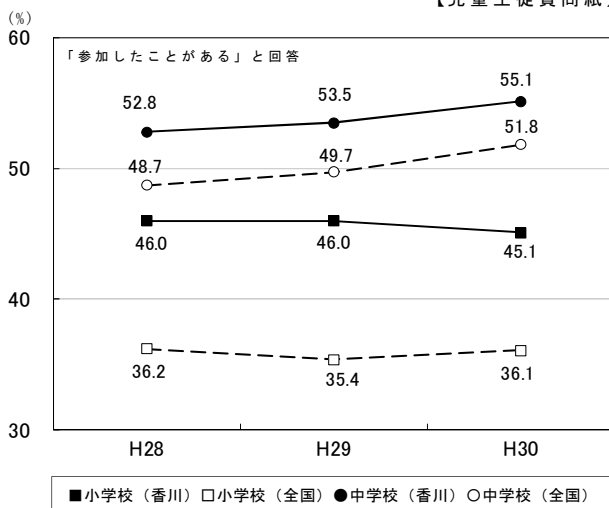
1. 「□23 地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」の質問に対して、「参加したことがある」と回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに全国平均を上回っている。
2. 「■57/55 前年度までに、授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会の設定を行いましたか」の質問に対して、肯定的に回答した学校の割合は、小・中学校ともに昨年度と比べて高くなるとともに、全国平均を上回っている。

学校では、教育目標の実現や目指す子供の育成のため、学校や地域の実態に応じて、保護者や地域の方を講師等として招いたり、子供の学習成果を発信したり、地域の行事に参加したりしています。今後も、学校、家庭、地域社会がそれぞれ本来の教育機能を発揮した上で、連携と協働を推進することが大切です。

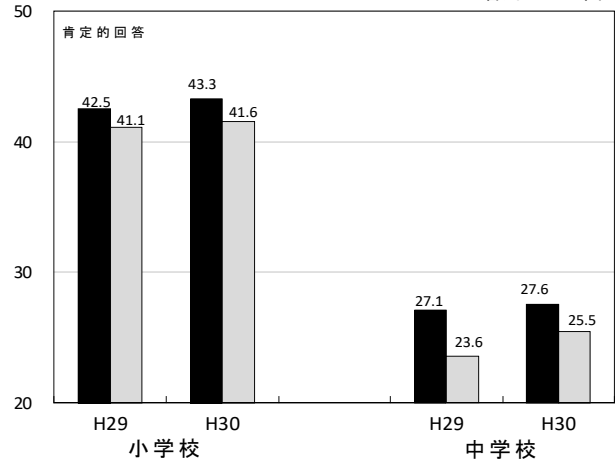
1 地域や社会との連携に関わる状況

p 106, 107

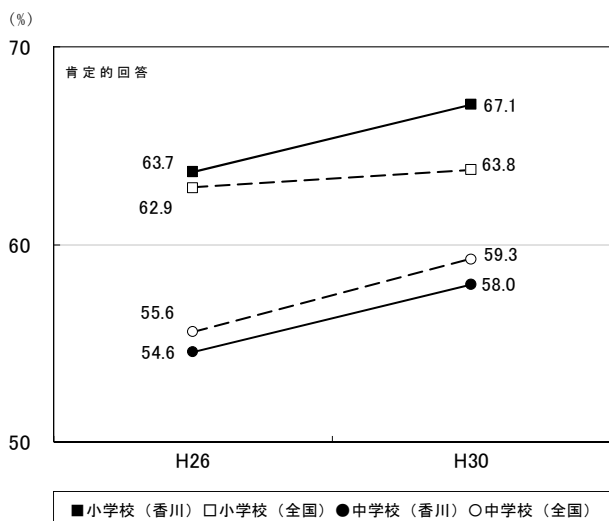
□23 地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか
【児童生徒質問紙】



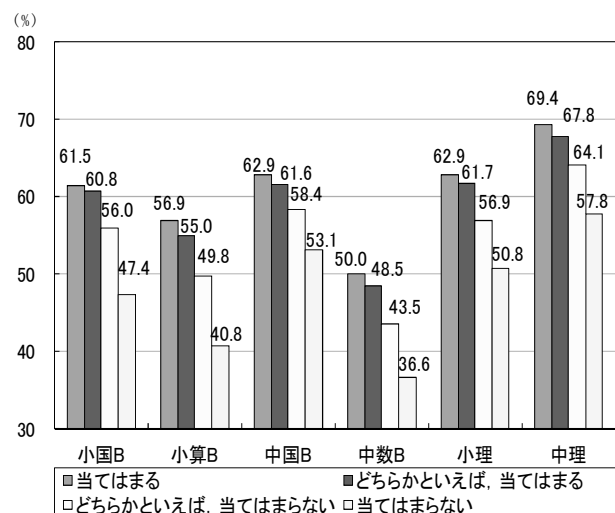
□24 地域の大人（学校や塾・習い事の先生は除く）に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか
【児童生徒質問紙】



□21 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか
【児童生徒質問紙】



「□21 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」に対して児童生徒が回答した選択肢別平均正答率
【児童生徒質問紙】

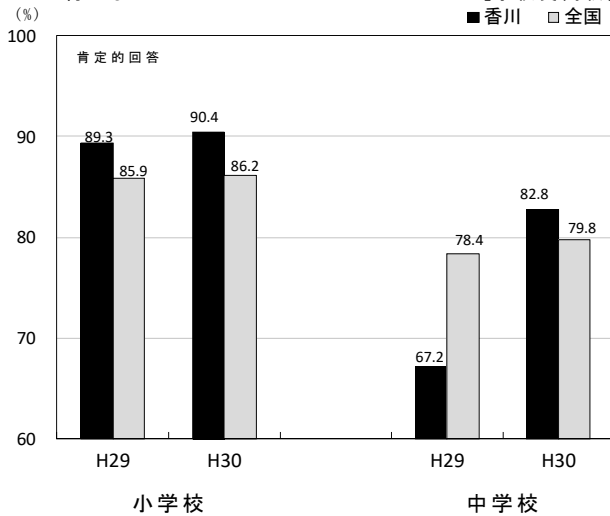


2 地域や社会との連携に関わる取組

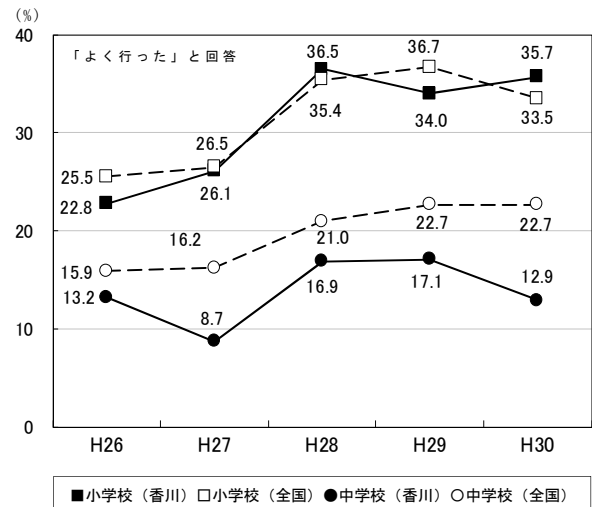
p 123, 128, 129

Ⅱ 概 論

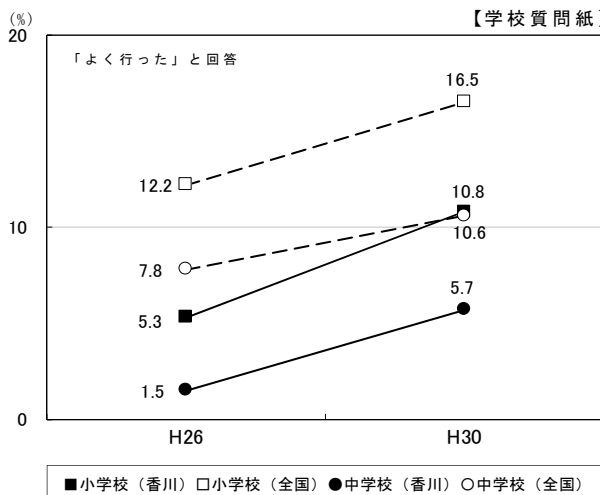
■ 57/55 前年度までに、授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会の設定を行いましたか 【学校質問紙】



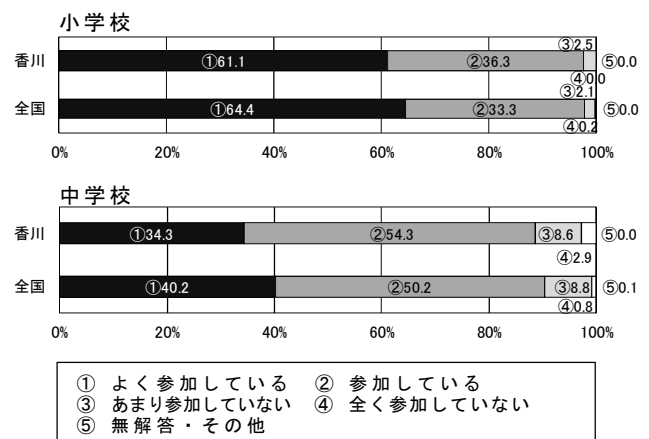
■ 53/51 前年度までに、地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか 【学校質問紙】



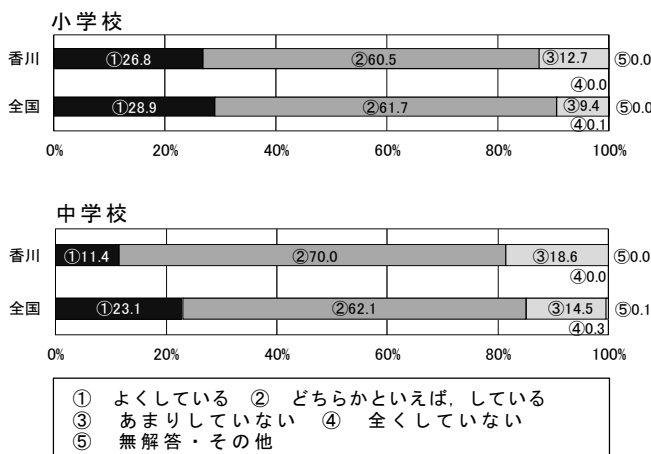
■ 54/52 前年度までに、ボランティア等による授業サポート(補助)を行いましたか 【学校質問紙】



■ 60/57 あなたの学校では、保護者や地域の方が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加していますか 【学校質問紙】



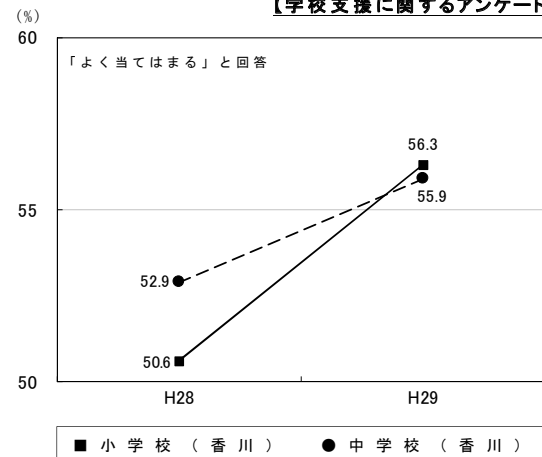
■ 20/19 教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか 【学校質問紙】



参考

保護者や地域との協力関係の構築が、切実な課題だと感じていますか

【学校支援に関するアンケート】



H30 は未実施

～特集3～

カリキュラム・マネジメント

1. 「**79/76** 学習指導と学習評価の計画の作成に当たっては、教職員同士が協力し合っていますか」の質問に対して、「よくしている」と回答した学校の割合は、小・中学校ともに28年度から増加しており、全国を上回っている。
2. 「**56/54** 前年度までに、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えさせるような指導を行いましたか」の質問に対して、「よく行った」と回答した学校の割合は、小・中学校ともに昨年度より増加しており、全国を上回っている。

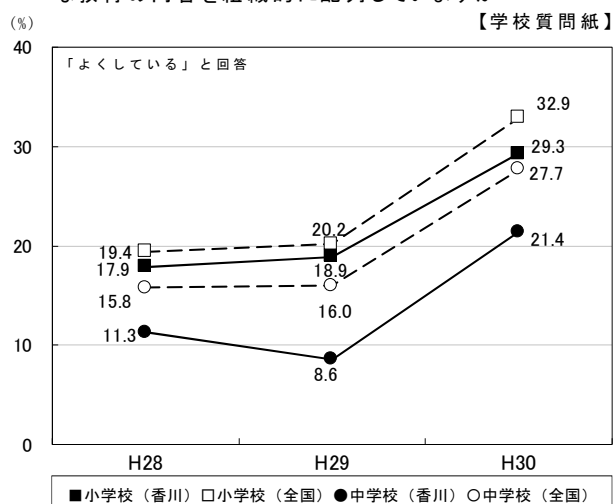
学習指導要領改訂のポイントの一つである「各学校におけるカリキュラム・マネジメントの確立」は、教育課程に基づく教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図るためのものです。各学校では、児童生徒や学校、地域の実態を適切に把握するとともに、次の「三つの側面」からの手立てを充実する必要があります。

カリキュラム・マネジメントの三つの側面から

p 122, 133

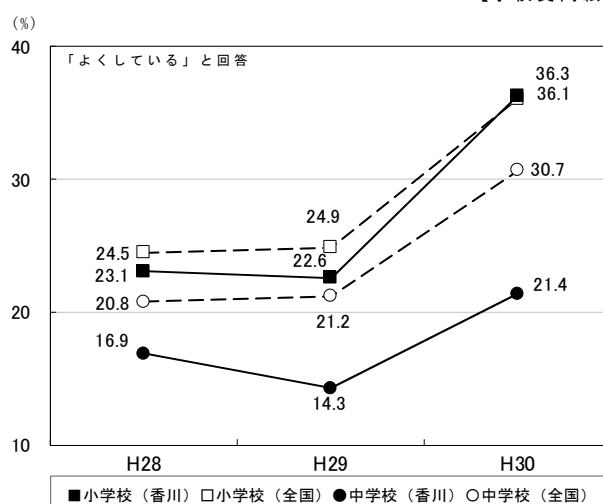
【教科等横断的な視点】

■16/15 指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか



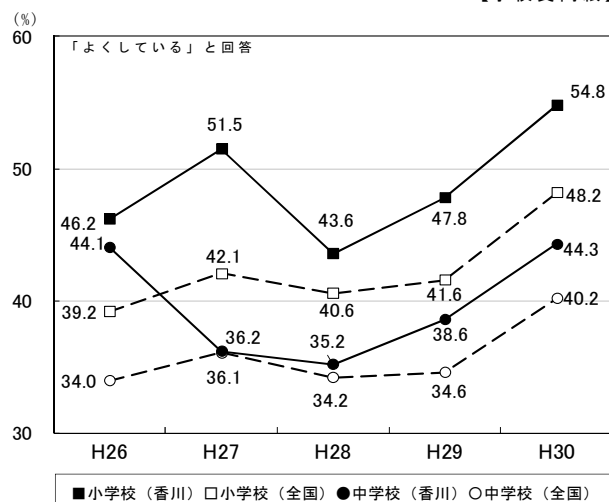
■17/16 教育課程表(全体計画や年間指導計画等)について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか

【学校質問紙】



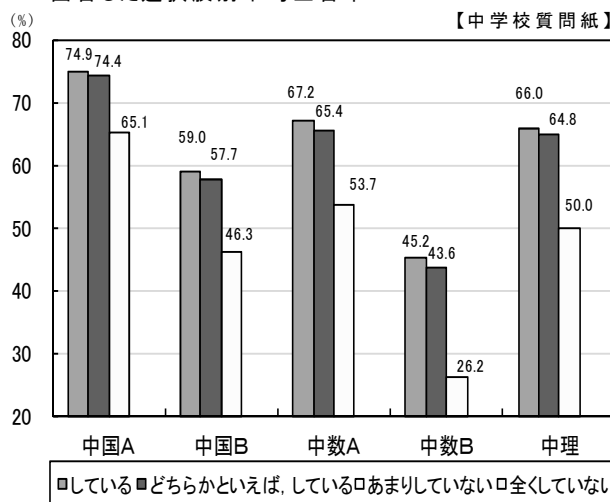
■79/76 学習指導と学習評価の計画の作成に当たっては、教職員同士が協力し合っていますか

【学校質問紙】



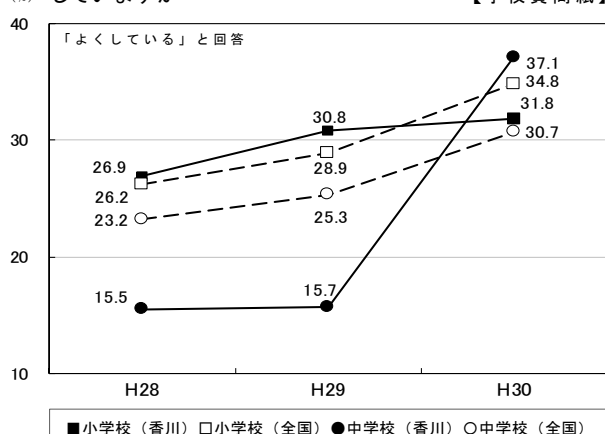
「**76** 学習指導と学習評価の計画の作成に当たっては、教職員同士が協力し合っていますか」に対して学校が回答した選択肢別平均正答率

【中学校質問紙】

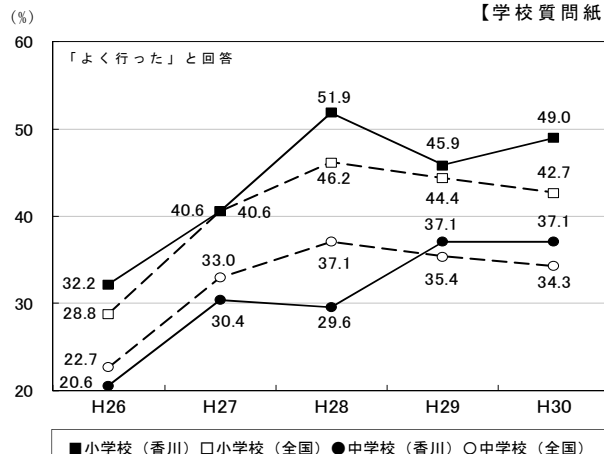


【PDCAサイクルの確立】

■18/17 児童(生徒)の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか 【学校質問紙】

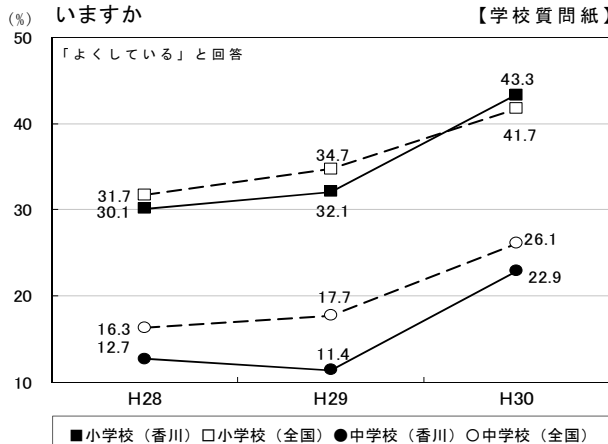


■31/30 平成29年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか 【学校質問紙】

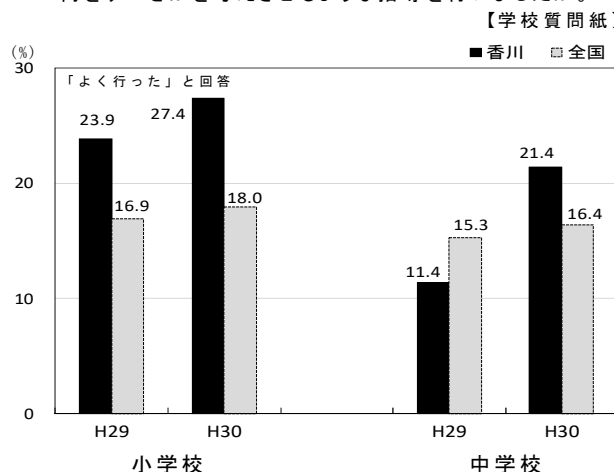


【人的・物的資源等の活用】

■19/18 指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか 【学校質問紙】



■56/54 前年度までに、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えさせるような指導を行いましたか。 【学校質問紙】



Column

■16/15, ■17/16の質問に対して、「よくしている」と回答した学校の割合は、全国と同等か下回っています。カリキュラム・マネジメントにおいては、小・中学校の各教科等の指導における特性を踏まえ、各教科等横断的な視点から全体計画や指導計画等を作成し、全ての教科等を通じて行うことが大切です。

Column

「平成29年度全国学力・学習状況調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究」

国立大学法人お茶の水女子大学 平成30年3月30日

この調査研究は、平成29年度の全国調査の追加調査として実施した「保護者に対する調査」の結果を活用し、家庭の社会的経済的背景（SES）と学力の関係、学力に影響を与える学校・家庭・地域の取組等、多様な観点から統計的に分析したものです。

分析項目には、『非認知スキル』と子供の学力「学校風土と子供の学力」等があり、例えば、学校風土として「授業中の私語が少なく、落ち着いている」や「話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができる」等を向上することは、学校の社会的経済的背景に関わらず、学力向上にプラスに作用すると示されています。

各学校においては、関連する調査結果等も活用して多面的に各学校の状況を評価するとともに、学校や児童生徒、家庭の実態に応じた教育課程に取り組みましょう。

文部科学省 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/1406895.htm

～特集4～ 主体的・対話的 で深い学び

1. 「□55/52 5年生まで(1, 2年生のとき)に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」の質問に対して、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに全国平均を下回っている。
2. 同じ質問と平均正答率の関係をみると、肯定的に回答した児童生徒ほど平均正答率が高く、特に中数Bでは、「当てはまる」と「当てはまらない」の間で25.7ポイントの差が見られる。

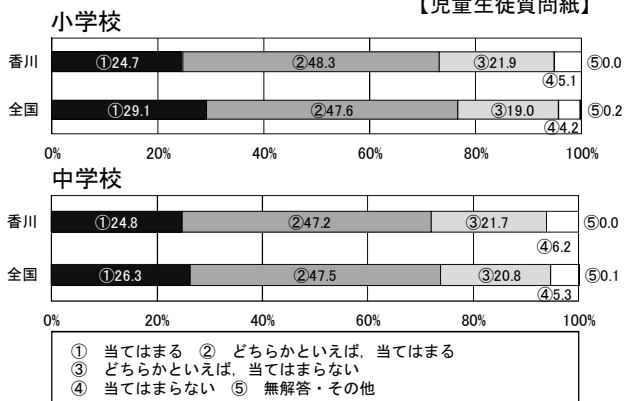
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善では、「見通し」「探究」「振り返り」等の学びのプロセスを、児童生徒の実態に応じて工夫することが必要です。

主体的・対話的で深い学びに関する項目と平均正答率の関係

p 113

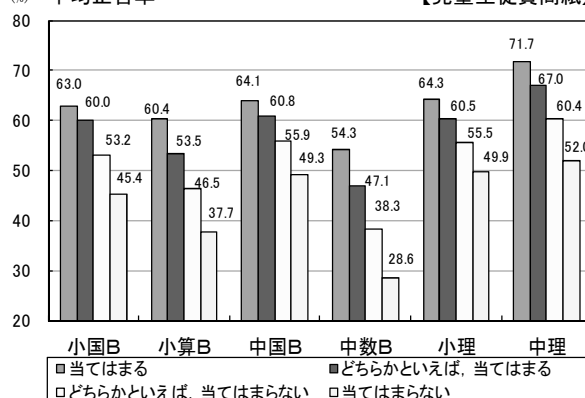
□55/52 5年生まで(1, 2年生のとき)に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか

【児童生徒質問紙】



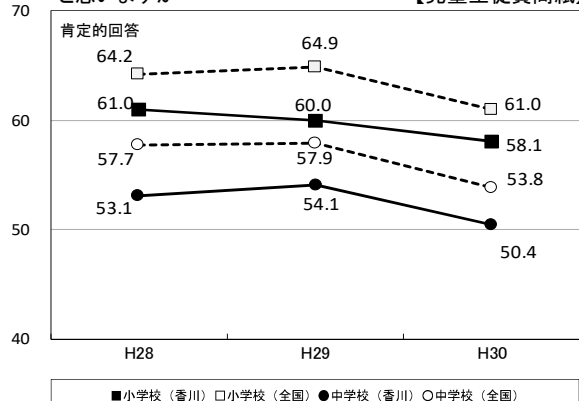
「□55/52 5年生まで(1, 2年生のとき)に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」に対して児童生徒が回答した選択肢別平均正答率

【児童生徒質問紙】



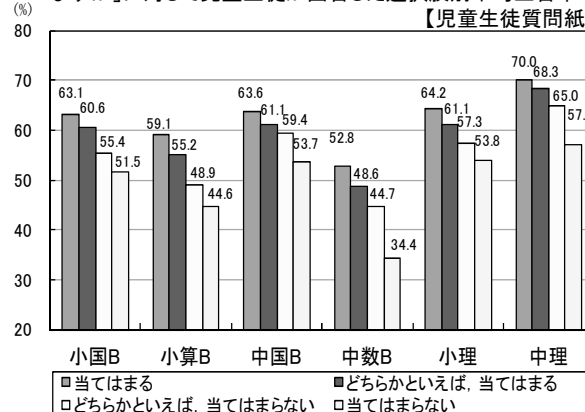
□56/53 5年生まで(1, 2年生のとき)に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか

【児童生徒質問紙】



「□56/53 5年生まで(1, 2年生のとき)に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか」に対して児童生徒が回答した選択肢別平均正答率

【児童生徒質問紙】

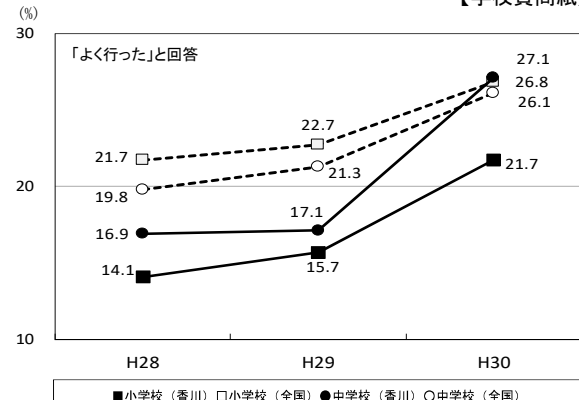


学校の取組の状況

p 123, 124

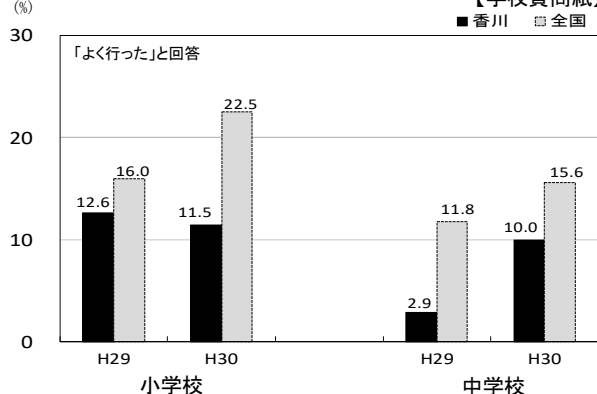
■22/21 前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか

【学校質問紙】



■26/25 前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか

【学校質問紙】



Ⅲ 教科に関する調査結果及び分析

1 小学校 国語 <調査区分の分析・検証>

概要

- 国語Aについて、県と全国平均正答率の比較等から、全国平均より下回っている。
- 国語Bについて、県と全国平均正答率の比較等から、全国平均より上回っている。

■平成 30 年度調査結果の集計値

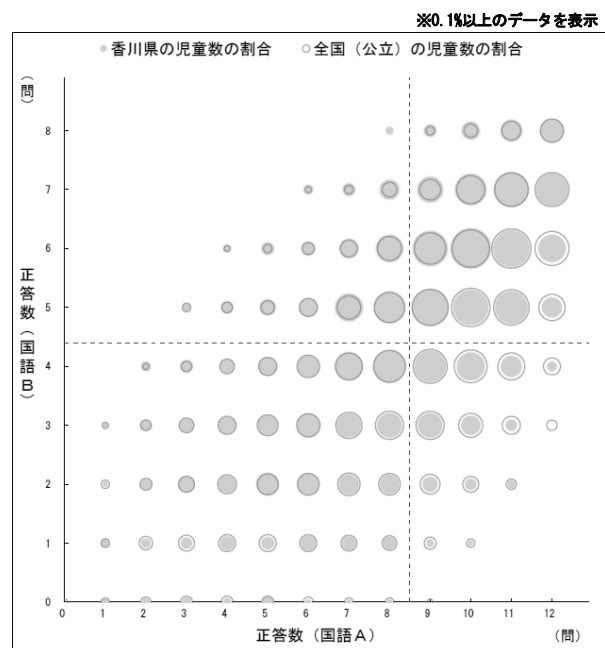
小学校国語A	児童数	学校数	平均正答数	平均正答率 (%)
県 (公立)	8,131	157	8.3 / 12	69
全国(公立)	1,030,025	19,386	8.5 / 12	71 (70.7)
小学校国語B	児童数	学校数	平均正答数	平均正答率 (%)
県 (公立)	8,128	157	4.7 / 8	58
全国(公立)	1,029,799	19,383	4.4 / 8	55 (54.7)

■平成 26 年度～平成 30 年度の県と全国の調査結果

小学校国語A	H26	H27	H28	H29	H30
県(公立)平均正答率 (%)	75.5	72.3	75.0	75	69
全国(公立)平均正答率 (%)	72.9	70.0	72.9	75 (74.8)	71 (70.7)
県と全国との差 (pt)	2.6	2.3	2.1	0	▲2
小学校国語B	H26	H27	H28	H29	H30
県(公立)平均正答率 (%)	58.8	69.5	59.5	59	58
全国(公立)平均正答率 (%)	55.5	65.4	57.8	58 (57.5)	55 (54.7)
県と全国との差 (pt)	3.3	4.1	1.7	1	3

■小学校 国語A－国語Bの相関

児童数		8,084	
全国（公立）国語A平均正答数		8.5	
全国（公立）国語B平均正答数		4.4	
児童の正答数分布状況 (左：児童数 右：児童数の割合 (%))	国語A・国語Bともに 平均以上	3,404	42.1
	国語Aは平均以上 国語Bは平均未満	981	12.1
	国語Aは平均未満 国語Bは平均以上	1,201	14.9
	国語A・国語Bともに 平均未満	2,498	30.9
相関係数		0.603	



■平成 30 年度領域等別調査結果

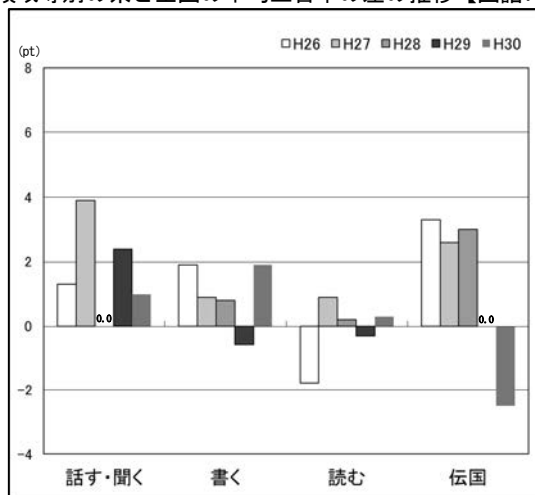
学習指導要領の領域等	国語 A				国語 B			
	話すこと・ 聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化 と国語の特質に 関する事項	話すこと・ 聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化 と国語の特質に 関する事項
県（公立）平均正答率（％）	91.8	75.7	74.3	64.5	69.4	49.8	56.0	
全国（公立）平均正答率（％）	90.8	73.8	74.0	67.0	64.6	45.6	50.8	
県と全国との差（pt）	1.0	1.9	0.3	▲2.5	4.8	4.2	5.2	

■平成 26 年度～平成 30 年度の領域等別調査結果

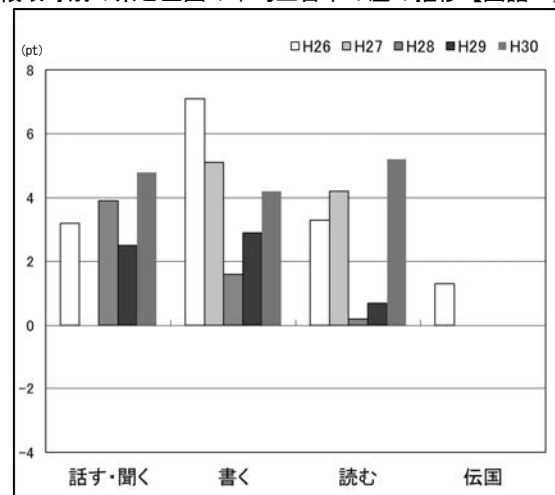
	年度		H26	H27	H28	H29	H30
国語 A	話すこと・ 聞くこと	県（公立）（％）	73.7	56.9	79.2	71.6	91.8
		全国（公立）（％）	72.4	53.0	79.2	69.2	90.8
		差（pt）	1.3	3.9	0.0	2.4	1.0
	書くこと	県（公立）（％）	74.1	86.9	73.6	60.0	75.7
		全国（公立）（％）	72.2	86.0	72.8	60.6	73.8
		差（pt）	1.9	0.9	0.8	▲0.6	1.9
	読むこと	県（公立）（％）	66.7	56.1	78.7	69.9	74.3
		全国（公立）（％）	68.5	55.2	78.5	70.2	74.0
		差（pt）	▲1.8	0.9	0.2	▲0.3	0.3
	伝統的な言語文化と 国語の特質に 関する事項	県（公立）（％）	77.0	79.8	74.1	78.0	64.5
		全国（公立）（％）	73.7	77.2	71.1	78.0	67.0
		差（pt）	3.3	2.6	3.0	0.0	▲2.5

	年度		H26	H27	H28	H29	H30
国語 B	話すこと・ 聞くこと	県（公立）（％）	54.4		55.0	67.4	69.4
		全国（公立）（％）	51.2		51.1	64.9	64.6
		差（pt）	3.2		3.9	2.5	4.8
	書くこと	県（公立）（％）	41.5	66.2	55.0	56.3	49.8
		全国（公立）（％）	34.4	61.1	53.4	53.4	45.6
		差（pt）	7.1	5.1	1.6	2.9	4.2
	読むこと	県（公立）（％）	60.6	72.3	69.5	49.9	56.0
		全国（公立）（％）	57.3	68.1	69.3	49.2	50.8
		差（pt）	3.3	4.2	0.2	0.7	5.2
	伝統的な言語文化と 国語の特質に 関する事項	県（公立）（％）	71.1				
		全国（公立）（％）	69.8				
		差（pt）	1.3				

領域等別の県と全国の平均正答率の差の推移【国語 A】



領域等別の県と全国の平均正答率の差の推移【国語 B】



問題別調査結果【国語A】

平成30年度全国学力・学習状況調査

小学校調査

問題別調査結果【国語A：主として知識】

香川県－児童（公立）

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	香川県（公立）	全国（公立）	対象児童数	香川県（公立）	全国（公立）
	157	19,386		8,131	1,030,025

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
			香川県（公立）	全国（公立）
	全体	12	69	70.7
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	1	91.8	90.8
	書くこと	1	75.7	73.8
	読むこと	2	74.3	74.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	8	64.5	67.0
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0		
	話す・聞く能力	1	91.8	90.8
	書く能力	1	75.7	73.8
	読む能力	2	74.3	74.0
	言語についての知識・理解・技能	8	64.5	67.0
問題形式	選択式	11	73.0	73.9
	短答式	1	29.1	35.5
	記述式	0		

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

問題別集計結果

出題の趣旨																				
問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		香川県－全国 (pt)		
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	香川県（公立）	全国（公立）	香川県（公立）	全国（公立）	正答率	無解答率
1	図書館への行き方の説明として適切なものを選択する	相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話す	3・4 イ					○			○				91.8	90.8	0.1	0.1	1.0	0.0
2	物語を書くときの構成の工夫の説明として適切なものを選択する	自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考える		5・6 イ					○		○				75.7	73.8	0.1	0.3	1.9	-0.2
3	【オムレツを作ったあとの感想】を踏まえ、【オムレツのページ】をどのように読めばよいか、適切なものを選択する	目的に応じて必要な情報を捉える			3・4 イ					○		○			74.4	73.9	0.1	0.2	0.5	-0.1
4	『くらやみの物語』を読んで心に残ったことを一文を取り上げて説明する際に、その一文が心に残った理由として適切なものを選択する	登場人物の心情について、情景描写を基に捉える			5・6 エ					○		○			74.3	74.0	0.2	0.3	0.3	-0.1
5	【春休みの出来事の一部】の中で、……部と……部とのつながりが合っていない文を選択し、正しく書き直す	文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く				3・4 (1)イ (キ)					○		○		29.1	35.5	3.1	3.9	-6.4	-0.8
6	慣用句の意味と使い方として適切なものを選択する（心を打たれる）	日常生活で使われている慣用句の意味を理解し、使う				3・4 (1)イ (ク)					○	○			89.8	90.4	1.1	1.4	-0.6	-0.3
7	【話を聞いている様子の一部】の□ア□イ□に入る内容の組み合わせとして適切なものを選択する	相手や場面に応じて適切に敬語を使う				5・6 (1)イ (ク)						○	○		50.8	56.0	2.4	2.7	-5.2	-0.3
8ア	文の中で漢字を使う（せい造）	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う				5・6 (1)ウ (ア)						○	○		70.6	73.4	5.1	5.2	-2.8	-0.1
8イ	文の中で漢字を使う（せつ備）	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う				5・6 (1)ウ (ア)						○	○		82.4	82.2	6.0	6.3	0.2	-0.3
8ウ	文の中で漢字を使う（しょう毒）	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う				5・6 (1)ウ (ア)						○	○		81.0	82.2	6.5	6.6	-1.2	-0.1
8エ	文の中で漢字を使う（かん理）	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う				5・6 (1)ウ (ア)						○	○		63.6	65.0	7.3	7.4	-1.4	-0.1
8オ	文の中で漢字を使う（せつ極的）	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う				5・6 (1)ウ (ア)						○	○		48.6	51.4	7.7	7.7	-2.8	0.0

問題別調査結果【国語B】

平成30年度全国学力・学習状況調査

小学校調査

問題別調査結果【国語B：主として活用】

香川県一児童（公立）

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	香川県（公立）	全国（公立）	対象児童数	香川県（公立）	全国（公立）
	157	19,383		8,128	1,029,799

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
			香川県（公立）	全国（公立）
	全体	8	58	54.7
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	69.4	64.6
	書くこと	5	49.8	45.6
	読むこと	2	56.0	50.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	0		
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	39.4	33.2
	話す・聞く能力	3	69.4	64.6
	書く能力	5	49.8	45.6
	読む能力	2	56.0	50.8
	言語についての知識・理解・技能	0		
問題形式	選択式	5	69.9	67.6
	短答式	0		
	記述式	3	39.4	33.2

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

問題別集計結果

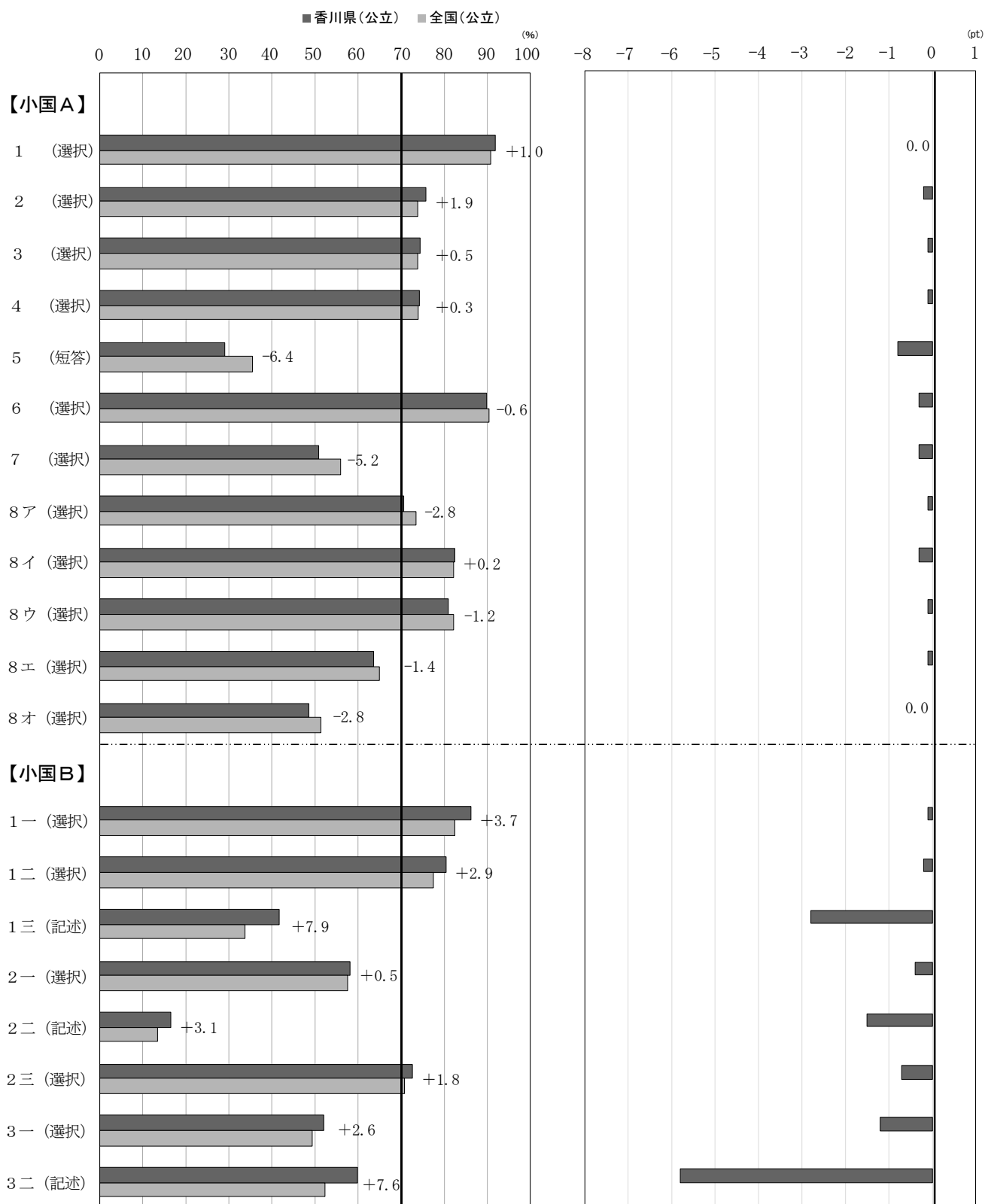
問題番号		問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		香川県ー全国 (pt)		
				話すこと・ 聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な 言語文化と 国語の特質に 関する事項	国語への関心・ 意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・ 理解・技能	選択式	短答式	記述式	香川県 (公立)	全国 (公立)	香川県 (公立)	全国 (公立)	正答率	無解答率
1ー		【話し合いの様子の一部】における木村さんの発言の意図として、適切なものを選択する	話し合いの参加者として、質問の意図を捉える	5・6 オ					○				○			86.2	82.5	0.3	0.4	3.7	-0.1
1二		【話し合いの様子の一部】における司会の発言の役割として、適切なものを選択する	計画的に話し合うために、司会の役割について捉える	5・6 オ					○				○			80.4	77.5	0.4	0.6	2.9	-0.2
1三		これから言葉をどのように使っていきたいかについて、北川さん、小池さんのいずれかの意見を取り上げ、 を書く	話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる	5・6 エ	5・6 ウ			○	○	○			○			41.7	33.8	3.4	6.2	7.9	-2.8
2ー		「かみかみあえ」についての【おすすめする文章】の最初の部分に のように書いた理由として適切なものを選択する	目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考える	5・6 イ						○			○			58.1	57.6	1.3	1.7	0.5	-0.4
2二		【おすすめする文章】の に、むし歯を防ぐ効果について、【保健室の先生の話から分かったこと】を取り入れて詳しく書く	目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く	5・6 ウ				○		○			○			16.6	13.5	1.2	2.7	3.1	-1.5
2三		【紹介する文章】を基にして【おすすめする文章】を書くときの工夫として適切なものを選択する	推薦するためには、他のものと比較して書くことで、よさが伝わることを捉える	5・6 ウ						○			○			72.6	70.8	2.7	3.4	1.8	-0.7
3ー		山下さんは、どのようなことが知りたくて【自伝「旅人」の一部】を読んだのか、その説明として適切なものを選択する	目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む		5・6 イ						○		○			52.0	49.4	2.0	3.2	2.6	-1.2
3二		【伝記「湯川秀樹」の一部】を読んで、【ノートの一部】 最も心がひかれた一文とその理由の文章の に入る内容を書く	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかく	5・6 ウ	5・6 ウ			○		○	○		○			59.9	52.3	6.1	11.9	7.6	-5.8

■問題別の県と全国の正答率，無解答率の比較

【領域等】	【評価観点】	【問題形式】
話すこと・聞くこと 書くこと 読むこと 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	：話す ：書く ：読む ：伝国	国語への関心・意欲・態度 話す・聞く能力 書く能力 読む能力 言語についての知識・理解・技能
		選択式：選択 短答式：短答 記述式： 記述（話す）※「話すこと・聞くこと」における記述 記述（書く）※「書くこと」における記述 記述（読む）※「読むこと」における記述

問題別正答率の比較

問題別無解答率の差



※グラフ横の数値は，香川県と全国の正答率の差（pt）を表す

無解答率が全国平均より高い問題 該当無

■正答率が全国より3ポイント以上高い問題

【小学校国語A】（全12問） なし

【小学校国語B】（全8問中4問）

問題番号	問題の概要	領域等	評価観点	問題形式	県正答率(%)	県無解答率(%)	全国の正答率との差(pt)
1一	【話し合いの様子の一部】における木村さんの発言の意図として、適切なものを選択する	話す	話す	選択	86.2	0.3	3.7
1三	これから言葉をどのように使っていきたいかについて、北川さん、小池さんのいずれかの意見を取り上げ、 を書く	話す書く	関心話す書く	記述	41.7	3.4	7.9
2二	【おすすめする文章】の に、むし歯を防ぐ効果について、【保健室の先生の話から分かったこと】を取り入れて詳しく書く	書く	関心書く	記述	16.6	1.2	3.1
3二	【伝記「湯川秀樹」の一部】を読んで、【ノートの一部】 ☐ 最もひかれた一文とその理由の文章の に入る内容を書く	書く読む	関心書く読む	記述	59.9	6.1	7.6

■正答率が全国より3ポイント以上低い問題

【小学校国語A】（全12問中2問）

問題番号	問題の概要	領域等	評価観点	問題形式	県正答率(%)	県無解答率(%)	全国の正答率との差(pt)
5	【春休みの出来事の一部】の中で、-----部と——部とのつながりが合っていない文を選択し、正しく書き直す	伝国	言語	短答	29.1	3.1	▲6.4
7	【話を聞いている様子の一部】の ア イに入る内容の組み合わせとして適切なものを選択する	伝国	言語	選択	50.8	2.4	▲5.2

【小学校国語B】（全8問） なし

■正答率が低い問題（50%未満）

【小学校国語A】（全12問中2問）

問題番号	問題の概要	領域等	評価観点	問題形式	県正答率(%)	県無解答率(%)	全国の正答率との差(pt)
5	【春休みの出来事の一部】の中で、-----部と——部とのつながりが合っていない文を選択し、正しく書き直す	伝国	言語	短答	29.1	3.1	▲6.4
8オ	文の中で漢字を使う（せつ極的）	伝国	言語	選択	48.6	7.7	▲2.8

【小学校国語B】（全8問中2問）

問題番号	問題の概要	領域等	評価観点	問題形式	県正答率(%)	県無解答率(%)	全国の正答率との差(pt)
1三	これから言葉をどのように使っていきたいかについて、北川さん、小池さんのいずれかの意見を取り上げ、 を書く	話す書く	関心話す書く	記述	41.7	3.4	7.9
2二	【おすすめする文章】の に、むし歯を防ぐ効果について、【保健室の先生の話から分かったこと】を取り入れて詳しく書く	書く	関心書く	記述	16.6	1.2	3.1

文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書くことができるようにする。

授業改善のヒントとなる問題の概要

小学校 国語A⑤

問題番号	正答の条件	解答率 (%)	全国対比 (%)	正答
⑤	次の条件を満たして解答している。 ① 選んだ文の番号を④と解答している。 ② 選んだ文を以下のように書き直している。 A ----- 部をそのままにしている。 B ----- と ----- 部とのつながりが合っている。 C 選んだ文の意味が変わらないようにしている。			
解答類型		解答率 (%)	全国対比 (%)	正答
1	④と解答 条件①、条件②a,b,cを満たしているもの	29.1	35.5	◎
2	④と解答 条件① 条件②a,bは満たしているが 条件②cは満たしていないもの	4.2	4.1	
3	④と解答 条件① 条件②a,cは満たしているが 条件②bは満たしていないもの	3.5	2.9	
4	④と解答 条件① ②aは満たしているが 条件②b,cは満たしていないもの	4.7	4.2	
5	④と解答 条件①を満たしているが 条件②aは満たしていないもの	4.0	4.6	
6	条件①を満たしているもののうち、選んだ文の番号を①と解答しているもの	16.9	13.8	
7	条件①を満たしているもののうち、選んだ文の番号を②と解答しているもの	13.0	11.8	
8	条件①を満たしているもののうち、選んだ文の番号を③と解答しているもの	20.0	17.8	
99	上記以外の解答	1.4	1.4	
0	無解答	3.1	3.9	
正答率		29.1	35.5	

選んだ文の番号・・・□

書き直したい一文

⑤ 大山さんは、春休みの出来事について文章を書いたあと、読み返して、……部と……部とのつながりが合っていない文があることに気づきました。次の「春休みの出来事の一部」をよく読んで、あとの（問い）に答えましょう。

【春休みの出来事の一部】 文のはじめにある数字は、その文の番号を示しています。

① ぼくは、校庭で野球の練習を毎日がんばりました。その努力は凡事に実りました。② ぼくたちのチームは、地区大会で優勝したのです。③ 今年の春休みは、とてもじゆう実したものでした。でも、反省していることもあります。④ 反省点は、用具の手入れをあまりしませんでした。これからは、練習だけではなく、用具の手入れもしっかりがんばりたいと思います。

（問い） ——部と——部とのつながりが合っていない文の番号を、①から④までの中から一つ選んで書きましょう。また、——部はそのままにして、文の意味が変わらないように、選んだ文を正しく書き直しましょう。

分析・考察

- 本問題では、自分が書いた文章を読み返し、主語と述語のつながりについて確認する場面が設定されている。つながりに誤りのある文を選び、かつ正しく書き直せたのは29.1%であり、全国の正答率を6.4ポイント下回っている。主語と述語の関係を捉えることに課題がある。
- 解答類型6と7と8を合わせた反応率は49.9%であり、約半数の児童が主語と述語が照応していない文を読んでも、その誤りに気付いていないことが分かる。

授業改善のポイント

【文の中における主語と述語との関係に注意しながら、多様な言い方に慣れ親しむ】

本問題では、主語が人ではなく「反省点は」となっているため、述語に当たる部分に「こと」を補う必要がある。普段、「ぼくは～です。」「私は～しました。」という話型を用いることが多い児童にとって、このような文は捉えにくかったのではないかと考えられる。

そこで、授業改善に当たっては、国語科をはじめ、各教科等の学習あるいは日常生活において、例えば下に示しているような多様な言い方に慣れ親しませていくようにする。そして、主語と述語の係り受けに誤りが見られた場合には、その場で正しい言い方の範を教師が示し、それを復唱させるなどして、主語と述語の適切な係り受けを意識付けるようにするなどの日常的な指導が大切になる。また、主語と述語との関係については、表現するときだけではなく、文章を読むときにも意識させたり、自分で書いた文章や文を、丁寧に読み返していく習慣を付けさせたりすることも大切である。

なお、主語が省略されている場合、主語を補って、文の意味や組み立てを確かめる学習も考えられる。

<多様な言い方の例>

- ・私が考えたのは～ということです。
- ・〇〇さんの発表のよかったところは～ということです。
- ・ぼくの新年の目標は、～することです。

ぼくの夏休みの思い出は、家族と北海道へ旅行にいきました。

「家族と北海道に旅行に行ったことです。」だね。もう一度言ってごらん。



小学校国語 A

調査結果から授業改善へ

相手や場面に応じて適切に敬語を使うことができるようにする。

授業改善のヒントとなる問題の概要

小学校 国A 7

Ⅲ 小 国語

問題 番号	解答類型	県 反応率 (%)	全国 反応率 (%)	正 答
7	1 1と解答している もの	3.5	4.4	
	2 2と解答している もの	38.4	32.0	
	3 3と解答している もの	2.5	2.3	
	4 4と解答している もの	50.8	56.0	◎
	99 上記以外の解答	2.5	2.5	
	0 無解答	2.4	2.7	
	正答率	50.8	56.0	



1 ア 来ました
2 ア いらっしやいました
3 ア 来ました
4 ア いらっしやいました
イ 言っていた
イ おっしゃっていた
イ おっしゃっていた
イ 言っていた

7 石橋さんたちは、地域の人から仕事についての話を聞いています。次の「話を聞いている様子の一部」を読み、ア・イに入る内容の組み合わせとして最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

【話を聞いている様子の一部】

石橋さん みなさん、池田さんがア。今日は、おとう小屋さんの仕事について、たくさん教えていただきました。池田さん、お願いします。

池田さん みなさん、こんにちは。

（池田さんの話を聞く）

石橋さん 池田さん、ありがとうございました。池田さんに質問のある人はいますか。

高野さん おとう小屋さんは、朝早く起きなければならないので、とても大変だと私の母がイのですが、池田さんはどうですか。

分析・考察

- 本問題では、学級で地域の人から仕事についての話を聞く場面が設定されており、話し手である地域の人と自分との関係や、家族と自分との関係を意識して、適切に敬語を使えているかが問われている。本県の正答率は50.8%であり、全国の正答率を5.2ポイント下回っている。
- 解答類型2の反応率は38.4%である。高野さんが自分の母親に対して、敬語を用いていることに誤りがあることに約4割の児童が気付いていないことが分かる。

授業改善のポイント

【相手や場面を意識して話をしたり、様々な機会を捉えて案内状や礼状を書いたりする】

高学年は敬語の役割や必要性を自覚してくる時期である。このような発達の特徴を踏まえ、まず、尊敬語、謙譲語、丁寧語について、どのような場合や状況で使うのかについて、知識として身に付けることが必要である。特に、香川県の児童の実態として謙譲語に対する意識が薄いという調査結果もあることから（H29 第5学年県学習状況調査）、謙譲語の指導を丁寧に行う必要がある。

その上で、児童の日常生活につながるように指導方法を工夫することが大切である。具体的には、地域の人や保護者などに関わる学校行事などにおいて、話をしたり、案内の手紙を書いたりすることが考えられる。その際も、上述した児童の実態を受け、自分や身内に関わる行動などについては尊敬語を用いることが適切ではないというような敬語に関する意識を高めることを特に大切にしたい。



「明日の懇談会は、お父さんが来ます。」と先生に伝えていたけれど、その表現でよかったのかな。

正しい敬語の使い方は、「明日の懇談会には、父がまいります。」になるね。



小学校国語B

調査結果から授業改善へ

目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書くことができるようにする。

授業改善のヒントとなる問題の概要

小学校 国語B 2二

【おすすめする文章】

「かみかみあえ」は、するめが入っているあえ物です。よくかんで食べることから、このような名前がついています。おうちのの人に、この「かみかみあえ」を、サラダやあえ物のメニューとしておすすめします。

するめは、にんじんやきゅうり、もやしなどの野菜が入っていて、栄養のバランスやいろどりも考えられています。中華風ドレッシングの味やするめのうまみが野菜にしみこんでいて、たまらないおいしさです。

特におすすめしたい理由は、次の二つです。

一つ目の理由は、「かみかみあえ」が、人気のこんだてであることです。

六年一組で以前行ったアンケートでは、サラダやあえ物のうち、好きなこんだての上位三つに入っていました。六年一組では、「ツナマヨサラダ」と同じくらい人気があるこんだてです。きっと、ほかの学校でも好きな人が多いと思います。

二つ目の理由は、「かみかみあえ」におし歯を防ぐ効果があることです。

同じサラダやあえ物の中で人気のこんだての一つである「ツナマヨサラダ」と比べると、「かみかみあえ」の方が、よりおし歯を防ぐ効果があります。

「かみかみあえ」は、

おいしくて、みんなに人気があり、歯の健康を保つことにもつながる「かみかみあえ」をぜひ、おうちのメニューの一つに加えてください。



かみかみあえ

※「するめ」：イカを干した食品

【紹介する文章】

「かみかみあえ」は、するめが入っていて、よくかんで食べるこんだてです。そのため、このような名前がついています。

するめは、にんじんやきゅうり、もやしなどの野菜が入っていて、栄養のバランスやいろどりも考えられています。

中華風ドレッシングの味やするめのうまみが野菜にしみこんでいます。

2 星野さんは、給食の献立の一つである「かみかみあえ」のよさをもっと知ってもらい、各家庭でもメニューの一つに加えてほしいと思っています。次は、星野さんが以前書いた「かみかみあえ」についての「紹介する文章」と、それをもとにしておうちの人のに向けて書いている「おすすめする文章」です。これらをよく読んで、おどの問いに答えましょう。

問題番号	正答の条件
2二	次の条件を満たして解答している。 ① むし歯を防ぐ効果について、【紹介する文章】と【保健室の先生の話から分かったこと】から以下の内容を取り上げて書いている。 a よくかむこと b だ液がたくさん出て、口の中をきれいに保つこと ② 【おすすめする文章】にふさわしい言葉を用いて書いている。 ③ 書き出しの言葉に続けて、50字以上、80字以内で書いている。

解答類型	県 反応率 (%)	全国 反応率 (%)	正答
1 条件①a, bの両方と、条件②、③を満たしているもの	16.6	13.5	◎
2 条件①a, bの両方と、条件②は満たしているが、条件③は満たしていないもの	0.0	0.0	
3 条件①a, bは満たしているが、条件②は満たしていないもの	0.5	0.9	
4 条件①a、②は満たしているが、条件①bは満たしていないもの	36.7	31.7	
5 条件①b、②は満たしているが、条件①aは満たしていないもの	7.9	7.9	
6 条件①aは満たしているが、条件①b、②は満たしていないもの	3.8	5.9	
7 条件①bは満たしているが、条件①a、②は満たしていないもの	0.9	1.5	
8 条件②は満たしているが、条件①a, bは満たしていないもののうち、むし歯を防ぐことについて書いているもの	16.7	17.2	
99 上記以外の解答	15.7	18.7	
0 無解答	1.2	2.7	
正答率	16.6	13.5	

【保健室の先生の話から分かったこと】

食べ物をよくかむと、

- 口のまわりのきんにくを動かすことになり、口の動きが活発になる。
- だ液がたくさん出て、口の中をきれいに保つので、むし歯になりにくい。
- まんぷく感が得られ、食べ過ぎにならない。
- 食べ物本来の味が分かるので、うす味の食事に慣れる。
- だ液の量が増え、消化がよくなる。

（条件）

○ ○ ○ 【紹介する文章】と【保健室の先生の話から分かったこと】から言葉や文を取り上げて書くこと。

○ ○ ○ 【おすすめする文章】にふさわしい言葉を用いて書くこと。

書き出しの言葉に続けて、五十字以上、八十字以内にとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は字数にふくむ。

二 星野さんは、「かみかみあえ」のおし歯を防ぐ効果に着目して「おすすめする文章」の書き出しにしました。そこで、以前メモしていた「保健室の先生の話から分かったこと」を取り入れてくわしく書くこととしています。

に入る内容を、おどの条件に合わせて書きましょう。

○本問題では、目的や意図に応じて、内容を詳しく書く場面が設定されている。「かみかみあえ」のよさを推薦する二つ目の理由として、【紹介する文章】と【保健室の先生の話から分かったこと】から必要な内容を取り上げ、【おすすめする文章】にふさわしい言葉を用いて書く問題である。

【紹介する文章】からは、「『かみかみあえ』は、するめが入っていて、よくかんで食べるこんだて」であること、また、【保健室の先生の話から分かったこと】からは、「食べ物をよくかむと、だ液がたくさん出て、口の中をきれいに保つので、むし歯になりにくい」ことを捉え、それらを結び付けて説明する必要がある。

○本県の正答率は16.6%であり、複数の資料から目的や意図に応じて必要な内容を取り出し、それらを整理したり、結び付けたりして書くことに課題がある。

○誤答の類型から、児童のつまずきとして大きく二つのことが見えてくる。一つは、資料から適切な部分を取り上げることが難しいということである(解答類型4, 5, 反応率44.6%)。もう一つは、明確に理由付けながら説明するのが難しいということである(解答類型8, 反応率16.7%)。

子どもたちのつまずきは…

「かみかみあえ」は…

どの言葉を選んで書けばいいのだろう。
理由は分かりやすくなっているのかなあ。



だから、むし歯になりにくい。

授業改善のポイント

【推薦する理由を明確に伝えるために、適切な内容を取り上げて詳しく書く】

「資料から適切な部分を取り上げることが難しい」「明確に理由付けながら説明するのが難しい」という二つのつまずきに対し、例えば、次のような学習過程を通し、自分の薦めたいことについて、個人やグループで繰り返し確かめるようにすることが効果的である。

授業アイデア例：『かみかみあえ』にむし歯を防ぐ効果があることを2つの資料をもとに、分かりやすく書こう

① 「ツナマヨサラダ」と比べて、「かみかみあえ」にはどんな特徴があるかを考える。



「かみかみあえ」をおすすめするためには、「かみかみあえ」ならではのよさをとりあげる必要があるね。

問題文の「むし歯を防ぐ効果に着目して」が大切だね。



② 【紹介する文章】【保健室の先生の話から分かったこと】を読みながら、むし歯を防ぐ効果に関係のある部分に線を引く。



【保健室の先生の話～】には、「よくかむとだ液が出て、口の中をきれいに保つから、「むし歯になりにくい」とあるよ。

【紹介する文章】に、それに関係することは書いてあるかなあ。「するめが入っていて、よくかむ」とあったよ。



③ 二つの資料を結び付けて、お薦めする文章にふさわしい言葉を用いて、理由を詳しく書く。

④ 互いの文章を読み合い、理由が明確に伝わるか確かめる。



わたしは、「『かみかみあえ』は、するめが入っていてよくかんで食べるので、だ液がたくさん出て、むし歯を防ぎます。」とまとめたわ。

だ液が口の中をきれいに保つことも書かないと、むし歯を防ぐこととしては、足りないよ。



2 小学校 算数

<調査区分の分析・検証>

概要

- 算数Aについて、県と全国平均正答率の比較等から、全国平均と同等である。
- 算数Bについて、県と全国平均正答率の比較等から、全国平均より上回っている。

■平成 30 年度調査結果の集計値

小学校算数A	児童数	学校数	平均正答数	平均正答率 (%)
県 (公立)	8,130	157	8.9 / 14	64
全国(公立)	1,030,013	19,384	8.9 / 14	$\frac{64}{(63.5)}$

小学校算数B	児童数	学校数	平均正答数	平均正答率 (%)
県 (公立)	8,129	157	5.3 / 10	53
全国(公立)	1,029,847	19,380	5.1 / 10	$\frac{52}{(51.5)}$

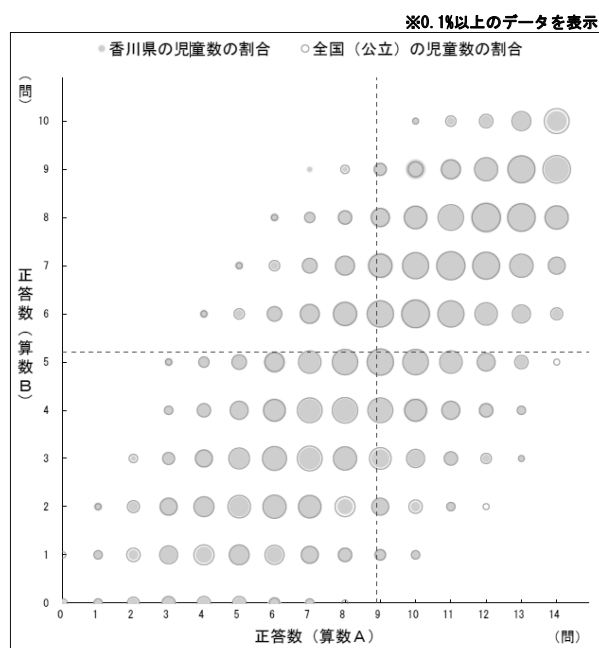
■平成 26 年度～平成 30 年度の県と全国の調査結果

小学校算数A	H26	H27	H28	H29	H30
県(公立)平均正答率 (%)	78.5	74.3	78.2	79	64
全国(公立)平均正答率 (%)	78.1	75.2	77.6	$\frac{79}{(78.6)}$	$\frac{64}{(63.5)}$
県と全国の差 (pt)	0.4	▲0.9	0.6	0	0

小学校算数B	H26	H27	H28	H29	H30
県(公立)平均正答率 (%)	59.5	47.0	46.7	48	53
全国(公立)平均正答率 (%)	58.2	45.0	47.2	$\frac{46}{(45.9)}$	$\frac{52}{(51.5)}$
県と全国の差 (pt)	1.3	2.0	▲0.5	2	1

■小学校 算数A－算数Bの相関

児童数	8,079		
全国 (公立) 算数A平均正答数	8.9		
全国 (公立) 算数B平均正答数	5.2		
児童の正答数分布状況 (左: 児童数 右: 児童数の割合 (%))	算数A・算数Bともに平均以上	3,365	41.7
	算数Aは平均以上 算数Bは平均未満	1,314	16.3
	算数Aは平均未満 算数Bは平均以上	619	7.7
	算数A・算数Bともに平均未満	2,781	34.4
相関係数	0.706		



■平成 30 年度領域別調査結果

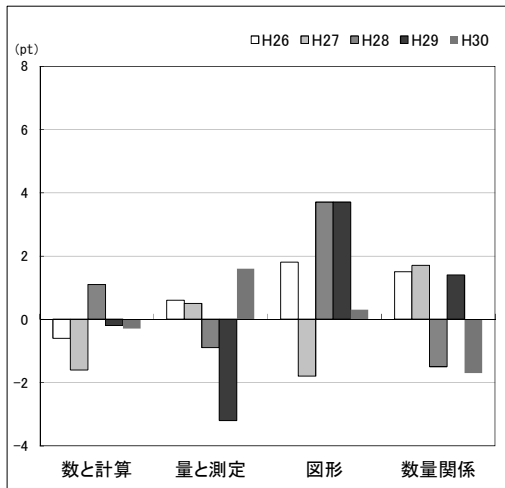
学習指導要領の領域	算数 A				算数 B			
	数と計算	量と測定	図 形	数量関係	数と計算	量と測定	図 形	数量関係
県（公立）平均正答率（％）	62.0	74.3	57.2	58.4	60.8	54.7	60.3	45.8
全国（公立）平均正答率（％）	62.3	72.7	56.9	60.1	58.4	52.4	59.9	45.1
県と全国との差（pt）	▲0.3	1.6	0.3	▲1.7	2.4	2.3	0.4	0.7

■平成 26 年度～平成 30 年度の領域別調査結果

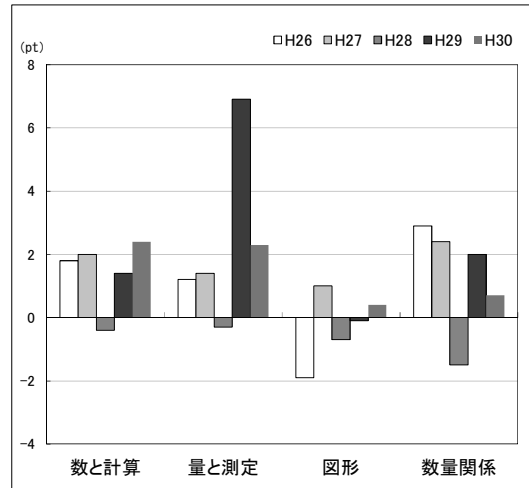
算数 A	年度		H26	H27	H28	H29	H30
	数と計算	県（公立）（％）	81.2	78.5	81.6	80.4	62.0
		全国（公立）（％）	81.8	80.1	80.5	80.6	62.3
		差（pt）	▲0.6	▲1.6	1.1	▲0.2	▲0.3
	量と測定	県（公立）（％）	75.4	71.8	76.1	65.6	74.3
		全国（公立）（％）	74.8	71.3	77.0	68.8	72.7
		差（pt）	0.6	0.5	▲0.9	▲3.2	1.6
	図形	県（公立）（％）	73.6	62.7	82.5	84.8	57.2
		全国（公立）（％）	71.8	64.5	78.8	81.1	56.9
		差（pt）	1.8	▲1.8	3.7	3.7	0.3
	数量関係	県（公立）（％）	82.8	86.6	67.0	81.0	58.4
		全国（公立）（％）	81.3	84.9	68.5	79.6	60.1
		差（pt）	1.5	1.7	▲1.5	1.4	▲1.7

算数 B	年度		H26	H27	H28	H29	H30
	数と計算	県（公立）（％）	63.1	44.4	44.0	54.2	60.8
		全国（公立）（％）	61.3	42.4	44.4	52.8	58.4
		差（pt）	1.8	2.0	▲0.4	1.4	2.4
	量と測定	県（公立）（％）	57.7	43.1	43.4	53.9	54.7
		全国（公立）（％）	56.5	41.7	43.7	47.0	52.4
		差（pt）	1.2	1.4	▲0.3	6.9	2.3
	図形	県（公立）（％）	63.8	46.6	35.6	13.1	60.3
		全国（公立）（％）	65.7	45.6	36.3	13.2	59.9
		差（pt）	▲1.9	1.0	▲0.7	▲0.1	0.4
	数量関係	県（公立）（％）	59.1	45.4	41.4	42.0	45.8
		全国（公立）（％）	56.2	43.0	42.9	40.0	45.1
		差（pt）	2.9	2.4	▲1.5	2.0	0.7

領域別の県と全国の平均正答率の差の推移【算数 A】



領域別の県と全国の平均正答率の差の推移【算数 B】



問題別調査結果【算数A】

平成30年度全国学力・学習状況調査

小学校調査

問題別調査結果【算数A：主として知識】

香川県一児童（公立）

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	香川県（公立）	全国（公立）	対象児童数	香川県（公立）	全国（公立）
	157	19,384		8,130	1,030,013

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
			香川県（公立）	全国（公立）
学習指導要領の領域	全体	14	64	63.5
	数と計算	5	62.0	62.3
	量と測定	4	74.3	72.7
	図形	3	57.2	56.9
	数量関係	5	58.4	60.1
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0		
	数学的な考え方	0		
	数量や図形についての技能	5	62.9	63.0
	数量や図形についての知識・理解	9	64.5	63.8
問題形式	選択式	10	62.8	61.8
	短答式	4	66.7	67.8
	記述式	0		

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		香川県一全国 (pt)	
			数と計算	量と測定	図形	数量関係	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解	選択式	短答式	記述式	香川県（公立）	全国（公立）	香川県（公立）	全国（公立）	正答率	無解答率
1 (1)	針金0.2mの重さと針金0.1mの重さを書く	除法で表すことができる二つの数量の関係を理解している	4A (3)イ 5A (3)			5D (1)ア			○		○			59.5	62.9	1.1	1.7	-3.4	-0.6
1 (2)	針金0.4mと、0.4mの重さの60gと、1mの重さが、それぞれ数直線上のどこに当てはまるかを選ぶ	1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表すことができる	5A (3)ア					○			○			65.8	66.7	1.4	2.4	-0.9	-1.0
1 (3)	針金1mの重さを求める式を選ぶ	1に当たる大きさを求める問題では、除数が小数である場合でも除法を用いることを理解している	5A (3)ア			5D (1)ア			○		○			68.5	65.3	1.7	2.2	3.2	-0.5
2	答えが12÷0.8の式で求められる問題を選ぶ	小数の除法の意味について理解している	3A(4)ア 4A(3)イ 5A(3)ア						○		○			41.2	39.9	0.5	1.0	1.3	-0.5
3	3桁の整数どうしの大きさを比べ、十の位に入る適切な数字を書く	十進位取り記数法で表された数の大小について理解している	2A (1)イ						○		○			74.9	76.4	0.6	1.3	-1.5	-0.7
4 (1)	面積がそろっている㊲と㊳の二つのシートの混み具合について、正しいものを選ぶ	異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方を理解している	5B (4)ア						○		○			92.4	87.8	0.3	0.6	4.6	-0.3
4 (2)	㊲と㊳の二つのシートの混み具合を比べる式の意味について、正しいものを選ぶ	単位置当りの大きさを求める除法の式と商の意味を理解している	5B (4)ア						○		○			51.9	50.1	0.5	1.0	1.8	-0.5
5 (1)	角㊵の角の大きさが、何度であるかを選ぶ	180°の角の大きさを理解している	4B (2)アイ						○		○			95.2	94.4	0.6	1.1	0.8	-0.5
5 (2)	分度器の目盛りを読み、180°よりも大きい角の大きさを求める	180°や360°を基に分度器を用いて、180°よりも大きい角の大きさを求めることができる	4B (2)アイ					○			○			57.8	58.5	0.8	1.5	-0.7	-0.7
6	空間の中にあるものの位置を正しく書く	示された表現方法を基に、空間の中にあるものの位置を表現することができる	4C (3)					○			○			74.7	73.5	2.0	3.3	1.2	-1.3
7 (1)	円周率を求める式として正しいものを選ぶ	円周率の意味について理解している	3C (1)ウ 3C (1)エ						○		○			48.7	41.6	2.0	3.2	7.1	-1.2
7 (2)	円の直径の長さが2倍になったとき、円周の長さが何倍になるかを選ぶ	直径の長さと円周の長さの関係について理解している	3C (1)ウ 5D (1)エ			5D (1)ア			○		○			48.3	55.6	2.3	3.6	-7.3	-1.3
8	200人のうち80人が小学生のとき、小学生の人数は全体の人数の何%かを選ぶ	百分率を求めることができる				5D (3)			○		○			50.1	52.9	3.0	4.6	-2.8	-1.6
9	示された事柄が両方当てはまるグラフを選ぶ	折れ線グラフから変化の特徴を読み取ることができる	4D (1)ア 4D (1)イ					○			○			65.9	63.6	5.0	7.2	2.3	-2.2

問題別調査結果【算数Ｂ】

平成３０年度全国学力・学習状況調査

小学校調査

問題別調査結果【算数Ｂ：主として活用】

香川県一児童（公立）

・以下の集計値／グラフは、４月１７日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	香川県（公立）	全国（公立）	対象児童数	香川県（公立）	全国（公立）
	157	19,380		8,129	1,029,847

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
			香川県（公立）	全国（公立）
全体		10	53	51.5
学習指導要領の領域	数と計算	6	60.8	58.4
	量と測定	4	54.7	52.4
	図形	2	60.3	59.9
	数量関係	5	45.8	45.1
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0		
	数学的な考え方	9	51.0	49.2
	数量や図形についての技能	0		
	数量や図形についての知識・理解	1	68.7	71.7
問題形式	選択式	3	52.5	54.0
	短答式	2	68.3	66.6
	記述式	5	46.8	43.9

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

問題別集計結果

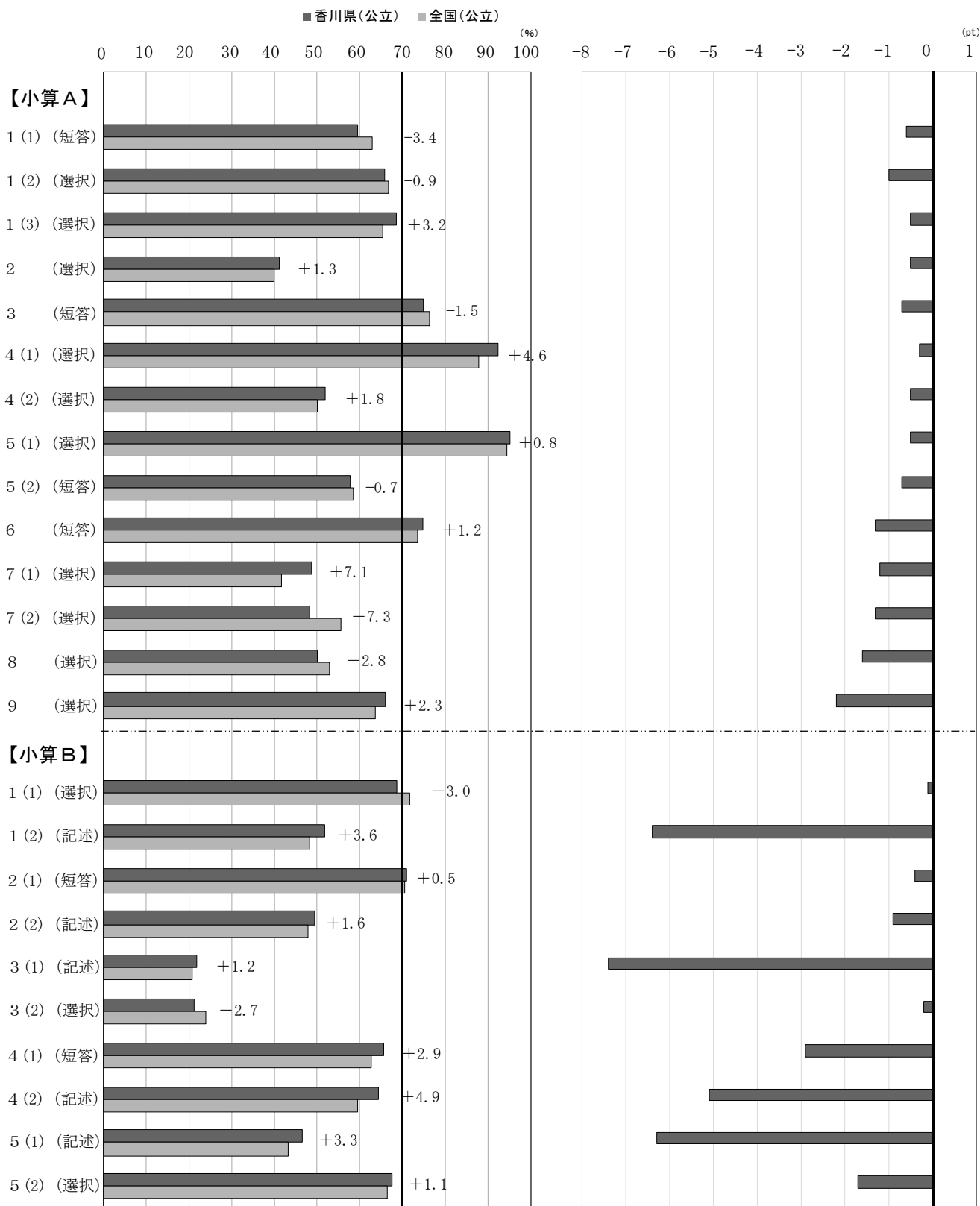
問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		香川県－全国 (pt)	
			数と計算	量と測定	図形	数量関係	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解	選択式	短答式	記述式	香川県（公立）	全国（公立）	香川県（公立）	全国（公立）	正答率	無解答率
1（１）	合同な正三角形で敷き詰められた模様の中から見いだすことができる図形として、正しいものを選ぶ	合同な正三角形で敷き詰められた模様の模様の模様に、条件に合う図形を見いだすことができる			20(1)イ 20(1)ア 40(1)イ 50(1) アイウ					○	○			68.7	71.7	0.2	0.3	-3.0	-0.1
1（２）	一つの点の周りに集まった角の大きさの和が360°になっていることを、着目した図形とその角の大きさを基に書く	図形の構成要素や性質を基に、集まった角の大きさの和が360°になっていることを記述できる		40(2)アイ			○					○		51.8	48.2	8.0	14.4	3.6	-6.4
2（１）	全体で使える時間の中で、「ルールの説明」に使える時間は何分かを書く	示された情報を解釈し、条件に合う時間を求めることができる	1A (2)ア 2A (3)イ	30(3)イ		20(1)	○					○		71.0	70.5	1.1	1.5	0.5	-0.4
2（２）	1回の玉入れゲームの時間を3分に最も近い時間にするための玉を投げる時間を、表に整理して求める	示された考え方を解釈し、ほかの数値の場合を表に整理し、条件に合う時間を判断することができる	3A (2)イ 3A (3)イ	30(3)イ	30(3)		○					○		49.5	47.9	0.7	1.6	1.6	-0.9
3（１）	メモ１とメモ２は、それぞれ、グラフについてどのようなことに着目して書かれているのかを書く	メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述できる				30(3)ア	○					○		21.9	20.7	10.6	18.0	1.2	-7.4
3（２）	一つの事柄について表した棒グラフと帯グラフから読み取ることができることをまとめた文章に当てはまるものを選ぶ	棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを、適切に判断することができる				30(3)ア 50(4)	○				○			21.2	23.9	0.9	1.1	-2.7	-0.2
4（１）	「32、40」の二つの数の和が9の段の数になるわけを、分配法則を用いた式に表す	示された考え方を解釈し、条件を変更して数量の関係を考察し、分配法則の式に表現することができる	20(1)エ 20(3)ウ 30(3)ウ			40(2)ア 40(3)ア	○					○		65.6	62.7	3.3	6.2	2.9	-2.9
4（２）	横に並んでいる七つの数について、示された表現方法を適用して書く	示された考え方を解釈し、条件を変更して考察した数量の関係を、表現方法を適用して記述できる	20(2)ア 20(3)ア 40(3)イ				○					○		64.4	59.5	6.2	11.3	4.9	-5.1
5（１）	横の長さが7mの黒板に輪かざりをつけるために必要な折り紙の枚数が、100枚あれば足りるわけを書く	折り紙の枚数が100枚あれば足りる理由を、示された数量を関連付け根拠を明確にして記述できる	20(3)ア 20(3)イ 30(4)ア 40(3)イ		20(1)ア		○					○		46.5	43.2	10.3	16.6	3.3	-6.3
5（２）	4色を順に繰り返してつなげ、輪かざり1本を作ったときの、30個目の折り紙の輪の色を選ぶ	折り紙の輪の色の規則性を解釈し、それを基に条件に合う色を選択することができる	10(1)イ 20(1)ア 30(4)ア 40(3)イ 50(1)イ				○					○		67.6	66.5	6.6	8.3	1.1	-1.7

■問題別の県と全国の正答率，無解答率の比較

【領域】	【評価観点】	【問題形式】
数と計算 : 計算 量と測定 : 量測 図形 : 図形 数量関係 : 数量	算数への関心・意欲・態度 : 関心 数学的な考え方 : 考え 数量や図形についての技能 : 技能 数量や図形についての知識・理解 : 知識	選択式 : 選択 短答式 : 短答 記述式 : 記述 (事実) ※「事実」を記述する 記述 (方法) ※「方法」を記述する 記述 (理由) ※「理由」を記述する

問題別正答率の比較

問題別無解答率の差



※グラフ横の数値は，香川県と全国の正答率の差 (pt) を表す

無解答率が全国平均より高い問題 該当無

■正答率が全国より3ポイント以上高い問題

【小学校算数A】（全14問中3問）

問題番号	問題の概要	領域	評価観点	問題形式	県正答率(%)	県無解答率(%)	全国の正答率との差(pt)
1(3)	針金1mの重さを求める式を選ぶ	計算数量	知識	選択	68.5	1.7	3.2
4(1)	面積がそろっている㊦と㊧の二つのシートの混み具合について、正しいものを選ぶ	量測	知識	選択	92.4	0.3	4.6
7(1)	円周率を求める式として正しいものを選ぶ	図形	知識	選択	48.7	2.0	7.1

【小学校算数B】（全10問中3問）

問題番号	問題の概要	領域	評価観点	問題形式	県正答率(%)	県無解答率(%)	全国の正答率との差(pt)
1(2)	一つの点の周りに集まった角の大きさの和が 360° になっていることを、着目した図形とその角の大きさを基に書く	量測 図形	考え	記述	51.8	8.0	3.6
4(2)	横に並んでいる七つの数について、示された表現方法を適用して書く	計算	考え	記述	64.4	6.2	4.9
5(1)	横の長さが7mの黒板に輪かざりをつけるために必要な折り紙の枚数が、100枚あれば足りるわけを書く	計算 量測	考え	記述	46.5	10.3	3.3

■正答率が全国より3ポイント以上低い問題

【小学校算数A】（全14問中2問）

問題番号	問題の概要	領域	評価観点	問題形式	県正答率(%)	県無解答率(%)	全国の正答率との差(pt)
1(1)	針金0.2mの重さと針金0.1mの重さを書く	計算数量	知識	短答	59.5	1.1	▲3.4
7(2)	円の直径の長さが2倍になったとき、円周の長さが何倍になるかを選ぶ	図形 数量	知識	選択	48.3	2.3	▲7.3

【小学校算数B】（全10問中1問）

問題番号	問題の概要	領域	評価観点	問題形式	県正答率(%)	県無解答率(%)	全国の正答率との差(pt)
1(1)	合同な正三角形で敷き詰められた模様の中から見いだすことができる図形として、正しいものを選ぶ	図形	知識	選択	68.7	0.2	▲3.0

■正答率が低い設問（50%未満）

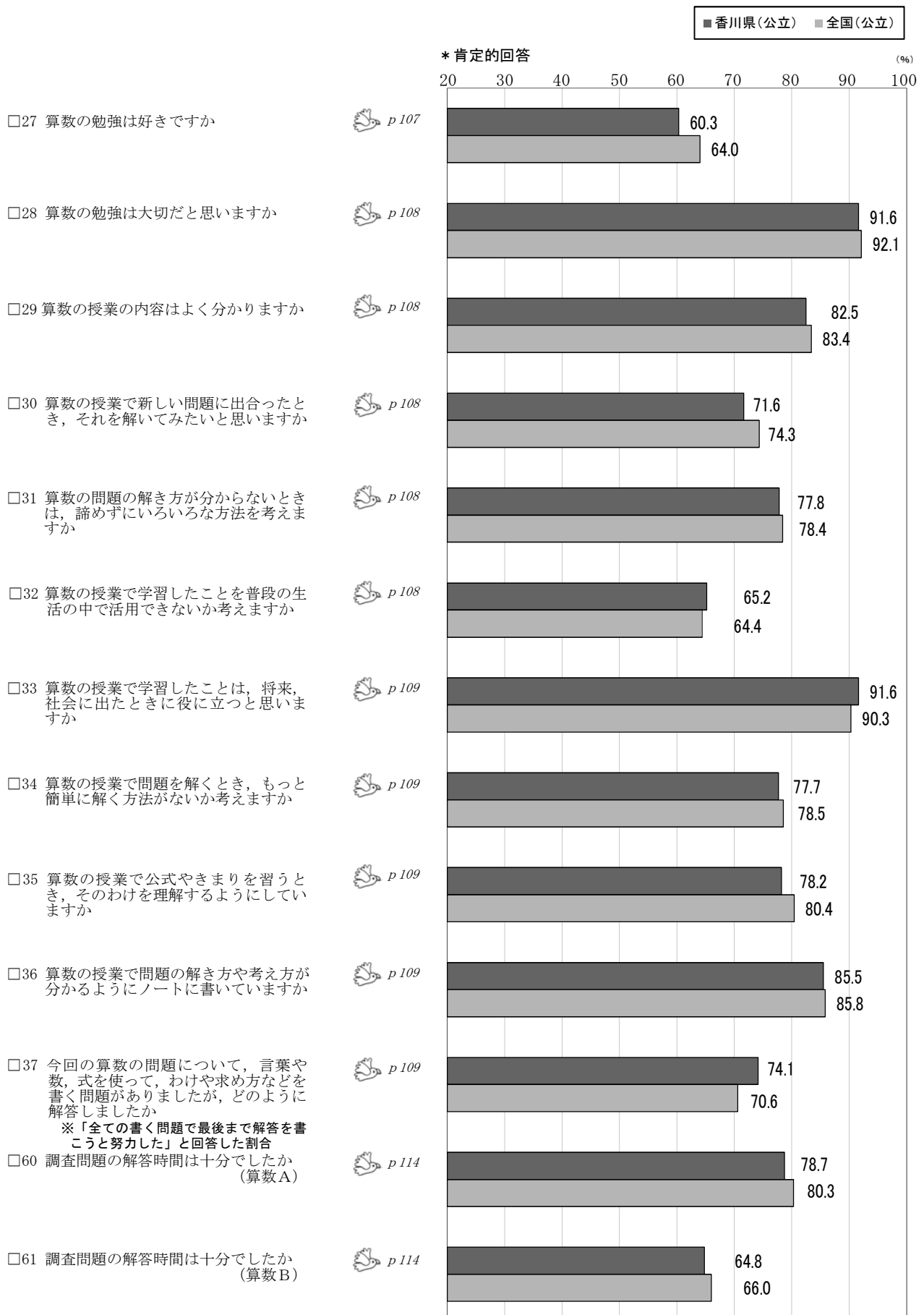
【小学校算数A】（全14問中3問）

問題番号	問題の概要	領域	評価観点	問題形式	県正答率(%)	県無解答率(%)	全国の正答率との差(pt)
2	答えが $12 \div 0.8$ の式で求められる問題を選ぶ	計算	知識	選択	41.2	0.5	1.3
7(1)	円周率を求める式として正しいものを選ぶ	図形	知識	選択	48.7	2.0	7.1
7(2)	円の直径の長さが2倍になったとき、円周の長さが何倍になるかを選ぶ	図形 数量	知識	選択	48.3	2.3	▲7.3

【小学校算数B】（全10問中4問）

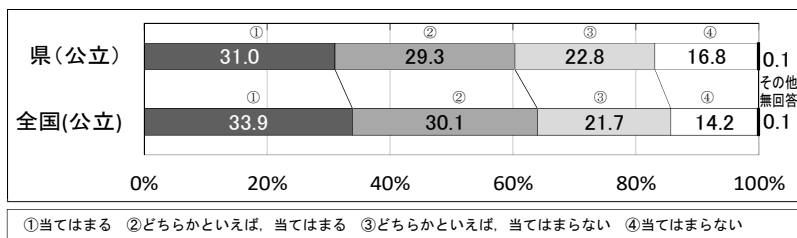
問題番号	問題の概要	領域	評価観点	問題形式	県正答率(%)	県無解答率(%)	全国の正答率との差(pt)
2(2)	1回の玉入れゲームの時間を3分に最も近い時間にするための玉を投げる時間を、表に整理して求める	計算 量測 数量	考え	記述	49.5	0.7	1.6
3(1)	メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについてどのようなことに着目して書かれているのかを書く	数量	考え	記述	21.9	10.6	1.2
3(2)	一つの事柄について表した棒グラフと帯グラフから読み取ることができることをまとめた文章に当てはまるものを選ぶ	数量	考え	選択	21.2	0.9	▲2.7
5(1)	横の長さが7mの黒板に輪かざりをつけるために必要な折り紙の枚数が、100枚あれば足りるわけを書く	計算 量測	考え	記述	46.5	10.3	3.3

■学習意欲（小学校算数）に関わる質問の全国との比較



□27 算数の勉強は好きですか

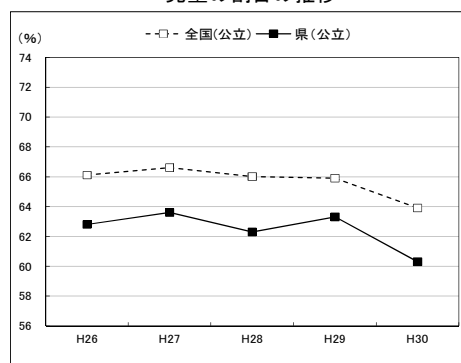
p 107



肯定的に回答した児童の割合

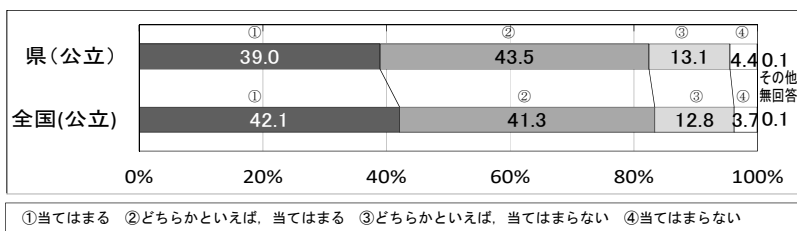
	H26	H27	H28	H29	H30
県(公立)(%)	62.8	63.6	62.3	63.3	60.3
全国(公立)(%)	66.1	66.6	66.0	65.9	64.0
県と全国の差(pt)	▲3.3	▲3.0	▲3.7	▲2.6	▲3.7

質問 27 に肯定的に回答した児童の割合の推移



□29 算数の授業の内容はよく分かりますか

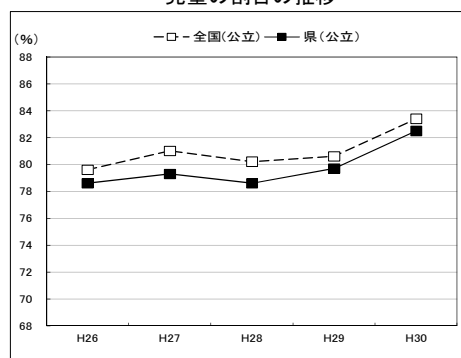
p 108



肯定的に回答した児童の割合

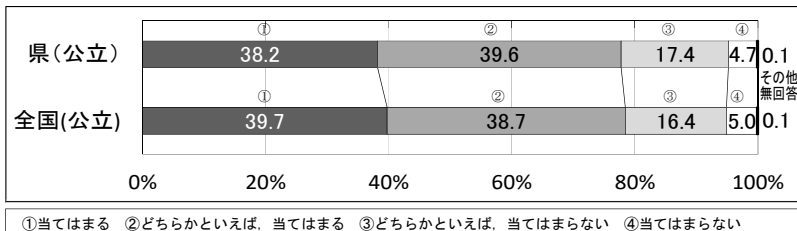
	H26	H27	H28	H29	H30
県(公立)(%)	78.6	79.3	78.6	79.7	82.5
全国(公立)(%)	79.6	81.0	80.2	80.6	83.4
県と全国の差(pt)	▲1.0	▲1.7	▲1.6	▲0.9	▲0.9

質問 29 に肯定的に回答した児童の割合の推移



□31 算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか

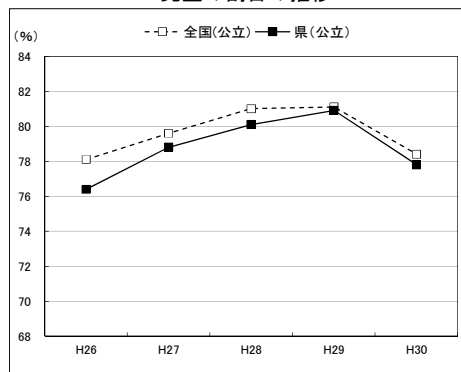
p 109



肯定的に回答した児童の割合

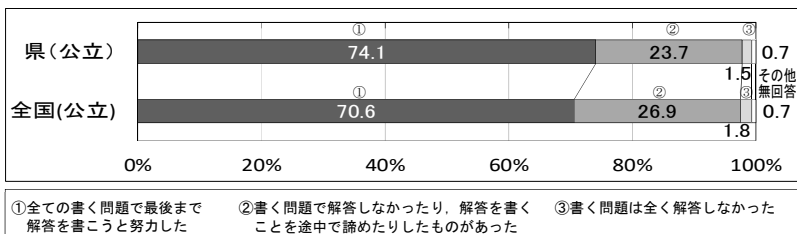
	H26	H27	H28	H29	H30
県(公立)(%)	76.4	78.8	80.1	80.9	77.8
全国(公立)(%)	78.1	79.6	81.0	81.1	78.4
県と全国の差(pt)	▲1.7	▲0.8	▲0.9	▲0.2	▲0.6

質問 31 に肯定的に回答した児童の割合の推移



□37 今回の算数の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました、どのように解答しましたか

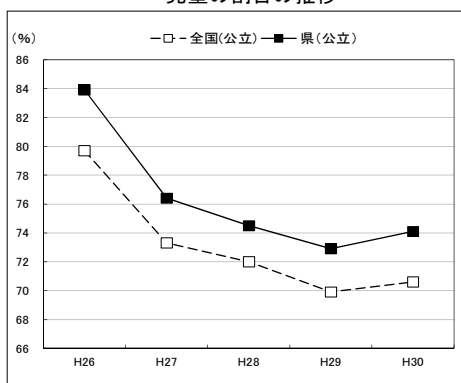
p 109



①と回答した児童の割合

	H26	H27	H28	H29	H30
県(公立)(%)	83.9	76.4	74.5	72.9	74.1
全国(公立)(%)	79.7	73.3	72.0	69.9	70.6
県と全国の差(pt)	4.2	3.1	2.5	3.0	3.5

質問 37 に対して①と回答した児童の割合の推移



小学校算数A

調査結果から授業改善へ

実際に幾つかの円について直径の長さと円周の長さを調べる活動を通して、円周の長さと直径の長さの関係について考察できるようにする。

授業改善のヒントとなる問題の概要

小学校 算数A 7(2)

7 次の問題に答えましょう。

(2) 下の文の□□にあてはまるものを考えます。

円があります。この円の直径の長さを2倍にします。
このとき、直径の長さを2倍にした円の円周の長さは、もとの円の円周の長さの□□倍になります。

上の文の□□にあてはまるものを、下のアからエまでの中から1つ選んで、その記号を書きましょう。

- ア 2
- イ 3.14
- ウ 4
- エ 6.28

問題番号	解答類型	県反応率(%)	全国反応率(%)	正答
1	ア と解答しているもの	48.3	55.6	◎
2	イ と解答しているもの	37.1	28.0	
3	ウ と解答しているもの	4.2	5.6	
4	エ と解答しているもの	7.7	6.6	
99	上記以外の解答	0.3	0.6	
0	無解答	2.3	3.6	
正答率		48.3	55.6	

分析・考察

○本問題の本県の正答率は、48.3%であり、全国の正答率を7.3ポイント下回っている。直径の長さと円周の長さとの関係を理解することに課題がある。

○解答類型2の反応率は37.1%である。直径×円周率(3.14)＝円周を基に、直径の長さの3.14倍が円周の長さになることから、直径の長さが2倍になると円周の長さが3.14倍になると判断したと考えられる。また、右のように公式に任意の数値を代入して考えるといった解決方法についての理解が十分でないと考えられる。

円周の長さ	
5 × 3.14 = 15.7	2倍
10 × 3.14 = 31.4	2倍

授業改善のポイント

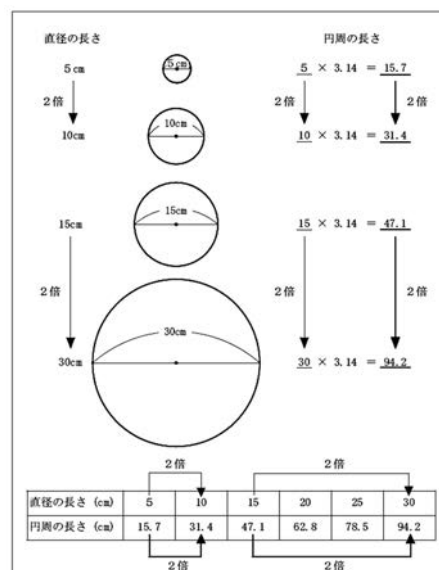
【数学的活動を通して、直径の長さと円周の長さの関係について帰納的に考察できるようにする】

幾つかの円について、「直径の長さを2倍にしたとき、円周の長さはどうなりますか。」などと問いかけ、実際に直径の長さと円周の長さを調べる活動が考えられる。その際、右のように、まず半径5cmの円について計算をし、「直径の長さが2倍になるとき、円周の長さも2倍になる」ことを確認する。そして、「大きさが異なる円でも、同じような関係になっているのではないか」という見通しをもって、ほかの大きさの円についても調べていく。どの大きさの円も直径の長さが2倍になるとき、円周の長さも2倍になっていることから、直径の長さと円周の長さの関係を帰納的に考察し、理解を深めていけるようにする。

【任意の数値を代入する、表に整理するなどの解決方法を身に付けるようにする】

直径の長さも円周の長さも明らかになっていないような問題場面では、「例えば直径の長さが5だとすると円周の長さは15.7になる。直径の長さを2倍にすると10になるから、円周の長さは31.4になる。

つまり、円周の長さは2倍になる。」のように任意の数値を代入して考える方法が有効である。また、変化を見る際は、表に整理して考察することも有効である。例えば、2倍の関係だけでなく、3倍、4倍などの関係に気付くことも期待できる。下学年のときから様々な単元で学習してきているこれらの解決方法を、問題解決の際に活用することができるよう、生きて働く知識及び技能として習得させておくことが大切である。



小学校算数A

調査結果から授業改善へ

百分率の意味について理解し、百分率を求めることができるようにする。

授業改善のヒントとなる問題の概要

小学校 算数A 8

8

ある会場に子どもたちが集まりました。
集まった子どもたち 200 人のうち 80 人が小学生でした。
小学生の人数は、集まった子どもたちの人数の何%ですか。
下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 0.4 %
- 2 2.5 %
- 3 40 %
- 4 80 %

問題 番号	解答類型	県 反応率 (%)	全国 反応率 (%)	正答
1	1 と解答しているもの	8.6	8.8	
2	2 と解答しているもの	31.7	27.8	
3	3 と解答しているもの	50.1	52.9	◎
4	4 と解答しているもの	6.2	5.7	
99	上記以外の解答	0.4	0.2	
0	無解答	3.0	4.6	
正答率		50.1	52.9	

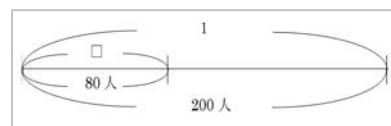
分析・考察

- 本問題の本県の正答率は、50.1%であり、全国の前答率を2.8ポイント下回っている。百分率の意味について理解し、百分率を求めることに課題がある。
- 解答類型1の反応率は、8.6%である。80÷200と正しく立式することはできているが、計算で得られた答え「0.4」を百分率で表すことに課題があることがうかがえる。
- 解答類型2の反応率は31.7%である。基準量と比較量を正しく捉えることができず、「200÷80=2.5」と計算していると考えられる。また、「2.5」を百分率で表すと「250%」になるといった百分率の意味についての理解も十分でないと考えられる。

授業改善のポイント

【基準量と比較量を正しく捉えられるようにする】

割合は、比較量（割合に当たる大きさ）÷基準量（基準にする大きさ）で求められることを理解しておくことが大切である。具体的な指導としては、右のように、数量をテープ図や線分図等に表す活動を取り入れ、数量の関係を捉えられるようにすることが考えられる。その際、何と何を比べようとしているのかを確認したり、どの数量を基に考えようとしているのかを確認したりすることで、基準量の1に対して、求める数量はその半分より小さくなることを捉えられるようにしたい。このように、図を効果的に利用し、結果の見通しをもって学習を進めていくことの大切さを実感することができるような授業づくりを行うことが大切である。



【百分率の意味を理解し、百分率を正しく求められるようにする】

百分率は、基準量を100としたときの比較量の割合を表したものであるといった、百分率の意味を十分に理解できるようにすることが大切である。その上で、百分率は、比較量（割合に当たる大きさ）÷基準量（基準にする大きさ）×100で求められることについても理解できるようにすることが大切である。また、本調査問題であれば、基準量が200人であることから、「100人当たり」で考えると、小学生の人数が40人となり、割合を40%であると捉えることができる。このように、数値の特性によっては、簡単な計算で割合を求められる場合があることを知る機会を設定することも考えられる。

下のように、平成21年度調査においても今回調査と同様の課題が見られた。今後も継続して「割合」に関わる学習指導の改善を図る必要がある。

（参考）平成21年度調査との関連

問題番号	問題	県正答率(%)	全国正答率(%)
算数A 7	ある会場に小学生が集まりました。集まった小学生200人のうち80人が女子でした。女子の人数の割合は、集まった小学生の人数の何%ですか。	54.6	56.9

小学校算数B

調査結果から授業改善へ

図形の構成要素に着目し、図形を観察したり、性質を基に考察したりすることで、図形を判断できるようにする。

授業改善のヒントとなる問題の概要

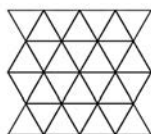
小学校 算数B①(1)

1

身のまわりには、図形の辺どうしがびったりあっていて、すさまじく重なりもなくなき詰められている模様があります。はるとさんたちは、これらの模様に興味をもちました。

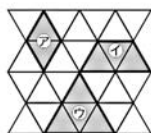
はるとさんたちは、まず、うろこ模様を調べることにしました。

はるとさんたちが調べているうろこ模様は、合同な正三角形でできつめられていました。



うろこ模様

はるとさんたちは、うろこ模様の中に、いくつかの正三角形でできている図形を見つけました。



はると

正三角形 2 つでできている、ひし形(ア)を見つけました。



ともや

正三角形 3 つでできている、台形(イ)を見つけました。



かすみ

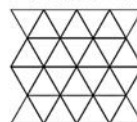
正三角形 4 つでできている、正三角形(ウ)を見つけました。

ほかにも、正三角形 4 つでできている図形を見つけることはできないのかな。

(1) 正三角形 4 つでできている図形を、うろこ模様の中から見つけます。どのような図形を見つけることができますか。見つけることができる図形を、下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 長方形
- 2 直角三角形
- 3 平行四辺形
- 4 正六角形

※ 必要ならば、下のうろこ模様を使って考えてもかまいません。



うろこ模様

問題番号	解答類型	県反応率 (%)	全国反応率 (%)	正答
①(1)	1 1 と解答しているもの	4.1	3.0	
	2 2 と解答しているもの	11.3	10.6	
	3 3 と解答しているもの	68.7	71.7	◎
	4 4 と解答しているもの	15.4	14.3	
	99 上記以外の解答	0.2	0.2	
	0 無解答	0.2	0.3	
	正答率	68.7	71.7	

分析・考察

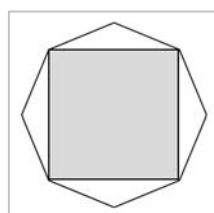
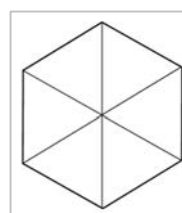
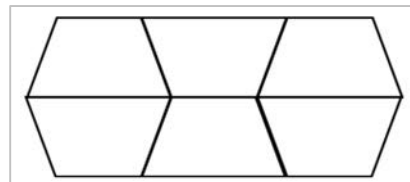
- 本問題の本県の正答率は、68.7%である。合同な正三角形で敷き詰められた模様の中から、条件に合う図形を見いだすことに課題がある。
- 解答類型 1 と 2 を合わせた反応率は15.4%である。敷き詰められた模様の中の図形の構成要素を捉えることができず、直角を含む図形を選択していることがうかがえる。
- 解答類型 4 の反応率は15.4%である。正三角形四つではなく、正三角形六つでできている図形を選択していると考えられる。

授業改善のポイント

【図形の構成要素や性質を基に、正しく図形を判断できるようにする】

図形について指導する際は、図形の構成要素及びそれらの位置関係に着目し、構成の仕方を考察し図形の性質を見いだす活動等を重視し、図形の構成要素や性質を基に、正しく図形を判断できるようにしていきたい。

指導に当たっては、例えば、第4学年の平行四辺形、ひし形、台形などの平面図形の学習において下のようないろいろな台形を敷き詰め考察する活動を行うことが考えられる。敷き詰めた模様を見た際に、辺の位置関係に着目し、平行四辺形を認めたり、角の大きさに着目し、四つの角の大きさを合わせると 360 度になっていることを確かめたりできるようにする。さらに、この台形を二つ合わせても直角ができないことから、この模様の中に、角の形が直角である長方形や正方形を認めることはできないと、図形の性質を基に、認められない図形を見つけ、そのわけを説明し合うこともできる。第5学年の正多角形の学習では、正六角形や正八角形をかく活動を通して、右のように、正六角形は合同な正三角形六つで構成されていること、正八角形の頂点を一つとびで結ぶと正方形ができることなど、一つの図形を多様な視点で考察する活動を設定することも考えられる。このように、構成要素や位置関係に着目して、図形を観察したり、性質に基づいて考察したりする活動を充実させることが大切である。



小学校算数B

調査結果から授業改善へ

一つの事柄について、表した複数のグラフから読み取ることができる情報を関連付けながら考察することができるようにする。

授業改善のヒントとなる問題の概要

小学校 算数B③(2)

問題番号	解答類型		県反応率(%)	全国反応率(%)	正答
	⑦	①			
③(2)	1	5 と解答しているもの	21.2	23.9	◎
	2	4 と解答しているもの	3.5	4.6	
	3	類型1、類型2以外の解答 無解答	0.4	0.5	
	4	2 と解答	1.7	2.6	
	5	4 と解答しているもの	56.8	52.2	
	6	類型5以外の解答 無解答	14.7	14.5	
	99	上記以外の解答	0.7	0.6	
	0	無解答	0.9	1.1	
	正答率		21.2	23.9	

分析・考察

- 本問題の本県の正答率は、21.2%である。一つの事柄について表した棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを基に、適切に判断することに課題がある。
- 選択肢⑦の3及び選択肢①の4を選んだ解答類型5の反応率は56.8%である。棒グラフと帯グラフの二つのグラフを見ず、帯グラフのみで判断していると考えられる。
- 解答類型6の反応率は14.7%である。その内の、選択肢⑦の3及び選択肢①の5を選んだ解答については、選択肢⑦をグラフ1、選択肢①をグラフ2で判断していると考えられる。

授業改善のポイント

【目的に応じてグラフを作り、複数のグラフを関連付けて考察することができるようにする】

棒グラフは、数量の大小や差などを読むことに加えて、最大値や最小値を捉えたり、項目間の関係、集団のもつ全体的な特徴などを読んだりすることができる。帯グラフは、事象にある数量の関係を割合で捉え、基準量と比較量との関係を読むことができる。また、複数のデータについて項目の割合を比較するのに便利である。ただし、複数の帯グラフを用いる際は、各帯グラフの基になる数量が異なっている場合があり、そのような場合には割合が小さくなっているにもかかわらず実際のデータとしては大きいなど、見た目では比較できない場合があることに注意が必要である。

本問題を使って授業を行う際は、まず、データを基に棒グラフに表してみる。そうすると、「進んであいさつをする」に「取り組んだ」と答えた人数は、5・6年生がいちばん多いことに気付く。その際、教師あるいは子どもの「1・2年生は175人、3・4年生は200人だけど、本当に、250人の5・6年生がいちばん多いと言えるのかな。」といった問いかけにより、全体の人数が多いから「取り組んだ」と回答した数が多いのかもしれないことに気付かせることで、割合で比べる必要性を感じさせたい。実際に割合のグラフを作成し、1・2年生の割合は大きく、5・6年生の割合は小さいことを確認する。そして、棒グラフは人数を比べることができ、帯グラフは割合を比べることができるなど、各グラフの特徴を基に話し合うことで、「5・6年生は、進んであいさつに取り組んだ数はいちばん多いが、割合は小さい」などと、それぞれのグラフから読み取ることができる情報を関連付けながら考察することができるように考える。

このように、各グラフの特徴を理解した上で、様々なグラフを基に、複数の観点で考察したり、目的に合わせて表現したりすることができるようにすることが大切である。

3 小学校 理科

<調査区分の分析・検証>

概 要

○ 理科について、県と全国の平均正答率の比較等から、全国平均と同等である。

■平成 30 年度調査結果の集計値

小学校理科	児童数	学校数	平均正答数	平均正答率 (%)
県 (公立)	8, 131	156	9. 6 / 16	60
全国 (公立)	1, 029, 828	19, 278	9. 6 / 16	60 (60. 3)

■平成 24 年度，平成 27 年度，平成 30 年度の県と全国の調査結果

小学校理科	H24	H27	H30
県 (公立) 平均正答率 (%)	64. 3	62. 3	60
全国 (公立) 平均正答率 (%)	60. 9	60. 8	60 (60. 3)
県と全国の差 (pt)	3. 4	1. 5	0

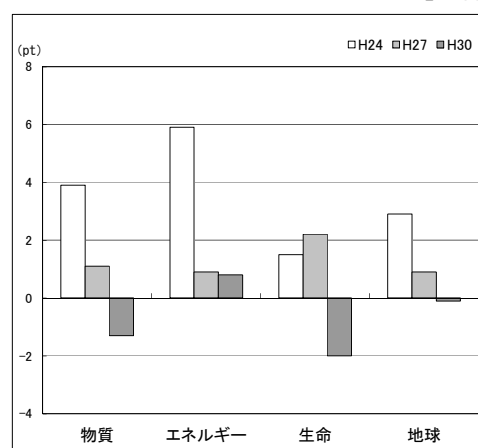
■平成 30 年度の区分等別調査結果

	理科			
学習指導要領の区分等	物質	エネルギー	生命	地球
県 (公立) 平均正答率 (%)	58. 5	53. 9	71. 6	49. 4
全国 (公立) 平均正答率 (%)	59. 8	53. 1	73. 6	49. 5
県と全国との差 (pt)	▲1. 3	0. 8	▲2. 0	▲0. 1

■平成 24 年度，平成 27 年度，平成 30 年度の区分等別調査結果

	年度		H24	H27	H30
理 科	物質	県 (公立) (%)	65. 3	58. 5	58. 5
		全国 (公立) (%)	61. 4	57. 4	59. 8
		差 (pt)	3. 9	1. 1	▲1. 3
	エネルギー	県 (公立) (%)	65. 7	66. 5	53. 9
		全国 (公立) (%)	59. 8	65. 6	53. 1
		差 (pt)	5. 9	0. 9	0. 8
	生命	県 (公立) (%)	70. 1	63. 4	71. 6
		全国 (公立) (%)	68. 6	61. 2	73. 6
		差 (pt)	1. 5	2. 2	▲2. 0
	地球	県 (公立) (%)	53. 5	58. 7	49. 4
		全国 (公立) (%)	50. 6	57. 8	49. 5
		差 (pt)	2. 9	0. 9	▲0. 1

区分等別の県と全国の平均正答率の差の推移
【理科】



問題別調査結果【理科】

平成30年度全国学力・学習状況調査

小学校調査

問題別調査結果【理科】

香川県一児童（公立）

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	香川県（公立）		全国（公立）		対象児童数	香川県（公立）		全国（公立）		
	156		19,278			8,131		1,029,828		
分類	区分				対象問題数 （問）	平均正答率（％）				
						香川県（公立）				全国（公立）
全体					16	60		60.3		
枠組み	主として「知識」に関する問題				3	76.0		78.0		
	主として「活用」に関する問題				13	56.0		56.2		
学習指導要領の区分等	A区分	物質			4	58.5		59.8		
		エネルギー			4	53.9		53.1		
	B区分	生命			4	71.6		73.6		
		地球			6	49.4		49.5		
	評価の観点	自然事象への関心・意欲・態度				1	80.4		82.1	
		科学的な思考・表現				12	54.0		54.1	
観察・実験の技能				1	66.7		71.1			
自然事象についての知識・理解				2	80.3		81.5			
問題形式	選択式				13	63.1		63.8		
	短答式				1	75.9		79.4		
	記述式				2	30.1		28.0		

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

問題別集計結果

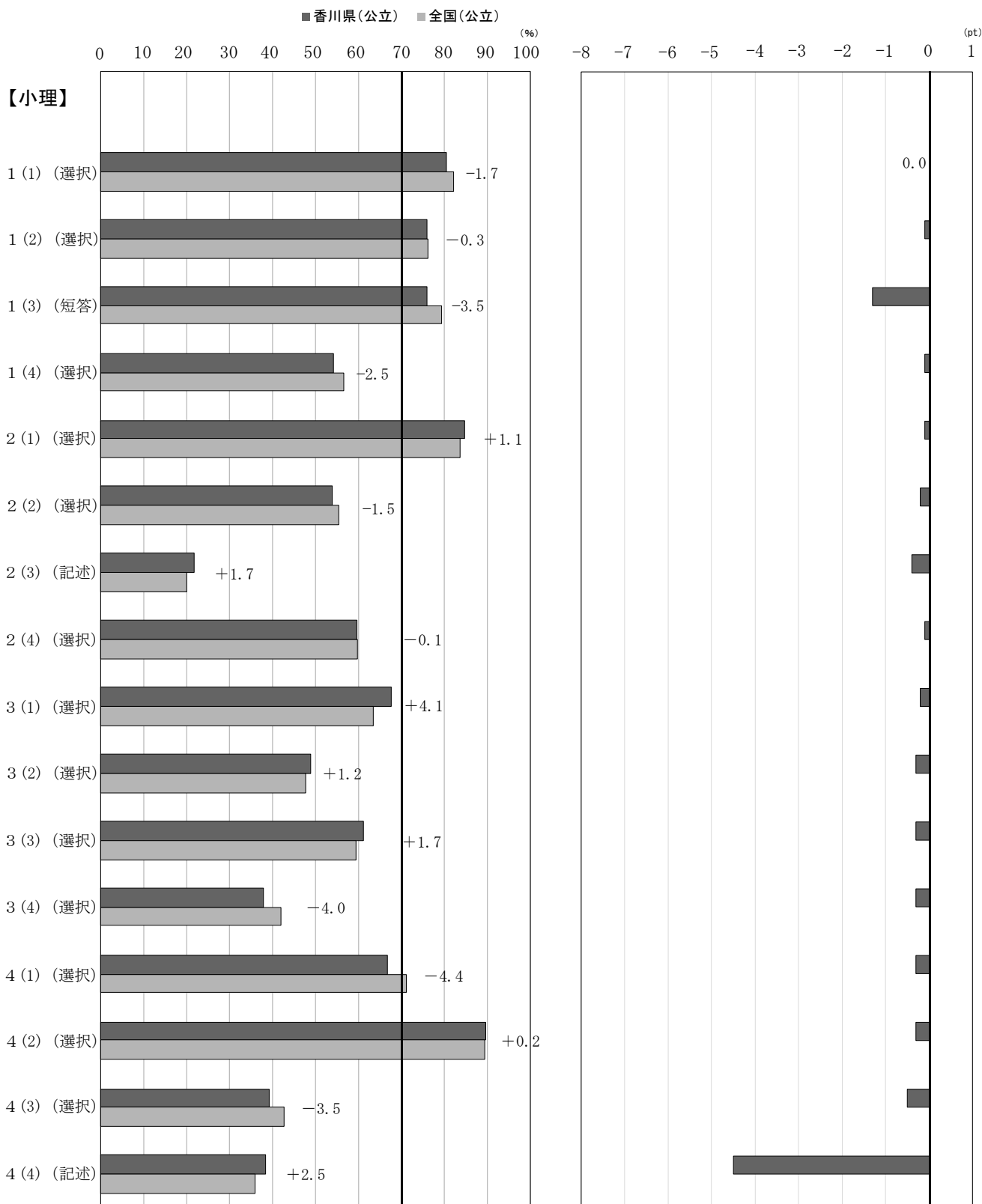
問題番号	問題の概要	出題の趣旨	枠組み 主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題	学習指導要領の区分等				評価の観点				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		香川県一全国 (pt)	
					A区分 物質 エネルギー	B区分 生命 地球	自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解	選択式	短答式	記述式	香川県（公立）	全国（公立）	香川県（公立）	全国（公立）	正答率	無解答率		
1（1）	野鳥のひなの様子を観察するための適切な方法を選ぶ	安全に留意し、生物を愛護する態度をもって、野鳥のひなを観察できる方法を構想できる	○		4B (2)ア		○			○			80.4	82.1	0.0	0.0	-1.7	0.0			
1（2）	鳥の翼と人の腕のつくりについてのまとめから、どのような視点を基にまとめた内容なのかを選ぶ	調べた結果について考察する際に、問題に対応した視点で分析できる	○		4B (1)ア		○			○			75.9	76.2	0.0	0.1	-0.3	-0.1			
1（3）	腕を曲げることのできる骨と骨のつなぎ目を表す言葉を書く	骨と骨のつなぎ目について、科学的な言葉や概念を理解している	○		4B (1)イ				○	○			75.9	79.4	2.5	3.8	-3.5	-1.3			
1（4）	人の腕が曲がる仕組みについて、示された模型を使って説明できる内容を選ぶ	人の腕が曲がる仕組みを模型に適用できる	○		4B (1)イイ		○			○			54.1	56.6	0.3	0.4	-2.5	-0.1			
2（1）	流されてきた土や石を積みもらせる水の働きを表す言葉を選ぶ	堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解している	○		5B (3)ア				○	○			84.7	83.6	0.0	0.1	1.1	-0.1			
2（2）	流れる水の働きによる土地の侵食について、自分の考えと異なる他者の予想を基に、斜面に水を流したときの立てた棒の様子を選ぶ	土地の侵食について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想できる	○		5B (3)ア		○			○			53.9	55.4	0.1	0.3	-1.5	-0.2			
2（3）	一度に流す水の量と棒の様子との関係から、大雨が降って流れる水の量が増えたときの地面の削られ方を選び、選んだわけを書く	より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述できる	○		5B (3)ウ		○			○			21.8	20.1	0.6	1.0	1.7	-0.4			
2（4）	上流側の雲の様子や雨の降っている所と下流側の川の水位の変化から、上流側の天気と下流側の水位の関係について言えることを選ぶ	より妥当な考えをつくりだすために、複数の情報を関係付けながら、分析して考察できる	○		5B (3)ウ (4)イイ		○			○			59.7	59.8	0.2	0.3	-0.1	-0.1			
3（1）	風が吹く方向を変えるためにモーターの回転が逆になる回路を選ぶ	乾電池のつなぎ方を変えると電流の向きが変わることを実際の回路に適用できる	○		4A (3)ア		○			○			67.6	63.5	0.1	0.3	4.1	-0.2			
3（2）	回路を流れる電流の流れ方について、自分の考えと異なる他者の予想を基に、検流計の針の向きと目盛りを選ぶ	電流の流れ方について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想できる	○		4A (3)ア		○			○			48.9	47.7	0.2	0.5	1.2	-0.3			
3（3）	回路を流れる電流の向きと大きさについて、実験結果から考え直した内容を選ぶ	実験結果から電流の流れ方について、より妥当な考えに改善できる	○		4A (3)ア		○			○			61.1	59.4	0.3	0.6	1.7	-0.3			
3（4）	目的の時間帯だけモーターを回すため、太陽の1日の位置の変化に合わせた箱の中の乾電池の適切な位置や向きを選ぶ	太陽の1日の位置の変化と乾電池に生じる電流の変化の関係を目的に合ったものづくりに適用できる	○		4A (3)イ	3B (3)ア	○			○			37.9	41.9	0.3	0.6	-4.0	-0.3			
4（1）	ろ過後の溶液に砂が混じっている状況に着目しながら、誤った操作に気付く、適切に操作する方法を選ぶ	ろ過の適切な操作方法を身に付けている	○		5A (1)イ			○		○			66.7	71.1	0.2	0.5	-4.4	-0.3			
4（2）	海水と水道水を区別するために、2つの異なる実験方法から得られた結果を基に判断した内容を選ぶ	より妥当な考えをつくりだすために、2つの異なる方法の実験結果を分析して考察できる	○		5A (1)ウ			○		○			89.6	89.4	0.3	0.6	0.2	-0.3			
4（3）	食塩を水に溶かしたときの全体の重さを選ぶ	物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを食塩を溶かして体積が増えた食塩水に適用できる	○		5A (1)ウ			○		○			39.2	42.7	0.8	1.3	-3.5	-0.5			
4（4）	食塩水を熱したときの食塩の蒸発について、実験を通して導きだす結論を書く	実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述できる	○		4B (2)ウ (3)ウ (1)イウ	4B (3)イ	○			○			38.4	35.9	4.4	8.9	2.5	-4.5			

■問題別の県と全国の正答率，無解答率の比較

【領域】	【評価観点】	【問題形式】
物質 エネルギー 生命 地球	物質 ：物質 エネルギー ：エネルギー 生命 ：生命 地球 ：地球	自然事象への関心・意欲・態度 ：関心 科学的な思考・表現 ：思考 観察・実験の技能 ：技能 自然事象についての知識・理解 ：知識
		選択式：選択 短答式：短答 記述式： 記述（事実）※「事実」を記述する 記述（方法）※「方法」を記述する 記述（理由）※「理由」を記述する

問題別正答率の比較

問題別無解答率の差



■正答率が全国より3ポイント以上高い問題

【小学校理科】（全16問中1問）

問題番号	問題の概要	領域	評価観点	問題形式	県正答率(%)	県無解答率(%)	全国の正答率との差(pt)
3(1)	風が吹く方向を変えるためにモーターの回転が逆になる回路を選ぶ	エネルギー	思考	選択	67.6	0.1	4.1

■正答率が全国より3ポイント以上低い問題

【小学校理科】（全16問中4問）

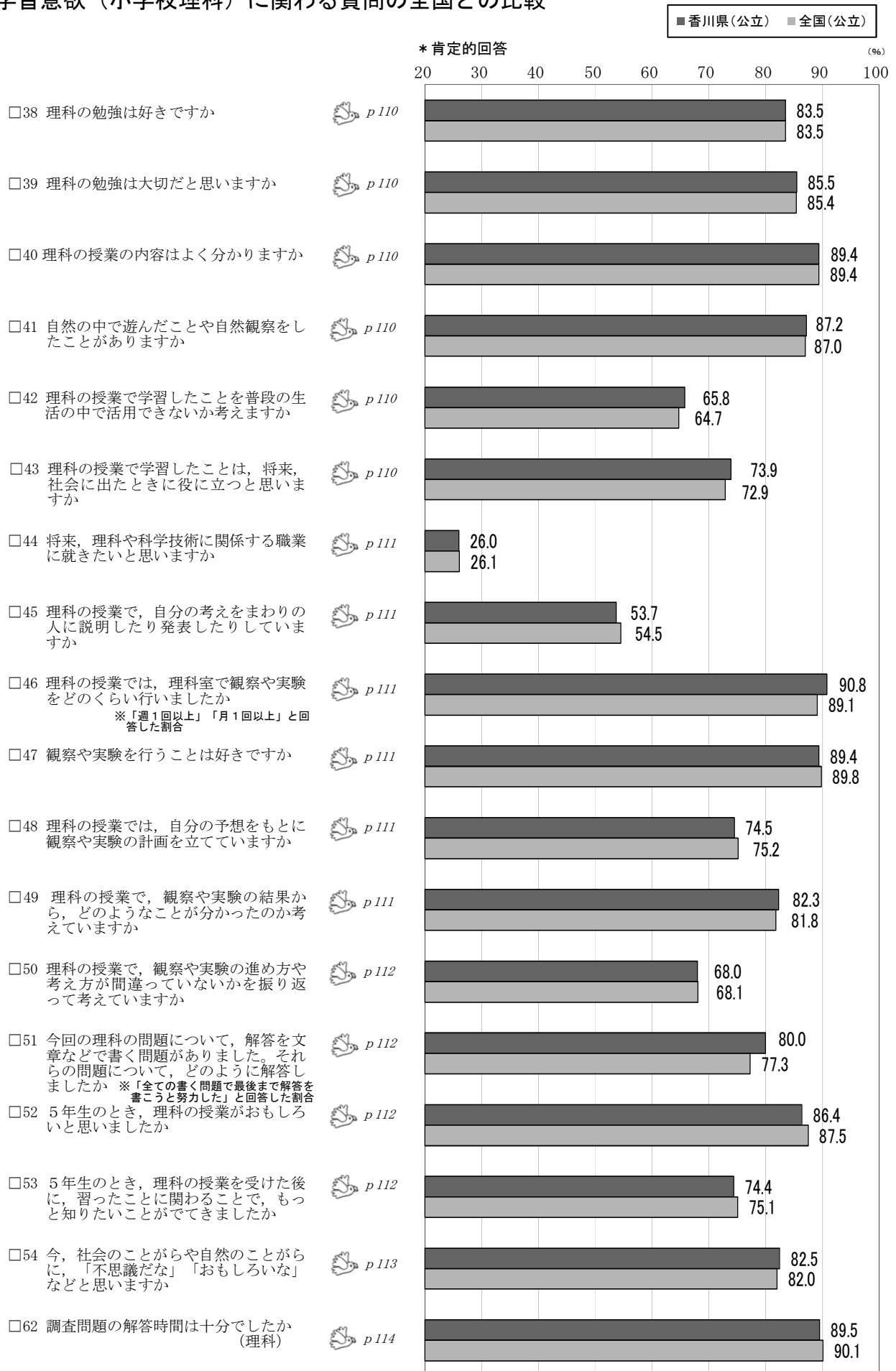
問題番号	問題の概要	領域	評価観点	問題形式	県正答率(%)	県無解答率(%)	全国の正答率との差(pt)
1(3)	腕を曲げることのできる骨と骨のつなぎ目を表す言葉を書く	生命	知識	短答	75.9	2.5	▲3.5
3(4)	目的の時間帯だけモーターを回すため、太陽の1日の位置の変化に合わせた箱の中での光電池の適切な位置や向きを選ぶ	エネルギー 地球	思考	選択	37.9	0.3	▲4.0
4(1)	ろ過後の溶液に砂が混じっている状況に着目しながら、誤った操作に気づき、適切に操作する方法を選ぶ	物質	技能	選択	66.7	0.2	▲4.4
4(3)	食塩を水に溶かしたときの全体の重さを選ぶ	物質	思考	選択	39.2	0.8	▲3.5

■正答率が低い設問（50%未満）

【小学校理科】（全16問中5問）

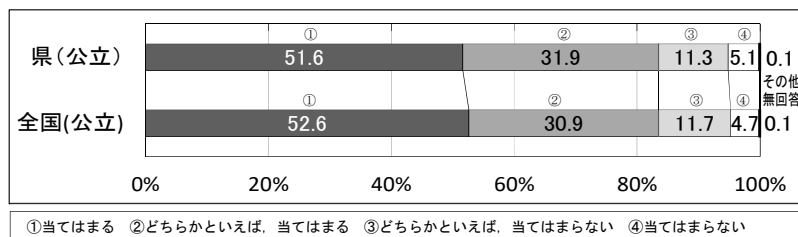
問題番号	問題の概要	領域	評価観点	問題形式	県正答率(%)	県無解答率(%)	全国の正答率との差(pt)
2(3)	一度に流す水の量と棒の様子との関係から、大雨が降って流れる水の量が増えたときの地面の削られ方を選び、選んだわけを書く	地球	思考	記述	21.8	0.6	1.7
3(2)	回路を流れる電流の流れ方について、自分の考えと異なる他者の予想を基に、検流計の針の向きと目盛りを選ぶ	エネルギー	思考	選択	48.9	0.2	1.2
3(4)	目的の時間帯だけモーターを回すため、太陽の1日の位置の変化に合わせた箱の中での光電池の適切な位置や向きを選ぶ	エネルギー 地球	思考	選択	37.9	0.3	▲4.0
4(3)	食塩を水に溶かしたときの全体の重さを選ぶ	物質	思考	選択	39.2	0.8	▲3.5
4(4)	食塩水を熱したときの食塩の蒸発について、実験を通して導きだす結論を書く	物質 地球	思考	記述	38.4	4.4	2.5

■学習意欲（小学校理科）に関わる質問の全国との比較

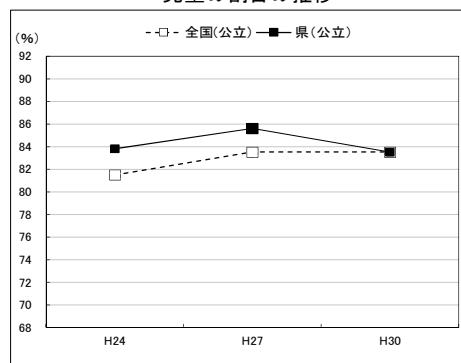


□38 理科の勉強は好きですか

p 110



質問 38 に肯定的に回答した児童の割合の推移

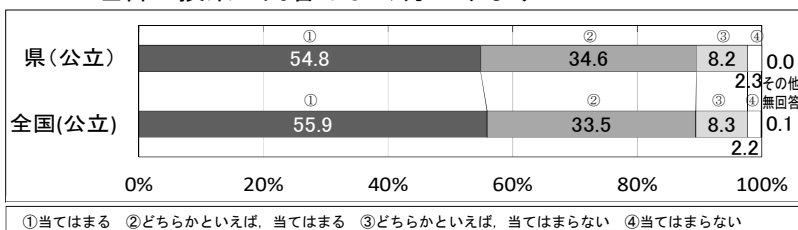


肯定的に回答した児童の割合

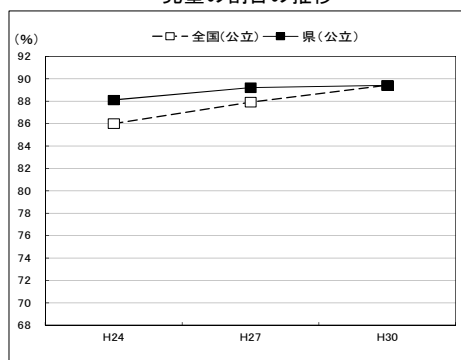
	H24	H27	H30
県(公立) (%)	83.8	85.6	83.5
全国(公立) (%)	81.5	83.5	83.5
県と全国の差 (pt)	2.3	2.1	0.0

□40 理科の授業の内容はよく分かりますか

p 110



質問 40 に肯定的に回答した児童の割合の推移

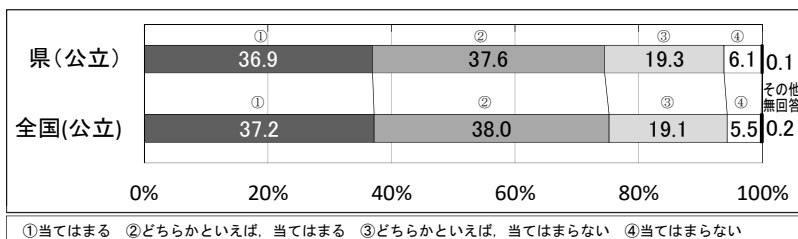


肯定的に回答した児童の割合

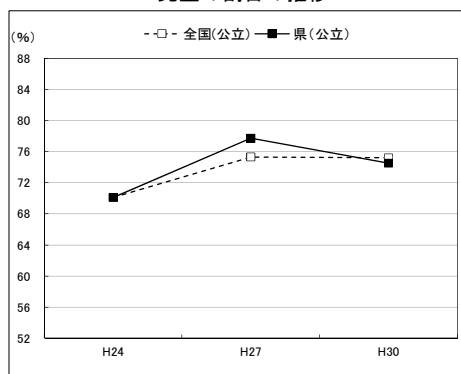
	H24	H27	H30
県(公立) (%)	88.1	89.2	89.4
全国(公立) (%)	86.0	87.9	89.4
県と全国の差 (pt)	2.1	1.3	0.0

□48 理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか

p 111



質問 48 に肯定的に回答した児童の割合の推移

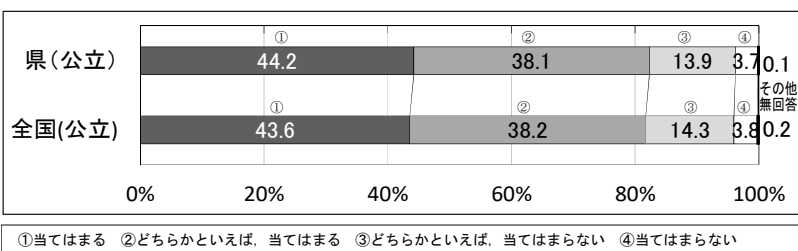


肯定的に回答した児童の割合

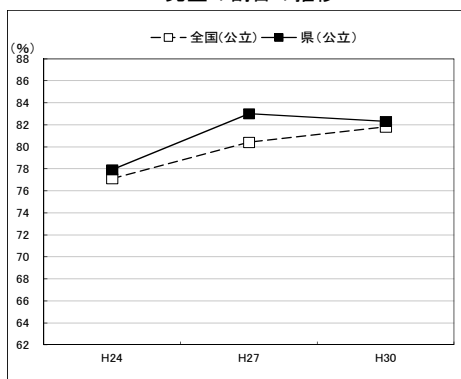
	H24	H27	H30
県(公立) (%)	70.1	77.7	74.5
全国(公立) (%)	70.1	75.3	75.2
県と全国の差 (pt)	0.0	2.4	▲0.7

□49 理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか

p 111



質問 49 に肯定的に回答した児童の割合の推移



肯定的に回答した児童の割合

	H24	H27	H30
県(公立) (%)	77.9	83.0	82.3
全国(公立) (%)	77.1	80.4	81.8
県と全国の差 (pt)	0.8	2.6	0.5

小学校理科

調査結果から授業改善へ

観察・実験の場面で児童が実際に使用することを通して器具の操作を身に付ける。

授業改善のヒントとなる問題の概要

小学校 理科 4(1)

ゆかりさんたちは、海で見つけた魚を飼育して観察することになりました。

ゆかりさんたちは、魚を飼育するために、海水を持ち帰りました。しかし、砂などが混じり、にごっていたため、ろ過することになりました。

 これでろ過できるね。

ゆかりさん

これでは正しくろ過できていないよ。
ビーカーにたまった海水には、砂が混じっているよ。

 まもるさん

(1) まもるさんの気づきをもとに、正しく操作し直しているものはどれですか。下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう

1



ろうと
ろ紙

海水がろうとを満たすまで注ぐようにする。

2



ろうと
ろ紙

折ったろ紙の最も下の部分にガラス棒を当てて注ぐようにする。

3



ろ紙
ろうと

折ったときにろうとよりも大きくなるろ紙を使って、折ったろ紙を満たすまで海水を注ぐようにする。

4



ろうと
ろ紙

折ったろ紙の高さをこえないように海水を注ぐようにする。

問題番号	解答類型	県反応率 (%)	全国反応率 (%)	正答
4 (1)	1 1 と解答しているもの	3.3	3.6	
	2 2 と解答しているもの	23.9	18.7	
	3 3 と解答しているもの	5.8	6.2	
	4 4 と解答しているもの	66.7	71.1	◎
	99 上記以外の解答	0.0	0.0	
	0 無解答	0.2	0.5	
正答率		66.7	71.1	

分析・考察

- 本問題は、海水を対象として、ろ過後の溶液に砂が混じっている状況に着目することで、誤った操作に気づき、適切に操作する方法を問う問題である。
- 本県の正答率は66.7%で、全国の正答率を4.4ポイント下回っている。ガラス棒を使用する際の留意点についての理解を伴ったろ過の適切な操作を身に付けていないために、ガラス棒でろ紙に穴を開けてしまう可能性があることや、ガラス棒でろうとの穴がふさがれ、正しくろ過できなくなることと気付くことができなかったと考えられる。誤答のうち、問題場面とほぼ同じ状況の解答類型1や、海水があふれてしまうかもしれない解答類型3の反応率は高くないが、解答類型2の本県の反応率は23.9%で、全国を5.2ポイントも上回っている。選択肢を見ると、注目すべきポイントが矢印で図示されているものの、ろうとやろ紙に対する液面の高さが適切な解答類型2と解答類型4のどちらかの判断に迷った児童が、ガラス棒を使用する本来の目的である「ろ過する液の飛散を防ぐこと」を効果的にできるのではないかと判断して、解答類型2に反応したとも考えられる。

授業改善のポイント

【観察・実験器具を使用する目的や見通しを持たせ、必要性を感じさせる学習活動を設定する】

観察・実験器具の適切な操作方法を身に付けるためには、問題解決の活動を通じて、観察・実験器具の名称や操作の手順の理解だけでなく、その器具を使用する目的や操作の意味を理解することが大切である。本問題のような場面であれば、砂などの不純物と液体を分けるという目的意識を明確にすることが大切である。指導に当たっては、ろ過の目的とろ紙の役割を確認した上で、「ガラス棒でろ紙に穴を開けないようにするためには、ろ紙のどの位置に当てればよいのか」「ろ過する液がろ紙を超えないようにするためには、ろ紙の大きさや入れる液の量をどれぐらいにすればよいのか」などについて話し合い、確かめ合う学習活動が考えられる。

【試行錯誤しながら、観察・実験器具を繰り返し操作する機会を確保して評価する】

観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けるためには、問題解決の活動を通じて、試行錯誤しながら繰り返し操作する機会を確保することが大切である。十分な量の観察・実験器具やものづくりの材料を準備することで、ペアやグループで予想や仮説を説明したり、それらを相互評価したりする学習活動が可能になると考えられる。また、観察・実験器具の適切な操作方法の評価に当たっては、ペーパーテストだけでなく、パフォーマンステストを効果的に活用することも考えられる。

小学校理科

調査結果から授業改善へ

既習の内容や生活体験を、ものづくりなどの課題の解決に適用できるようにする。

授業改善のヒントとなる問題の概要

小学校 理科③(4)

問題番号	解答類型	県反応率(%)	全国反応率(%)	正答
③ (4)	1 1 と解答しているもの	22.9	19.8	
	2 2 と解答しているもの	23.5	22.5	
	3 3 と解答しているもの	15.5	15.2	
	4 4 と解答しているもの	37.9	41.9	◎
	99 上記以外の解答	0.0	0.1	
	0 無解答	0.3	0.6	
正答率		37.9	41.9	

分析・考察

- 本問題は、太陽の一日の位置の変化と光電池に生じる電流の変化の関係を、目的に合ったものづくりに適応できるかをみる問題である。本県の正答率は37.9%で、全国の正答率を4.0ポイント下回っている。
- 解答類型1と2を合わせた反応率は46.4%である。この2つを選んだ児童は、正午頃に光電池に日光が当たる状態のものを選んでおり、目的の時間にだけ扇風機を作動させるために、どこに光電池を設置すれば適切か捉えられていないと考えられる。また、午後1時から午後3時までの間に、太陽がどこにあり、その結果、日光がどのように進むか分からなかったとも考えられる。解答類型3の本県の反応率は15.5%であった。これは、太陽の位置が時間とともに変化することを知識として知っており、光電池の設置とつないで考えてはいるが、太陽の一日の位置の変化を正確に把握していなかったと考えられる。

授業改善のポイント

【学んだ知識・技能を基に、生活などへの適用ができるようにする】

知識・技能を身に付けるだけでなく、生活などへ適用できるようにするには、ものづくりなどの生活と学びがつながる場面を工夫することが考えられる。この場面では、漠然と作品を作るのではなく、児童が目的意識をもって活動に取り組みながら、既習の知識や技能を活かして問題解決を行うことが大切である。

指導に当たっては、児童の興味・関心を大事にしながら、ものづくりの目的を明確に設定し、児童と共有しておくことが大切である。また、児童が目的を達成するために必要な知識や技能は何か把握すると同時に、他の単元で学んだ知識や技能等とつなぐことができないか、教材研究しておくことが有効である。本問題では、光電池を使ったものづくりに対して、太陽の一日の位置の変化をつなぐ展開が工夫されている。本問題の解決には、日陰の位置と太陽の位置の変化、電流の働き、発電等の知識とともに、光電池を使った回路を作ること等の技能が求められる。

このように単元を超えた知識・技能を基に、問題解決に適用する場面を設定することで、児童は学んだ知識・技能を実感しながら再認識すると同時に、学びの有効性に気付くこととなる。児童の中には、既習の知識や技能が十分に身に付いていない者もあると考えられる。その際、試行錯誤しながら修正する活動を保障したり、必要な知識が得られるように教科書やノートをいつでも使える環境を設定したりすること等が考えられる。このような体験を繰り返すことで、生きて働く「知識・技能」の習得や、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」が育成されると考える。

4 中学校 国語 <調査区分の分析・検証>

概 要

- 国語Aについて、県と全国平均正答率の比較等から、全国平均と同等である。
- 国語Bについて、県と全国平均正答率の比較等から、全国平均より下回っている。

■平成 30 年度調査結果の集計値

中学校国語A	生徒数	学校数	平均正答数	平均正答率 (%)
県 (公立)	8,001	70	24.3 / 32	76
全国(公立)	966,764	9,595	24.3 / 32	76 (76.1)

中学校国語B	生徒数	学校数	平均正答数	平均正答率 (%)
県 (公立)	8,012	70	5.4 / 9	60
全国(公立)	966,786	9,594	5.5 / 9	61 (61.2)

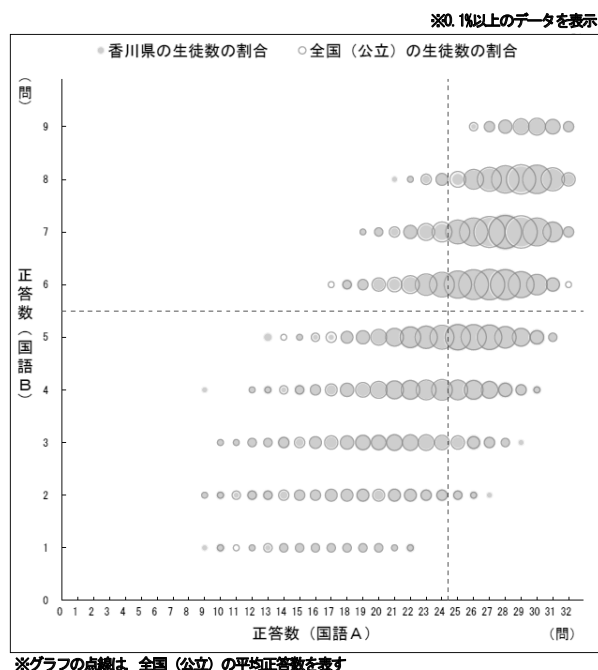
■平成 26 年度～平成 30 年度の県と全国の調査結果

中学校国語A	H26	H27	H28	H29	H30
県(公立)平均正答率 (%)	79.3	76.0	77.2	78	76
全国(公立)平均正答率 (%)	79.4	75.8	75.6	77 (77.4)	76 (76.1)
県と全国の差 (pt)	▲0.1	0.2	1.6	1	0

中学校国語B	H26	H27	H28	H29	H30
県(公立)平均正答率 (%)	51.4	64.9	67.5	71	60
全国(公立)平均正答率 (%)	51.0	65.8	66.5	72 (72.2)	61 (61.2)
県と全国の差 (pt)	0.4	▲0.9	1.0	▲1	▲1

■中学校 国語A－国語Bの相関

生徒数	7,849		
全国 (公立) 国語A平均正答数	24.4		
全国 (公立) 国語B平均正答数	5.5		
生徒の正答数分布状況 (左: 生徒数 右: 生徒数の割合 (%))	国語A・国語Bともに平均以上	3,415	43.5
	国語Aは平均以上 国語Bは平均未満	1,282	16.3
	国語Aは平均未満 国語Bは平均以上	693	8.8
	国語A・国語Bともに平均未満	2,459	31.3
相関係数	0.663		



■平成 30 年度領域等別調査結果

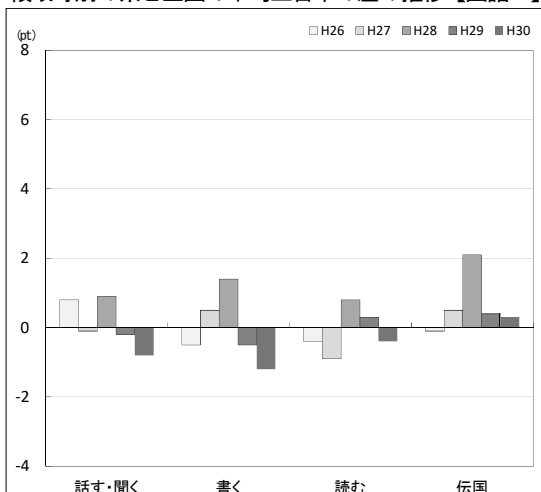
学習指導要領の領域等	国語 A				国語 B			
	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
県(公立)平均正答率(%)	74.4	72.7	76.3	76.8	74.6	31.5	52.1	49.6
全国(公立)平均正答率(%)	75.2	73.9	76.7	76.5	76.6	31.3	53.5	49.2
県と全国との差(pt)	▲0.8	▲1.2	▲0.4	0.3	▲2.0	0.2	▲1.4	0.4

■平成 26 年度～平成 30 度の領域等別調査結果

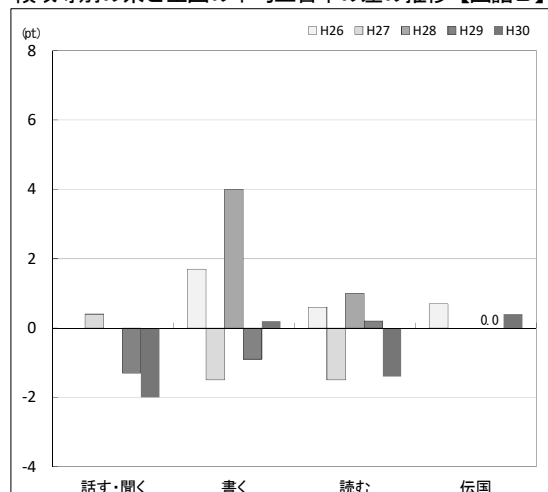
国語 A	年度		H26	H27	H28	H29	H30
	話すこと・聞くこと	県(公立)(%)	73.1	79.6	79.8	75.2	74.4
		全国(公立)(%)	72.3	79.7	78.9	75.4	75.2
		差(pt)	0.8	▲0.1	0.9	▲0.2	▲0.8
	書くこと	県(公立)(%)	82.9	74.1	75.1	85.2	72.7
		全国(公立)(%)	83.4	73.6	73.7	85.7	73.9
		差(pt)	▲0.5	0.5	1.4	▲0.5	▲1.2
	読むこと	県(公立)(%)	82.5	85.2	79.4	74.1	76.3
		全国(公立)(%)	82.9	86.1	78.6	73.8	76.7
		差(pt)	▲0.4	▲0.9	0.8	0.3	▲0.4
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	県(公立)(%)	78.6	73.4	76.0	77.6	76.8
		全国(公立)(%)	78.7	72.9	73.9	77.2	76.5
		差(pt)	▲0.1	0.5	2.1	0.4	0.3

国語 B	年度		H26	H27	H28	H29	H30
	話すこと・聞くこと	県(公立)(%)		72.6		71.1	74.6
		全国(公立)(%)		72.2		72.4	76.6
		差(pt)		0.4		▲1.3	▲2.0
	書くこと	県(公立)(%)	42.7	35.2	62.3	59.9	31.5
		全国(公立)(%)	41.0	36.7	58.3	60.8	31.3
		差(pt)	1.7	▲1.5	4.0	▲0.9	0.2
	読むこと	県(公立)(%)	49.8	61.1	67.5	72.3	52.1
		全国(公立)(%)	49.2	62.6	66.5	72.1	53.5
		差(pt)	0.6	▲1.5	1.0	0.2	▲1.4
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	県(公立)(%)	57.5			41.4	49.6
		全国(公立)(%)	56.8			41.4	49.2
		差(pt)	0.7			0.0	0.4

領域等別の県と全国の平均正答率の差の推移【国語 A】



領域等別の県と全国の平均正答率の差の推移【国語 B】



問題別調査結果【国語A】

平成30年度全国学力・学習状況調査

問題別調査結果【国語A：主として知識】

中学校調査

香川県一生徒（公立）

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	香川県（公立）	全国（公立）	対象生徒数	香川県（公立）	全国（公立）
	70	9,595		8,001	966,764
分類	区分		対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
	全体			香川県（公立）	全国（公立）
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと		32	76	76.1
	話すこと		3	74.4	75.2
	書くこと		4	72.7	73.9
	読むこと		4	76.3	76.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項		21	76.8	76.5
評価の観点	国語への関心・意欲・態度		0		
	話す・聞く能力		3	74.4	75.2
	書く能力		4	72.7	73.9
	読む能力		4	76.3	76.7
	言語についての知識・理解・技能		21	76.8	76.5
問題形式	選択式		21	76.2	76.8
	短答式		11	75.7	74.7
	記述式		0		

問題別集計結果

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		香川県一全国 (pt)	
			話すこと・ 聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な 言語文化と 国語の特質に 関する事項	国語への関心・ 意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての 知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	香川県 (公立)	全国 (公立)	香川県 (公立)	全国 (公立)	正答率
1ー	スピーチの感想に対して先生が述べた言葉として適切なものを選択する	話の論理的な構成や展開などに注意して聞く	2 エ					○			○			87.3	87.4	0.4	0.1	-0.1	0.3
2ー	図書だよりの下書きの構成を説明したものとして適切なものを選択する	書こうとする事柄のまとまりや順序を考えて文章を構成する		1 イ					○		○			89.2	89.5	0.5	0.3	-0.3	0.2
2二	二つの意見の内容を一文で書き加える	伝えたい事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように書く		2 ウ					○			○		66.7	64.0	3.1	3.3	2.7	-0.2
3ー	「それは掛け橋のない、二秒の間のできごとである」を説明したものとして適切なものを選択する	文脈の中における語句の意味を理解する			1 ア				○		○			87.3	88.2	0.3	0.2	-0.9	0.1
3二	父と保吉の言動についての説明として適切なものを選択する	場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する			1 ウ				○		○			82.9	82.8	0.4	0.2	0.1	0.2
4ー	意見文の下書きに一文を書き加える意図として適切なものを選択する	書いた文章を読み返し、伝えたい内容が十分に表されているかを検討する		1 エ					○		○			56.9	62.8	0.4	0.2	-5.9	0.2
4二	段落の内容を入れ替えて書き直す理由として適切なものを選択する	段落相互の関係性に注意し、読みやすく分かりやすい文章にする		2 エ					○		○			78.1	79.4	0.5	0.3	-1.3	0.2
5ー	本文の第六段落の説明として適切なものを選択する	段落が文章全体の中で果たす役割を捉え、内容の理解に役立てる			2 イ				○		○			74.9	76.3	0.6	0.5	-1.4	0.1
5二	新聞紙の製造工程の一部を言い表したものと適切なものを選択する	文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える			1 イ				○		○			59.9	59.5	0.6	0.4	0.4	0.2
6ー	話合いの際のメモのとり方の説明として適切なものを選択する	話合いの話題や方向を捉える	1 オ					○			○			69.4	72.4	0.8	0.5	-3.0	0.3
6二	話合いの中で確認しなければならないことについての司会としての発言を書く	話合いの話題や方向を捉えて的確に話す	1 オ					○				○		66.5	65.8	11.2	13.3	0.7	-2.1
7ー	場面に当てはまる語句の意味として適切なものを選択する（ハナйкаダ）	語句の辞書的な意味を踏まえて文脈上の意味を捉える			1 (1) イ (4)					○	○			87.5	87.3	0.8	0.6	0.2	0.2
7二	「それでは」の働きとして適切なものを選択する	接続詞の働きについて理解する			1 (1) イ (2)					○	○			88.3	88.4	1.0	0.9	-0.1	0.1
8ー1	漢字を書く（紙をひもで と びねる）	文脈に即して漢字を正しく書く			2 (1) ウ (4)					○		○		79.7	79.0	11.1	13.2	0.7	-2.1
8ー2	漢字を書く（舞台の ま どが上がる）				2 (1) ウ (4)					○		○		67.9	72.9	15.1	14.4	-5.0	0.7
8ー3	漢字を書く（先制点を ユ ルす）				2 (1) ウ (4)					○		○		71.0	71.4	17.9	19.5	-0.4	-1.6
8二1	漢字を読む（模型を作る）	文脈に即して漢字を正しく読む			2 (1) ウ (7)					○		○		96.5	95.7	1.6	1.9	0.8	-0.3
8二2	漢字を読む（池の水が凍る）				2 (1) ウ (7)					○		○		97.7	97.8	0.8	0.9	-0.1	-0.1
8二3	漢字を読む（技を 庭 く）				2 (1) ウ (7)					○		○		98.1	98.1	1.0	1.1	0.0	-0.1
8三ア	適切な語句を選択する（立場の異なる両者の主張は 整 然と重畳して交わらず、最後まで結論が出なかった）	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う			1 (1) イ (9)					○	○			75.9	77.7	1.0	0.8	-1.8	0.2
8三イ	適切な語句を選択する（魚の中には群れを作って泳ぐ 習 性をもつものがある）				2 (1) イ (4)									90.6	91.0	0.6	0.5	-0.4	0.1
8三ウ	適切な敬語を選択する（先生が私たちに大切なことを お っしゃった）				2 (1) イ (7)					○	○			89.7	88.0	0.7	0.6	1.7	0.1
8三エ	適切な語句を選択する（彼は 並 きを切ったように話し始めた）				1 (1) イ (9)					○	○			31.5	29.2	1.1	0.9	2.3	0.2
8三オ	適切な語句を選択する（意見の折り合いを と ける）				1 (1) イ (9)					○	○			61.2	61.8	1.1	0.9	-0.6	0.2
8三カ	適切な語句を選択する（わたしが健康になったのは、 ひ とえに母のおかげです）				1 (1) イ (9)					○	○			64.6	65.4	1.0	1.0	-0.8	0.0
8三キ	適切な語句を選択する（姉はみんなと一緒に運動をすることが好きだ。二五、妹は一人で本を読むことが好きだ）				1 (1) イ (2)					○	○			94.8	95.2	1.0	1.0	-0.4	0.0

8四1	「心を打たれた」の意味として適切なものを選択する	慣用句の意味を理解する				3・4 (1)ア (4)					○	○			94.4	94.7	0.9	0.8	-0.3	0.1
8四2	「心を打たれた。」を文末に用いた一文を、主語を明らかにし、「誰（何）」の「どのようなこと」に「心を打たれた」のかが分かるように書く	目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書くように書く				2 (1) イ (4)					○		○		20.6	22.3	6.0	6.5	-1.7	-0.5
8五	作品への助言として適切なものを選択する	行書の基礎的な書き方を理解して書く				1 (2) イ					○	○			53.2	54.4	1.3	1.2	-1.2	0.1
8六1	『轉非子』の中の語句の訳を抜き出す（いはく）	古典の文章と現代語訳とを対応させて内容を捉える				2 (1) ア (4)					○		○		92.3	91.1	4.2	5.1	1.2	-0.9
8六2	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す（とほさざるなし）	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む				1 (1) ア (4)					○		○		75.4	63.0	5.2	7.4	12.4	-2.2
8六3	『轉非子』の中で矛盾していることの説明として適切なものを選択する	古典に表れたものの見方や考え方を理解する				2 (1) ア (4)					○	○			82.1	81.3	2.0	2.2	0.8	-0.2

問題別調査結果【国語B】

平成30年度全国学力・学習状況調査

問題別調査結果【国語B：主として活用】

香川県一生徒（公立）

中学校調査

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	香川県（公立）	全国（公立）	対象生徒数	香川県（公立）	全国（公立）
	70	9,594		8,012	966,786

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
			香川県（公立）	全国（公立）
全体		9	60	61.2
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	74.6	76.6
	書くこと	2	31.5	31.3
	読むこと	6	52.1	53.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	1	49.6	49.2
	国語への関心・意欲・態度	3	50.6	50.3
評価の観点	話す・聞く能力	3	74.6	76.6
	書く能力	2	31.5	31.3
	読む能力	6	52.1	53.5
	言語についての知識・理解・技能	1	49.6	49.2
問題形式	選択式	6	64.2	66.7
	短答式	0		
	記述式	3	50.6	50.3

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

問題別集計結果

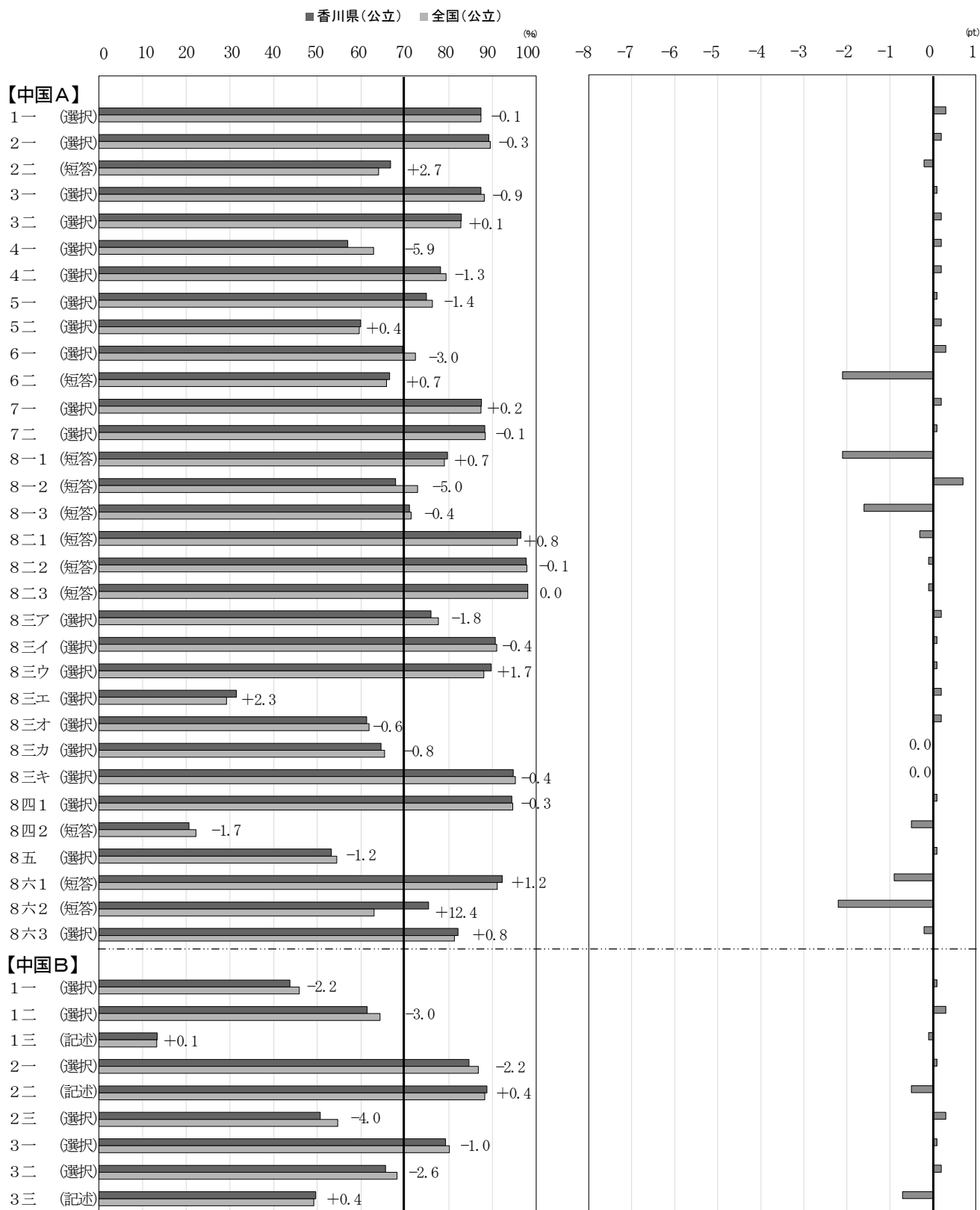
問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		香川県ー全国 (pt)	
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	香川県（公立）	全国（公立）	香川県（公立）	全国（公立）	正答率
1一	グラフから分かることについて文章中で説明しているものとして適切なものを選択する	文章とグラフとの関係を考えながら内容を捉える			1 イ				○		○			43.7	45.9	0.3	0.2	-2.2	0.1
1二	複数の辞書を引用して「天地無用」の意味を示す効果として適切なものを選択する	文章の構成や展開について自分の考えをもつ			1 エ				○		○			61.3	64.3	0.5	0.2	-3.0	0.3
1三	「天地無用」という言葉を誤った意味で解釈してしまう人がいる理由を書く	目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く		2 ウ	1 イ		○	○	○			○		13.4	13.3	6.9	7.0	0.1	-0.1
2一	二人の質問の意図として適切なものを選択する	質問の意図を捉える	1 エ					○			○			84.6	86.8	0.3	0.2	-2.2	0.1
2二	二人に続いて質問を書く	話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問する	1 エ				○	○				○		88.7	88.3	5.4	5.9	0.4	-0.5
2三	ロボットに期待することを述べて発表をまとめる際の話の進め方として適切なものを選択する	全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話す	1 イ					○			○			50.6	54.6	0.7	0.4	-4.0	0.3
3一	登場人物についての説明として適切なものを選択する	場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する			1 ウ				○		○			79.2	80.2	0.5	0.4	-1.0	0.1
3二	文章中の表現について語った人物として適切なものを選択する	登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てる			2 イ				○		○			65.6	68.2	0.6	0.4	-2.6	0.2
3三	話のあらすじを学級の友達にどのように説明するかを書く	相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書く		1 ウ	1 イ	2 (1) ア (4)	○		○	○	○		○	49.6	49.2	11.7	12.4	0.4	-0.7

■問題別の県と全国の正答率，無解答率の比較

【領域等】	【評価観点】	【問題形式】
話すこと・聞くこと 書くこと 読むこと 伝達言語文化と国語の特質に関する事項	話す 書く 読む 伝達	選択式：選択 短答式：短答 記述式：記述 記述（話す）※「話すこと・聞くこと」における記述 記述（書く）※「書くこと」における記述 記述（読む）※「読むこと」における記述
	国語への関心・意欲・態度：関心 話す・聞く能力：話す 書く能力：書く 読む能力：読む 言語についての知識・理解・技能：言語	

問題別正答率の比較

問題別無解答率の差



■正答率が全国より3ポイント以上高い問題

【中学校国語A】（全32問中1問）

問題 番号	問題の概要	領域等	評価 観点	問題形式	県 正答率 (%)	県 無解答率 (%)	全国の 正答率 との 差(pt)
8六2	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す（とほさざるなし）	伝国	言語	短 答	75.4	5.2	12.4

【中学校国語B】（全9問） なし

■正答率が全国より3ポイント以上低い問題

【中学校国語A】（全32問中3問）

問題 番号	問題の概要	領域等	評価 観点	問題形式	県 正答率 (%)	県 無解答率 (%)	全国の 正答率 との 差(pt)
4一	意見文の下書きに一文を書き加える意図として適切なものを選択する	書く	書く	選 択	56.9	0.4	▲5.9
6一	話し合いの際のメモのとり方の説明として適切なものを選択する	話す	話す	選 択	69.4	0.8	▲3.0
8一2	漢字を書く（舞台の <u>マク</u> が上がる）	伝国	言語	短 答	67.9	15.1	▲5.0

【中学校国語B】（全9問中2問）

問題 番号	問題の概要	領域等	評価 観点	問題形式	県 正答率 (%)	県 無解答率 (%)	全国の 正答率 との 差(pt)
1二	複数の辞書を引用して「天地無用」の意味を示す効果として適切なものを選択する	読む	読む	選 択	61.3	0.5	▲3.0
2三	ロボットに期待することを述べて発表をまとめる際の話の進め方として適切なものを選択する	話す	話す	選 択	50.6	0.7	▲4.0

■正答率が低い問題（50%未満）

【中学校国語A】（全32問中2問）

問題 番号	問題の概要	領域等	評価 観点	問題形式	県 正答率 (%)	県 無解答率 (%)	全国の 正答率 との 差(pt)
8三エ	適切な語句を選択する（彼は <u>せき</u> を切ったように話し始めた）	伝国	言語	選 択	31.5	1.1	2.3
8四2	「心を打たれた。」を文末に用いた一文を、主語を明らかにし、「誰（何）」の「どのようなこと」に「心を打たれた」のかが分かるように書く	伝国	言語	短 答	20.6	6.0	▲1.7

【中学校国語B】（全9問中3問）

問題 番号	問題の概要	領域等	評価 観点	問題形式	県 正答率 (%)	県 無解答率 (%)	全国の 正答率 との 差(pt)
1一	グラフから分かることについて文章中で説明しているものとして適切なものを選択する	読む	読む	選 択	43.7	0.3	▲2.2
1三	「天地無用」という言葉を誤った意味で解釈してしまう人がいる理由を書く	書く 読む	関心 書く 読む	記 述	13.4	6.9	0.1
3三	話のあらすじを学級の友達にどのように説明するかを書く	書く 読む 伝国	関心 書く 読む 言語	記 述	49.6	11.7	0.4

書いた文章を読み返し、伝えたい内容が十分に表されているかを検討できるようにする。

授業改善のヒントとなる問題の概要

中学校 国語A 4ー

問題番号	解答類型	県反応率(%)	全国反応率(%)	正答
4ー	1 1と解答しているもの	32.8	27.7	
	2 2と解答しているもの	6.0	6.0	
	3 3と解答しているもの	3.8	3.2	
	4 4と解答しているもの	56.9	62.8	◎
	99 上記以外の解答	0.0	0.0	
	0 無解答	0.4	0.2	
	正答率	56.9	62.8	

- 1 新たな説明を加え、読み手が言葉の辞書的な意味を正しく捉えられるようにする。
- 2 新たな疑問を加え、書いてある内容について読み手が主体的に考えられるようにする。
- 3 別の意見を加え、読み手が自分の意見との違いを明らかにできるようにする。
- 4 別の具体例を加え、伝えたい内容が読み手により説得力をもって伝わるようにする。

「田中さんは、『日本の食文化』というテーマで意見文を書いています。次は、田中さんが書いた『意見文の下書き』です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。」
 「意見文の下書き」
 「また、東洋が果実として食事をしたり、知らんしたりする部屋のことを『茶の間』と呼ぶこともある。」

④ 田中さんは、「日本の食文化」というテーマで意見文を書いています。次は、田中さんが書いた『意見文の下書き』です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。①から④は、段落番号を表します。

① 日本で昔から親しまれてきた緑茶。例えば、「日常茶飯事」という言葉があるが、この言葉は「日常のありふれたこと」という意味で使う。このように緑茶は、日本では人々にとって生活そのものと深く結びついた存在である。その緑茶の人口が海外で高まっているという。

② 私たちの身の回りをみてみると、緑茶は家の中だけでなく屋外でも飲まれることが多くなった。また、和菓子だけでなく、アイスクリームやチョコレートなどの洋菓子里に緑茶が使われることも多くなった。お店で見かける緑茶を使った商品の種類は年々増えてきていて、日本でもその人口が高まっているように感じる。

③ 消費者の平成二十八年の貿易統計によると、十年前と比べ、緑茶の海外への輸出量は二倍以上、輸出額は三倍以上に上がっている。また農林水産省のウェブページには、「世界的な健康志向の高まりから、各国における緑茶の需要が増加と書かれている。これらのことは、海外で緑茶の人口が高まっているこの裏付けとされる。

④ 昔から親しまれ、様々な食品に用いられるようになってきた緑茶が、海外でも注目されている。私は、緑茶の食品としてのよさだけでなく、私たちの生活そのものと深く結び付いていることも海外の人に理解してほしい。そのためには、まず私自身が緑茶についてもっとよく調べて理解を深めたい。緑茶の他にも、私たちの身の回りに生活そのものと深く結び付いた食品がきっとあるはずだ。皆さんもこのことを目標に、改めて日本の食文化について見つめ直してはどうだろうか。

分析・考察

- 本問題では、自分の書いた意見文を推敲する場面が設定されており、書き手がなぜその部分に一文を付け加えるのか、書き手の意図を問う問題である。加える一文の「また」という接続詞や、「も」の助詞のはたらき、「茶の間」の言葉に注目させたい。また、あとの文の始めにある「このように」のはたらきについても考えさせたい。本県の正答率は56.9%であり、全国の正答率を5.9ポイント下回っている。
- 解答類型1の反応率は32.8%である。前の文の「日常茶飯事」に「茶の間」という具体例を加えることによって、緑茶が「生活そのものと深く結び付いた存在」になっていることを、より説得力が増すように示している。書き加える一文が、段落の中でどのような役割を果たしているかを捉えられず、「茶の間」の意味にだけに着目して解答したと考えられる。

授業改善のポイント

【読み手の立場に立って、書いた文章を読み返す】

自分の考えが読み手に分かりやすく伝わるようにするためには、書いた文章を読み手の立場で読み返し、伝えたい事柄が十分に書き表されているかどうかを検討するように指導することが大切である。

書いた文章を検討する際の具体的な観点例

- ・文と文や、段落と段落のつながりが適切であるか（接続詞や指示語、説明の言葉の使い方が適切であるか）
- ・具体例があるか、また、その具体例は読み手にとって分かりやすいものか（その具体例によってどのようなことが分かりやすくなっているか）
- ・分かりやすい構成や順序になっているか（読み手の思考の流れに沿っているか）
- ・読み手に分かりやすい語句を用いているか（言い換える場合、どのように言い換えれば分かりやすいか）
- ・簡潔で分かりやすい表現になっているか（同じ内容を繰り返していないか、一文が長すぎないか など）

中学校国語B

調査結果から授業改善へ

全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話することができるようにする。

授業改善のヒントとなる問題の概要

中学校 国語B 2三

問題番号	解答類型	県 反応率 (%)	全国 反応率 (%)	正答
2三	1 1と解答しているもの	50.6	54.6	◎
	2 2と解答しているもの	22.8	21.8	
	3 3と解答しているもの	11.2	10.6	
	4 4と解答しているもの	14.7	12.5	
	99 上記以外の解答	0.0	0.0	
	0 無解答	0.7	0.4	
正答率		50.6	54.6	

【資料】

人とはコミュニケーションをとるロボットが、どのような会話をしてくれるのか、聞いてみたい。南さん

これから「ロボットに期待すること」について発表します。こちらの資料の③を見て下さい。私は、人とコミュニケーションをとることができる人型や動物型のロボットについて調べました。南さんはこのようなロボットを見たことがありますか。それぞれのロボットによってできることは少しずつ違います。③にまとめましたが、特に私が注目したのは、人と触れ合うことで、一人一人の顔を覚えたり、接する相手に合わせて動いたりするロボットがあることです。ロボットも人間と同じように学習するということが驚きました。

南さん

山川さん

山川さんは、一人暮らしのおばあさんの生活にロボットがどのように役立つと考えているのですか。

南さん 大野さん

【資料】

ロボットに期待すること

1 人とコミュニケーションをとるロボットの例

人型のロボット 動物型のロボット

2 ロボットができることの例

- 人の言葉や行動を認識して反応する。
 - 簡単な日常会話をする。
 - ニュースや天気予報を伝える。
- 人と触れ合うことで学習する。
 - 一人一人の顔を覚える。
 - 接する相手に合わせて動く。

3 これからの社会とロボット

- 65歳以上の人口の割合は、2000年には日本の総人口の約4割になる見込み。
- 総務省のアンケート調査では、60代以上の54.5%が、人とコミュニケーションをとるロボットを「利用したい」、「利用を検討してもよい」と回答。

(総務省ウェブページによる。)

2 山川さんは、総合的な学習の時間には、ロボットについて調べています。次は、調べた内容をまとめた「ロボットに期待すること」を発表しようとしています。南さんは、山川さんの発表を聞いて、どのような感想や疑問を抱いたのでしょうか。南さんの発言を聞いて、山川さんの発表を聞いて、どのような感想や疑問を抱いたのでしょうか。

- 4 聞き手とのやりとりの内容を受けて話の方向を転換し、【資料】の中の③の情報に触れずに発表をまとめる。
- 3 これまで話してきた内容や聞き手とのやりとりは踏まえずに、【資料】の中の③の情報を基に発表をまとめる。
- 2 聞き手とのやりとりを通して生まれた新たな考えをもとに、【資料】の中の①と②の情報を基に発表をまとめる。
- 1 これまで話してきた内容や聞き手とのやりとりを踏まえた上で、【資料】の中の③の情報を取り上げながら発表をまとめる。
- 三 山川さんは、最後にロボットに期待することとを述べて発表をまとめます。山川さんの話の進め方として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

分析・考察

- 本問題では、自分が調べたことやそれをもとに考えたことについて学級で発表したり、それを聞きながら質問をしたりする場面が設定されており、全体と部分の関係に注意して相手の反応を踏まえながら話することができるかどうかをみる問題である。実際に発表をする際には、聞き手とやりとりをしながら、本来進むべき話の方向を見据え、聞き手に分かりやすく伝えることが重要である。本県の正答率は50.6%で、全国の正答率を4.0ポイント下回っている。
- 解答類型2の反応率は22.8%である。このように解答した生徒は、話し手がまとめとして話す「ロボットに期待すること」と【資料】の「③これからの社会とロボット」とをつなげて述べることで、目的に合った話の進め方であることが理解できていないと考えられる。

授業改善のポイント

【自分の伝えたいことが相手に伝わるよう、グループで発表したり聞き合ったりする】

説明や発表などをする際には、まず、話の全体として伝えたいことが明確になるように、内容を構成することが重要である。その上で、分かりやすい発表になるように話す順序を考えたり、聞き手の反応を踏まえて話したりできるようにすることも大切である。指導に当たっては、6人グループで以下のような役割分担をし、発表したり聞き合ったりする学習活動を行うことも考えられる。①発表する人（1人）、②質問したり反応したりする人（2人）、③話の組み立てに注意して聞き取る人（1人）、④話の内容を聞き取る人（1人）、⑤聞き手の質問や反応への対応に注意して聞き取る人（1人）。活動の際には、話し方はもちろん、聞き方についても指導する。聞き取る役割の人には、メモの取り方や、発表後に聞き取ったメモの内容が適切であるかを確認することについても指導する。観点を明らかにして聞くことも大切である。役割を交代しながら話し手、聞き手にとって大切なことを確認できるようにする。

発表の様子を動画で記録し、観点を基に振り返りを行うことも、有効な指導方法である。

- この文章は、「天地無用」を誤った意味で受け取る人が多い理由について、複数の段落を設け、「また」という接続詞を用いて大きく二つの内容を述べている。文章の構成や展開に着目しながら、目的に応じて文章を読み、内容を的確に捉えてまとめることが求められる。本県の正答率は13.4%であり、目的に応じて文章を読み、内容を整理して書くことに課題がある。
- 解答類型2と3を合わせた反応率は40.4%である。「無用」には「してはならない」という意味があることと、「天地無用」に「逆にする」という意味があることの二つの内容を理由として書くべきところを、いずれか一方のみ書いた誤答である。文章の一部を捉えることはできているが、文章の構成や展開を踏まえ、必要かつ十分な内容を捉えられていないと考えられる。

授業改善のポイント

【文章の構成や展開に着目し、文章の内容を分かりやすくまとめられるようにする】

目的に応じて文章の内容を的確に読み取るためには、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、文章の構成や展開を捉えて内容を理解できるように指導することが大切である。

指導に当たっては、自分が書いたものをグループ等で確認し、求められた条件に沿って、適切に内容を取り上げられているかを点検し合うなど、生徒が自分で適否を判断する力を付ける学習活動が考えられる。

(参照) 「平成23年度【中学校】授業アイディア例」P3, 4

説明文を読み、その内容を紹介するQ&Aを書こう

① 文章を読み、内容を紹介するQ&Aを書く。(第1時)

教材例「古生物学におけるネズミ」木村 由莉 (平成23年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語B[2])

② 本文の内容を確かめ合いながら、互いのQ&Aを読み合い、意見を述べる。(第2時)

- 文章に対する理解を深めるために、それぞれが書いたQ&Aを読み合い、グループで1枚の「Q&A集」を作ることを確認する。
- Q&Aが文章と合っているかをグループで確認する。
- 本文の内容と合わないものがあったら、グループで相談して書き直す。

【もとのQ&A】

Q なぜ、ネズミ類の歯の形はサルに似ているのですか？

A ネズミ類とサルとは同じグループに属する種だからです。

【書き直したQ&A】

Q なぜ、ヒトの歯の形はサルに似ているのですか？

A ヒトとサルは同じグループに属する種だからです。

- それぞれのQ&Aを、この文章の中心的な話題を取り上げているものと、それ以外のものに分類する。

Q なぜ、博物館のマンモスや恐竜は、今にもよみがえりそうな姿で復元できるの？

⇒これは文章の一部にしか出てこないもので、付加的な話題と言える。

Q なぜ、ネズミ類の進化は、歯の化石によって研究されているのですか？

⇒これはネズミの歯の化石に触れているので、中心的な話題と言える。

- この文章で、最も伝えたい事柄について触れているQ&Aを一つ選び、「Q&A集」の一番上書き、それ以外は、下の欄に書く。

③ グループで「Q&A集」をA3用紙にまとめる。(第3時)

※ さらに、他のグループと交流する機会を設けるなどして、生徒が書いたものの適否について、自分で判断できる力を付けるような指導をすることが重要である。

5 中学校 数学 <調査区分の分析・検証>

概 要

- 数学Aについて、県と全国の平均正答率の比較等から、全国平均より上回っている。
- 数学Bについて、県と全国の平均正答率の比較等から、全国平均より下回っている。

■平成 30 年度調査結果の集計値

中学校数学 A	生徒数	学校数	平均正答数	平均正答率 (%)
県 (公立)	8,022	70	24.1 / 36	67
全国 (公立)	966,969	9,591	23.8 / 36	66 (66.1)

中学校数学 B	生徒数	学校数	平均正答数	平均正答率 (%)
県 (公立)	8,022	70	6.4 / 14	46
全国 (公立)	966,908	9,591	6.6 / 14	47 (46.9)

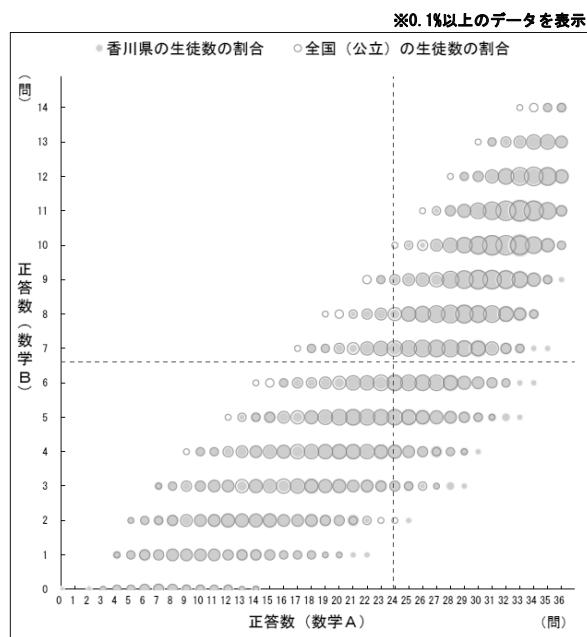
■平成 26 年度～平成 30 年度の県と全国の調査結果

中学校数学 A	H26	H27	H28	H29	H30
県 (公立) 平均正答率 (%)	67.8	64.4	63.8	66	67
全国 (公立) 平均正答率 (%)	67.4	64.4	62.2	65 (64.6)	66 (66.1)
県と全国との差 (pt)	0.4	0.0	1.6	1	1

中学校数学 B	H26	H27	H28	H29	H30
県 (公立) 平均正答率 (%)	60.0	41.3	44.6	49	46
全国 (公立) 平均正答率 (%)	59.8	41.6	44.1	48 (48.1)	47 (46.9)
県と全国との差 (pt)	0.2	▲0.3	0.5	1	▲1

■中学校 数学 A－数学 B の相関

生徒数		7,898	
全国（公立）数学A平均正答数		23.9	
全国（公立）数学B平均正答数		6.6	
生徒の正答数分布状況 (左：生徒数 右：生徒数の割合 (%))	数学A・数学Bともに 平均以上	3,576	45.3
	数学Aは平均以上 数学Bは平均未満	1,104	14.0
	数学Aは平均未満 数学Bは平均以上	265	3.4
	数学A・数学Bともに 平均未満	2,953	37.4
相関係数		0.829	



※グラフの点線は、全国 (公立) の平均正答数を表す

■平成 30 年度領域別調査結果

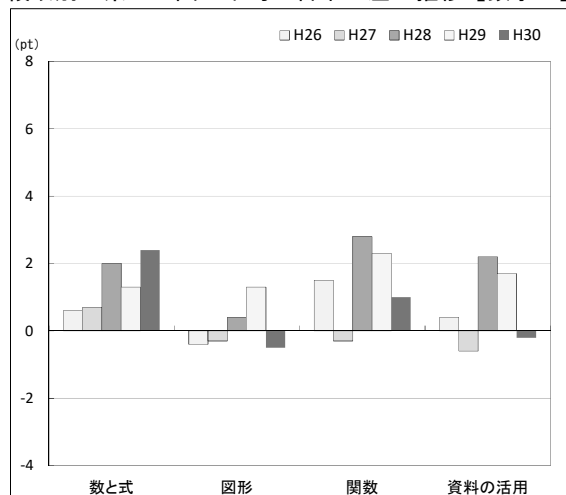
	数学 A				数学 B			
学習指導要領の領域	数と式	図形	関数	資料の活用	数と式	図形	関数	資料の活用
県（公立）平均正答率（％）	73.5	68.6	56.5	63.3	51.0	45.8	50.9	36.1
全国（公立）平均正答率（％）	71.1	69.1	55.5	63.5	51.4	46.7	52.8	38.0
県と全国との差（pt）	2.4	▲0.5	1.0	▲0.2	▲0.4	▲0.9	▲1.9	▲1.9

■平成 26 年度～平成 30 年度の領域別調査結果

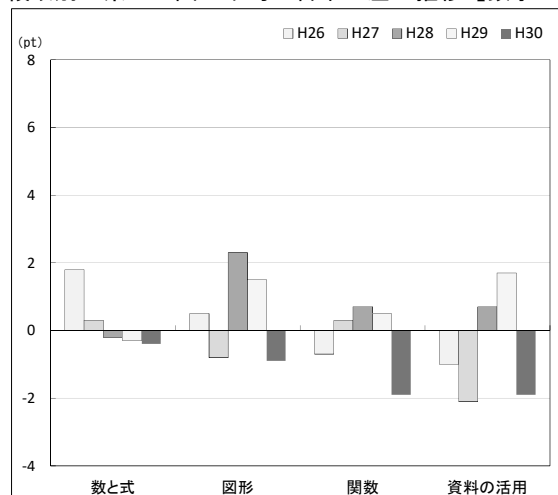
数学 A	年度		H26	H27	H28	H29	H30
	数と式	県（公立）（％）	78.0	68.4	67.9	71.7	73.5
		全国（公立）（％）	77.4	67.7	65.9	70.4	71.1
		差（pt）	0.6	0.7	2.0	1.3	2.4
	図形	県（公立）（％）	66.0	63.1	67.5	67.3	68.6
		全国（公立）（％）	66.4	63.4	67.1	66.0	69.1
		差（pt）	▲0.4	▲0.3	0.4	1.3	▲0.5
	関数	県（公立）（％）	59.5	61.4	54.8	59.7	56.5
		全国（公立）（％）	58.0	61.7	52.0	57.4	55.5
		差（pt）	1.5	▲0.3	2.8	2.3	1.0
	資料の活用	県（公立）（％）	59.5	62.4	58.7	59.3	63.3
		全国（公立）（％）	59.1	63.0	56.5	57.6	63.5
		差（pt）	0.4	▲0.6	2.2	1.7	▲0.2

数学 B	年度		H26	H27	H28	H29	H30
	数と式	県（公立）（％）	58.7	63.5	51.3	46.0	51.0
		全国（公立）（％）	56.9	63.2	51.5	46.3	51.4
		差（pt）	1.8	0.3	▲0.2	▲0.3	▲0.4
	図形	県（公立）（％）	59.1	38.2	35.6	48.6	45.8
		全国（公立）（％）	58.6	39.0	33.3	47.1	46.7
		差（pt）	0.5	▲0.8	2.3	1.5	▲0.9
	関数	県（公立）（％）	63.7	31.0	42.1	51.3	50.9
		全国（公立）（％）	64.4	30.7	41.4	50.8	52.8
		差（pt）	▲0.7	0.3	0.7	0.5	▲1.9
	資料の活用	県（公立）（％）	54.9	29.1	40.0	50.8	36.1
		全国（公立）（％）	55.9	31.2	39.3	49.1	38.0
		差（pt）	▲1.0	▲2.1	0.7	1.7	▲1.9

領域別の県と全国の平均正答率の差の推移【数学 A】



領域別の県と全国の平均正答率の差の推移【数学 B】



問題別調査結果【数学A】

平成30年度全国学力・学習状況調査

中学校調査

問題別調査結果【数学A：主として知識】

香川県一生涯（公立）

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	香川県（公立）	全国（公立）	対象生徒数	香川県（公立）	全国（公立）
	70	9,591		8,022	966,969
分類	区分		対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
	全体			香川県（公立）	全国（公立）
学習指導要領の領域	数と式		36	67	66.1
	図形		12	73.5	71.1
	関数		12	68.6	69.1
	資料の活用		8	56.5	55.5
	資料の活用		4	63.3	63.5
評価の観点	数学への関心・意欲・態度		0		
	数学的な見方や考え方		0		
	数学的な技能		14	71.0	70.4
	数量や図形などについての知識・理解		22	64.3	63.3
問題形式	選択式		18	61.8	61.5
	短答式		18	72.1	70.7
	記述式		0		

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点				問題形式		正答率(%)		無解答率(%)		香川県一生涯 (公立)	
			数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	選択式	短答式	記述式	香川県（公立）	全国（公立）	香川県（公立）	全国（公立）	正答率	無解答率
1 (1)	数直線上の点が表示する負の整数の値を読み取る	数直線上に示された負の整数を読み取ることができる	1 (1) ア						○		○			94.1	94.6	0.5	0.4	-0.5	0.1
1 (2)	絶対値が6である数を書く	絶対値の意味を理解している	1 (1) ア						○		○			80.7	69.0	4.1	7.3	11.7	-3.2
1 (3)	$2 \times (-5^2)$ を計算する	指数を含む正の数と負の数の計算ができる	1 (1) ツ						○		○			70.3	68.9	1.1	1.0	1.4	0.1
1 (4)	ある日の最低気温がその前日の最低気温からどれだけ高くなったかを求める式を選ぶ	ある基準に対して反対の方向や性質をもつ数量が正の数と負の数で表されることを理解している	1 (1) 7.4						○	○				57.7	54.2	0.2	0.1	3.5	0.1
2 (1)	「1個 a kgの荷物3個と1個 b kgの荷物4個の全体の重さは15kg以上である」という数量の関係を表した不等式を書く	数量の大小関係を不等式に表すことができる	1 (2) エ						○		○			47.6	41.5	6.9	8.5	6.1	-1.6
2 (2)	$6a^2b \div 3a$ を計算する	単項式どうしの除法の計算ができる	2 (1) ア						○		○			91.9	91.0	2.5	2.4	0.9	0.1
2 (3)	$a=3$ 、 $b=-4$ のときの式 $a-2b$ の値を求める	文字式に数を代入して式の値を求めることができる	1 (2) エ						○		○			79.1	78.5	5.0	4.8	0.6	0.2
2 (4)	等式 $S = \frac{1}{2}ah$ を、 a について解く	具体的な場面で関係を表す式を、等式の性質を用いて、目的に応じて変形することができる	2 (1) ツ						○		○			54.2	48.2	11.7	15.3	6.0	-3.6
3 (1)	一元一次方程式 $6x-3=9$ を解く際に用いられる等式の性質を選ぶ	方程式を解く場面における等式の性質の用い方について理解している	1 (3) イ						○	○				65.2	64.0	0.9	0.6	1.2	0.3
3 (2)	比例式 $x:20=3:4$ を解く	簡単な比例式を解くことができる	1 (3) ツ						○		○			87.3	87.8	5.0	5.0	-0.5	0.0
3 (3)	連立二元一次方程式 $\begin{cases} 5x-2y=10 \\ 3x-2y=2 \end{cases}$ を解く	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	2 (2) ツ						○		○			79.9	80.0	4.9	4.6	-0.1	0.3
3 (4)	連立二元一次方程式をつくるために着目する数量を選び、式で表す	着目する必要がある数量を見だし、その数量に着目し、連立二元一次方程式をつくることことができる	2 (2) ツ						○	○	○			73.6	75.2	0.7	0.6	-1.6	0.1
4 (1)	ひし形が線対称な図形か点対称な図形か選ぶ	ひし形は、線対称な図形であり、点対称な図形でもあることを理解している	4 (8) イ						○	○				64.6	67.1	0.5	0.3	-2.5	0.2
4 (2)	$\triangle ABC$ を辺 AB が辺 AC に重なるように折った線を作図するための線を選ぶ	折り目の線の作図と角の二等分線の関係を理解している	1 (1) ア						○	○				54.5	54.9	0.9	0.8	-0.4	0.1
4 (3)	長方形 $ABCD$ を、点 A を中心として時計回りに 90° だけ回転移動した図形をかく	回転移動した図形をかくことができる	1 (1) イ						○		○			64.6	66.1	4.8	4.4	-1.5	0.4
5 (1)	直方体において、与えられた面に平行な面を書く	空間における平面と直線との位置関係（面と面が平行であること）を理解している	1 (2) ア						○	○				76.6	74.3	1.4	1.4	2.3	0.0
5 (2)	半円の直径を軸として回転させてできる立体の名称を書く	半円を、その直径を軸として回転させると、球が構成されることを理解している	1 (2) イ						○	○				83.8	82.4	2.7	2.9	1.4	-0.2
5 (3)	与えられた円柱の見取図から、その円柱の投影図を選ぶ	見取図、投影図から空間図形を読み取ることができる	1 (2) イ						○	○				82.8	83.7	0.6	0.3	-0.9	0.3
5 (4)	底面の四角形が合同で高さが等しい四角柱と四角錐の体積の関係について、正しいものを選ぶ	四角錐の体積は、それと底面が合同で高さが等しい四角柱の体積の $\frac{1}{3}$ であることを理解している	1 (2) ツ						○	○				56.4	57.6	0.7	0.5	-1.2	0.2
6 (1)	三角形の外角を表す式を選ぶ	三角形の外角とそれと隣り合わない2つの内角の和の関係を理解している	2 (1) ア						○	○				71.2	71.4	0.7	0.4	-0.2	0.3
6 (2)	五角形の1つの頂点を動かし、角の大きさを 90° に変えたときの内角の和の変化として正しいものを選ぶ	多角形の内角の和の性質を理解している	2 (1) イ						○	○				74.8	75.7	0.7	0.4	-0.9	0.3
7 (1)	$\triangle ABC$ と $\triangle DEF$ が合同であるための条件として、正しいものを選ぶ	2つの三角形が合同であるために必要な辺や角の相等関係について理解している	2 (2) ア						○	○				71.7	72.0	0.8	0.5	-0.3	0.3
7 (2)	長方形で成り立ち、ひし形で成り立つことを選ぶ	長方形やひし形が平行四辺形の特別な形であることを理解している	2 (2) ツ						○	○				74.7	78.2	0.7	0.5	-3.5	0.2
8	対頂角は等しいことの証明について正しい記述を選ぶ	証明の必要性和意味を理解している	2 (2) イ						○	○				47.4	45.5	0.9	0.6	1.9	0.3

9 (1)	比例 $y = 5x$ について、正しい記述を選ぶ	比例 $y = ax$ における比例定数 a の意味を理解している				1(1)イ												66.5	65.5	1.5	1.2	1.0	0.3
9 (2)	比例のグラフから、 x の変域に対応する y の変域を求める	与えられた比例のグラフから、 x の変域に対応する y の変域を求めることができる				1(1)エ				○								55.6	55.0	11.1	13.0	0.6	-1.9
9 (3)	反比例のグラフから表を選ぶ	反比例について、グラフと表を関連付けて理解している				1(1)エ					○	○						53.6	52.8	1.8	1.4	0.8	0.4
10	点 $(-2, 3)$ の位置を座標平面上に示す	座標平面上に点の位置を示すことができる				1(1)ウ						○		○				70.8	69.9	3.5	2.9	0.9	0.6
11 (1)	一次関数 $y = 2x + 7$ について、 x の値が1から4まで増加したときの y の増加量を求める	一次関数 $y = ax + b$ について、 x の値の増加に伴う y の増加量を求めることができる				2(1)イ					○							43.8	45.3	13.3	14.8	-1.5	-1.5
11 (2)	一次関数 $y = -2x + 6$ が表すグラフを選ぶ	一次関数 $y = ax + b$ について、 a と b の値とグラフの特徴を関連付けて理解している				2(1)イ						○	○					58.3	56.3	1.2	0.9	2.0	0.3
12	歩いた道のりと、残りの道のりの関係について、正しい記述を選ぶ	一次関数の意味を理解している				2(1)ア						○	○					39.9	36.4	1.4	1.0	3.5	0.4
13	グラフから、連立二元一次方程式の解を座標とする点について、正しい記述を選ぶ	連立二元一次方程式の解を座標とする点は、座標平面上の2直線の交点であることを理解している				2(1)ウ							○	○				63.2	62.7	2.0	1.9	0.5	0.1
14 (1)	生徒35人の靴をサイズごとに調べ、最頻値が25.5cmだったことについて、必ずいえる記述を選ぶ	最頻値は、資料の中で最も多く出てくる値であることを理解している				1(1)ア						○	○					65.9	68.4	1.6	1.4	-2.5	0.2
14 (2)	反復横とびの記録の中央値を求める	与えられた資料から中央値を求めることができる				1(1)ア					○			○				75.1	74.0	4.3	4.6	1.1	-0.3
15 (1)	1枚の硬貨を多数回投げたときの表が出る相対度数の変化の様子について、正しい記述を選ぶ	多数回の試行の結果から得られる確率の意味を理解している				2(1)ア						○	○					43.7	40.2	1.9	1.8	3.5	0.1
15 (2)	大小2つのさいころを同時に投げるとき、和が8になる確率を求める	表などを利用して、確率を求めることができる				2(1)ア					○			○				68.4	71.3	9.6	9.7	-2.9	-0.1

* 評価の観点は、数量や図形についての技能（小学校）に対応させている。

問題別調査結果【数学B】

平成30年度全国学力・学習状況調査

中学校調査

問題別調査結果【数学B：主として活用】
香川県一生徒（公立）

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	香川県（公立）	全国（公立）	対象生徒数	香川県（公立）	全国（公立）
	70	9,591		8,022	966,908

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
			香川県（公立）	全国（公立）
全体		14	46	46.9
学習指導要領の領域	数と式	4	51.0	51.4
	図形	3	45.8	46.7
	関数	3	50.9	52.8
	資料の活用	4	36.1	38.0
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0		
	数学的な見方や考え方	10	44.2	45.1
	数学的な技能	4	49.0	51.3
	数量や図形などについての知識・理解	0		
問題形式	選択式	2	59.1	61.5
	短答式	7	54.4	56.2
	記述式	5	28.0	27.9

問題別集計結果

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		香川県一全国 (pt)		
			数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	選択式	短答式	記述式	香川県（公立）	全国（公立）	香川県（公立）	全国（公立）	正答率	無解答率	
1（1）	全校生徒300人に対する上位4曲を回答した生徒数の割合を求める	与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる				小5 数量 (3) 1(1) イ			○*			○			54.0	55.7	10.3	11.1	-1.7	-0.8
1（2）	放送計画で、1日目がA、2日目がBになる確率を求める	与えられた情報を分類整理し、不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉えることができる				2(1) 7.4			○			○			39.5	43.9	7.4	7.0	-4.4	0.4
1（3）	全校よりも1年生の回答用紙によるくじ引きの方が曲Fが選ばれやすいことの理由を確率を用いて説明する	不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明することができる				2(1) イ			○			○			36.8	36.2	25.6	24.9	0.6	0.7
2（1）	はじめの数が10のときの計算結果を求める	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	1(1) ウ						○			○			88.5	89.5	4.6	4.4	-1.0	0.2
2（2）	はじめの数としてどんな整数を入れて計算しても、計算結果はいつでも4の倍数になる説明を完成する	事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明することができる	2(1) 4.9						○			○			40.0	37.5	21.5	25.0	2.5	-3.5
2（3）	計算の順番を入れ替えたものを選択し、その計算結果が何の倍数になるかを求める	3つの計算の順番を入れ替えたときの計算結果を数学的に表現することができる	2(1) 4.9						○			○			65.4	68.3	1.1	1.1	-2.9	0.0
3（1）	列車の運行のようすが直線で表されていることの前提となっている事柄を選ぶ	事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを事象に即して解釈することができる		2(1) 4.2					○			○			65.8	67.6	0.7	0.5	-1.8	0.2
3（2）	グラフから、列車のすれ違いが起こる地点のA駅からの道のりを求める	グラフから必要な情報を読み取り、事象を数学的に解釈することができる		2(1) 4.2					○			○			76.0	77.7	6.5	6.9	-1.7	-0.4
3（3）	A駅からの道のりが6kmの地点において、列車Aが通ってから列車Eが通るまでの時間をグラフから求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる			2(1) 4.2				○			○			10.9	13.2	32.7	33.4	-2.3	-0.7
4（1）	証明されたことから、新たにわかることを選ぶ	証明を振り返り、証明した事柄を基にして、新たな性質を見いだすことができる	2(2) ウ						○			○			52.4	55.4	1.1	0.7	-3.0	0.4
4（2）	平行四辺形ABCDの外側に2つの点E、Fを取っても、四角形EBFDは平行四辺形となることの証明を完成する	発展的に考え、条件を変えた場合について、証明の一部を書き直すことができる	2(2) 4.9						○			○			43.0	42.4	5.5	6.2	0.6	-0.7
4（3）	平行四辺形ABCDを正方形ABCDに変えたときの四角形EBFDがどのような四角形になるかを説明する	付加された条件の下で、新たな事柄を見いだし、説明することができる	2(2) ウ						○				○		42.1	42.3	23.4	24.6	-0.2	-1.2
5（1）	S社の団体系金が通常料金の何%引きになっているかを求める式を書く	与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる				小5 数量 (3)			○*			○			14.1	16.0	22.6	24.1	-1.9	-1.5
5（2）	通常料金をaとしたときの団体系金の10人分が通常料金の何人分にあたるかを求める計算からわかることを選び、その理由を説明する	里奈さんの計算を解釈し、数学的な表現を用いて説明することができる	2(1) イ						○			○			10.0	10.4	6.0	6.6	-0.4	-0.6

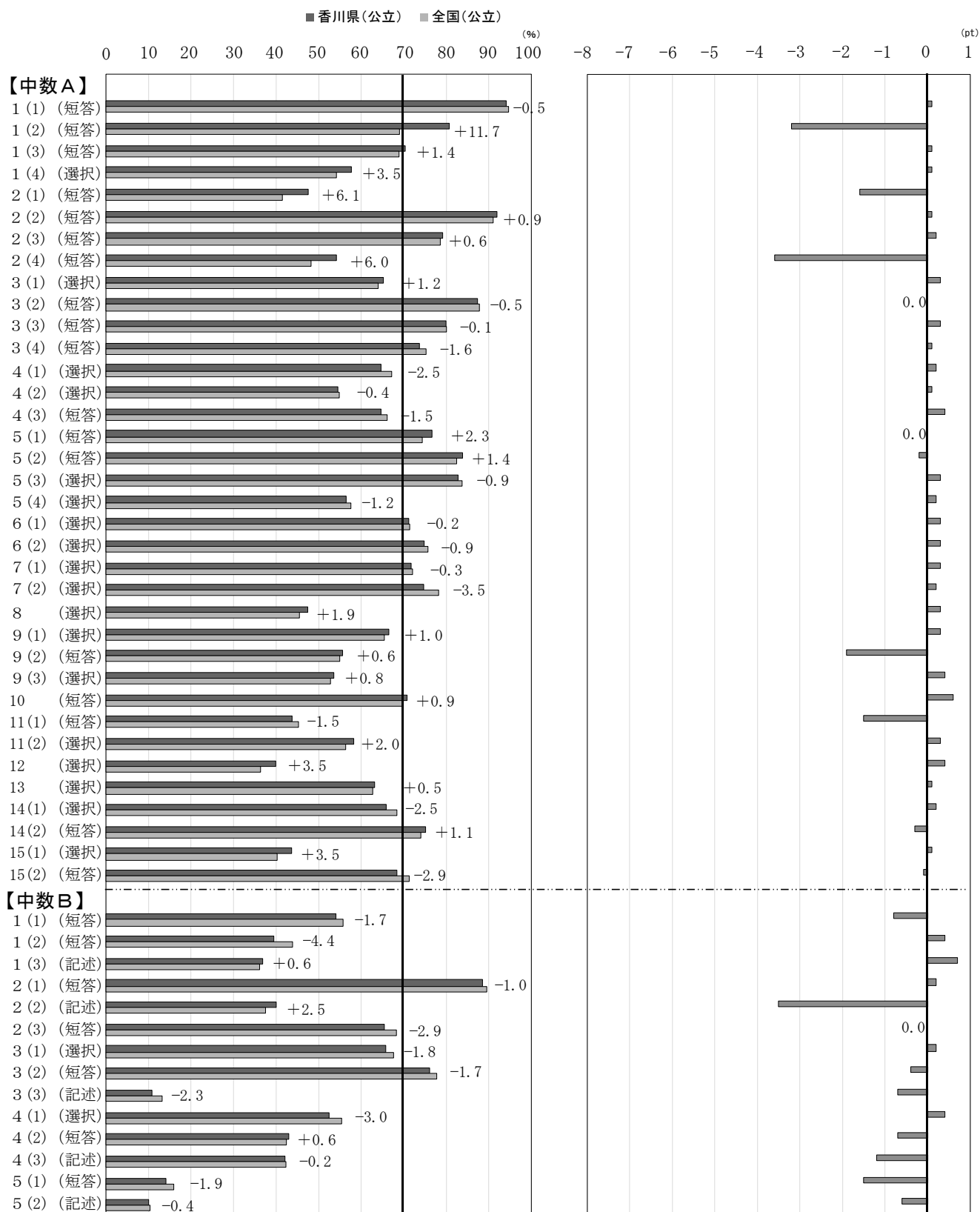
* 評価の観点は、数量や図形についての技能（小学校）に対応させている。

■問題別の県と全国の正答率，無解答率の比較

【領域】	【評価観点】	【問題形式】
数と式 : 数式 図形 : 図形 関数 : 関数 資料の活用 : 資活	数学への関心・意欲・態度 : 関心 数学的な見方や考え方 : 考え 数学的な技能 : 技能 数量や図形についての知識・理解 : 知識	選択式 : 選択 短答式 : 短答 記述式 : 記述 記述(事柄) ※事柄・事実の説明 記述(方法) ※方法・手順の説明 記述(理由) ※理由の説明

問題別正答率の比較

問題別無解答率の差



※グラフ横の数値は，香川県と全国の正答率の差（pt）を表す

無解答率が全国平均より高い問題 全 50 問中 31 問

■正答率が全国より3ポイント以上高い問題

【中学校数学A】（全36問中6問）

問題番号	問題の概要	領域	評価観点	問題形式	県正答率(%)	県無解答率(%)	全国の正答率との差(pt)
1(2)	絶対値が6である数を書く	数式	知識	短 答	80.7	4.1	11.7
1(4)	ある日の最低気温がその前日の最低気温からどれだけ高くなったかを求める式を選ぶ	数式	知識	選 択	57.7	0.2	3.5
2(1)	「1個 a kg の荷物3個と1個 b kg の荷物4個の全体の重さは15 kg 以上である」という数量の関係を表した不等式を書く	数式	技能	短 答	47.6	6.9	6.1
2(4)	等式 $S = \frac{1}{2}ah$ を、a について解く	数式	技能	短 答	54.2	11.7	6.0
12	歩いた道のりと、残りの道のりの関係について、正しい記述を選ぶ	関数	知識	選 択	39.9	1.4	3.5
15(1)	1枚の硬貨を多数回投げたときの表が出る相対度数の変化の様子について、正しい記述を選ぶ	資活	知識	選 択	43.7	1.9	3.5

【中学校数学B】（全14問） なし

■正答率が全国より3ポイント以上低い問題

【中学校数学A】（全36問中1問）

問題番号	問題の概要	領域	評価観点	問題形式	県正答率(%)	県無解答率(%)	全国の正答率との差(pt)
7(2)	長方形で成り立ち、ひし形でも成り立つことを選ぶ	図形	知識	選 択	74.7	0.7	▲3.5

【中学校数学B】（全14問中2問）

問題番号	問題の概要	領域	評価観点	問題形式	県正答率(%)	県無解答率(%)	全国の正答率との差(pt)
1(2)	放送計画で、1日目がA、2日目がBになる確率を求める	資活	技能	短 答	39.5	7.4	▲4.4
4(1)	証明されたことから、新たにわかることを選ぶ	図形	考え	選 択	52.4	1.1	▲3.0

■正答率が低い問題（50%未満）

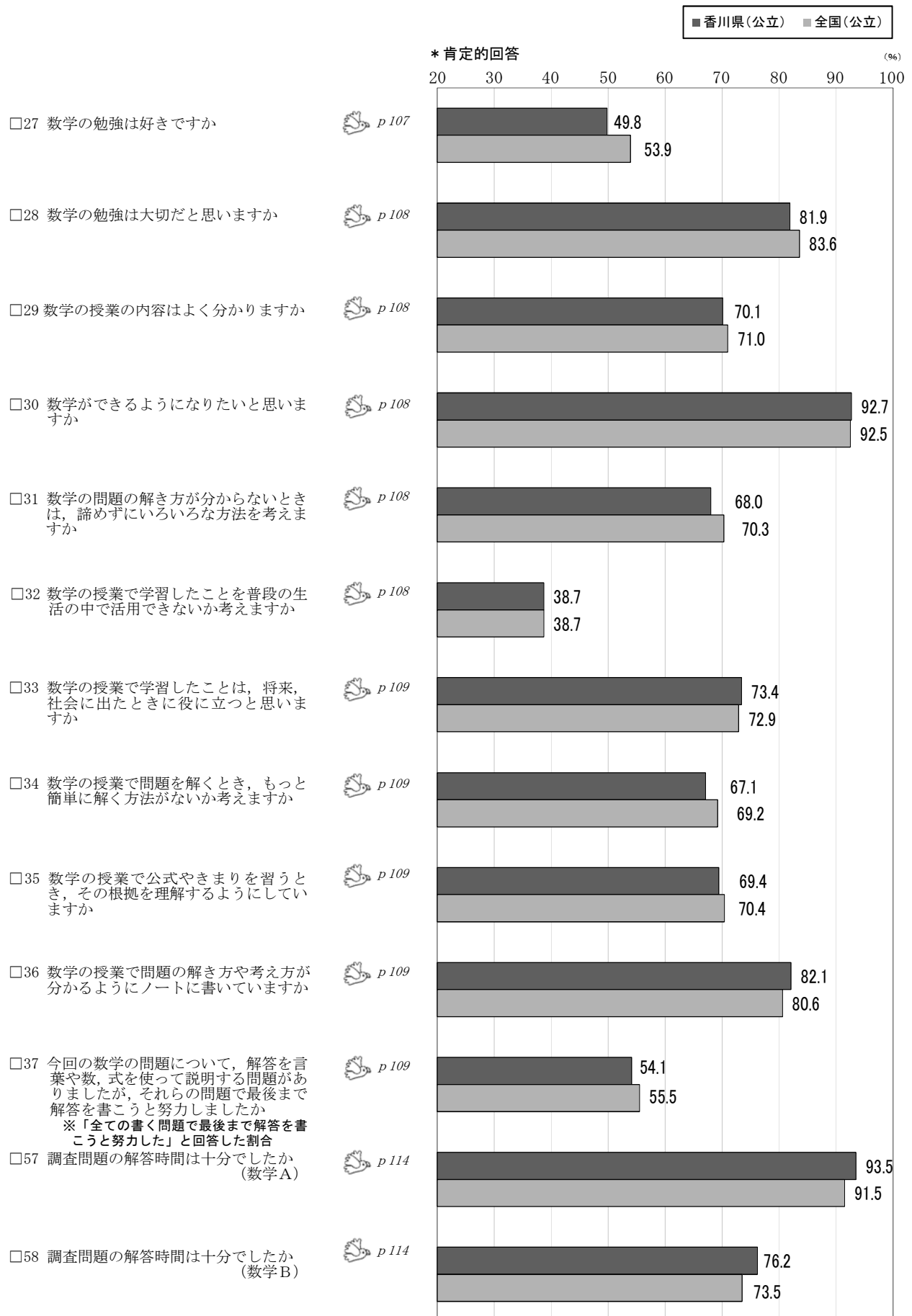
【中学校数学A】（全36問中5問）

問題番号	問題の概要	領域	評価観点	問題形式	県正答率(%)	県無解答率(%)	全国の正答率との差(pt)
2(1)	「1個 a kg の荷物3個と1個 b kg の荷物4個の全体の重さは15 kg 以上である」という数量の関係を表した不等式を書く	数式	技能	短 答	47.6	6.9	6.1
8	対頂角は等しいことの証明について正しい記述を選ぶ	図形	知識	選 択	47.4	0.9	1.9
11(1)	一次関数 $y = 2x + 7$ について、x の値が1から4まで増加したときの y の増加量を求める	関数	技能	短 答	43.8	13.3	▲1.5
12	歩いた道のりと、残りの道のりの関係について、正しい記述を選ぶ	関数	知識	選 択	39.9	1.4	3.5
15(1)	1枚の硬貨を多数回投げたときの表が出る相対度数の変化の様子について、正しい記述を選ぶ	資活	知識	選 択	43.7	1.9	3.5

【中学校数学B】（全14問中8問）

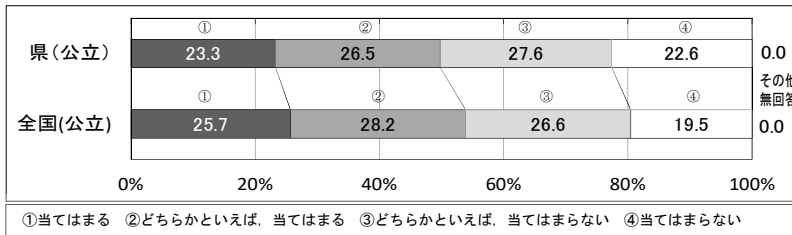
問題番号	問題の概要	領域	評価観点	問題形式	県正答率(%)	県無解答率(%)	全国の正答率との差(pt)
1(2)	放送計画で、1日目がA、2日目がBになる確率を求める	資活	技能	短 答	39.5	7.4	▲4.4
1(3)	全校よりも1年生の回答用紙によるくじ引きの方が曲Fが選ばれやすいことの原因を確率を用いて説明する	資活	考え	記 述	36.8	25.6	0.6
2(2)	はじめの数としてどんな整数を入れて計算しても、計算結果はいつでも4の倍数になる説明を完成する	数式	考え	記 述	40.0	21.5	2.5
3(3)	A駅からの道のりが6 km の地点において、列車Aが通ってから列車Eが通るまでの時間をグラフから求める方法を説明する	関数	考え	記 述	10.9	32.7	▲2.3
4(2)	平行四辺形ABCDの外側に2つの点E、Fを取っても、四角形EBFDは平行四辺形となることの証明を完成する	図形	考え	短 答	43.0	5.5	0.6
4(3)	平行四辺形ABCDを正方形ABCDに変えたときの四角形EBFDがどのような四角形になるかを説明する	図形	考え	記 述	42.1	23.4	▲0.2
5(1)	S社の団体料金が通常料金の何%引きになっているかを求める式を書く	資活	技能	短 答	14.1	22.6	▲1.9
5(2)	通常料金をaとしたときの団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかを求める計算からわかることを選び、その理由を説明する	数式	考え	記 述	10.0	6.0	▲0.4

■学習意欲（中学校数学）に関わる質問の全国との比較



□27 数学の勉強は好きですか

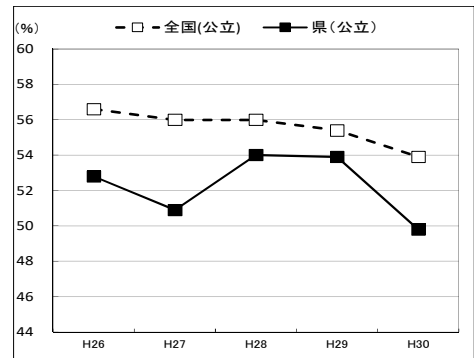
p 107



肯定的に回答した生徒の割合

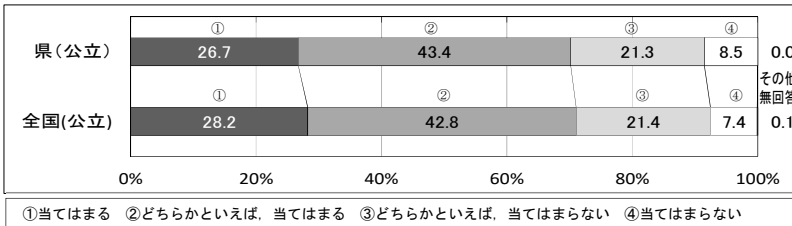
	H26	H27	H28	H29	H30
県(公立)(%)	52.8	50.9	54.0	53.9	49.8
全国(公立)(%)	56.6	56.0	56.0	55.4	53.9
県と全国の差(pt)	▲3.8	▲5.1	▲2.0	▲1.5	▲4.1

質問 27 に肯定的に回答した
生徒の割合の推移



□29 数学の授業の内容はよく分かりますか

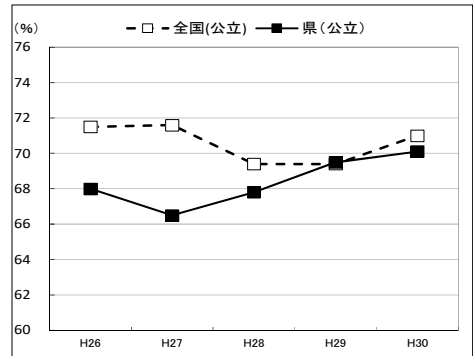
p 108



肯定的に回答した生徒の割合

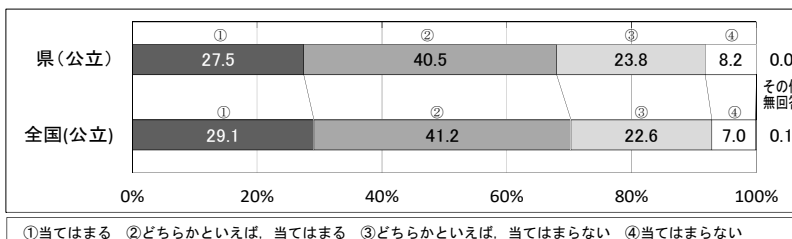
	H26	H27	H28	H29	H30
県(公立)(%)	68.0	66.5	67.8	69.5	70.1
全国(公立)(%)	71.5	71.6	69.4	69.4	71.0
県と全国の差(pt)	▲3.5	▲5.1	▲1.6	0.1	▲0.9

質問 29 に肯定的に回答した
生徒の割合の推移



□31 数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか

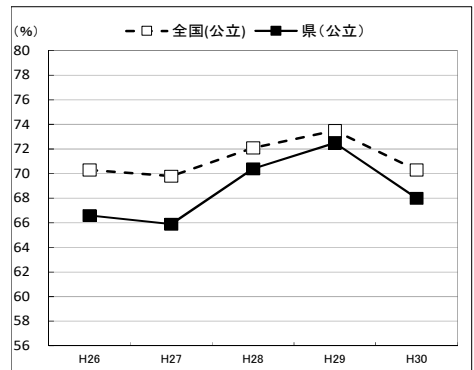
p 108



肯定的に回答した生徒の割合

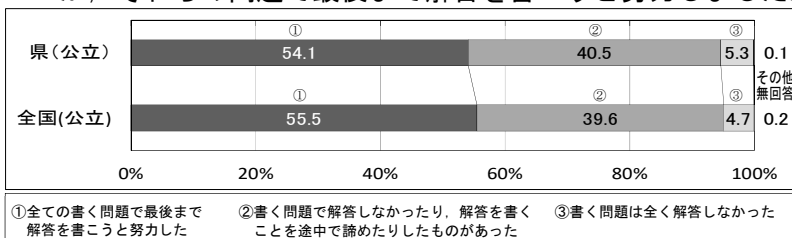
	H26	H27	H28	H29	H30
県(公立)(%)	66.6	65.9	70.4	72.5	68.0
全国(公立)(%)	70.3	69.8	72.1	73.5	70.3
県と全国の差(pt)	▲3.7	▲3.9	▲1.7	▲1.0	▲2.3

質問 31 に肯定的に回答した
生徒の割合の推移



□37 今回の数学の問題について、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありました が、それらの問題で最後まで解答を書こうと努力しましたか

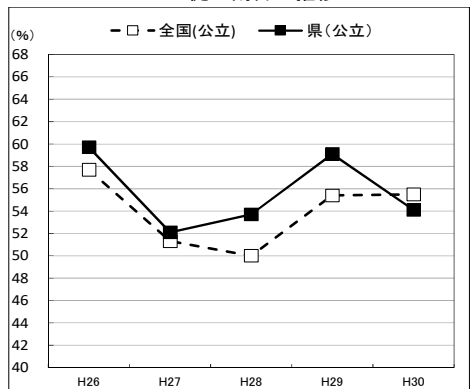
p 109



①と回答した生徒の割合

	H26	H27	H28	H29	H30
県(公立)(%)	59.7	52.1	53.7	59.1	54.1
全国(公立)(%)	57.7	51.3	50.0	55.4	55.5
県と全国の差(pt)	2.0	0.8	3.7	3.7	▲1.4

質問 37 に対して①と回答した
生徒の割合の推移



中学校数学A

調査結果から授業改善へ

実生活の場面において、ある基準に対して反対の方向や性質をもつ数量が正の数と負の数で表されることを理解できるようにする。

授業改善のヒントとなる問題の概要

中学校 数学A 1(4)

1

(4) ある日の最低気温は -3°C で、その前日の最低気温は -7°C でした。ある日の最低気温がその前日の最低気温からどれだけ高くなったかを求める式として正しいものを、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。

ア $(-3) + (-7)$

イ $(-3) - (-7)$

ウ $(-7) + (-3)$

エ $(-7) - (-3)$

【参考】平成29年度県学習状況調査第1学年 4(2)

(2) $2 - (-3)$

正答率 82.4%

問題番号	解答類型	県反応率(%)	全国反応率(%)	正答
1 (4)	1 ア と解答しているもの $((-3) + (-7))$	5.5	6.5	
	2 イ と解答しているもの $((-3) - (-7))$	57.7	54.2	◎
	3 ウ と解答しているもの $((-7) + (-3))$	6.5	6.7	
	4 エ と解答しているもの $((-7) - (-3))$	30.1	32.4	
	99 上記以外の解答	0.0	0.0	
	0 無解答	0.2	0.1	
	正答率	57.7	54.2	

分析・考察

- 本問題は、実生活の場面において、2つの数量の差が表す意味を、正の数と負の数の範囲で理解できるかどうかをみる問題である。本県の正答率は57.7%であり、全国の正答率を3.5ポイント上回っているが、低い状況にある。解答類型4の反応率が30.1%と最も高く、この中には、ある日の最低気温がその前日の最低気温からどれだけ高くなったかの差を求めることは理解できているが、その差の式を考える際に、絶対値が大きい数から絶対値が小さい数を引けばよいと捉えている生徒がいると考えられる。
- 平成29年度県学習状況調査第1学年 4(2)は、正の数と負の数の減法の計算ができるかどうかをみる問題であるが、正答率は82.4%であった。このことから、与えられた式の計算はできるが、差を求めるための式を判断し、決定することに課題がある。

授業改善のポイント

【実生活の場面において、ある基準に対して反対の方向や性質をもつ数量が正の数と負の数で表されることを理解できるようにする】

実生活の様々な場面における数量やその変化を、正の数と負の数を用いて表す場面を設定して、ある基準に対して反対の方向や性質をもつ数量が正の数と負の数で表されるなどの正の数と負の数の必要性について理解できるように指導することが大切である。

本問題を使って授業を行う際には、ある日の最低気温を -3°C 、その前日の最低気温を -7°C としたときの気温の差を式に表して求める場面を設定することが考えられる。その際、問題場面を図や数直線に表し、判断した式と関連付けて理解できるようにする。また、気温の差を求める式を決定するために、2つの最低気温を正の数にして考えさせる活動を取り入れる。例えば、ある日の最低気温を 3°C 、前日の最低気温を 1°C として、気温の差を求める式を立てると $3 - 1$ となり、(ある日の最低気温) $-$ (前日の最低気温) という式を確かめることができる。このとき、どちらを基準にするのかを意識して式を立てることの重要性に気付くとともに、 $(-7) - (-3)$ が誤りであることを説明し伝え合う活動を設定することも考えられる。

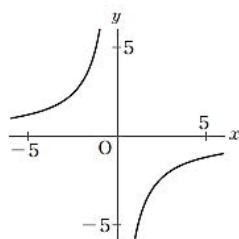
反比例について、表、式、グラフなどを関連付けて理解できるようにする。

授業改善のヒントとなる問題の概要

中学校 数学A 9(3)

9

(3) 次の図の曲線は、反比例のグラフを表しています。このグラフについて、 x と y の関係を示した表が、下のアからエまでの中にあります。それを1つ選びなさい。



問題番号	解答類型	県 反応率 (%)	全国 反応率 (%)	正答
9 (3)	1 ア と解答しているもの	9.4	9.5	
	2 イ と解答しているもの	12.2	11.8	
	3 ウ と解答しているもの	53.6	52.8	◎
	4 エ と解答しているもの	23.0	24.5	
	99 上記以外の解答	0.0	0.0	
	0 無解答	1.8	1.4	
正答率		53.6	52.8	

ア

x	...	-3	-2	-1	0	1	2	3	...
y	...	-2	-3	-6	$\times$	6	3	2	...

イ

x	...	-3	-2	-1	0	1	2	3	...
y	...	-2	-4	-6	$\times$	6	4	2	...

ウ

x	...	-3	-2	-1	0	1	2	3	...
y	...	2	3	6	$\times$	-6	-3	-2	...

エ

x	...	-3	-2	-1	0	1	2	3	...
y	...	2	4	6	$\times$	-6	-4	-2	...

分析・考察

- 本問題は、反比例について、グラフと表を関連付けて理解しているかどうかをみる問題である。本県の正答率は53.6%であり、全国の正答率を0.8ポイント上回っているが、低い状況にある。解答類型4の反応率が23.0%と最も高く、この中には、反比例では、 x の値が1ずつ増加すると y の値は一定の割合で増加する関係と捉えた生徒がいると考えられる。
- 平成26年度調査A10(4)は、同じ趣旨の問題で、正答率は48.6%であった。改善の傾向がみられるが、今回の解答類型4と同じ趣旨の解答類型2の反応率が21.7%で、引き続き反比例について、グラフと表を関連付けて理解することについて課題がある。

授業改善のポイント

【反比例について、表、式、グラフなどを関連付けて理解できるようにする】

反比例の特徴を、表、式、グラフを相互に関連付けて理解できるように指導することが大切である。その際、表やグラフから比例定数を読み取って式に表したり、符号や絶対値に着目して変化の様子の違いを捉えたりする活動を取り入れることが必要である。

本問題を使って授業を行う際には、ウの表が正しいことを説明するだけでなく、ア、イ、エの表を取り上げ、これらが誤りであることを説明し伝え合う活動を取り入れることも考えられる。

指導に当たっては、表、グラフにおいて、 x の値が1ずつ増加するときの y の値の変化の様子から一次関数、比例、反比例のどの関数であるか特定し、式に表したり、どの関数なのかと考えながら x と y の対応の特徴を探ったりする活動や、その関数を特定した根拠として何に着目して判断したのかを説明し伝え合う活動を取り入れること等が考えられる。また、グラフの図形的特徴から変化の割合や比例定数の符号、絶対値の大きさを判断できることから、符号だけを変えた表についての式を求めたり、そのグラフをかいたりする活動を取り入れることが考えられる。

中学校数学B

調査結果から授業改善へ

与えられた情報を分類整理し、不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉えることができるようにする。

授業改善のヒントとなる問題の概要

中学校 数学B 1(2)

- 1 (2) 拓真さんは、アンケートの結果1の上位4曲を流す順番について、
下のような放送計画を考えました。

放送計画

その日に流す曲を、アンケートの結果1の上位4曲の中からくじ引きで決める。くじ引きは1日1回ずつ行い、4日間で4曲を流す。

くじ引きの方法

- ① A, B, C, Dが1つずつ書かれた4枚のくじを用意する。
- ② 1日目は、その4枚のくじの中から1枚を引く。
ただし、引いたくじは戻さないものとする。
- ③ 2日目以降は、残ったくじの中から1枚を引く。
ただし、引いたくじは戻さないものとする。



この放送計画で、1日目がA、2日目がBになる確率を求めなさい。ただし、どのくじを引くことも同様に確からしいものとします。

問題 番号	解答類型	県 反応率 (%)	全国 反応率 (%)	正答
1 (2)	1 $\frac{1}{12}$ と解答しているもの	39.5	43.9	◎
	2 $\frac{1}{22}$ と解答しているもの	8.7	7.9	
	3 $\frac{1}{2}$ と解答しているもの	4.9	4.6	
	4 $\frac{1}{6}$ と解答しているもの	7.9	7.1	
	5 $\frac{1}{4}$ と解答しているもの	13.2	11.9	
	6 $\frac{1}{16}$ と解答しているもの	1.3	1.7	
	7 整数値を解答しているもの	1.7	1.5	
	99 上記以外の解答	15.2	14.4	
	0 無解答	7.4	7.0	
	正答率	39.5	43.9	

分析・考察

- 本問題は与えられた情報を分類整理し、不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉えることができるかどうかをみる問題である。本県の正答率は39.5%であり、全国の正答率を4.4ポイント下回り、課題がうかがえる。解答類型5の反応率が13.2%と高く、この中には4曲の中から選ぶことだけに着目した生徒がいたと考えられる。また、解答類型99の反応率が15.2%と高く、1日目と2日目の確率をそれぞれ求めたり、2日目にBになる確率を求めたりした生徒がいたと考えられる。
- 平成26年度の調査問題A14(2)は、樹形図などを利用して、確率を求めることができるかどうかをみる問題であったが、本県の正答率は66.7%（全国の正答率は65.1%）で、本問題はそれを27.2ポイント下回っている。平成26年度の問題は、樹形図が与えられており、その上で確率を求めることから正答率が高かったと考えられる。日常の場面において、与えられた情報を図や表に分類整理することに課題がある。

授業改善のポイント

【不確定な事象の起こりやすさの傾向について、確率を用いて捉えることができるようにする】

起こり得る場合がどの場合も同じ程度に期待されることを確認し、起こり得る場合を樹形図や表などを利用して、順序よく整理し正しく数え上げる場面を設定することで、起こり得る場合の数を基にして確率を求めることができるように指導することが大切である。

指導に当たっては、放送計画にある「くじ引きの方法」について生徒が実際にくじを引くなどして、この場面を正しく理解する場面を設定し、曲を流す順番をすべて書き出す方法について検討する。この場面を樹形図を用いて表す際には、1日目に流す曲が決まれば、2日目に流すことができる曲は3通りになること、1, 2日目が決まれば、3日目に流すことができる曲は2通りになること、1, 2, 3日目に流す曲が決まれば同時に4日目に流す曲が決まることを確認することが大切である。また、確率を $\frac{1}{4}$ などと予想させた上で、その予想が誤りであることを説明し伝え合う活動を設定することも考えられる。

証明を振り返り、新たな性質を見いだすことができるようにする。

授業改善のヒントとなる問題の概要

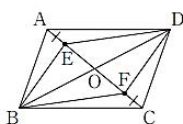
中学校 数学B 4(1)

4 優花さんは、次の問題を解きました。

問題

右の図のように、平行四辺形ABCDの対角線の交点をOとし、線分OA、OC上に、 $AE = CF$ となる点E、Fをそれぞれとります。

このとき、四角形EBFDは平行四辺形になることを証明しなさい。



優花さんの証明

平行四辺形の対角線はそれぞれの中点で交わるから、

$$OB = OD \quad \cdots \cdots ①$$

$$OA = OC \quad \cdots \cdots ②$$

仮定より、

$$AE = CF \quad \cdots \cdots ③$$

②、③より、

$$OA - AE = OC - CF \quad \cdots \cdots ④$$

④より、

$$OE = OF \quad \cdots \cdots ⑤$$

①、⑤より、

対角線がそれぞれの中点で交わるから、
四角形EBFDは平行四辺形である。

(1) 優花さんの証明では、四角形EBFDの対角線がそれぞれの中点で交わることから、四角形EBFDは平行四辺形であることを証明しました。四角形EBFDが平行四辺形であることから新たにわかることを、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。

ア $EB = FD$

イ $ED = EF$

ウ $OE = OF$

エ $AE = CF$

問題番号	解答類型	県 反応率 (%)	全国 反応率 (%)	正答
4 (1)	1 ア と解答しているもの	52.4	55.4	◎
	2 イ と解答しているもの	11.3	9.7	
	3 ウ と解答しているもの	26.4	25.6	
	4 エ と解答しているもの	8.9	8.6	
	99 上記以外の解答	0.0	0.0	
	0 無解答	1.1	0.7	
正答率		52.4	55.4	

分析・考察

○本問題は、証明を振り返り、証明された事柄を基にして、新たな性質を見いだすことができるかどうかをみる問題である。本県の正答率は52.4%であり、全国の正答率を3.0ポイント下回っており、低い状況にある。解答類型3の反応率が26.4%と最も高く、この中には四角形EBFDが平行四辺形であることから新たに分かることを、平行四辺形の性質と関連付けることができているが、「 $OE = OF$ 」が四角形EBFDが平行四辺形であることを証明するために用いられた根拠であることを捉えることができなかった生徒がいると考えられる。解答類型4の反応率も8.9%で、「 $AE = CF$ 」が仮定であることを捉えることができなかった生徒がいると考えられる。

授業改善のポイント

【証明を振り返り、新たな性質を見いだすことができるようにする】

証明を書くこととともに、証明を読む場面を設定し、証明の結果や過程を振り返り、新たな性質を見いだすことができるように指導することが大切である。「振り返り」については、授業の最後に行うだけではなく、授業を進めていく中で振り返ることが必要な場面を設定することで、生徒自身が振り返って考えることのよさを感じ得ることができるようにすることが大切である。

本問題を使って授業を行う際には、証明の過程で用いた事実や得られた結論に着目し、新たな性質を見いだす活動を取り入れることが考えられる。例えば、四角形EBFDが平行四辺形になることを平行四辺形になるための条件を用いて証明した後に、この証明により新たに分かることは何かを、その理由とともに説明し伝え合う活動を取り入れることが考えられる。その際、誤答である「 $OE = OF$ 」を提示し、これが誤りであることを説明する活動なども考えられる。

6 中学校 理科 <調査区分の分析・検証>

概 要

○ 理科について、県と全国の平均正答率の比較等から、全国平均と同等である。

■平成 30 年度調査結果の集計値

中学校理科	生徒数	学校数	平均正答数	平均正答率 (%)
県 (公立)	8,018	70	17.7 / 27	66
全国 (公立)	967,188	9,588	17.9 / 27	66 (66.1)

■平成 24 年度, 平成 27 年度, 平成 30 年度の県と全国の調査結果

中学校理科	H24	H27	H30
県 (公立) 平均正答率 (%)	51.5	53.2	66
全国 (公立) 平均正答率 (%)	51.0	53.0	66 (66.1)
県と全国の差 (pt)	0.5	0.2	0

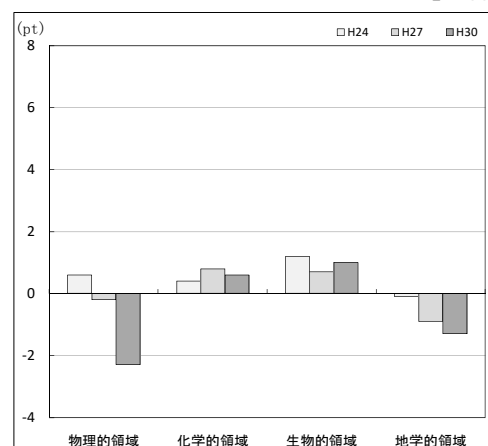
■平成 30 年度の分野等別調査結果

	理科			
学習指導要領の分野等	物理的領域	化学的領域	生物的領域	地学的領域
県 (公立) 平均正答率 (%)	72.1	65.6	73.5	56.5
全国 (公立) 平均正答率 (%)	74.4	65.0	72.5	57.8
県と全国との差 (pt)	▲2.3	0.6	1.0	▲1.3

■平成 24 年度, 平成 27 年度, 平成 30 年度の分野等別調査結果

	年度		H24	H27	H30
理 科	物理的 領域	県 (公立) (%)	46.5	48.7	72.1
		全国 (公立) (%)	45.9	48.9	74.4
		差 (pt)	0.6	▲0.2	▲2.3
	化学的 領域	県 (公立) (%)	57.3	57.0	65.6
		全国 (公立) (%)	56.9	56.2	65.0
		差 (pt)	0.4	0.8	0.6
	生物的 領域	県 (公立) (%)	51.9	62.9	73.5
		全国 (公立) (%)	50.7	62.2	72.5
		差 (pt)	1.2	0.7	1.0
	地学的 領域	県 (公立) (%)	51.9	45.5	56.5
		全国 (公立) (%)	52.0	46.4	57.8
		差 (pt)	▲0.1	▲0.9	▲1.3

分野等別の県と全国の平均正答率の差の推移
【理科】



問題別調査結果【理科】

平成30年度全国学力・学習状況調査
問題別調査結果【理科】
香川県－生徒（公立）

中学校調査

・以下の集計値／グラフは、４月１７日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

対象学校数	香川県（公立）	全国（公立）	対象生徒数	香川県（公立）	全国（公立）
	70	9,588		8,018	967,188
分類	区分		対象問題数 （問）	平均正答率（％）	
	全体			香川県（公立）	全国（公立）
枠組み	主として「知識」に関する問題		11	68.0	67.9
	主として「活用」に関する問題		16	64.0	64.9
学習指導要領の分野等	第1分野	物理的領域	7	72.1	74.4
		化学的領域	8	65.6	65.0
	第2分野	生物的領域	6	73.5	72.5
		地学的領域	7	56.5	57.8
評価の観点	自然事象への関心・意欲・態度		1	75.9	74.0
	科学的な思考・表現		16	64.0	64.9
	観察・実験の技能		4	67.4	67.0
	自然事象についての知識・理解		8	68.3	68.7
問題形式	選択式		17	69.6	70.9
	短答式		4	71.8	70.2
	記述式		6	50.1	50.1

問題別集計結果

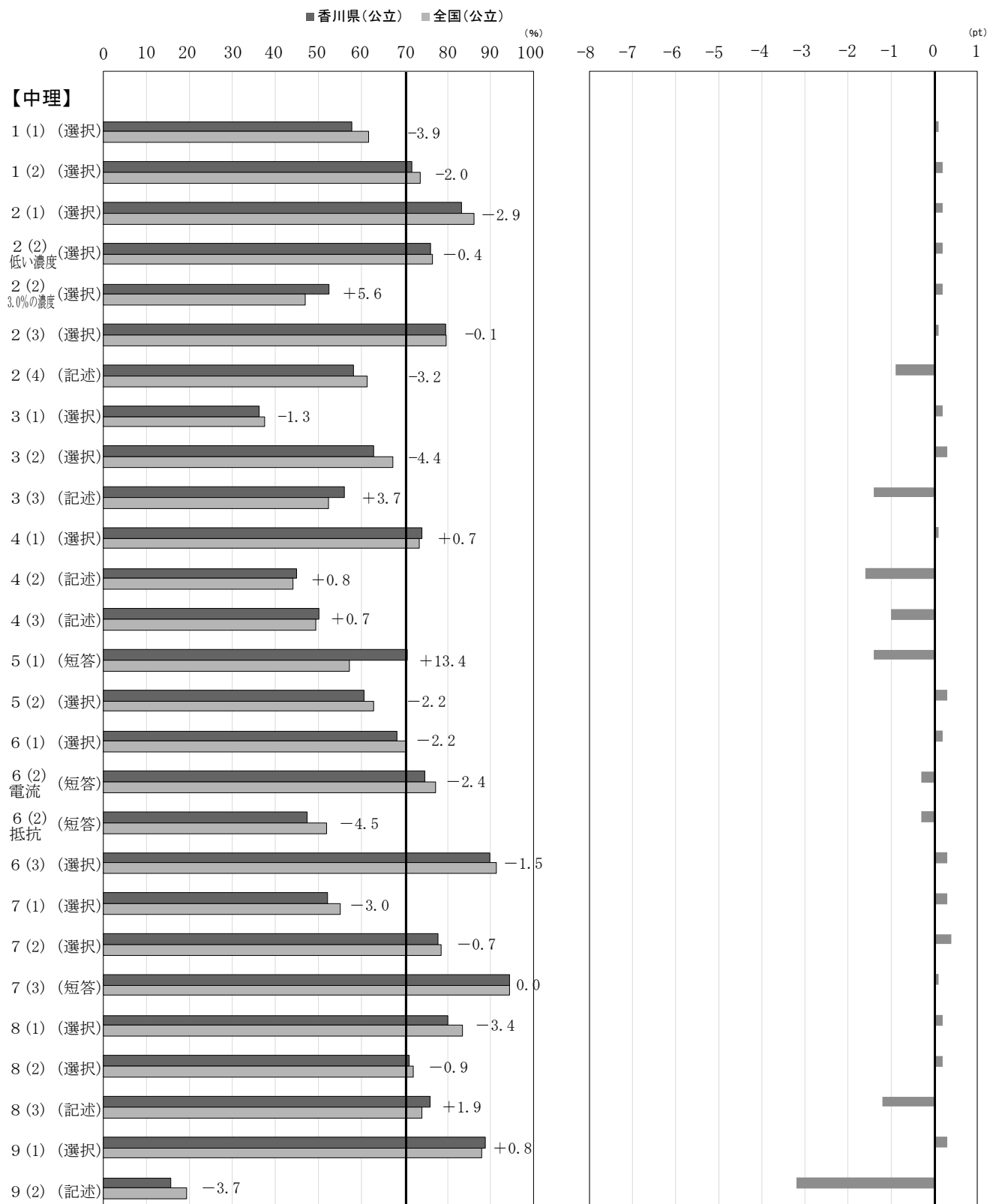
問題番号	問題の概要	出題の趣旨	枠組み 主として「知識」に関する問題	学習指導要領の分野等 主として「活用」に関する問題	評価の観点 第1分野 物理的領域	第2分野 化学的領域	地学的領域	自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解	問題形式 選択式	短答式	記述式	正答率（％）		無解答率（％）		香川県－全国（pt）	
															香川県（公立）	全国（公立）	香川県（公立）	全国（公立）	正答率	無解答率
1（1）	光の反射を利用した「テレプロンプター」のモデルを作って科学的に探究する場面において、光の直進や反射の幾何光学的な規則性についての知識・技能を活用することができるかどうかをみる	光の反射の幾何光学的な規則性についての知識・技能を活用できる	○	⁽¹⁾ ア(7)				○				○			57.8	61.7	0.2	0.1	-3.9	0.1
1（2）	テレプロンプターのモデルの光の道筋を検討して改善し、適切な光の道筋を説明することができる	テレプロンプターのモデルの光の道筋を検討して改善し、適切な光の道筋を説明することができる	○	⁽¹⁾ ア(7)				○				○			71.7	73.7	0.4	0.2	-2.0	0.2
2（1）		無脊椎動物と軟体動物の体のつくりの特徴に関する知識を活用できる	○		⁽³⁾ ウ(4)			○				○			83.3	86.2	0.3	0.1	-2.9	0.2
2（2） 低い温度	理科通信のアサリに興味をもち、アサリが出す砂の質量は餌に關係しているのかを科学的に探究する学習場面において、水溶液の濃さや無脊椎動物に関する知識・問題解決の技能を活用できるかどうかをみる	温度が異なる食塩水のうち、温度の低いものを指摘できる	○	⁽²⁾ イ(7)							○	○			76.1	76.5	1.4	1.2	-0.4	0.2
2（2） 3.0％の濃度		温度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指摘できる	○	⁽²⁾ イ(7)				○			○	○			52.5	46.9	1.5	1.3	5.6	0.2
2（3）		「アサリが出した砂の質量は明るさに関係しているとはいえない」と考察した理由を指摘できる	○		⁽³⁾ ウ(4)			○				○			79.6	79.7	0.3	0.2	-0.1	0.1
2（4）		1つの要因を変えるとその他にも変わる可能性のある要因を指摘できる	○		⁽³⁾ ウ(4)			○					○		58.1	61.3	8.6	9.5	-3.2	-0.9
3（1）	コンピュータを使ったシミュレーションで台風の進路や風向を科学的に探究する場面において、日本の天気の特徴に関する知識と観測方法や記録の仕方に関する知識・技能、条件制御の知識・技能を活用することができるかどうかをみる	風向の観測方法や記録の仕方に関する知識・技能を活用できる	○		⁽⁴⁾ ア(7)			○				○			36.2	37.5	0.4	0.2	-1.3	0.2
3（2）		太平洋高気圧（小笠原気団）の特徴についての知識を身に付けている	○		⁽⁴⁾ ウ(7)			○			○	○			62.9	67.3	0.7	0.4	-4.4	0.3
3（3）		シミュレーションの結果について考察した内容を検討して改善し、台風の進路を決める条件を指摘できる	○		⁽⁴⁾ ウ(7)			○					○		56.0	52.3	6.5	7.9	3.7	-1.4
4（1）	図書便りに紹介されていたファラデーの「ロウソクの科学」を読んで、ガスバーナーを使った燃焼を科学的に探究する場面において、実験器具の操作や化学変化と原子・分子、条件制御の知識・技能を活用することができるかどうかをみる	ガスバーナーの空気の量を調節する場所を指摘できる	○	⁽²⁾ ア(7)					○			○			74.1	73.4	0.5	0.4	0.7	0.1
4（2）		炎の色や金網に付くススの量を調べる実験を計画する際に、「変えない条件」を指摘できる	○	⁽⁴⁾ イ(4)				○					○		44.9	44.1	13.9	15.5	0.8	-1.6
4（3）		化学変化を表したモデルを検討して改善し、原子や分子のモデルで説明できる	○	⁽⁴⁾ イ(7)				○					○		50.1	49.4	15.2	16.2	0.7	-1.0
5（1）	「運転中に運転士に話しかけるとブレーキを踏むのが遅れるのではないか」という予想を科学的に探究する場面において、刺激と反応についての知識と自然の事物・現象を実験の装置や操作に対応させたモデル実験の知識・技能を活用することができるかどうかをみる	神経系の働きについての知識を身に付けている	○		⁽³⁾ イ(4)			○			○	○			70.6	57.2	5.7	7.1	13.4	-1.4
5（2）		反応の時間を測定する装置や操作を刺激と反応に対応させた実験を計画できる	○		⁽³⁾ イ(4)			○			○	○			60.6	62.8	0.8	0.5	-2.2	0.3
6（1）		電流計は回路に直列に接続するという技能及び電流計の電圧用図記号の知識を身に付けている	○	⁽³⁾ ア(7)					○	○	○	○			68.3	70.5	0.6	0.4	-2.2	0.2
6（2） 電流	自転車のライトの豆電球型のＬＥＤが豆電球に比べて明るく点灯したことに疑問をもって科学的に探究する場面において、電流・電圧と抵抗及び電力と発生する光の明るさとの関係に関する知識・技能を活用することができるかどうかをみる	実験の結果を示した表から電流の値を読み取ることができる	○	⁽³⁾ ア(7)					○				○		74.8	77.2	11.3	11.6	-2.4	-0.3
6（2） 抵抗		オームの法則を使って、抵抗の値を求めることができる	○	⁽³⁾ ア(4)							○	○			47.4	51.9	14.3	14.6	-4.5	-0.3
6（3）		豆電球と豆電球型のＬＥＤの点灯の様子と電力との関係を指摘できる	○	⁽³⁾ ア(9)				○				○			89.9	91.4	0.9	0.6	-1.5	0.3
7（1）		地震の揺れの強さが震度であること、Ｓ波による揺れが主要動であることの知識を身に付けている	○		⁽²⁾ ア(4)						○	○			52.1	55.1	0.7	0.4	-3.0	0.3
7（2）	緊急地震速報による避難訓練の後、地震を科学的に探究する場面において、地震の揺れの伝わり方や光と音の伝わり方に関する知識・技能を活用することができるかどうかをみる	緊急地震速報を受け取ってからＳ波による揺れが始まるまでの時間が最も長い観測地点を指摘できる	○		⁽²⁾ ア(4)			○			○	○			77.8	78.5	0.9	0.5	-0.7	0.4
7（3）		初期微動継続時間の長さや震源からの距離の知識と音の速さに関する知識を活用できる	○	⁽¹⁾ ア(9)			⁽²⁾ ア(4)	○					○		94.4	94.4	3.7	3.6	0.0	0.1
8（1）		アルミニウムの原子の記号の表し方についての知識を身に付けている	○	⁽⁴⁾ ア(4)							○	○			80.1	83.5	0.8	0.6	-3.4	0.2
8（2）		発熱バックに入っているアルミニウムが水の温度変化に関係していることを指摘できる	○	⁽⁴⁾ イ(9)							○	○			71.1	72.0	0.8	0.6	-0.9	0.2
8（3）	また、探究の過程を振り返り、新たな疑問をもち問題を思いだし探究を深めようとしているかどうかをみる	探究の過程を振り返り、新たな疑問をもち問題を思いだし探究を深めようとしている	○	⁽⁴⁾ イ(9)				○	○				○		75.9	74.0	19.1	20.3	1.9	-1.2
9（1）	部屋に見立てた容器に植物を入れて湿度の変化を科学的に探究する場面において、蒸散と湿度に関する知識・問題解決の知識・技能を活用することができるかどうかをみる	植物の葉などから水蒸気が出る働きが蒸散であるという知識を身に付けている	○	⁽¹⁾ イ(4)							○	○			88.8	88.0	0.9	0.6	0.8	0.3
9（2）		植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘できる	○	⁽⁴⁾ ア(7)				○					○		15.7	19.4	18.2	21.4	-3.7	-3.2

■問題別の県と全国の正答率，無解答率の比較

【領域】	【評価観点】	【問題形式】
物理的領域：物理 化学的領域：化学 生物的領域：生物 地学的領域：地学	自然事象への関心・意欲・態度：関心 科学的な思考・表現：思考 観察・実験の技能：技能 自然事象についての知識・理解：知識	選択式：選択 短答式：短答 記述式： 記述（事実）※「事実」を記述する 記述（方法）※「方法」を記述する 記述（理由）※「理由」を記述する

問題別正答率の比較

問題別無解答率の差



■正答率が全国より3ポイント以上高い問題

【中学校理科】（全27問中3問）

問題番号	問題の概要	領域	評価観点	問題形式	県正答率(%)	県無解答率(%)	全国の正答率との差(pt)
2(2) 3.0%の濃度	理科通信のアサリに興味をもち、アサリが出す砂の質量は何に関係しているのかを科学的に探究する学習場面において、水溶液の濃さや無脊椎動物に関する知識、問題解決の技能を活用できるかどうかをみる	化学	技能	選択	52.5	1.5	5.6
3(3)	コンピュータを使ったシミュレーションで台風の進路や風向を科学的に探究する場面において、日本の天気の特徴に関する知識と観測方法や記録の仕方に関する知識・技能、条件制御の知識・技能を活用することができるかどうかをみる	地学	思考	記述	56.0	6.5	3.7
5(1)	「運転中に運転士に話しかけるとブレーキを踏むのが遅れるのではないか」という予想を科学的に探究する場面において、刺激と反応についての知識と自然の事物・現象を実験の装置や操作に対応させたモデル実験の知識・技能を活用することができるかどうかをみる	生物	知識	短答	70.6	5.7	13.4

■正答率が全国より3ポイント以上低い問題

【中学校理科】（全27問中7問）

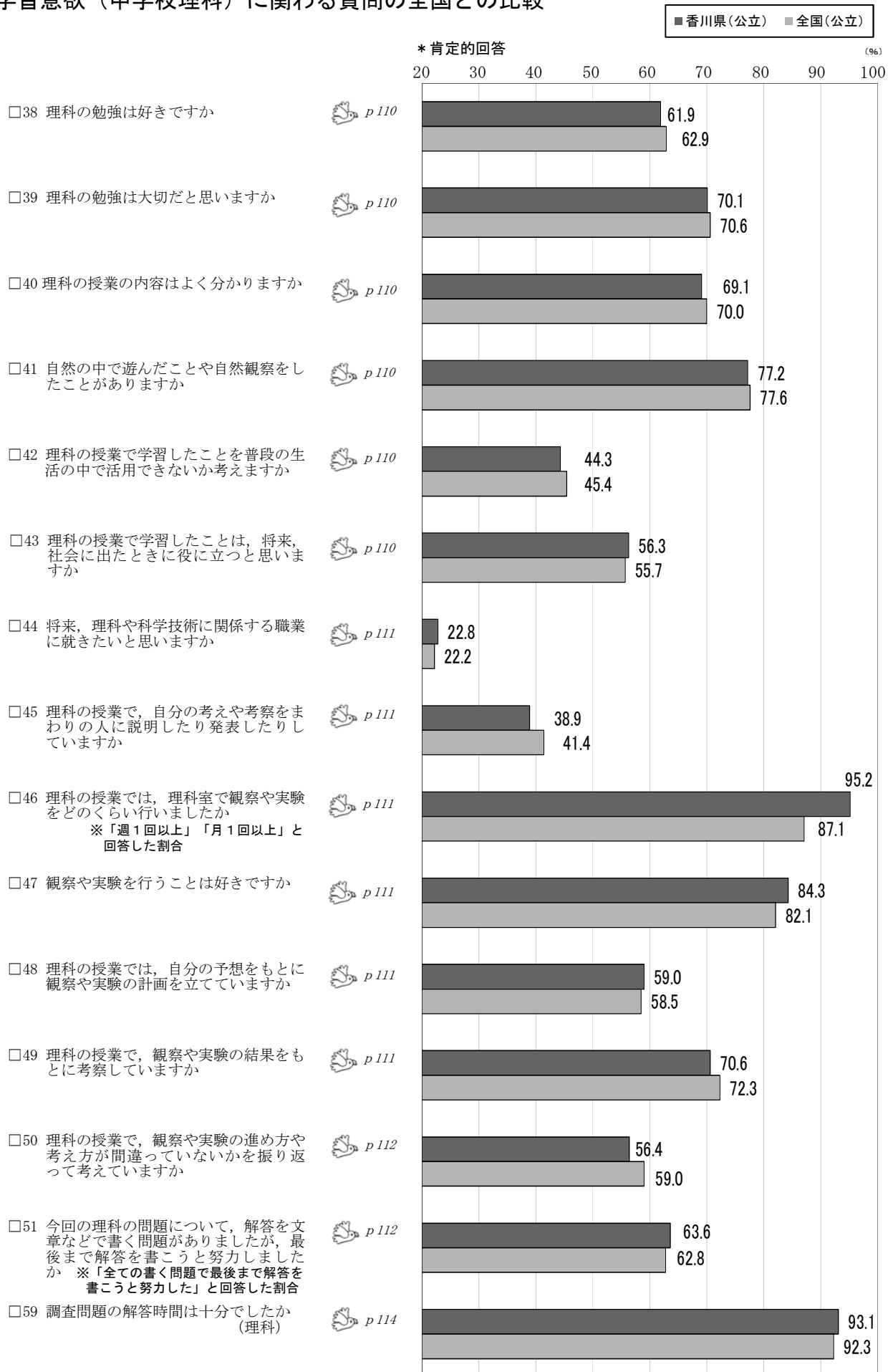
問題番号	問題の概要	領域	評価観点	問題形式	県正答率(%)	県無解答率(%)	全国の正答率との差(pt)
1(1)	光の反射を利用した「テレプロンプター」のモデルを作って科学的に探究する場面において、光の直進や反射の幾何光学的な規則性についての知識・技能を活用することができるかどうかをみる	物理	思考	選択	57.8	0.2	▲3.9
2(4)	理科通信のアサリに興味をもち、アサリが出す砂の質量は何に関係しているのかを科学的に探究する学習場面において、水溶液の濃さや無脊椎動物に関する知識、問題解決の技能を活用できるかどうかをみる	生物	思考	記述	58.1	8.6	▲3.2
3(2)	コンピュータを使ったシミュレーションで台風の進路や風向を科学的に探究する場面において、日本の天気の特徴に関する知識と観測方法や記録の仕方に関する知識・技能、条件制御の知識・技能を活用することができるかどうかをみる	地学	知識	選択	62.9	0.7	▲4.4
6(2) 抵抗	自転車のライトの豆電球型のLEDが豆電球に比べて明るく点灯したことに疑問をもって科学的に探究する場面において、電流・電圧と抵抗及び電力と発生する光の明るさとの関係に関する知識・技能を活用することができるかどうかをみる	物理	知識	短答	47.4	14.3	▲4.5
7(1)	緊急地震速報による避難訓練の後、地震を科学的に探究する場面において、地震の揺れの伝わり方や光と音の伝わり方に関する知識・技能を活用することができるかどうかをみる	地学	知識	選択	52.1	0.7	▲3.0
8(1)	火を使わないで発熱する商品の仕組みを科学的に探究して実験ノートにまとめる場面において、化学変化と熱についての知識と問題解決の知識・技能を活用することができるかどうかをみる また、探究の過程を振り返り、新たな疑問をもち問題を見だし探究を深めようとしているかどうかをみる	化学	知識	選択	80.1	0.8	▲3.4
9(2)	部屋に見立てた容器に植物を入れて湿度の変化を科学的に探究する場面において、蒸散と湿度に関する知識、問題解決の知識・技能を活用することができるかどうかをみる	地学	思考	記述	15.7	18.2	▲3.7

■正答率が低い設問（50%未満）

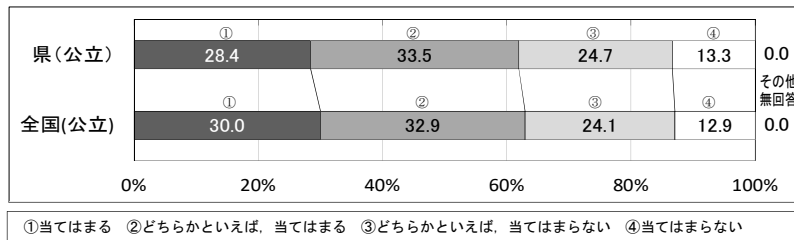
【中学校理科】（全27問中4問）

問題番号	問題の概要	領域	評価観点	問題形式	県正答率(%)	県無解答率(%)	全国の正答率との差(pt)
3(1)	コンピュータを使ったシミュレーションで台風の進路や風向を科学的に探究する場面において、日本の天気の特徴に関する知識と観測方法や記録の仕方に関する知識・技能、条件制御の知識・技能を活用することができるかどうかをみる	地学	思考	選択	36.2	0.4	▲1.3
4(2)	図書便りに紹介されていたファラデーの「ロウソクの科学」を読んで、ガスバーナーを使った燃焼を科学的に探究する場面において、実験器具の操作や化学変化と原子・分子、条件制御の知識・技能を活用することができるかどうかをみる	化学	思考	記述	44.9	13.9	0.8
6(2) 抵抗	自転車のライトの豆電球型のLEDが豆電球に比べて明るく点灯したことに疑問をもって科学的に探究する場面において、電流・電圧と抵抗及び電力と発生する光の明るさとの関係に関する知識・技能を活用することができるかどうかをみる	物理	知識	短答	47.4	14.3	▲4.5
9(2)	部屋に見立てた容器に植物を入れて湿度の変化を科学的に探究する場面において、蒸散と湿度に関する知識、問題解決の知識・技能を活用することができるかどうかをみる	地学	思考	記述	15.7	18.2	▲3.7

■学習意欲（中学校理科）に関わる質問の全国との比較



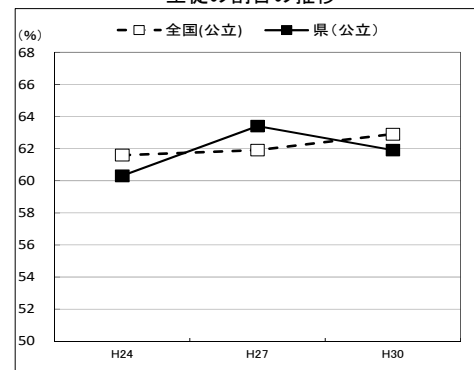
□38 理科の勉強は好きですか



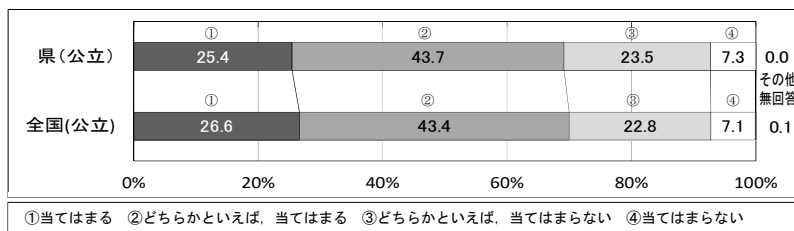
肯定的に回答した生徒の割合

	H24	H27	H30
県(公立)(%)	60.3	63.4	61.9
全国(公立)(%)	61.6	61.9	62.9
県と全国の差(pt)	▲1.3	1.5	▲1.0

質問 38 に肯定的に回答した
生徒の割合の推移



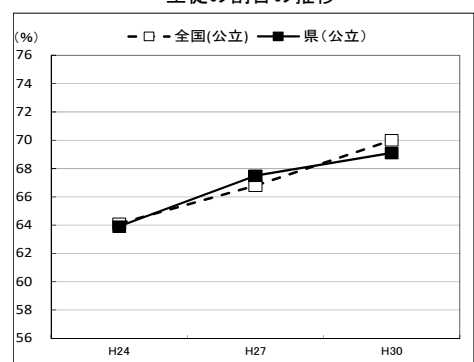
□40 理科の授業の内容はよく分かりますか



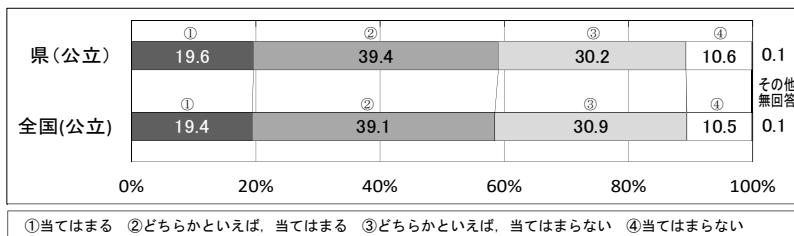
肯定的に回答した生徒の割合

	H24	H27	H30
県(公立)(%)	63.9	67.5	69.1
全国(公立)(%)	64.1	66.8	70.0
県と全国の差(pt)	▲0.2	0.7	▲0.9

質問 40 に肯定的に回答した
生徒の割合の推移



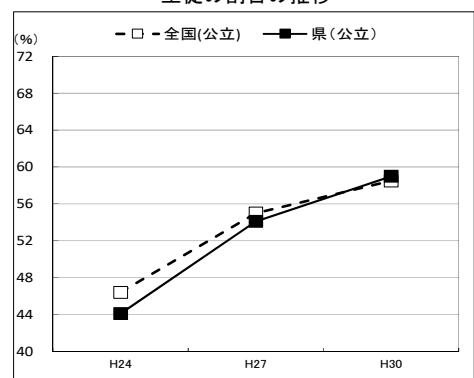
□48 理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか



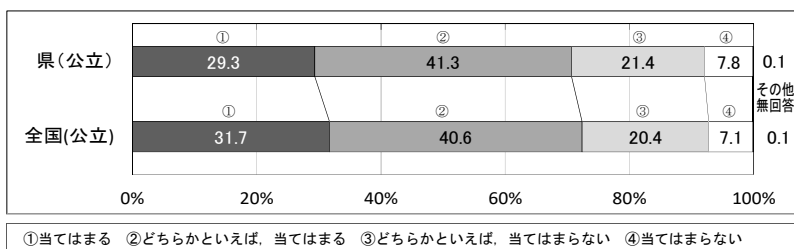
肯定的に回答した生徒の割合

	H24	H27	H30
県(公立)(%)	44.1	54.1	59.0
全国(公立)(%)	46.4	55.0	58.5
県と全国の差(pt)	▲2.3	▲0.9	0.5

質問 48 に肯定的に回答した
生徒の割合の推移



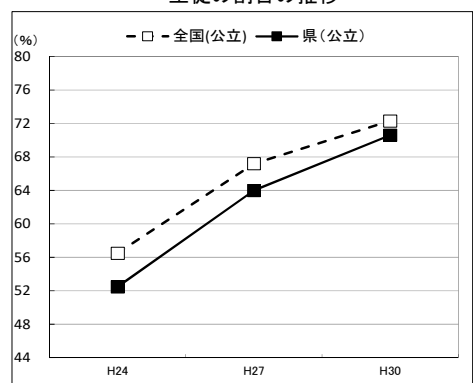
□49 理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していますか



肯定的に回答した生徒の割合

	H24	H27	H30
県(公立)(%)	52.5	64.0	70.6
全国(公立)(%)	56.5	67.2	72.3
県と全国の差(pt)	▲4.0	▲3.2	▲1.7

質問 49 に肯定的に回答した
生徒の割合の推移



中学校理科

調査結果から授業改善へ

条件制御の知識・技能を活用して、ガスバーナーの空気の量を変えて炎の色と金網に付くススの量を調べる実験を計画する際に、「変えない条件」を指摘できるようにする。

授業改善のヒントとなる問題の概要

中学校 理科 4 (2)

- 4 科学部の雪子さんは、図書便りに紹介されていたファラデーの「ロウソクの科学」を読んで、科学的に探究してレポートにまとめました。



炎の色とスス（炭素）の量



ロウソクの炎から飛んでいくスス（炭素）をご覧ください。ススが生じるのは、空気が不足したまま燃焼しているためです。

ガスバーナーの炎が赤いときに、金網にススがついたのは、空気が不足したまま燃焼したからかな。

ススがついた金網



ロウソクの炎に金網を当てると、ススがつきます。ロウソクの炎が赤いのは、ススが炎の熱によって輝くからです。

ガスバーナーの炎が赤いときは、ススの量が多いのかな。ガスバーナーの炎が青いときは、ススの量が少ないのかな。



レポート

課題

ガスバーナーの空気の量を変えて、炎の色と金網につくスス（炭素）の量を調べよう。

【実験】

表1のように、変える条件と変えない条件を決めて、炎の色と金網につくススの量を調べる。

表1

変える条件	空気の量
変えない条件	ガスの量、 X 、・・・・・・

- (2) 表1の に適する変えない条件がいくつかあります。変えない条件を1つ書きなさい。

(正答の条件)

次の(a)又は(b)を満たしているもの。

(a) 金網の位置（高さ）や種類について記述している。

(b) 炎に金網を当てる時間について記述している。

問題番号	解答類型	県反応率 (%)	全国反応率 (%)	正答
1	(a) を満たしているもの	32.2	30.4	◎
2	(b) を満たしているもの	12.6	13.7	◎
3	(a) 及び (b) を満たしているもの	0.0	0.1	○
4	(a) を満たしているが、(b) 以外を記述しているもの	0.1	0.2	
5	(b) を満たしているが、(a) 以外を記述しているもの	0.0	0.0	
4 (2)	金網とガスバーナー以外の実験器具に関して記述しているもの	2.0	1.9	
7	炎に関して当てる時間以外について記述しているもの	19.2	19.7	
8	変える条件、変えない条件として示されている条件を記述しているもの	4.6	4.2	
99	上記以外の解答	15.3	14.3	
0	無解答	13.9	15.5	
正答率		44.8	44.2	

分析・考察

- 本問題は、実験を計画する際に、「変えない条件」を指摘できるかをみる問題である。自然の事物・現象から問題を見だし、仮説を立てて実験を行うとき、現象を変化させる条件が複数あれば、変える条件を1つにして、他の条件は変えないようにする。このことは実験を計画する際に確認しておく事項であるが、前回に引き続き本県の生徒に課題が見られた。
- 本県の正答率は44.8%で、全国の前年を上回ってはいるものの引き続き課題があると考えられる。条件制御については、小学校において、「条件を制御しながら実験を行い、問題を科学的に解決する」学習活動を進めているが、中学校において定着には至っていない。小学校で身に付けた問題解決の能力を活用して課題解決に取り組むために、条件制御を意識した実験計画を立てる必要があるのではないかと考える。
- 解答類型8の本県の反応率は4.6%であり、解答類型99の反応率は15.3%である。「変える条件(独立変数)」、「変えない条件」、「変化すること(従属変数)」の条件制御について明確に理解できていないことが原因だと考えられる。

授業改善のポイント

【実験目的に応じた条件を指摘し、条件制御の知識・技能を活用できるようにする】

実験を計画し、科学的に探究する上で「変える条件(独立変数)」「変えない条件」そして「変化すること(従属変数)」とその「原因として考えられる要因」を適切に指摘できることが大切である。

指導に当たっては、「何のために実験を行うのか」「何を調べるとよいか」「調べることで何が分かるか」等、実験を行う目的を確認させ、しっかりと見通しを持たせることが大切である。生徒同士で「変化すること」「原因として考えられる要因」を挙げ、それらの妥当性を検討したり、「変える条件」「変えない条件」を整理したりして実験計画を立てさせる。そのためには、生徒一人一人が自分の考えをもった上で、他者の考えを聞き、自分の考えと比較、検討したり、さらには改善できるよう教師が「この条件を変えるとどの条件を同じにしておく必要がある?」という助言や「この計画は何を確かめる実験なの?」と問い返しをしたりすることも有効である。

調査結果から授業改善へ

オームの法則を使って、抵抗の値を求めることができるようにする。
(「おや?」「なぜ?」と思って、主体的に探究することができるようにする。)

授業改善のヒントとなる問題の概要

中学校 理科 6 (2) 抵抗の大きさ

- 6 自転車のライトの豆電球を、豆電球型のLED(発光ダイオード)に換えました。歩いて自転車を押しているとき、豆電球型のLEDは豆電球に比べて明るく点灯したことに疑問をもち、理科の授業で科学的に探究しました。

黒板

課題
豆電球や豆電球型のLEDの点灯の様子と電力は、どのような関係があるのだろうか。

【実験】
図1のような回路をつくり、豆電球に加える電圧を変えたときの回路に流れる電流の大きさと、豆電球の点灯の様子を調べる。
豆電球型のLEDについても同様に調べる。

図1

【結果】

表1 豆電球

電圧 (V)	0.0	1.5	3.0
電流 (A)	0.00	0.42	0.60
電力 (W)	0.00	0.63	1.80

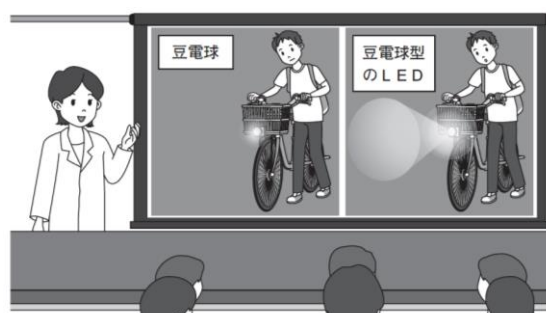
表2 豆電球型のLED

電圧 (V)	0.0	1.5	3.0
電流 (A)	0.00	0.05	0.07
電力 (W)	0.00	0.08	0.21

点灯の様子

点灯の様子	点灯しない	暗い	明るい
豆電球			
豆電球型のLED			

【考察】
表1と表2の結果から、
○ 豆電球も豆電球型のLEDも、明るくなるほど電力は **Y** といえる。
○ 豆電球型のLEDは、豆電球より明るいのに、電力は **Z** といえる。



- (2) 豆電球に3.0Vの電圧を加えたときの回路に流れる電流を、表1から求めなさい。
また、このときの豆電球の抵抗の大きさは何Ωですか。

問題 番号	解答類型		県 反応率 (%)	全国 反応率 (%)	正 答
6 (2)	1	5.0, 5 と解答しているもの。	47.4	51.9	◎
	2	0.5, 50 と解答しているもの。	7.3	6.9	
	3	0.20, 0.2 と解答しているもの。	2.6	2.3	
	4	1.80, 1.8 と解答しているもの。	6.5	6.8	
	5	42.86, 42.85, 42.9, 42.8, 43.42 と解答しているもの。	0.1	0.0	
	6	3.57 と解答しているもの。	0.2	0.2	
	7	30.00, 30.0, 30 と解答しているもの。	1.0	0.6	
	8	1.67, 1.66, 1.7, 1.6 と解答しているもの。	0.0	0.0	
	99	上記以外の解答	20.4	16.5	
	0	無解答	14.3	14.6	
正答率			47.4	51.9	

分析・考察

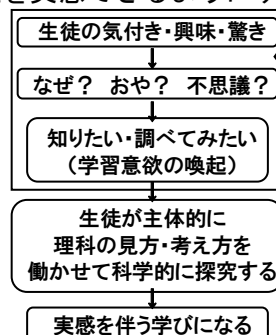
- 本問題は、実験の結果を示した表から必要な値を読み取り、オームの法則を使って、抵抗の値を求めることができるかをみる問題である。
- 本県の正答率は47.4%で、全国の正答率を4.5ポイント下回っている。抵抗を求めることには、平成27年度の調査(【中学校】理科5(1))においても本県の正答率が58.8%と課題が見られた。前回調査では、電圧や電流の大きさの数値を示し、計算すれば求められたが、今回調査では、抵抗を求めるために必要なデータを表から選択することに課題があり、正答率が低かったと考えられる。
- 解答類型99(上記以外の解答)と解答類型0(無解答)を合わせた反応率は34.7%である。また、本県の生徒質問紙の「理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行いましたか」では、95.2%の生徒が「週1回以上」「月1回以上」と肯定的な回答をしており、全国の割合より8.1ポイント上回っている。この結果より、本県では観察や実験をよく行っているが、目的意識をもって観察や実験に取り組むことができない生徒がいると考えられる。生徒が自ら問題を見だし、科学的に探究しようとする力を身に付けられていないことに課題があると考えられる。

授業改善のポイント

【導入を工夫し、生徒に疑問を持たせることで、観察や実験を行う必要性を実感できるようにする】

自然の事物・現象を科学的に探究するためには、授業の導入を工夫することが大切である。導入で、生徒が「おや?」「なぜ?」と疑問を持つと、生徒が考えてみたいと思うようになり、自然と対話や観察・実験の必要性を実感すると考えられる。

指導に当たっては、教師が課題を示すのでなく、生徒自らが問題を見だし、課題を設定できるようにすることが考えられる。例えば、2つの異なる自然事象を比較させたり、葛藤の起こる自然現象を演示実験で見せたりして、教師が「比べてみて不思議に思うことは?」、「今日の課題(考えるべきこと)は何?」などと問いかけることが考えられる。



導入の工夫・課題設定が大切!

教科等横断的な視点からの授業改善に向けて

※相関係数の絶対値が0.2以上で、やや相関が認められる。0.4以上で相関が認められる。

■小学校国語の「読むこと」に関わる問題の平均正答率と算数Bの各問題の正答率との相関

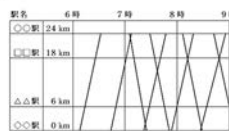
問題番号	算数B									
	1 (1)	1 (2)	2 (1)	2 (2)	3 (1)	3 (2)	4 (1)	4 (2)	5 (1)	5 (2)
「読むこと」	0.29	0.37	0.30	0.30	0.29	0.13	0.35	0.34	0.38	0.21

■中学校国語の「読むこと」に関わる問題の平均正答率と数学Bの各問題の正答率との相関

問題番号	数学B													
	1 (1)	1 (2)	1 (3)	2 (1)	2 (2)	2 (3)	3 (1)	3 (2)	3 (3)	4 (1)	4 (2)	4 (3)	5 (1)	5 (2)
「読むこと」	0.43	0.35	0.45	0.44	0.43	0.43	0.40	0.50	0.26	0.38	0.43	0.41	0.25	0.24

③ 太一さんは、自分の地域を走る列車の写真を撮影し、紹介しようと
考えています。そこで、ダイヤグラムを参考にして、撮影計画を立て
ることにしました。

ダイヤグラムとは、下ののように、横軸を時刻、縦軸をある駅からの
道のりとし、駅と駅間の列車の運行のようすを直線で表したもので
す。



次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

(1) ダイヤグラムでは、列車の運行のようすが直線で表されています。
このように直線で表しているのは、次のように考えているからです。

列車の運行のようすを直線で表しているのは、
 が一定であると考えているからです。

上の に当てはまる言葉として正しいものを、下の
からエまでの中から1つ選びなさい。

ア 列車の速さ
イ 列車の出発時刻
ウ 列車の到着時刻
エ 列車の走行距離

(2) 太一さんは、A 駅から B 駅までの列車を 13 時台に撮影する予定です。そこで、列車の運行のようすについて調べました。

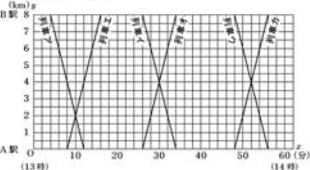
調べたこと

- A駅からB駅までの道のりは8 kmである。
- 13時台の列車の発着時刻は、次のようになっている。

	B駅発	A駅着		A駅発	B駅着
列車ア	13:04	13:12	列車工	13:08	13:16
列車イ	13:26	13:34	列車才	13:26	13:34
列車ウ	13:48	13:56	列車力	13:48	13:56

そして、ダイヤグラムを参考にして、13時から x 分経過したときの、それぞれの列車のA駅からの道のりを y kmとして、 x と y の関係を下のような直線のグラフに表しました。

太一さんが作ったグラフ



太一さんは、すれ違う列車の写真を撮影したいと考え、縦ページの太一さんが作ったグラフをもとに列車のすれ違いが起こるおよその地点を調べています。

列車のすれ違いは、A駅からの道のりが $\boxed{11}$ km の地点で1回、A駅からの道のりが $\boxed{22}$ km の地点で2回起こる。

太一さんが作ったグラフをもとに、上の ①、② に当てはまる数をそれぞれ求めなさい。

(3) 太一さんは、A駅からの道のりが
6 km の地点にある鉄橋を通る列車Aと
列車Bの写真を撮影したいと考えていま
す。

このとき、A駅からの道のりが6kmの地点において、判明してから列車工が通るまでにおよそ何分かかるかは、前ページ太一さんが作ったグラフから求めることができます。その方法も明しなさい。ただし、実際に時間を求める必要はありません。

※中学校数学B 問題3

国語の「読むこと」に関わる問題の平均正答率と小学校算数Bの問題③(2)を除く問題の正答率との間に相関が認められる。例えば左の中学校数学Bの問題③のように問題文が長い場合、分かっていることと問われていることを整理しながら読む力が不十分であることが、問題を解けない原因の一つとして考えられる。各教科等においても、学習内容に応じた読む力を育てる指導が必要である。

■小学校国語の「書くこと」に関わる問題の平均正答率と算数B、理科の記述式問題の正答率との相関

問題番号	算数B				
	① (2)	② (2)	③ (1)	④ (2)	⑤ (1)
「書くこと」	0.41	0.33	0.29	0.36	0.39

問題番号	理科	
	2 (3)	4 (4)
「書くこと」	0.22	0.30

■中学校国語の「書くこと」に関わる問題の平均正答率と数学B、理科の記述式問題の正答率との相関

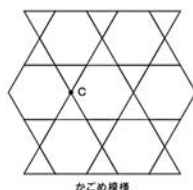
問題番号	数学B				
	① (3)	② (2)	③ (3)	④ (3)	⑤ (2)
「書くこと」	0.38	0.37	0.22	0.36	0.20

問題番号	理科					
	2	3	4	4	8	9
	(4)	(3)	(2)	(3)	(3)	(2)
「書くこと」	0.30	0.31	0.29	0.39	0.36	0.21



※小学校国語B 問題1三

はるとさんたちは、さらに、かごめ模様も調べることにしました。
はるとさんたちが調べているかごめ模様は、合同な正三角形と合同な正六角形でできつめられていました。



点Cのまわりに集まった角の大きさの和は、 360° になっています。

(2) 点Cのまわりに集まった角の大きさの和が、 360° になっていることを、
着目した図形の「名前」と「角の大きさ」がわかるようにして、言葉や式
を使って書きましょう。

※小学校算数B 問題1(2)

国語の「書くこと」に関わる問題の平均正答率と算数、数学、理科の全ての記述式問題の正答率との間に相関が認められる。例えば、左の小学校国語Bの問題①③は、条件に合わせて考えを書くことが求められている。また、小学校算数Bの問題①②においても条件を踏まえて考えを書くことが求められている。教科の内容に関わる指導を充実させるとともに、各教科等においても、学習内容に応じた書く力を育てる指導が必要である。

IV 質 問 紙 調 査 結 果

(児童生徒質問紙・学校質問紙)

1 児童生徒質問紙 調査結果一覧

						1段目：香川県（公立）の割合（％）										2段目：全国（公立）の割合（％）				
質問番号		掲載P	H29 番号	質問事項		選択肢（質問の選択項目は、P102を参照）										その他 ※	無回答	1の差 1＋2の差		
小	中					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10					
【規範意識、自己有用感等】																				
1	1	103	6	自分には、よいところがあると思いますか	小	38.9	43.2	12.3	5.4							0.1	0.0	-2.3		
						41.2	42.8	11.6	4.3							0.1	0.0	-1.9		
					中	28.5	45.7	18.5	7.3							0.0	0.0	-5.2		
						33.7	45.1	15.2	6.0							0.0	0.0	-4.6		
2	2	103	38/40	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	小	39.9	43.2	12.6	4.1						0.1	0.0	-2.6			
						42.5	42.8	11.2	3.3						0.1	0.1	-2.2			
					中	30.8	51.4	14.1	3.6						0.0	0.1	-1.7			
						32.5	49.7	13.6	4.2						0.0	0.1	0.0			
3	3	103	10	将来の夢や目標を持っていますか	小	65.4	18.8	9.2	6.5						0.0	0.0	-2.8			
						68.2	16.9	8.6	6.2						0.1	0.0	-0.9			
					中	39.7	30.1	19.9	10.2						0.0	0.1	-5.6			
						45.3	27.1	17.4	10.0						0.0	0.2	-2.6			
4	4	103	49/51	学校のきまり（規則）を守っていますか	小	37.9	48.3	11.8	1.9						0.1	0.0	-5.9			
						43.8	45.7	8.9	1.5						0.1	0.0	-3.3			
					中	58.0	36.4	4.5	0.9						0.0	0.1	-5.4			
						63.4	31.7	3.9	0.9						0.0	0.1	-0.7			
5	5	103	52/54	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	小	87.0	10.1	1.7	1.1						0.1	0.0	1.1			
						85.9	10.9	1.9	1.1						0.1	0.0	0.3			
					中	81.4	14.6	2.7	1.2						0.0	0.1	0.7			
						80.7	14.8	3.0	1.5						0.0	0.1	0.5			
6	6	103	53/55	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	小	75.3	19.7	3.3	1.6						0.1	0.0	1.1			
						74.2	21.0	3.3	1.3						0.1	0.1	-0.2			
					中	72.2	22.9	3.6	1.1						0.0	0.2	1.5			
						70.7	24.2	3.5	1.4						0.0	0.2	0.2			
【基本的生活習慣等】																				
7	7	104	1	朝食を毎日食べていますか	小	83.3	10.4	4.6	1.6							0.0	0.0	-1.5		
						84.8	9.7	4.1	1.4							0.0	0.0	-0.8		
					中	80.2	12.8	4.9	2.1							0.0	0.0	0.5		
						79.7	12.2	5.4	2.6							0.0	0.0	1.1		
8	8	104	2	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	小	40.3	36.3	17.6	5.6						0.1	0.0	-1.1			
						41.4	35.6	17.2	5.7						0.1	0.0	-0.4			
					中	34.9	38.5	20.2	6.4						0.0	0.0	-0.7			
						35.6	38.6	19.2	6.5						0.0	0.0	-0.8			
9	9	104	3	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	小	59.8	28.9	8.5	2.7						0.1	0.0	-0.1			
						59.9	28.9	8.2	2.9						0.1	0.0	-0.1			
					中	56.6	33.5	7.7	2.1						0.0	0.1	0.7			
						55.9	34.4	7.5	2.2						0.0	0.1	-0.2			
【学習習慣等】																				
10	10	104	29/31	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	小	30.6	36.6	24.4	8.3							0.1	0.0	-0.1		
						30.7	36.9	24.7	7.6							0.1	0.0	-0.4		
					中	15.7	35.0	35.6	13.6							0.0	0.0	-0.9		
						16.6	35.5	34.8	13.0							0.0	0.1	-1.4		
11	11	104	30/32	家で、学校の宿題をしていますか	小	86.8	10.2	2.3	0.6						0.1	0.0	-1.1			
						87.9	9.2	2.2	0.6						0.1	0.0	-0.1			
					中	68.1	23.8	6.5	1.6						0.0	0.0	-0.4			
						68.5	23.1	6.4	1.9						0.0	0.0	0.3			
12	12	105	31/33 32/34	家で、学校の授業の予習・復習をしていますか	小	31.1	35.6	25.5	7.8						0.1	0.0	3.4			
						27.7	34.9	27.3	10.0						0.1	0.0	4.1			
					中	17.5	37.6	30.9	13.9						0.0	0.0	-0.7			
						18.2	37.0	31.6	13.1						0.0	0.1	-0.1			
13	13	105	H28 25	家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか	小	56.2	28.0	11.7	4.0						0.1	0.0	18.7			
						37.5	32.4	20.5	9.4						0.1	0.1	14.3			
					中	34.7	36.9	19.7	8.5						0.0	0.1	-0.4			
						35.1	36.2	20.1	8.4						0.0	0.2	0.3			
14	14	105	15	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）	小	9.4	19.6	38.7	23.8	6.9	1.5				0.1	0.0	-3.1			
						12.5	16.8	36.9	23.8	7.4	2.5				0.1	0.0	-0.3			
					中	8.9	25.9	35.8	16.7	8.3	4.2				0.1	0.1	-1.6			
						10.5	25.9	34.2	16.6	7.9	4.9				0.0	0.0	-1.6			
15	15	105	18	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）	小	8.1	12.4	23.0	25.6	14.0	16.8				0.1	0.0	0.3			
						7.8	11.5	21.8	25.1	14.9	18.7				0.1	0.1	1.2			
					中	6.2	8.6	15.8	19.5	13.2	36.7				0.0	0.1	0.1			
						6.1	8.7	16.1	22.6	13.5	32.9				0.0	0.1	0.0			
【基本的生活習慣等】																				
16	16	105	21/23	放課後に何をして過ごすことが多いですか	小	70.3	7.3	5.0	31.1	47.6	50.5	83.5	74.8	62.8		-	0.2	6.2		
						64.1	7.0	6.1	32.2	46.5	47.2	81.0	67.1	74.5		-	0.3	6.5		
					中	88.6	37.1	1.9	40.7	15.6	18.8	74.2	50.0	29.3		-	0.1	6.4		
						82.2	42.2	2.3	42.1	17.7	21.6	77.3	50.2	36.9		-	0.1	1.3		

質問番号				掲載P	H29 番号	質問事項		選択肢(質問の選択項目は、P102を参照)										その他 ※	無回答	1の差
小	中	1	2					3	4	5	6	7	8	9	10	1+2の差				
17	17	106	22/24 23/25		週末に何をして過ごすことが多いですか	小	15.0	62.8	14.9	29.6	46.7	7.2	86.4	84.4	60.0		-	0.5	0.2	
							14.8	58.1	16.1	25.7	43.4	9.0	82.4	80.7	63.6		-	0.6	4.9	
							12.8	74.4	39.1	22.5	10.1	17.9	3.3	80.1	62.7	53.4		-	0.2	0.9
	中	11.9	69.4	41.0	23.4	10.1	21.0	4.0	80.1	61.3	61.3	56.0		-	0.2	5.9				
18	18	106	24/26		家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか	小	54.6	27.7	13.4	4.3							0.1	0.0	1.8	
							52.8	27.7	15.0	4.4								0.1	0.0	1.8
							45.4	31.7	17.5	5.1								0.0	0.3	0.7
	中	44.7	31.3	17.6	5.9										0.0	0.5	1.1			
【地域や社会に関わる活動の状況等】																				
19	19	106	65/67		5年生まで（1、2年生の時）に受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか	小	50.2	29.2	14.5	6.0							0.1	0.0	10.1	
							40.1	34.3	18.3	7.2								0.1	0.0	5.0
							26.3	39.7	25.0	9.0								0.0	0.0	-5.3
	中	31.6	37.1	22.0	9.2										0.0	0.1	-2.7			
20	20	106	40/42		今住んでいる地域の行事に参加していますか	小	36.3	26.0	19.5	18.0							0.1	0.1	0.4	
							35.9	26.8	19.2	18.0								0.1	0.1	-0.4
							19.3	26.8	28.9	25.0								0.0	0.0	0.7
	中	18.6	27.0	27.9	26.4										0.0	0.1	0.5			
21	21	106	41/43		地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか	小	28.5	38.6	22.1	10.7							0.1	0.0	1.7	
							26.8	37.0	24.5	11.6								0.1	0.0	3.3
							19.2	38.8	29.2	12.7								0.0	0.1	-0.8
	中	20.0	39.3	28.1	12.5										0.0	0.1	-1.3			
22	22	107	42/44		地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	小	18.1	32.7	33.3	15.8							0.1	0.0	0.8	
							17.3	32.6	33.0	17.0								0.1	0.0	0.9
							10.1	26.5	42.1	21.2								0.0	0.1	-0.5
	中	10.6	28.1	39.6	21.7										0.0	0.1	-2.1			
23	23	107	43/45		地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか	小	45.1	19.8	34.0								1.1	0.0	9.0	
							36.1	26.5	36.2									1.1	0.1	2.3
							55.1	18.1	26.6									0.0	0.2	3.3
	中	51.8	21.8	26.2											0.0	0.2	-0.4			
24	24	107	44/46		地域の大人（学校や塾・習い事の先生を除く）に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか	小	19.6	23.7	27.8	28.7							0.2	0.0	1.5	
							18.1	23.5	27.5	30.7								0.1	0.1	1.7
							9.7	17.9	26.7	45.6								0.0	0.1	0.5
	中	9.2	16.3	25.5	48.8										0.0	0.2	2.1			
25	25	107	45/47		新聞を読んでいますか	小	7.5	14.9	22.6	54.9							0.2	0.0	0.1	
							7.4	12.5	19.0	60.9								0.1	0.1	2.5
							5.6	10.4	18.4	65.2								0.0	0.3	0.7
	中	4.9	9.0	15.3	70.4										0.0	0.3	2.1			
26	26	107	46/48		テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか（携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む）	小	58.3	28.3	8.1	5.0							0.2	0.0	1.0	
							57.3	28.9	8.4	5.1								0.1	0.2	0.4
							51.0	34.9	9.4	4.1								0.0	0.7	-1.4
	中	52.4	34.2	8.6	4.1										0.0	0.7	-0.7			
【学習に対する興味・関心や授業の理解度等（算数・数学）】																				
27	27	107	78/80		算数（数学）の勉強は好きですか	小	31.0	29.3	22.8	16.8							0.1	0.0	-2.9	
							33.9	30.1	21.7	14.2								0.1	0.0	-3.7
							23.3	26.5	27.6	22.6								0.0	0.0	-2.4
	中	25.7	28.2	26.6	19.5										0.0	0.0	-4.1			
28	28	108	79/81		算数（数学）の勉強は大切だと思いますか	小	67.0	24.6	5.6	2.7							0.0	0.0	-0.3	
							67.3	24.8	5.5	2.3								0.1	0.0	-0.5
							44.0	37.9	12.5	5.5								0.0	0.0	-1.9
	中	45.9	37.7	11.6	4.7										0.0	0.1	-1.7			
29	29	108	80/82		算数（数学）の授業の内容はよく分かりますか	小	39.0	43.5	13.1	4.4							0.1	0.0	-3.1	
							42.1	41.3	12.8	3.7								0.1	0.0	-0.9
							26.7	43.4	21.3	8.5								0.0	0.0	-1.5
	中	28.2	42.8	21.4	7.4										0.0	0.1	-0.9			
30	30	108	81/83		算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか	小	41.7	29.9	19.4	8.9							0.1	0.0	-2.7	
							44.4	29.9	17.5	8.1								0.1	0.0	-2.7
							73.5	19.2	4.3	2.9								0.0	0.0	0.1
	中	73.4	19.1	4.5	2.8										0.0	0.1	0.2			
31	31	108	82/84		算数（数学）の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか	小	38.2	39.6	17.4	4.7							0.1	0.0	-1.5	
							39.7	38.7	16.4	5.0								0.1	0.0	-0.6
							27.5	40.5	23.8	8.2								0.0	0.0	-1.6
	中	29.1	41.2	22.6	7.0										0.0	0.1	-2.3			
32	32	108	83/85		算数（数学）の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	小	29.8	35.4	23.4	11.3							0.1	0.0	1.3	
							28.5	35.9	24.6	10.9								0.1	0.0	0.8
							12.1	26.6	37.4	23.8								0.0	0.1	0.1
	中	12.0	26.7	37.5	23.6										0.0	0.1	0.0			
33	33	109	84/86		算数（数学）の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	小	68.0	23.6	5.7	2.7							0.0	0.0	2.5	
							65.5	24.8	7.0	2.6								0.1	0.0	1.3
							35.1	38.3	18.4	8.0								0.0	0.1	0.2
	中	34.9	38.0	18.8	8.2										0.0	0.1	0.5			
34	34	109	85/87		算数（数学）の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	小	44.0	33.7	16.1	6.0							0.1	0.0	-0.2	
							44.2	34.3	15.7	5.7								0.1	0.0	-0.8
							32.2	34.9	23.5	9.3								0.0	0.0	-1.2
	中	33.4	35.8	22.1	8.5										0.0	0.1	-2.1			

兒童生徒質問紙 選択肢一覽

※質問番号の 数／数は、（小学校の番号）／（中学校の番号）を示す。

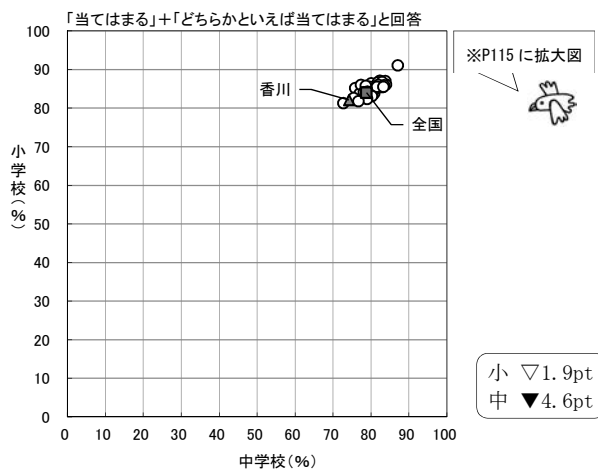
質問番号	選 択 肢			
7～13, 18	1 している	2 どちらかといえば、している	3 あまりしていない	4 全くしていない
1～6, 19～22, 27～36, 38～45 47～50, 55/52, 56/53	1 当てはまる	2 どちらかといえば、当てはまる	3 どちらかといえば、当てはまらない	4 当てはまらない
14	1 3時間以上	2 2時間以上、3時間より少ない	3 1時間以上、2時間より少ない	4 30分以上、1時間より少ない
15	1 2時間以上	2 1時間以上、2時間より少ない	3 30分以上、1時間より少ない	4 10分以上、30分より少ない
16/*	1 家で勉強や読書をしている 2 放課後子供教室や放課後児童クラブ（学童保育）に参加している 3 地域の活動に参加している（地域学校協働本部や地域住民等による学習・体験プログラムを含む） 4 学習塾など学校や家以外の場所で勉強している 5 習い事（スポーツに関する習い事を除く）をしている 6 スポーツ（スポーツに関する習い事を含む）をしている 7 家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしている 8 家族と過ごしている 9 友達と遊んでいる			
*/16	1 学校の部活動に参加している 2 家で勉強や読書をしている 3 地域の活動に参加している（地域学校協働本部や地域住民等による学習・体験プログラムを含む） 4 学習塾など学校や家以外の場所で勉強している 5 習い事（スポーツに関する習い事を除く）をしている 6 スポーツ（スポーツに関する習い事を含む）をしている 7 家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしている 8 家族と過ごしている 9 友達と遊んでいる			
17/*	1 学校で授業を受けている 2 家で勉強や読書をしている 3 学習塾など学校や家以外の場所で勉強している 4 習い事（スポーツに関する習い事を除く）をしている 5 スポーツ（スポーツに関する習い事を含む）をしている 6 地域の活動に参加している（学校で行われる地域住民や企業等による学習・体験プログラムを含む） 7 家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしている 8 家族と過ごしている 9 友達と遊んでいる			
*/17	1 学校で授業を受けている 2 学校の部活動に参加している 3 家で勉強や読書をしている 4 学習塾など学校や家以外の場所で勉強している 5 習い事（スポーツに関する習い事を除く）をしている 6 スポーツ（スポーツに関する習い事を含む）をしている 7 地域の活動に参加している（学校で行われる地域住民や企業等による学習・体験プログラムを含む） 8 家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしている 9 家族と過ごしている 10 友達と遊んでいる			
23	1 参加したことがある	2 参加したことがない	3 分からない	
24	1 よくある	2 時々ある	3 あまりない	4 全くない
25	1 ほぼ毎日読んでいる	2 週に1～3回程度読んでいる	3 月に1～3回程度読んでいる	4 ほとんど、または、全く読まない
26	1 よく見る	2 時々見る	3 あまり見ない	4 ほとんど、または、全く見ない
37, 51	1 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した 2 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中で諦めたりしたものがあった 3 書く問題は全く解答しなかった			
46	1 週1回以上	2 月1回以上	3 学期に1回以上	4 ほとんど、または、全く行っていない
52/*	1 よく思った	2 時々思った	3 あまり思わなかった	4 全く思わなかった
53/*	1 よくでてきた	2 時々でてきた	3 あまりでてこなかった	4 全くでてこなかった
54/*	1 よく思う	2 時々思う	3 あまり思わない	4 全く思わない
57/54	1 そう思う	2 どちらかといえば、そう思う	3 どちらかといえば、そう思わない	4 そう思わない
58/55～62/59	1 時間が余った	2 ちょうどよかった	3 やや足りなかった	4 全く足りなかった

2 児童生徒質問紙回答結果グラフ

【規範意識、自己有用感等】

自分にはよいところがある

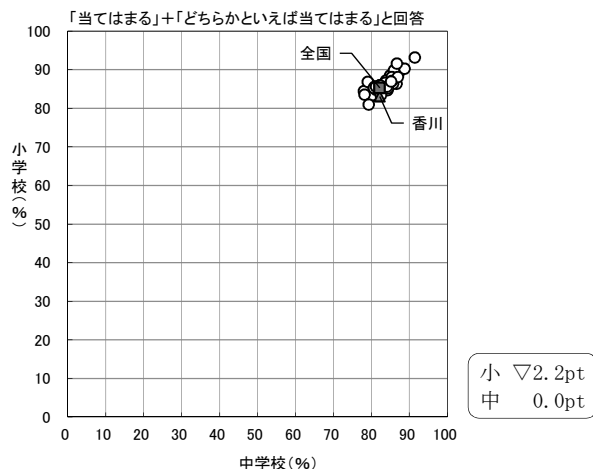
□ 1/1 自分には、よいところがあると思いますか



【規範意識、自己有用感等】

先生はよいところを認めてくれる

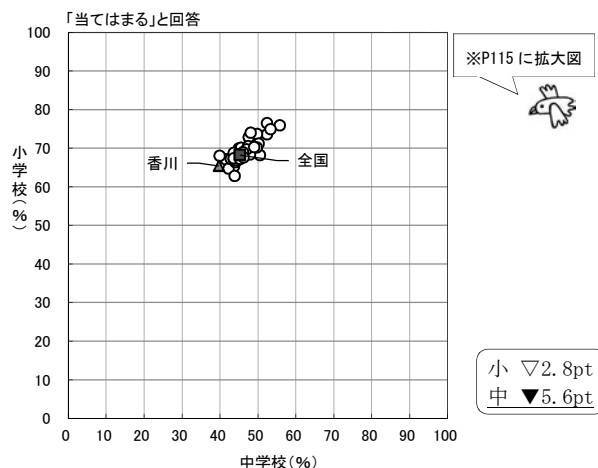
□ 2/2 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



【規範意識、自己有用感等】

将来の夢や希望

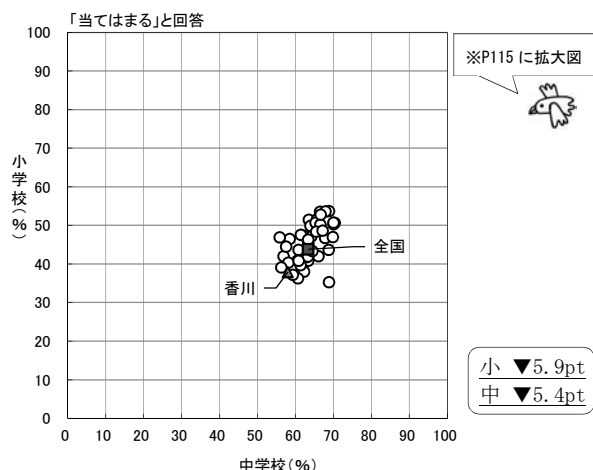
□ 3/3 将来の夢や目標を持っていますか



【規範意識、自己有用感等】

学校のきまりを守っている

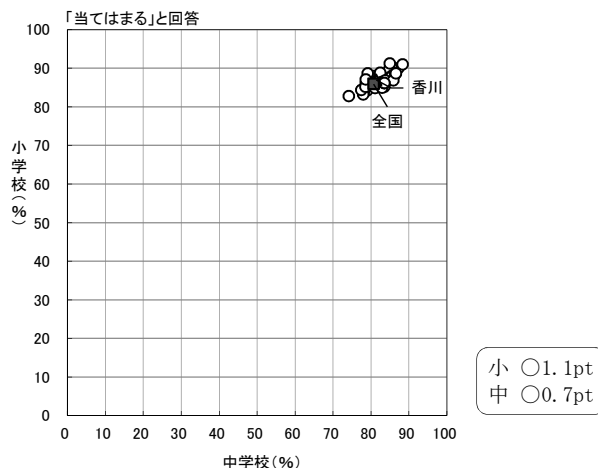
□ 4/4 学校のきまり（規則）を守っていますか



【規範意識、自己有用感等】

いじめは、いけないことだ

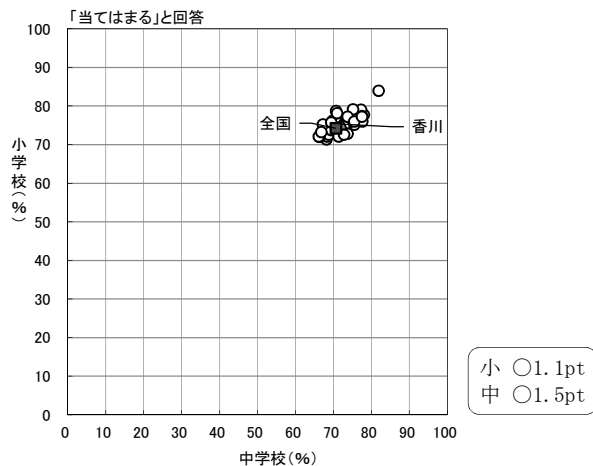
□ 5/5 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



【規範意識、自己有用感等】

人の役に立つ人間になりたい

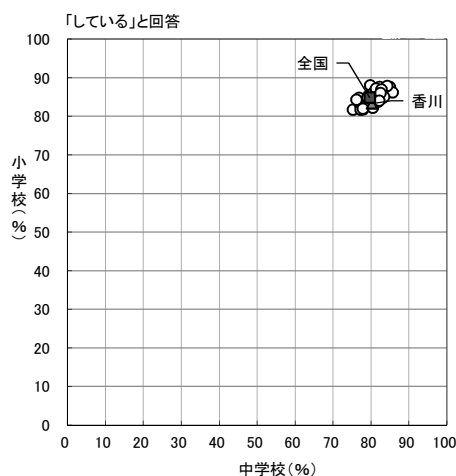
□ 6/6 人の役に立つ人間になりたいと思いますか



【基本的生活習慣等】

朝食

□ 7/7 朝食を毎日食べていますか

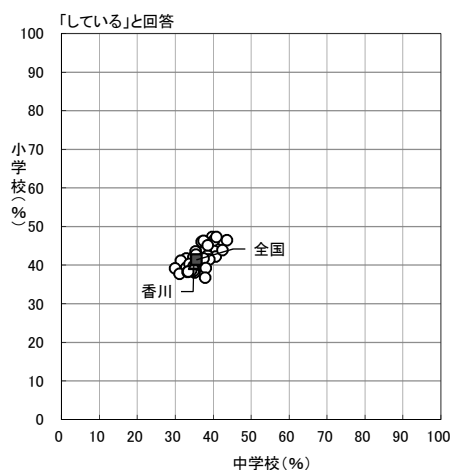


小 ▽1.5pt
中 ○0.5pt

【基本的生活習慣等】

寝る時刻

□ 8/8 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか

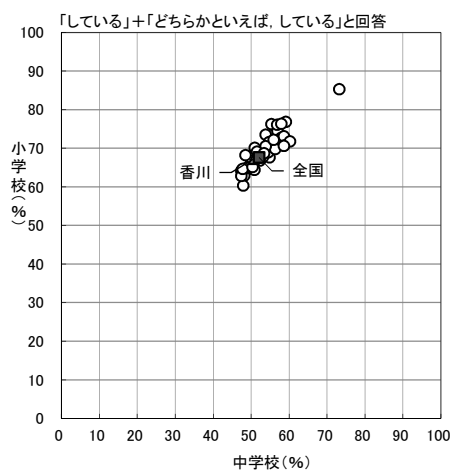


小 ▽1.1pt
中 ▽0.7pt

【学習習慣等】

自分で計画を立てて勉強

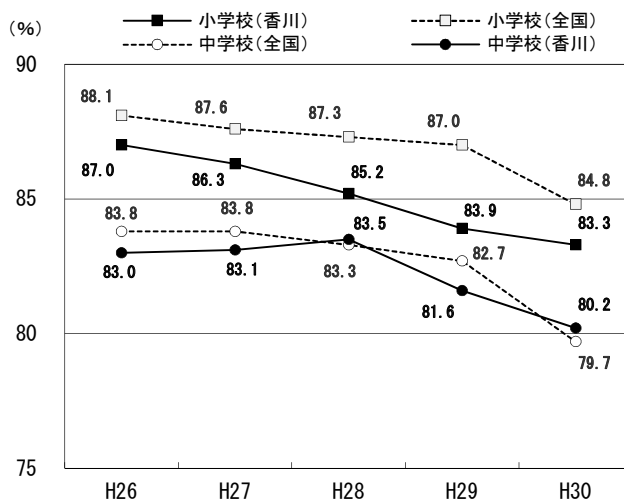
□ 10/10 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか



小 ▽0.4pt
中 ▽1.4pt

【経年変化】

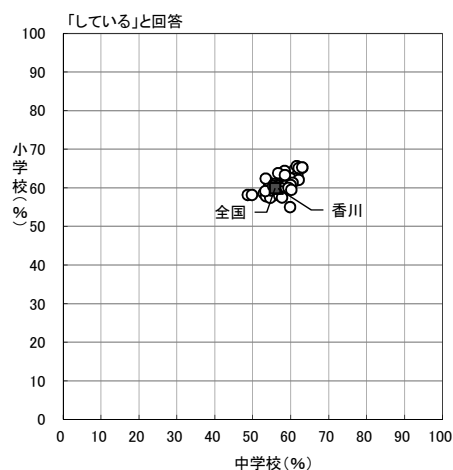
□ 7/7 朝食を毎日食べていますか (「している」と回答)



【基本的生活習慣等】

起きる時刻

□ 9/9 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか

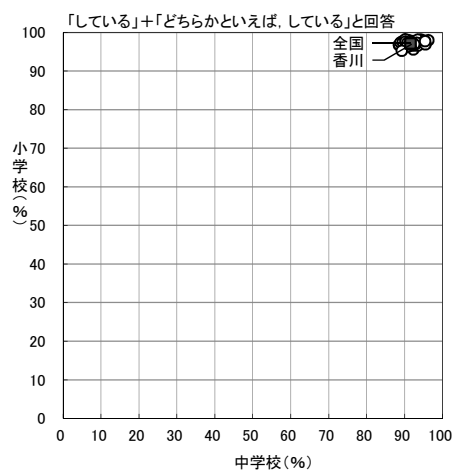


小 ▽0.1pt
中 ○0.7pt

【学習習慣等】

学校の宿題

□ 11/11 家で、学校の宿題をしていますか

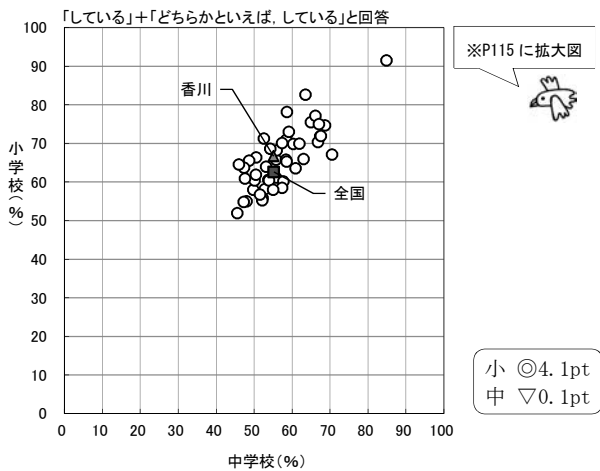


小 ▽0.1pt
中 ○0.3pt

【学習習慣等】

学校の授業の予習・復習

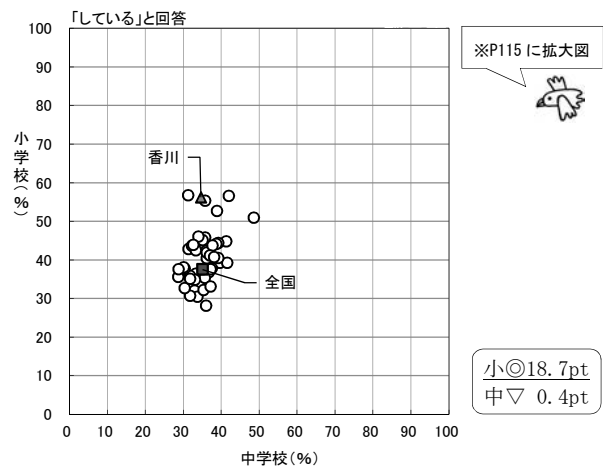
□ 12/12 家で、学校の授業の予習・復習をしていますか



【学習習慣等】

教科書を使って自学自習

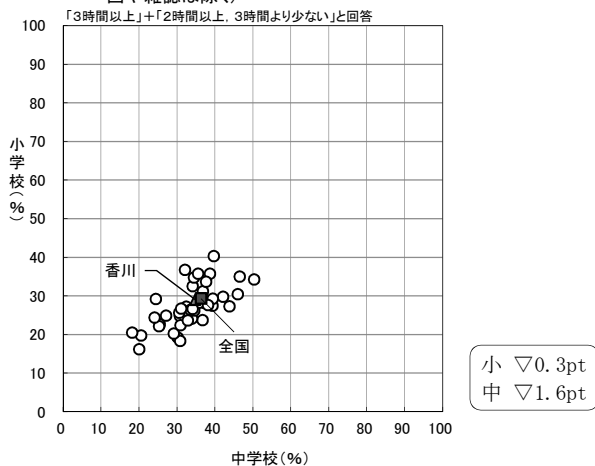
□ 13/13 家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか



【学習習慣等】

普段の勉強時間

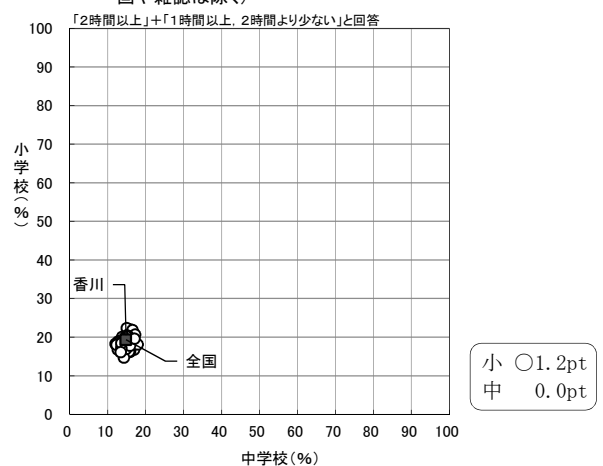
□ 14/14 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)



【学習習慣等】

普段の読書時間

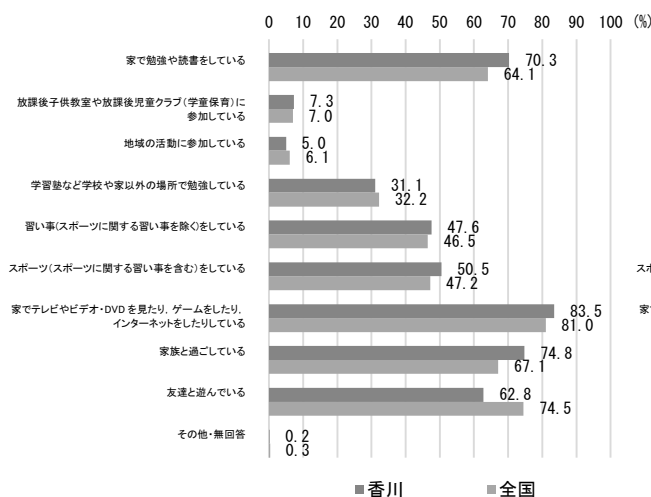
□ 15/15 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)



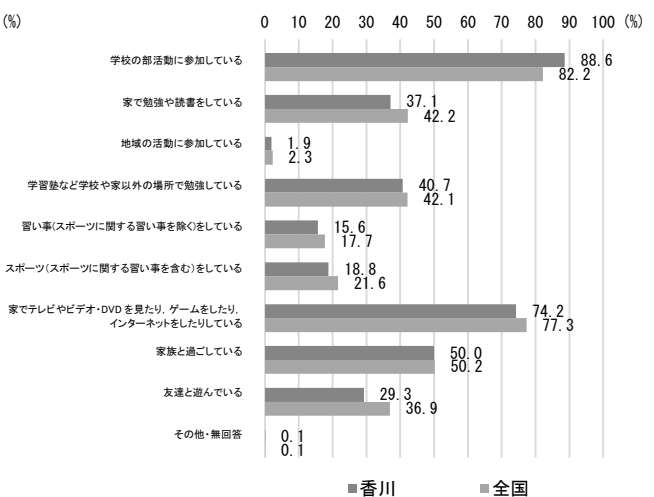
【基本的生活習慣等】

放課後の過ごし方

□ 16/* 放課後に何をして過ごすことが多いですか(小学校)



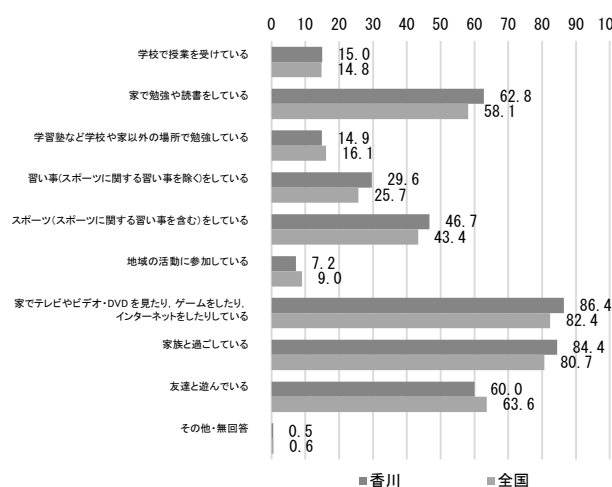
□ */16 放課後に何をして過ごすことが多いですか(中学校)



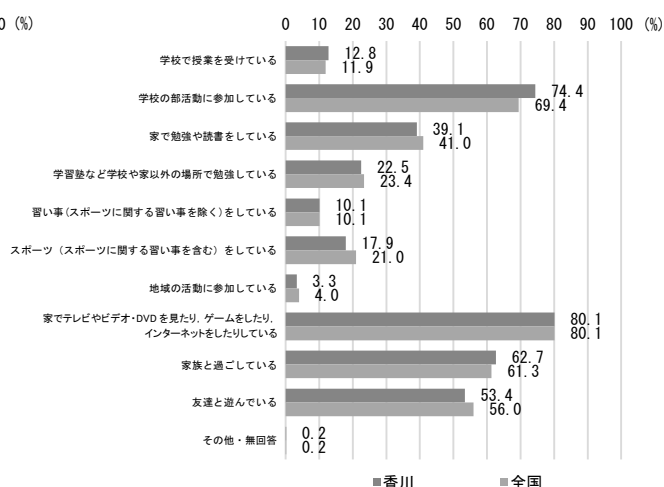
【基本的生活習慣等】

週末の過ごし方

□ 17/＊ 週末に何をして過ごすことが多いですか(小学校)



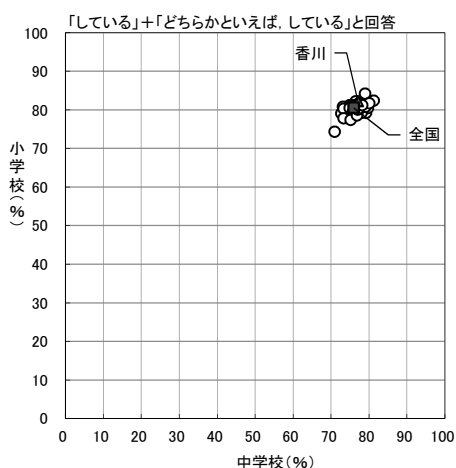
□ ＊/17 週末に何をして過ごすことが多いですか(中学校)



【基本的生活習慣等】

家の人と学校での出来事を話す

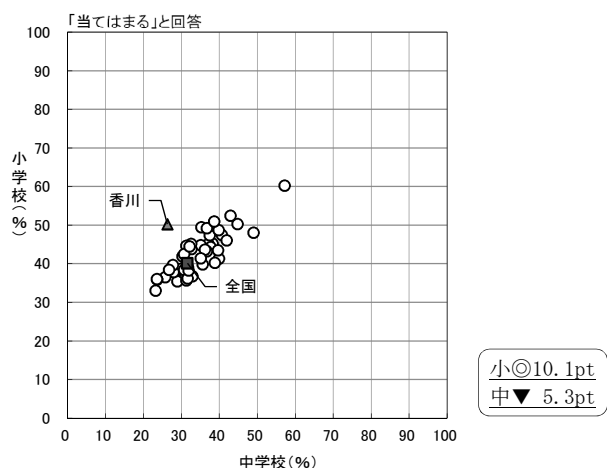
□ 18/18 家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をしますか



【地域や社会に関わる活動の状況等】

地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする

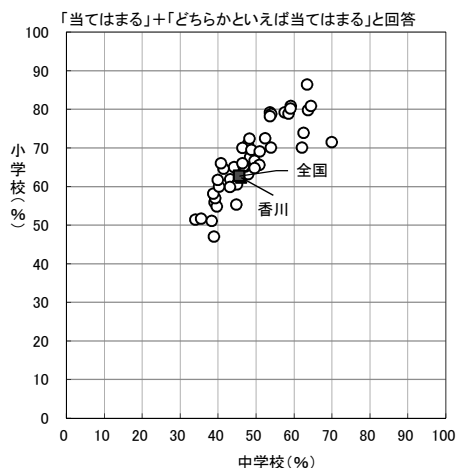
□ 19/19 前学年までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか



【地域や社会に関わる活動の状況等】

地域の行事への参加

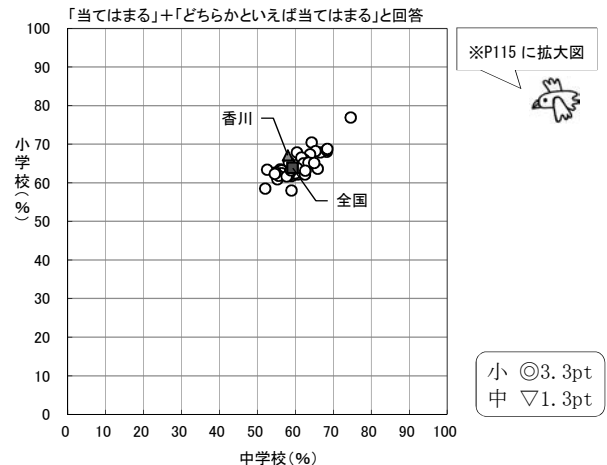
□ 20/20 今住んでいる地域の行事に参加していますか



【地域や社会に関わる活動の状況等】

地域の出来事への関心

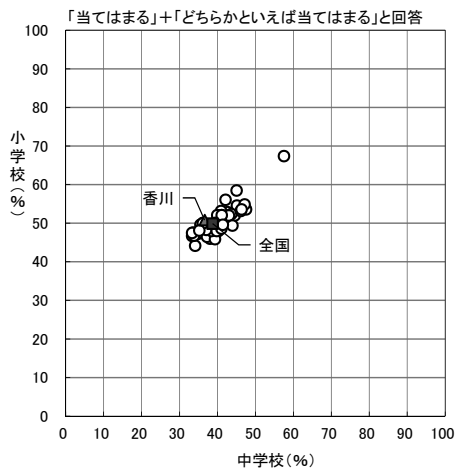
□ 21/21 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか



【地域や社会に関わる活動の状況等】

地域のために何をすべきかを考える

□ 22/22 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか

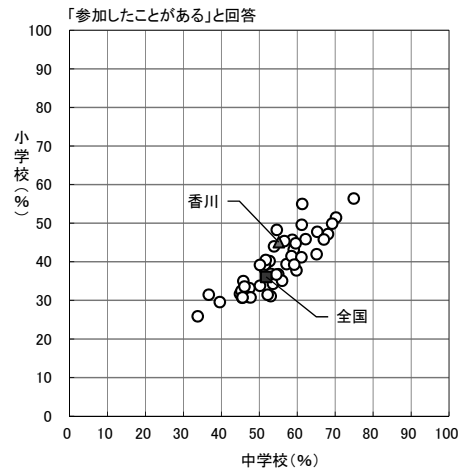


小 ○0.9pt
中 ▼2.1pt

【地域や社会に関わる活動の状況等】

地域のボランティア活動に参加

□ 23/23 地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか

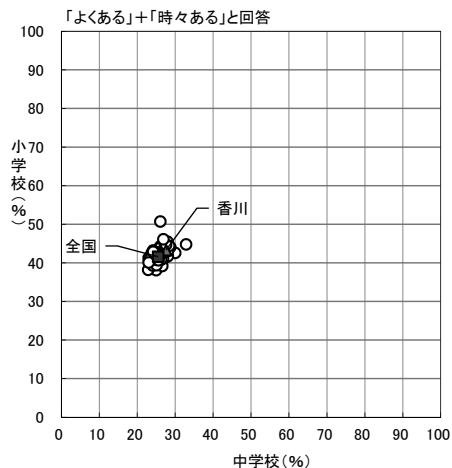


小 ◎9.0pt
中 ◎3.3pt

【地域や社会に関わる活動の状況等】

地域の大人との関わり

□ 24/24 地域の大人(学校や塾・習い事の先生を除く)に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか

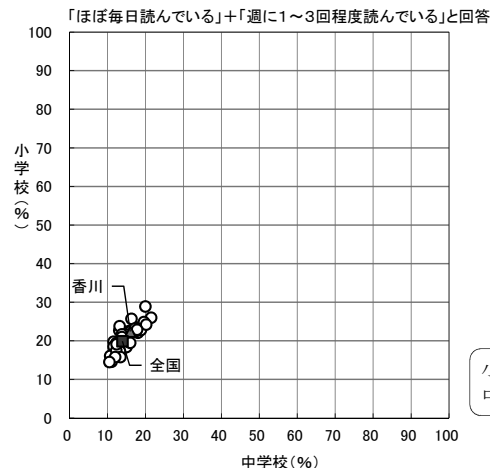


小 ○1.7pt
中 ○2.1pt

【地域や社会に関わる活動の状況等】

新聞を読んでいる

□ 25/25 新聞を読んでいますか

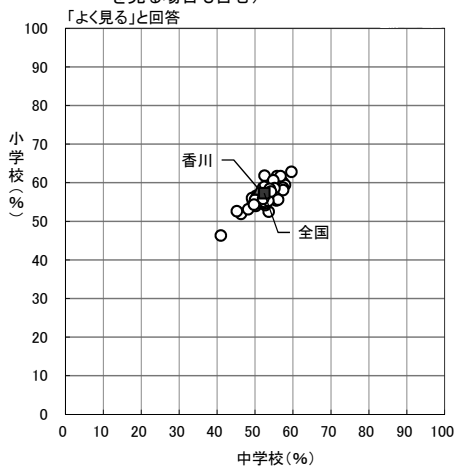


小 ○2.5pt
中 ○2.1pt

【地域や社会に関わる活動の状況等】

ニュース番組を見る

□ 26/26 テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか(携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む)

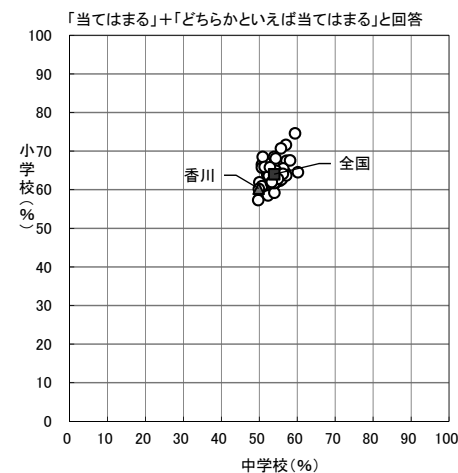


小 ○1.0pt
中 ▼1.4pt

【学習に対する興味・関心や授業の理解度等(算数・数学)】

算数・数学の勉強は好き

□ 27/27 算数(数学)の勉強は好きですか



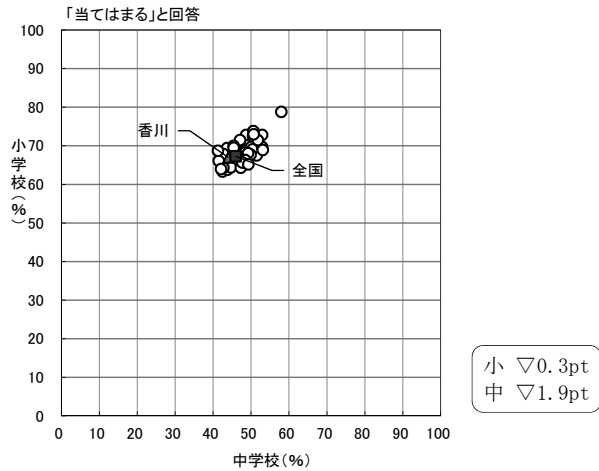
※P116に拡大図

小 ▼3.7pt
中 ▼4.1pt

【学習に対する興味・関心や授業の理解度等（算数・数学）】

算数・数学の勉強は大切

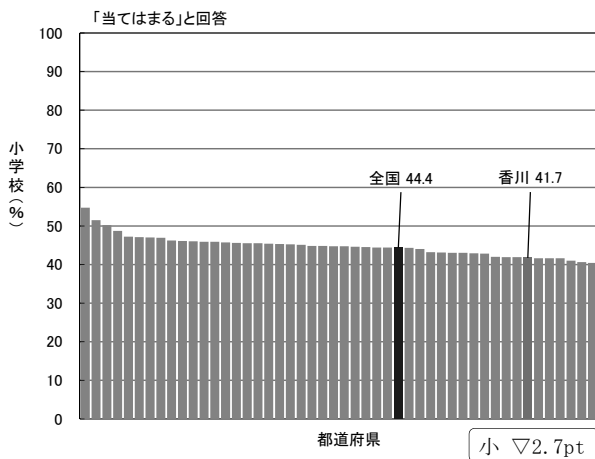
□ 28/28 算数(数学)の勉強は大切だと思いますか



【学習に対する興味・関心や授業の理解度等（算数・数学）】

【小学校】新しい問題を解いてみたい

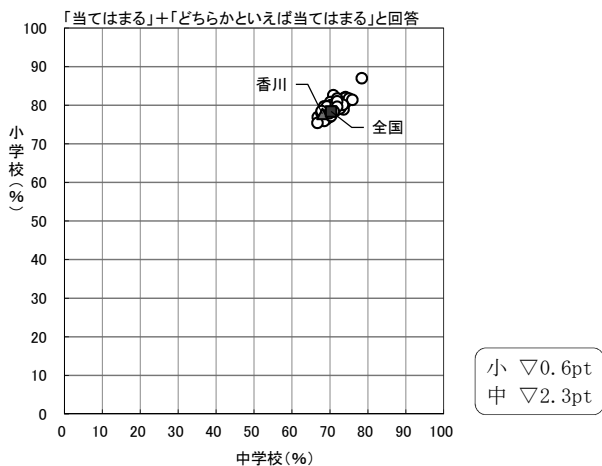
□30/* 算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか



【学習に対する興味・関心や授業の理解度等（算数・数学）】

諦めずにいろいろな方法を考える

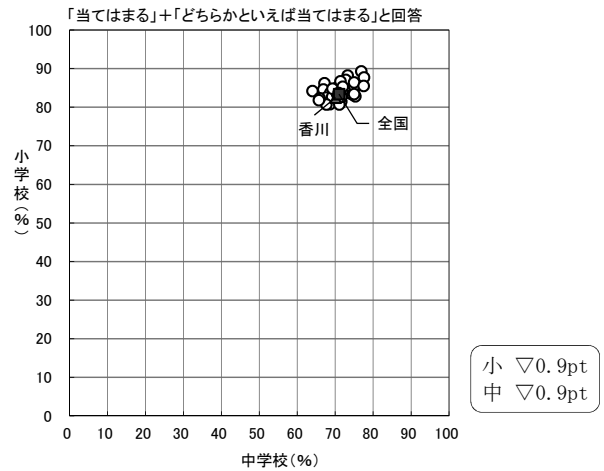
□ 31/31 算数(数学)の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか



【学習に対する興味・関心や授業の理解度等（算数・数学）】

算数・数学の授業の内容はよく分かる

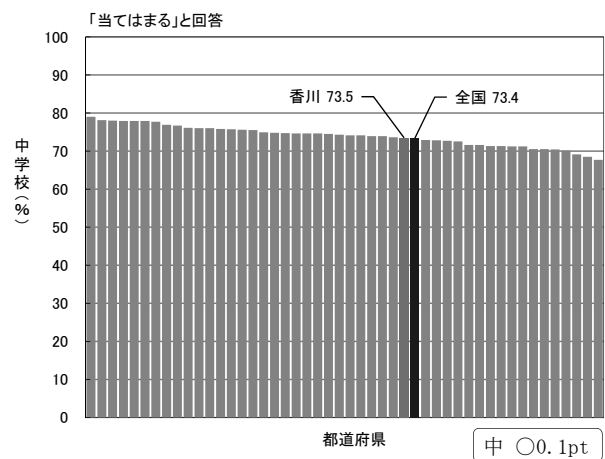
□ 29/29 算数(数学)の授業の内容はよく分かりますか



【学習に対する興味・関心や授業の理解度等（算数・数学）】

【中学校】数学ができるようになりたい

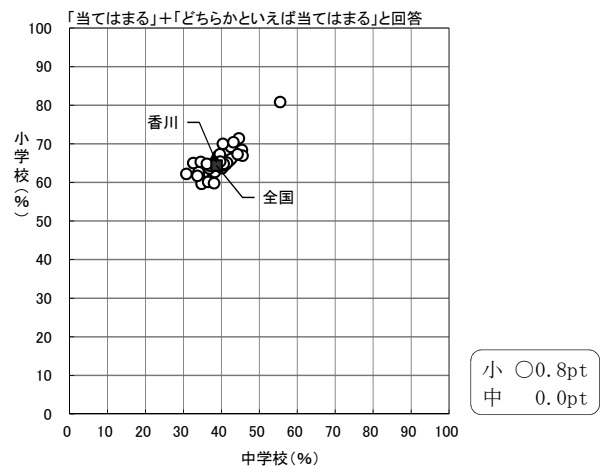
□ */30 数学ができるようになりたいと思いますか



【学習に対する興味・関心や授業の理解度等（算数・数学）】

生活の中で活用できないか考える

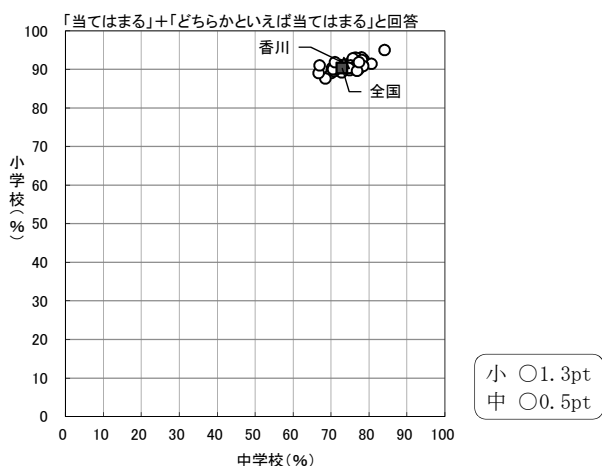
□ 32/32 算数(数学)の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか



【学習に対する興味・関心や授業の理解度等（算数・数学）】

将来、社会に出たときに役に立つ

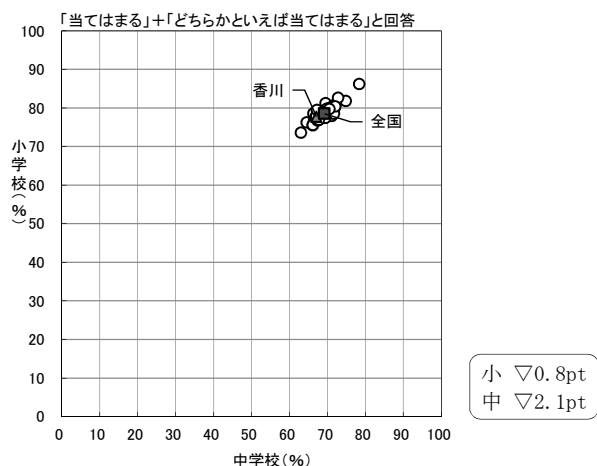
□ 33/33 算数(数学)の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか



【学習に対する興味・関心や授業の理解度等（算数・数学）】

もっと簡単に解く方法がないか考える

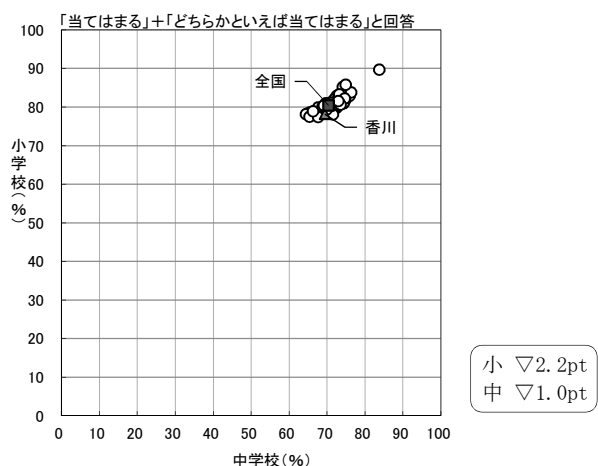
□ 34/34 算数(数学)の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか



【学習に対する興味・関心や授業の理解度等（算数・数学）】

公式やきまりのわけ（根拠）を理解する

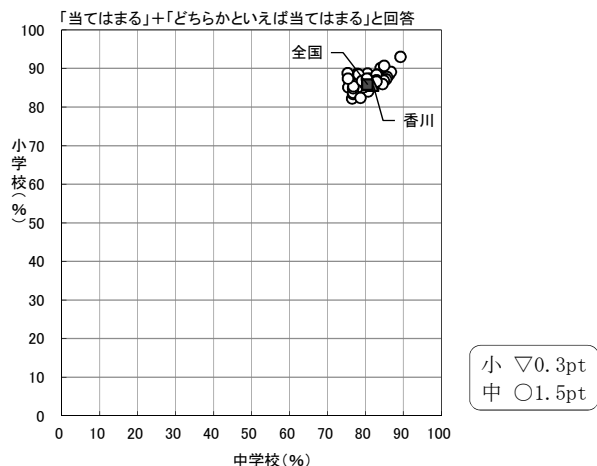
□ 35/35 算数(数学)の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけ(根拠)を理解するようにしていますか



【学習に対する興味・関心や授業の理解度等（算数・数学）】

解き方や考え方が分かるようにノートに書く

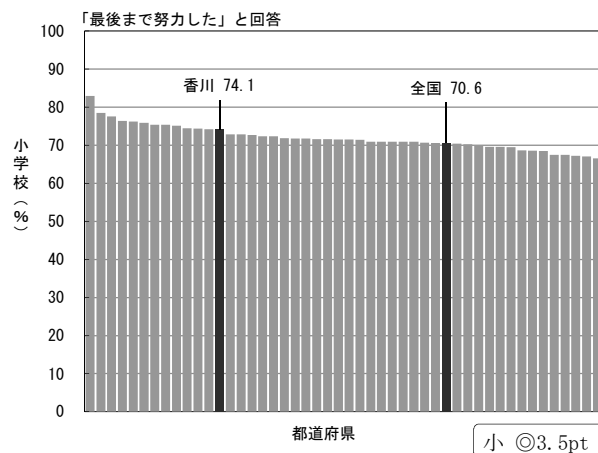
□ 36/36 算数(数学)の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか



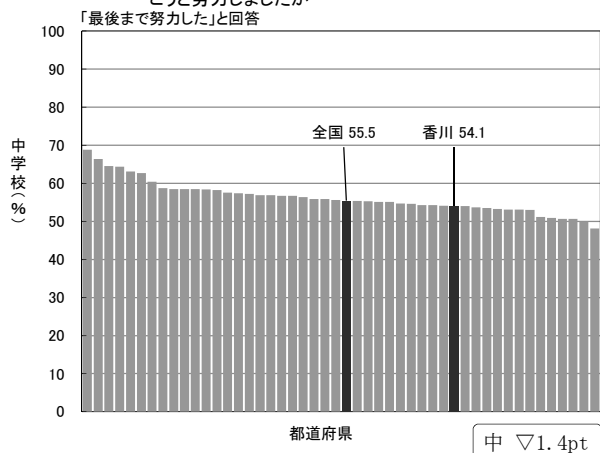
【学習に対する興味・関心や授業の理解度等（算数・数学）】

(書く問題) 最後まで解答を書こうと努力

□37/* 今回の算数の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありましたが、どのように解答しましたか



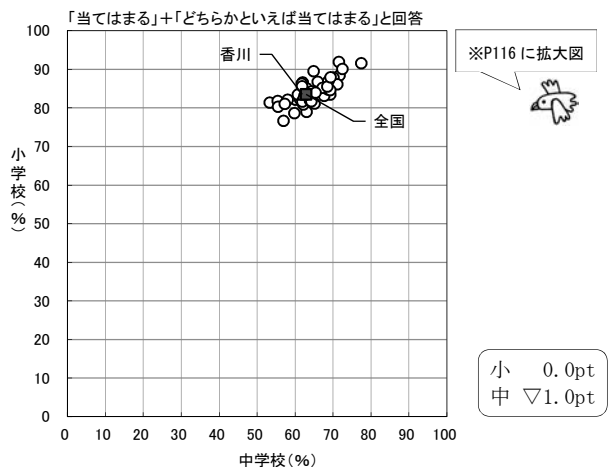
□*/37 今回の数学の問題について、解答を言葉や数、式を使って、説明する問題がありましたが、それらの問題で最後まで解答を書くことと努力しましたか



【学習に対する興味・関心や授業の理解度等（理科）】

理科の勉強は好き

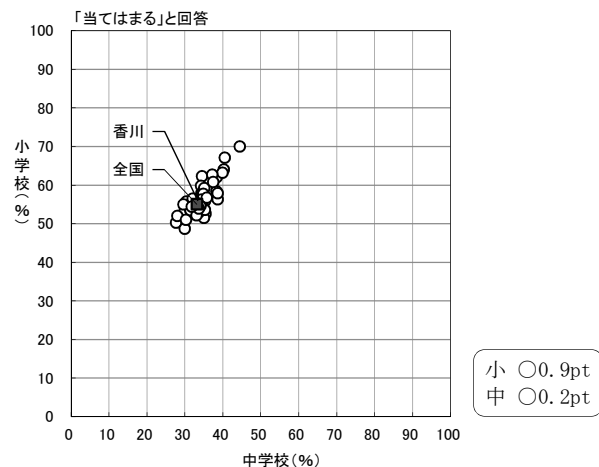
□ 38/38 理科の勉強は好きですか



【学習に対する興味・関心や授業の理解度等（理科）】

理科の勉強は大切

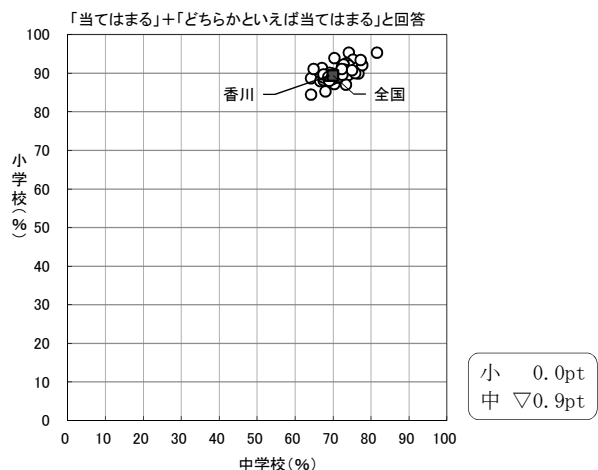
□ 39/39 理科の勉強は大切だと思いますか



【学習に対する興味・関心や授業の理解度等（理科）】

理科の授業の内容はよく分かる

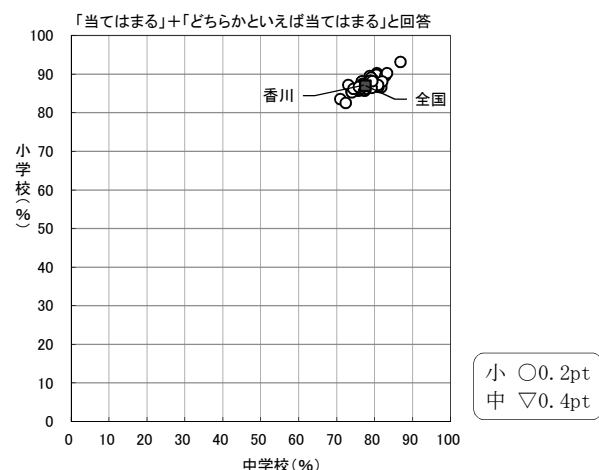
□ 40/40 理科の授業の内容はよく分かりますか



【学習に対する興味・関心や授業の理解度等（理科）】

自然の中で遊んだことや自然観察をしたこと

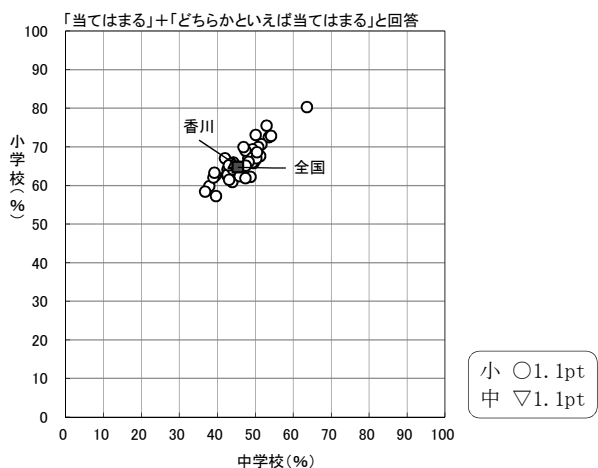
□ 41/41 自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがありますか



【学習に対する興味・関心や授業の理解度等（理科）】

生活の中で活用できないか考える

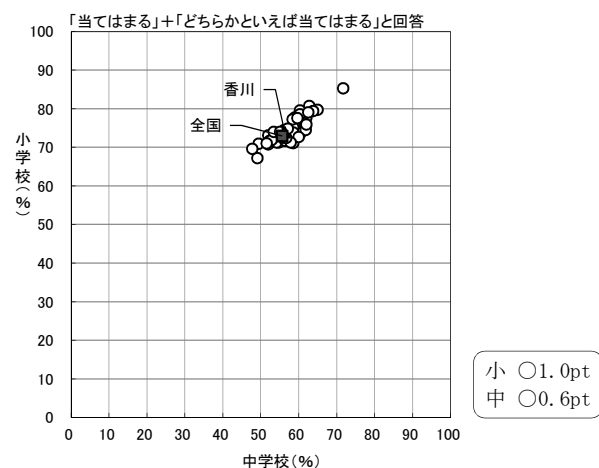
□ 42/42 理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか



【学習に対する興味・関心や授業の理解度等（理科）】

将来、社会に出たときに役に立つ

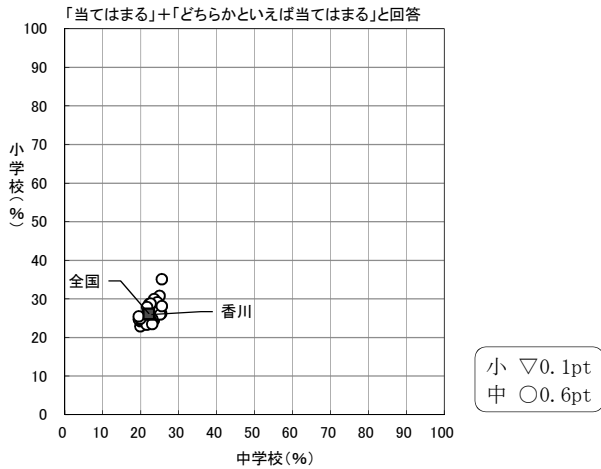
□ 43/43 理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか



【学習に対する興味・関心や授業の理解度等（理科）】

理科等に関係する職業に就きたい

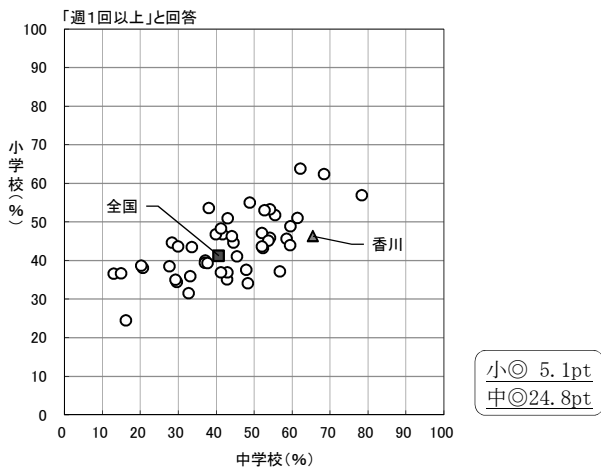
□ 44/44 将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか



【学習に対する興味・関心や授業の理解度等（理科）】

理科室で観察や実験を行っている

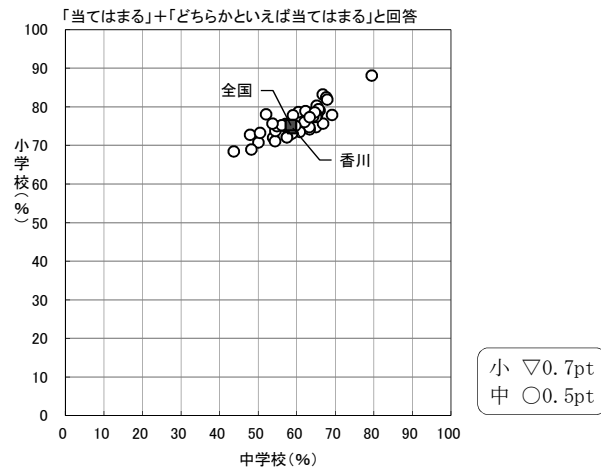
□ 46/46 理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行いましたか



【学習に対する興味・関心や授業の理解度等（理科）】

観察や実験の計画を立てている

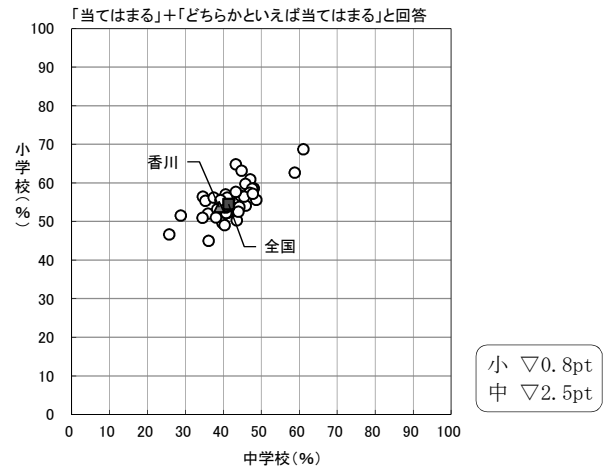
□ 48/48 理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか



【学習に対する興味・関心や授業の理解度等（理科）】

自分の考えを説明したり発表したりしている

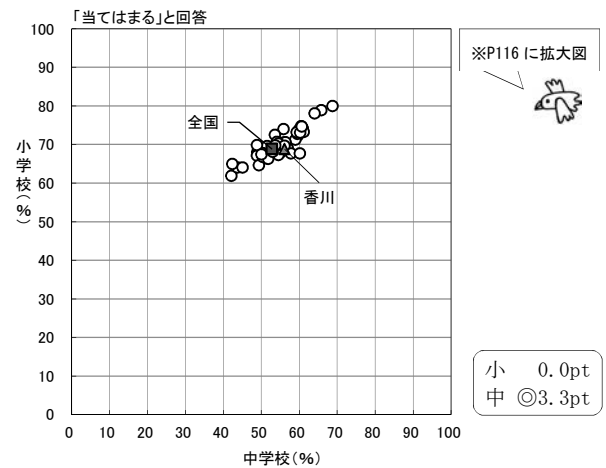
□ 45/45 理科の授業で、自分の考え(考えや考察)をまわりの人に説明したり発表したりしていますか



【学習に対する興味・関心や授業の理解度等（理科）】

観察や実験を行うことは好き

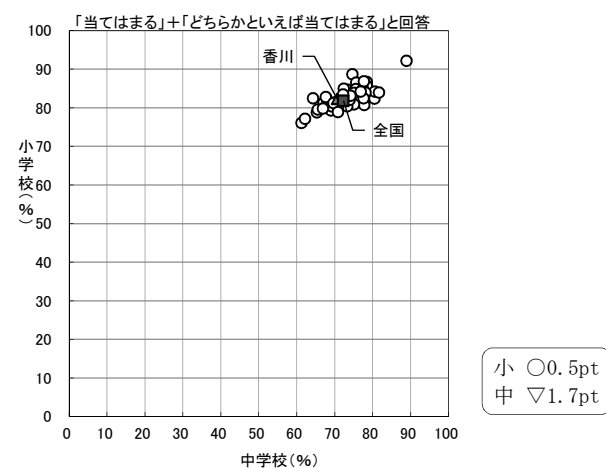
□ 47/47 観察や実験を行うことは好きですか



【学習に対する興味・関心や授業の理解度等（理科）】

観察や実験の結果をもとに考察している

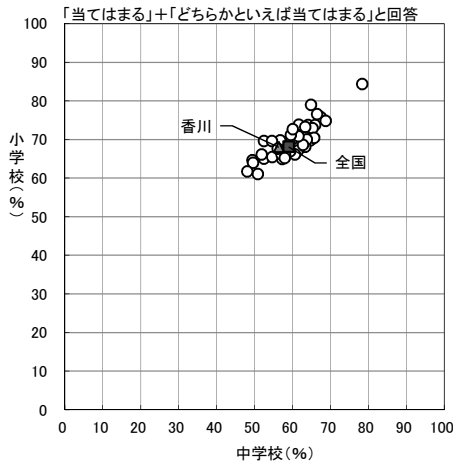
□ 49/49 理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか(小学校)
理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していますか(中学校)



【学習に対する興味・関心や授業の理解度等（理科）】

観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えている

□ 50/50 理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか



小 ▽0.1pt
中 ▽2.6pt

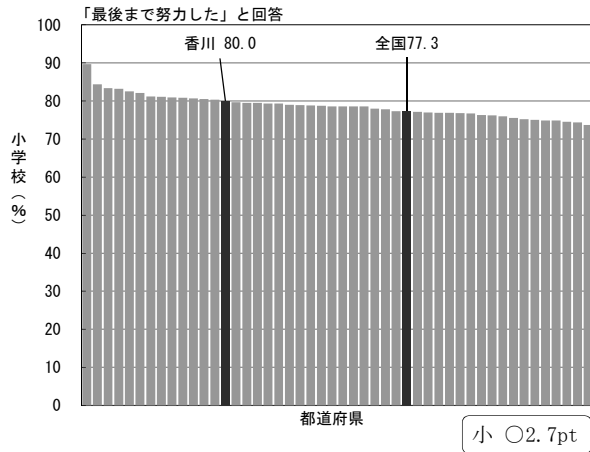


参考：香川県教育委員会 「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた実践事例集」(平成30年2月)より

【学習に対する興味・関心や授業の理解度等（理科）】

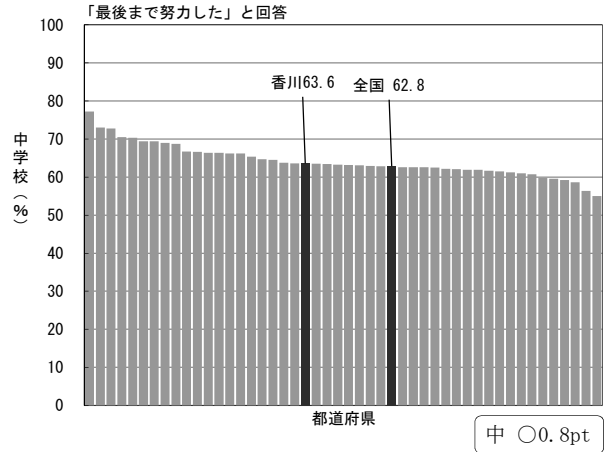
（書く問題）最後まで解答を書こうと努力

□ 51/＊ 今回の理科の問題について、解答を文章などで書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか



小 ○2.7pt

□ ＊/51 今回の理科の問題について、解答を文章などで書く問題がありましたが、最後まで解答を書こうと努力しましたか

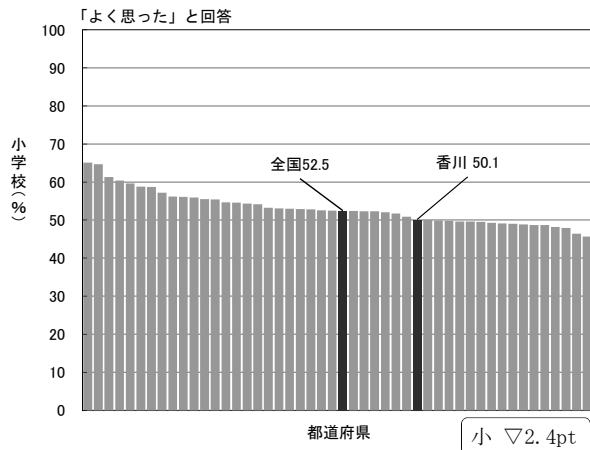


中 ○0.8pt

【学習に対する興味・関心や授業の理解度等（理科）】

【小学校】5年生のとき、理科の授業がおもしろいと思った

□ 52/＊ 5年生のとき、理科の授業がおもしろいと思いましたか

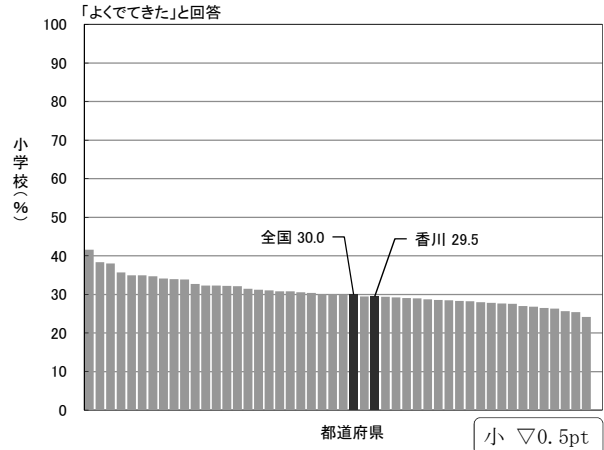


小 ▽2.4pt

【学習に対する興味・関心や授業の理解度等（理科）】

【小学校】5年生のとき、理科の授業を受けた後に、もっと知りたいことができた

□ 53/＊ 5年生のとき、理科の授業を受けた後に、習ったことに関することで、もっと知りたいことができたか

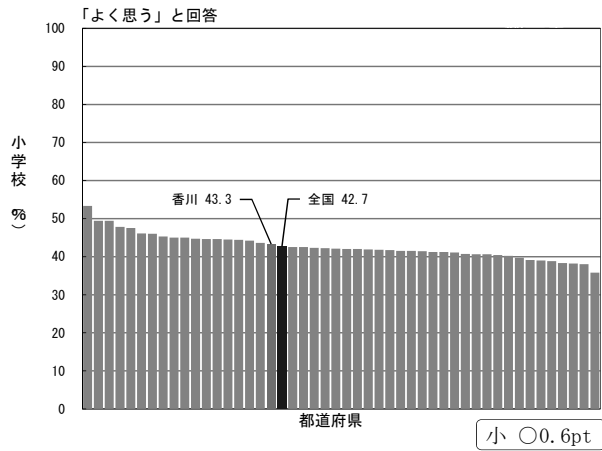


小 ▽0.5pt

【学習に対する興味・関心や授業の理解度等（理科）】

【小学校】今、社会や自然のことがらに「不思議だな」「おもしろいな」などと思う

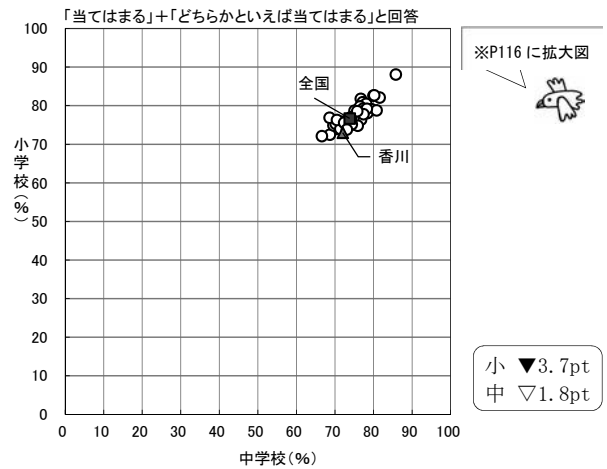
□54/＊ 今、社会のことがらや自然のことがらに、「不思議だな」「おもしろいな」などと思いますか



【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】

課題の解決に向けて、自ら考え、取り組む

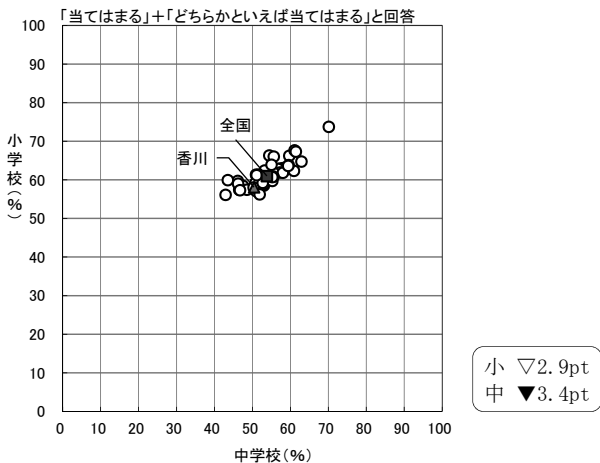
□ 55/52 5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか



【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】

伝えるよう工夫して発表する

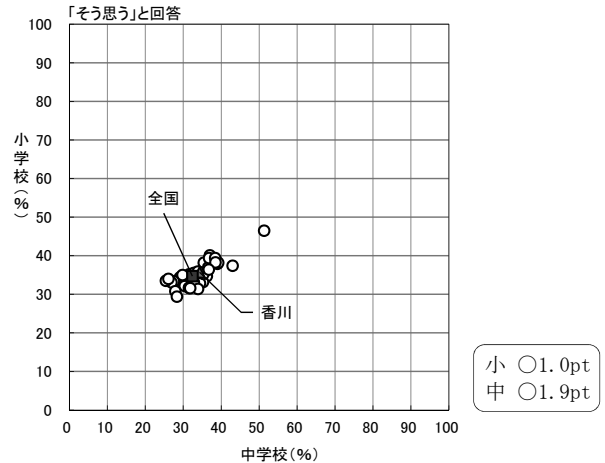
□ 56/53 5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか



【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】

話し合いで考えを深めたり、広げたりする

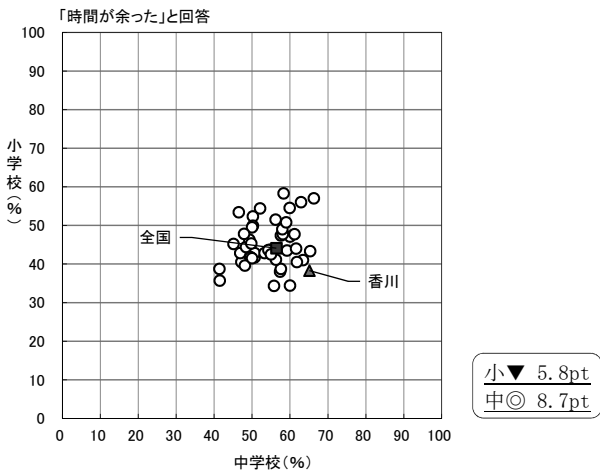
□ 57/54 学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか



【各教科の調査時間の適切性】

解答時間は十分だった（国語A）

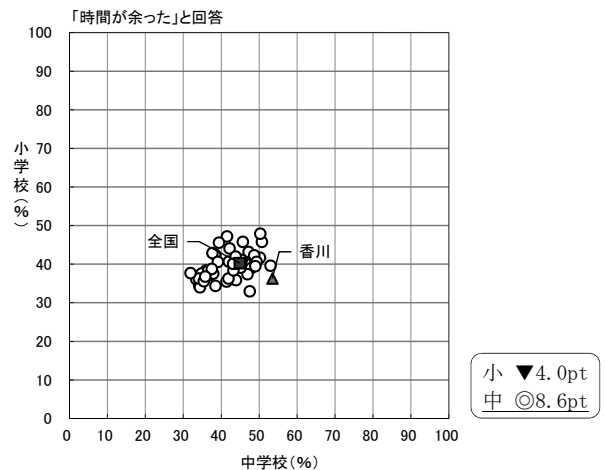
□ 58/55 調査問題の解答時間は十分でしたか（国語A）



【各教科の調査時間の適切性】

解答時間は十分だった（国語B）

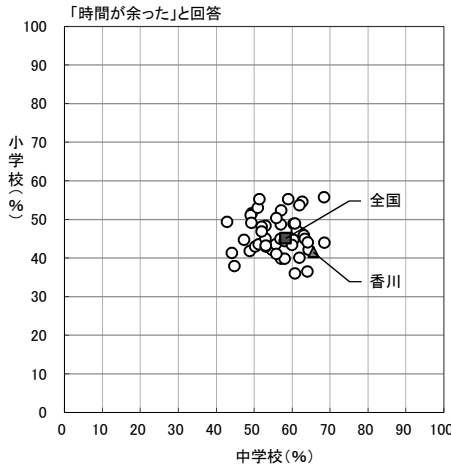
□ 59/56 調査問題の解答時間は十分でしたか（国語B）



【各教科の調査時間の適切性】

解答時間は十分だった（算数 A・数学 A）

□ 60/57 調査問題の解答時間は十分でしたか（算数 A・数学 A）

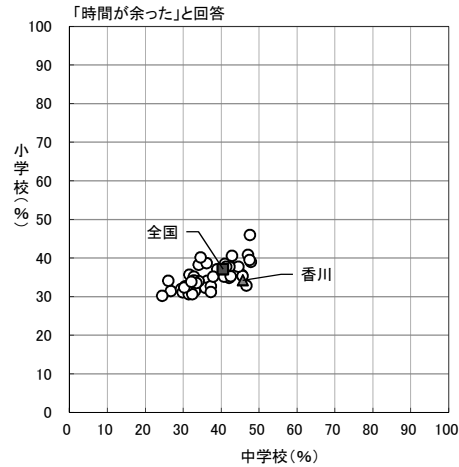


小 ▼3.6pt
中 ◎7.3pt

【各教科の調査時間の適切性】

解答時間は十分だった（算数 B・数学 B）

□ 61/58 調査問題の解答時間は十分でしたか（算数 B・数学 B）



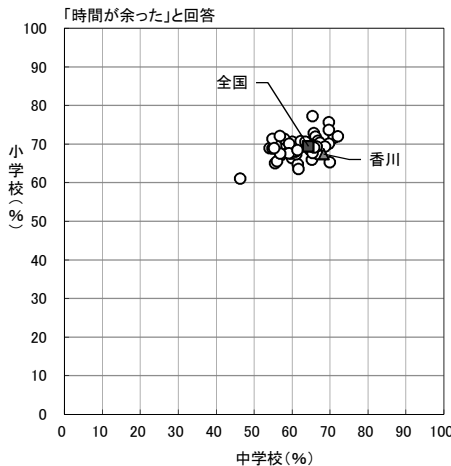
※P116 に拡大図

小 ▼2.9pt
中 ◎5.2pt

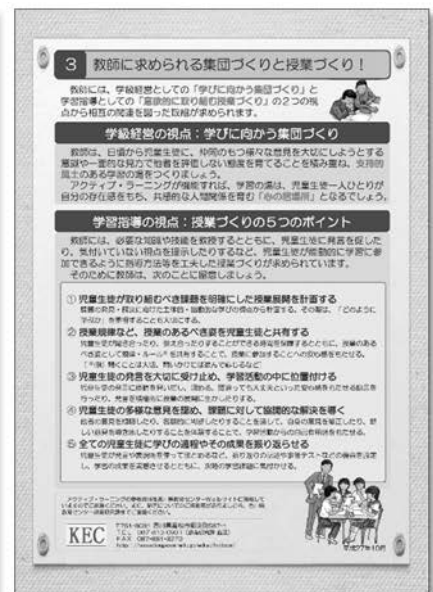
【各教科の調査時間の適切性】

解答時間は十分だった（理科）

□ 62/59 調査問題の解答時間は十分でしたか（理科）



小 ▼2.0pt
中 ◎4.0pt



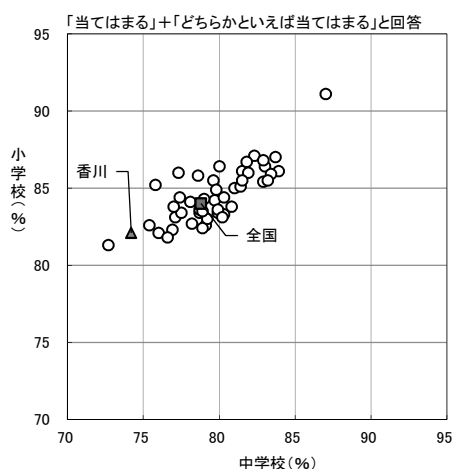
参考：香川県教育センター「アクティブ・ラーニング ノ ススメ in かがわ Leaf 2『アクティブ・ラーニングで学習意欲を高めよう！』(平成 27 年 10 月)より

児童生徒質問紙回答結果グラフ【拡大図】

【規範意識、自己有用感等】

自分にはよいところがある

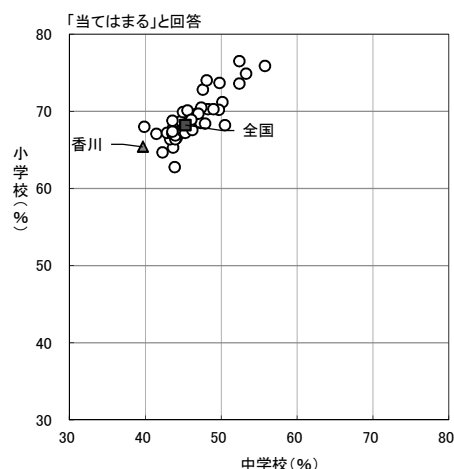
□ 1/1 自分には、よいところがあると思いますか



【規範意識、自己有用感等】

将来の夢や希望

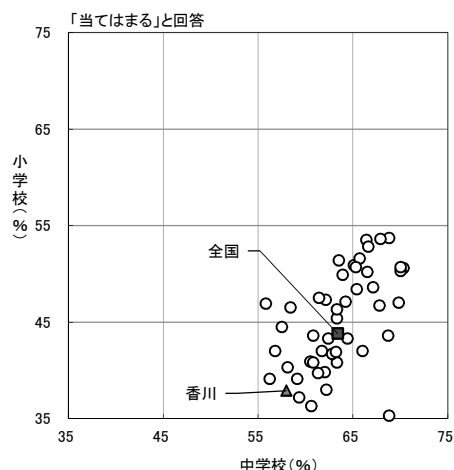
□ 3/3 将来の夢や目標を持っていますか



【規範意識、自己有用感等】

学校のきまりを守っている

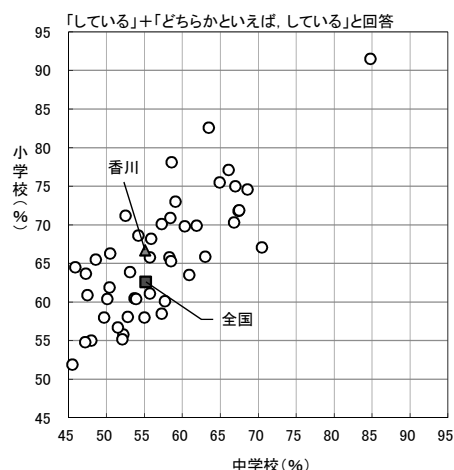
□ 4/4 学校のきまり（規則）を守っていますか



【学習習慣等】

学校の授業の予習・復習

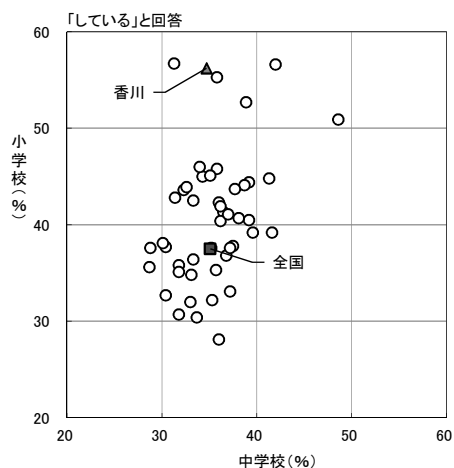
□ 12/12 家で、学校の授業の予習・復習をしていますか



【学習習慣等】

教科書を使って自学自習

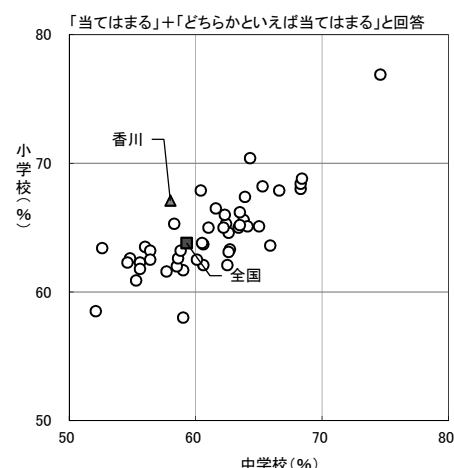
□ 13/13 家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか



【地域や社会に関わる活動の状況等】

地域の出来事への関心

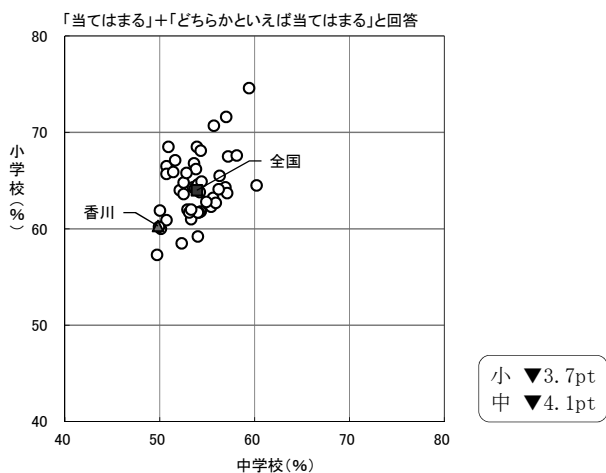
□ 21/21 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか



【学習に対する興味・関心や授業の理解度等（算数・数学）】

算数・数学の勉強は好き

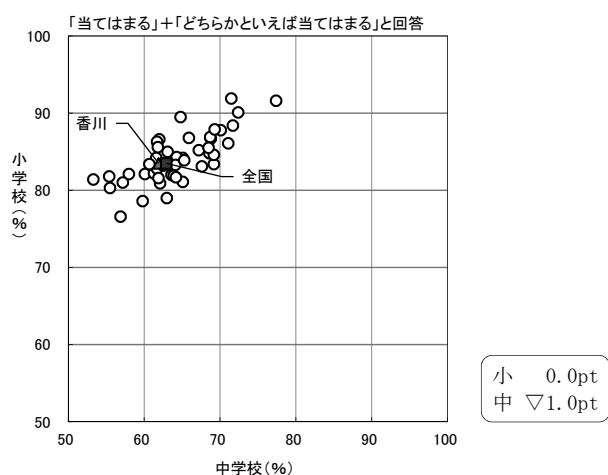
□ 27/27 算数(数学)の勉強は好きですか



【学習に対する興味・関心や授業の理解度等（理科）】

理科の勉強は好き

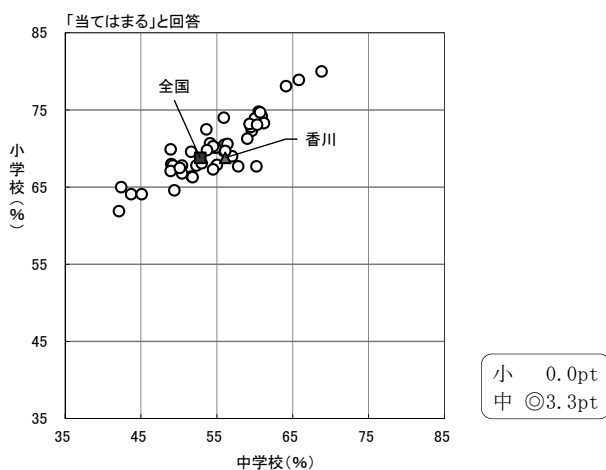
□ 38/38 理科の勉強は好きですか



【学習に対する興味・関心や授業の理解度等（理科）】

観察や実験を行うことは好き

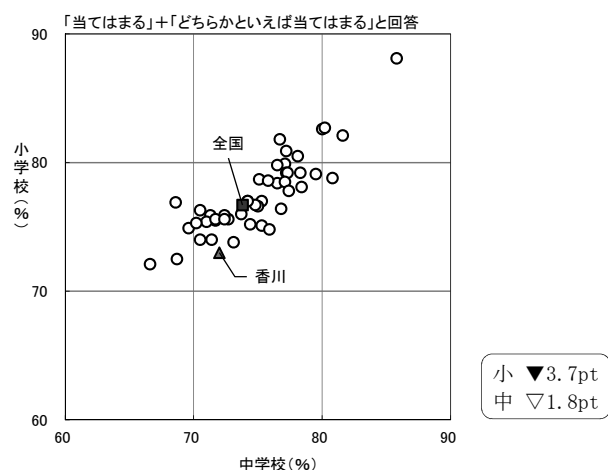
□ 47/47 観察や実験を行うことは好きですか



【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】

課題の解決に向けて自ら考え、取り組む

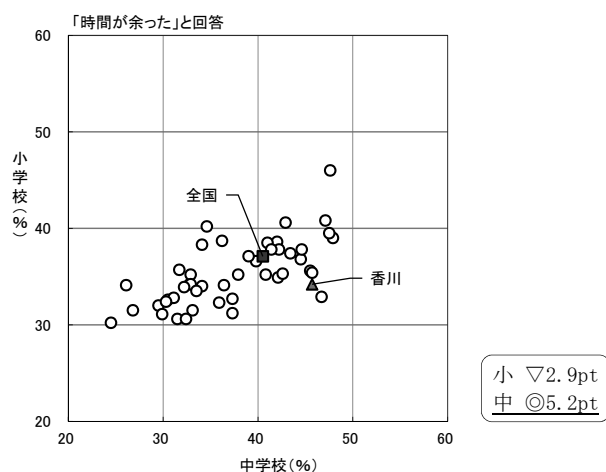
□ 55/52 5年生まで(1,2年生の時)に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思います



【各教科の調査時間の適切性】

解答時間は十分だった（算数B・数学B）

□ 61/58 調査問題の解答時間は十分でしたか（算数B・数学B）



3 学校質問紙 調査結果一覧

				1段目：香川県（公立）の割合（％） 2段目：全国（公立）の割合（％）											
質問番号	掲載P	H29 番号	質問事項	選択肢（質問の選択項目は、P121を参照）									その他※ ・無回答	1の差	
小	中			1	2	3	4	5	6	7	8	9		1 + 2の差	
【規範意識、自己有用感等】															
12	12	122	13	調査対象学年の児童生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか	小	39.5	48.4	11.5	0.6					0.0	-0.4
						39.9	49.5	9.6	1.0					0.0	-1.5
					中	60.0	37.1	1.4	1.4					0.0	2.0
						58.0	36.6	4.9	0.5					0.0	2.5
【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】															
13	13	122	新	調査対象学年の児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていますか	小	9.6	68.2	21.7	0.6					0.0	-7.0
						16.6	67.0	15.9	0.4					0.0	-5.8
					中	20.0	64.3	14.3	1.4					0.0	4.7
						15.3	65.5	18.7	0.5					0.0	3.5
※															
15		122	新	調査対象日現在の第6学年の児童が、第6学年に進級する際に、クラス替えをしましたか	小	31.2	68.8							0.0	-10.0
						41.2	58.7							0.0	0.1
					中										
【カリキュラム・マネジメントなど、学校運営に関する取組状況】															
16	15	122	28	指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか	小	29.3	65.0	5.7	0.0					0.0	-3.6
						32.9	61.8	5.2	0.0					0.0	-0.4
					中	21.4	64.3	14.3	0.0					0.0	-6.3
						27.7	62.5	9.6	0.1					0.0	-4.5
17	16	122	29	教育課程表（全体計画や年間指導計画等）について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか	小	36.3	57.3	6.4	0.0					0.0	0.2
						36.1	57.1	6.7	0.1					0.0	0.4
					中	21.4	58.6	17.1	2.9					0.0	-9.3
						30.7	58.0	11.0	0.3					0.0	-8.7
18	17	122	30	児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	小	31.8	64.3	3.8	0.0					0.0	-3.0
						34.8	60.1	5.0	0.1					0.0	1.2
					中	37.1	54.3	8.6	0.0					0.0	6.4
						30.7	62.4	6.9	0.1					0.0	-1.7
19	18	123	31	指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか	小	43.3	54.1	2.5	0.0					0.0	1.6
						41.7	54.3	4.0	0.0					0.0	1.4
					中	22.9	57.1	20.0	0.0					0.0	-3.2
						26.1	58.5	15.1	0.2					0.0	-4.6
【家庭や地域との連携】															
20	19	123	新	教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか	小	26.8	60.5	12.7	0.0					0.0	-2.1
						28.9	61.7	9.4	0.1					0.0	-3.3
					中	11.4	70.0	18.6	0.0					0.0	-11.7
						23.1	62.1	14.5	0.3					0.1	-3.8
【小学校教育と中学校教育の連携】															
21	20	123	78/77	前年度までに、近隣等の小中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	小	10.8	39.5	40.8	8.9					0.0	-7.9
						18.7	44.4	31.4	5.5					0.0	-12.8
					中	17.1	41.4	34.3	7.1					0.0	-8.4
						25.5	43.7	26.2	4.5					0.1	-10.7
【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】															
22	21	123	32	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	小	21.7	68.2	10.2	0.0					0.0	-5.1
						26.8	66.2	6.9	0.0					0.1	-3.1
					中	27.1	62.9	10.0	0.0					0.0	1.0
						26.1	66.5	7.2	0.0					0.1	-2.6
【規範意識、自己有用感等】															
23	22	123	45	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか	小	17.8	62.4	19.1	0.6					0.0	-5.2
						23.0	60.3	16.3	0.3					0.1	-3.1
					中	55.7	44.3	0.0	0.0					0.0	4.6
						51.1	47.5	1.3	0.0					0.1	1.4
24	23	123	46	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか	小	49.7	45.2	5.1	0.0					0.0	0.9
						48.8	47.7	3.3	0.1					0.1	-1.6
					中	45.7	54.3	0.0	0.0					0.0	1.3
						44.4	50.6	4.7	0.1					0.2	5.0
25	24	124	48	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど）の維持を徹底しましたか	小	54.8	41.4	3.2	0.0					0.6	-7.0
						61.8	35.9	2.2	0.0					0.1	-1.5
					中	64.3	34.3	1.4	0.0					0.0	-4.0
						68.3	30.0	1.6	0.0					0.1	0.3
【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】															
26	25	124	49	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度に、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか	小	11.5	76.4	12.1	0.0					0.0	-11.0
						22.5	67.2	10.2	0.0					0.1	-1.8
					中	10.0	68.6	21.4	0.0					0.0	-5.6
						15.6	68.0	16.2	0.1					0.1	-5.0
【地域や社会に関わる学習活動等の取組】															
27	26	124	50	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度に、教科等の指導に当たって、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱いましたか	小	15.9	70.7	13.4	0.0					0.0	-6.8
						22.7	62.4	14.7	0.1					0.1	1.5
					中	15.7	68.6	15.7	0.0					0.0	-0.3
						16.0	65.7	18.0	0.1					0.1	2.6
【ICTを活用した学習状況】															
28	27	124	新	調査対象学年の児童生徒に対する指導において、前年度に、教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板等）等のICTを活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか	小	15.9	56.1	20.4	6.4	1.3				0.0	-14.3
						30.2	42.8	18.6	7.0	1.3				0.1	-1.0
					中	18.6	44.3	17.1	17.1	2.9				0.0	-17.6
						36.2	38.6	16.7	7.1	1.4				0.1	-11.9
29	28	124	新	調査対象学年の児童生徒に対する指導において、前年度に、児童生徒がコンピュータ等のICTを活用する学習活動を1クラス当たりどの程度行いましたか	小	5.7	14.0	54.8	24.8	0.6				0.0	-3.5
						9.2	27.4	49.1	13.4	0.8				0.1	-16.9
					中	4.3	14.3	47.1	28.6	5.7				0.0	-5.4
						9.7	23.8	45.4	19.2	1.7				0.1	-14.9

※文部科学省 国立教育政策研究所「平成30年度全国学力・学習状況調査報告書【質問紙調査】」（平成30年7月）において「注目すべきテーマ」として明記されていないもの。

質問番号		掲載P	H29 番号	質問事項	選択肢(質問の選択項目は、P121を参照)									その他※ ・無回答	1の差 1+2の差	
小	中				1	2	3	4	5	6	7	8	9			
【規範意識、自己有用感等】																
30	29	124	51	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する(褒めるなど)取組をどの程度行いましたか	小	64.3	35.0	0.6	0.0						0.0	-0.6
						64.9	34.1	1.0	0.0						0.1	0.3
					中	64.3	35.7	0.0	0.0						0.0	8.6
						55.7	42.2	2.0	0.0						0.1	2.1
【全国学力・学習状況調査等の活用】																
31	30	125	56	平成29年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか	小	49.0	50.3	0.6							0.0	6.3
						42.7	54.9	2.3							0.2	1.7
					中	37.1	60.0	2.9							0.0	2.8
						34.3	61.8	3.7							0.2	1.0
32	31	125	57	平成29年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか(学校のホームページや学校だより等への掲載、保護者会等での説明を含む)	小	22.9	68.8	8.3							0.0	-12.8
						35.7	56.6	7.6							0.1	-0.6
					中	25.7	61.4	12.9							0.0	-7.7
						33.1	55.4	11.3							0.2	-1.4
【カリキュラム・マネジメントなど、学校運営に関する取組状況】																
33	32		59	全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか	小	36.3	61.1	2.5	0.0						0.0	0.4
						35.9	58.5	3.3	2.3						0.1	3.0
					中	31.4	64.3	2.9	1.4						0.0	1.8
						29.6	62.2	5.8	2.2						0.1	3.9
【小学校教育と中学校教育の連携】																
34	33	125	79/78	平成29年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小中学校と成果や課題を共有しましたか	小	8.9	35.7	47.8	7.6						0.0	-8.2
						17.1	46.2	30.7	6.0						0.1	-18.7
					中	14.3	42.9	31.4	11.4						0.0	-4.8
						19.1	44.9	28.9	7.1						0.1	-6.8
【個に応じた指導】																
35	34	125	60	調査対象学年の児童生徒に対して、算数・数学の授業において、前年度に、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか	小	17.8	19.1	20.4	12.7	29.9					0.0	-6.1
						23.9	11.3	11.7	15.1	37.9					0.1	1.7
					中	7.1	4.3	8.6	17.1	62.9					0.0	-13.6
						20.7	7.9	9.5	12.4	49.4					0.1	-17.2
36	35	125	61	調査対象学年の児童生徒に対して、算数・数学の授業において、前年度に、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱いましたか	小	12.7	11.5	18.5	22.3	35.0					0.0	-2.9
						15.6	10.1	11.8	17.2	45.2					0.1	-1.5
					中	5.7	2.9	7.1	20.0	64.3					0.0	-10.1
						15.8	7.1	9.1	13.0	55.0					0.1	-14.3
【算数・数学科の指導方法】																
37	36	126	70	調査対象学年の児童生徒に対する算数・数学の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか	小	42.0	54.8	2.5	0.6						0.0	0.2
						41.8	52.5	5.2	0.4						0.1	2.5
					中	34.3	52.9	11.4	1.4						0.0	0.8
						33.5	57.9	7.8	0.6						0.1	-4.6
38	37	126	71	調査対象学年の児童生徒に対する算数・数学の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	小	5.1	48.4	45.9	0.6						0.0	-6.7
						11.8	52.7	33.9	1.4						0.1	-11.0
					中	11.4	38.6	47.1	2.9						0.0	-2.1
						13.5	53.0	31.3	2.0						0.1	-16.5
39	38	126	72	調査対象学年の児童生徒に対する算数・数学の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	小	8.9	68.8	22.3	0.0						0.0	-2.3
						11.2	66.8	21.8	0.2						0.1	-0.3
					中	5.7	71.4	22.9	0.0						0.0	-4.7
						10.4	61.7	27.4	0.3						0.1	5.0
40	39	126	73	調査対象学年の児童生徒に対する算数・数学の指導として、前年度までに、計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか	小	50.3	45.9	3.8	0.0						0.0	-5.8
						56.1	40.6	3.1	0.0						0.1	-0.5
					中	60.0	38.6	1.4	0.0						0.0	9.6
						50.4	45.8	3.6	0.1						0.1	2.4
41		126	74/*	調査対象学年の児童に対する算数の授業では、前年度までに、教科担任制を実施していましたか	小	5.1	94.9								0.0	-4.2
						9.3	90.6								0.1	0.1
					中											
【理科の指導方法】																
42	40	126	新	調査対象学年の児童生徒に対する理科の授業において、前年度に、児童生徒の好奇心や意欲が喚起されるよう、工夫していましたか	小	30.6	63.7	5.7	0.0						0.0	-6.0
						36.6	59.5	3.7	0.0						0.1	-1.8
					中	45.7	54.3	0.0	0.0						0.0	1.4
						44.3	53.4	2.1	0.1						0.2	2.3
43	41	127	H27 70/69	調査対象学年の児童生徒に対する理科の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか	小	7.6	50.3	40.8	1.3						0.0	-6.1
						13.7	52.8	30.2	3.2						0.1	-8.6
					中	27.1	57.1	15.7	0.0						0.0	2.5
						24.6	60.6	13.8	0.9						0.1	-1.0
44	42	127	H27 71/70	調査対象学年の児童生徒に対する理科の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	小	4.5	34.4	58.6	2.5						0.0	-3.5
						8.0	48.5	40.8	2.5						0.1	-17.6
					中	8.6	47.1	41.4	2.9						0.0	-4.0
						12.6	56.4	29.5	1.3						0.2	-13.3
45	43	127	H27 72/71	調査対象学年の児童生徒に対する理科の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	小	14.6	73.2	12.1	0.0						0.0	-5.3
						19.9	65.8	14.0	0.2						0.1	2.1
					中	30.0	60.0	10.0	0.0						0.0	1.1
						28.9	61.8	9.1	0.1						0.1	-0.7
46	44	127	H27 73/72	調査対象学年の児童生徒に対する理科の指導として、前年度までに、児童生徒が科学的な体験や自然体験をする授業を行いましたか	小	17.2	66.9	15.9	0.0						0.0	-7.4
						24.6	63.5	11.6	0.2						0.1	-4.0
					中	21.4	60.0	18.6	0.0						0.0	-2.1
						23.5	58.5	17.4	0.5						0.1	-0.6
47	45	127	H27 74/73	調査対象学年の児童生徒に対する理科の指導として、前年度までに、自ら考えた仮説をもとに観察、実験の計画を立てさせる指導を行いましたか	小	22.9	63.1	12.7	0.6						0.6	-4.4
						27.3	59.2	13.1	0.3						0.1	-0.5
					中	18.6	55.7	24.3	1.4						0.0	0.7
						17.9	55.1	25.6	1.3						0.1	1.3

質問番号		掲載P	H29 番号	質問事項	選択肢（質問の選択項目は、P121を参照）									その他※ ・無回答	1の差 1＋2の差
小	中				1	2	3	4	5	6	7	8	9		
48	46	127	H27 75/74	調査対象学年の児童生徒に対する理科の指導として、前年度までに、観察や実験の結果を整理し考察する（分析し解釈する）指導を行いましたか	小	29.3	64.3	6.4	0.0					0.0	-7.5
						36.8	59.2	3.8	0.0					0.1	-2.4
					中	45.7	45.7	8.6	0.0					0.0	10.1
49	47	128	H27 76/75	調査対象学年の児童に対する理科の指導として、前年度までに、観察や実験におけるカードやノートへの記録・記述の方法に関する指導を行いましたか	小	35.6	58.7	5.5	0.1					0.1	-2.9
						24.2	63.7	12.1	0.0					0.0	-11.4
					中	35.6	58.8	5.5	0.0					0.1	-6.5
50	48	128	H27 77/76	調査対象学年の生徒に対する理科の指導として、前年度までに、観察や実験のレポートの作成方法に関する指導を行いましたか	小	11.4	51.4	35.7	1.4					0.0	-12.8
						24.2	57.0	17.9	0.8					0.1	-18.4
					中	10.8	88.5							0.6	-3.9
51	49	128	H27 78/77	調査対象学年の児童生徒に対する理科の授業やその準備において、前年度に、観察実験補助員が配置されていましたか	小	14.7	85.2							0.1	-0.6
						1.4	98.6							0.0	-3.0
					中	4.4	95.5							0.1	0.1
52	50	128	75/74	調査対象学年の児童生徒に対する理科の授業において、前年度に、理科室で児童生徒が観察や実験をする授業を１クラス当たりどの程度行いましたか	小	58.6	39.5	1.9	0.0					0.0	-2.4
						61.0	36.4	2.2	0.3					0.1	0.7
					中	78.6	21.4	0.0	0.0					0.0	13.1
【規範意識、自己有用感等】															
53	50	128	75/74	学校の教員は、特別支援教育について理解し、前年度までに、調査対象学年の児童生徒に対する授業の中で、児童生徒の特性に応じた指導上の工夫（板書や説明の仕方、教材の工夫など）を行いましたか	小	36.9	61.1	1.9	0.0					0.0	-3.5
						40.4	54.0	5.2	0.3					0.1	3.6
					中	48.6	48.6	2.9	0.0					0.0	7.6
【家庭や地域との連携】															
54	51	128	80/79	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか	小	41.0	51.2	6.9	0.8					0.2	5.0
						35.7	50.3	12.7	1.3					0.0	2.2
					中	33.5	49.9	14.5	2.0					0.1	2.6
55	52	128	81/80	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、ボランティア等による授業サポート（補助）を行いましたか	小	12.9	47.1	35.7	4.3					0.0	-9.8
						22.7	47.4	23.9	5.8					0.1	-10.1
					中	10.8	24.2	35.0	29.9					0.0	-5.7
56	53	129	82/81	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、博物館や科学館、図書館を利用した授業を行いましたか	小	16.5	32.7	30.6	20.1					0.1	-14.2
						5.7	4.3	30.0	60.0					0.0	-4.9
					中	10.6	22.4	30.5	36.5					0.1	-23.0
57	54	129	83/82	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えさせるような指導を行いましたか	小	3.8	28.7	56.7	10.8					0.0	-3.7
						7.5	41.5	41.8	9.1					0.1	-16.5
					中	2.9	21.4	48.6	27.1					0.0	0.0
【地域や社会に関わる学習活動等の取組】															
58	55	129	84/83	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会の設定を行いましたか	小	2.9	23.0	49.8	24.2					0.1	-1.6
						27.4	56.1	15.3	1.3					0.0	9.4
					中	18.0	61.1	20.1	0.6					0.1	4.4
59	56	129	86/84	職場見学や職場体験活動を行っていますか	小	21.4	57.1	20.0	1.4					0.0	5.0
						16.4	55.2	26.6	1.7					0.1	6.9
					中	36.3	54.1	8.3	0.6					0.6	3.1
60	57	129	87/85	調査対象学年の児童に対して、小学校在籍期間中に、教育課程に位置づけられた自然の中での集団宿泊活動を行ったことがあるか、または今後行う予定がありますか（複数回実施した場合は、最も長期のもの）	小	33.2	53.0	12.9	0.8					0.1	4.2
						17.1	65.7	17.1	0.0					0.0	-10.8
					中	27.9	51.9	18.4	1.7					0.1	3.0
61	58	130	88/86	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加していますか	小	0.0	0.0	1.3	92.4	6.4				0.0	-4.6
						4.6	4.4	31.8	55.9	3.3				0.0	-9.0
					中										
62	59	130	89/87	(60/57)の質問にあるような保護者や地域の人の協働による取組は、学校の教育水準の向上に効果がありましたか	小	40.1	59.9							0.0	-7.4
						47.5	52.4							0.0	0.1
					中	100.0	0.0							0.0	1.1
【家庭や地域との連携】															
63	60	130	94/92	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加していますか	小	98.9	1.0							0.1	0.1
						61.1	36.3	2.5	0.0					0.0	-3.3
					中	64.4	33.3	2.1	0.2					0.0	-0.3
64	61	130	95/93	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加していますか	小	34.3	54.3	8.6	2.9					0.0	-5.9
						40.2	50.2	8.8	0.8					0.1	-1.8
					中	29.9	40.8	20.4	8.3					0.6	-4.1
65	62	130	96/94	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加していますか	小	34.0	38.8	17.2	10.0					0.0	-2.1
						10.0	41.4	27.1	21.4					0.0	-12.1
					中	22.1	38.6	25.1	14.2					0.1	-9.3
66	63	130	97/95	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加していますか	小	45.9	48.4	2.5	0.6	2.5				0.0	-3.2
						49.1	46.3	2.1	0.3	2.3				0.0	-1.1
					中	35.7	57.1	1.4	0.0	5.7				0.0	2.1
【家庭学習】															
67	64	130	98/96	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加していますか	小	33.6	55.0	4.3	0.7	6.4				0.1	4.2
						45.2	51.0	3.8	0.0					0.0	-10.6
					中	55.8	41.4	2.6	0.1					0.1	-1.0
68	65	130	99/97	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加していますか	小	38.6	48.6	12.9	0.0					0.0	-0.2
						38.8	53.1	7.5	0.4					0.2	-4.7
					中	38.9	52.9	7.6	0.6					0.0	-6.7
69	66	130	100/98	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加していますか	小	45.6	46.0	8.0	0.3					0.1	0.2
						32.9	58.6	7.1	1.4					0.0	-4.6
					中	37.5	49.6	12.5	0.4					0.1	4.4
【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】															
70	67	130	101/99	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりして宿題を与えましたか（国語／算数・数学共通）	小	19.1	62.4	18.5	0.0					0.0	-9.2
						28.3	56.1	15.4	0.1					0.1	-2.9
					中	11.4	62.9	25.7	0.0					0.0	-6.7
【家庭学習】															
71	68	130	102/100	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりして宿題を与えましたか（国語／算数・数学共通）	小	18.1	55.6	25.7	0.5					0.1	0.6
						38.9	56.1	5.1	0.0					0.0	-1.5
					中	40.4	52.9	6.5	0.1					0.1	1.7
72	69	130	103/101	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、児童生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにしましたか（国語／算数・数学共通）	小	31.4	58.6	10.0	0.0					0.0	-0.6
						32.0	58.2	9.5	0.1					0.1	-0.2
					中										

質問番号		掲載P	H29 番号	質問事項		選択肢(質問の選択項目は、P121を参照)									その他※ ・無回答	1の差 1+2の差
小	中					1	2	3	4	5	6	7	8	9		
67	64	131	92/90	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、算数・数学の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えましたか	小	75.2	24.8	0.0	0.0						0.0	-8.1
						83.3	16.2	0.3	0.0						0.1	0.5
					中	65.7	31.4	2.9	0.0						0.0	12.5
68	65	131	93/91	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、算数・数学の指導として、児童生徒に与えた家庭学習の課題（長期休業期間中の課題を除く）について、評価・指導しましたか	小	53.2	41.3	5.2	0.1						0.1	2.6
						58.6	38.2	2.5	0.6						0.0	-3.8
					中	62.4	35.2	2.2	0.1						0.1	-0.8
69	66	131	H27 97/95	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、理科の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えましたか		58.6	40.0	1.4	0.0						0.0	8.9
					小	49.7	44.8	5.2	0.2						0.1	4.1
						7.0	55.4	37.6	0.0						0.0	-1.6
70	67	131	H27 98/96	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、理科の指導として、長期休業期間中に自由研究や課題研究などの家庭学習の課題を与えましたか	中	8.6	37.1	51.1	3.0						0.1	16.7
						35.7	48.6	15.7	0.0						0.0	7.9
					中	27.8	48.8	22.2	1.2						0.1	7.7
71	68	131	H27 99/97	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、理科の指導として、児童生徒に与えた家庭学習の課題（長期休業期間中の課題を除く）について、評価・指導しましたか	小	34.4	61.1	4.5	0.0						0.0	-5.6
						40.0	46.0	12.6	1.3						0.1	9.5
					中	57.1	31.4	10.0	1.4						0.0	12.4
72	69	131	98/96	校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っていますか	小	44.7	36.4	13.7	5.2						0.1	7.4
						29.3	56.1	14.0	0.6						0.0	2.6
					中	26.7	47.4	23.6	2.2						0.1	11.3
73	70	132	99/97	学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか	小	52.9	42.9	4.3	0.0						0.0	12.7
						40.2	48.8	9.9	0.9						0.1	6.8
					中	78.3	21.0	0.6	0.0						0.0	4.7
74	71	132	100/98	模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っていますか	小	73.6	25.7	0.7	0.0						0.0	0.0
						65.7	32.9	1.4	0.0						0.0	2.7
					中	63.0	35.1	1.8	0.0						0.0	0.5
75	72	132	101/99	教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしていますか	小	58.6	32.5	8.3	0.6						0.0	-6.2
						64.8	29.2	5.5	0.5						0.0	-2.9
					中	40.0	40.0	18.6	1.4						0.0	-9.0
76	73	132	102 /100	個々の教員が、自らの専門性を高めていこうとしている教科・領域等を決めており、校外の教科教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか	小	49.0	39.5	10.1	1.2						0.1	-8.5
						73.9	25.5	0.6	0.0						0.0	10.6
					中	63.3	33.4	3.2	0.0						0.1	2.7
77	74	132	77/76	前年度までに、近隣等の小中学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか	小	60.0	34.3	5.7	0.0						0.0	13.8
						46.2	44.7	8.7	0.3						0.1	3.4
					中	55.4	42.7	1.9	0.0						0.0	-1.1
78	75	132	105 /103	教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させていますか	小	56.5	40.9	2.5	0.0						0.1	0.7
						55.7	41.4	2.9	0.0						0.0	8.7
					中	47.0	48.5	4.4	0.1						0.1	1.6
79	76	133	106 /104	学習指導と学習評価の計画の作成に当たっては、教職員同士が協力合っていますか	小	54.8	40.8	4.5	0.0						0.0	18.2
						36.6	50.6	12.6	0.2						0.0	8.4
					中	54.3	40.0	5.7	0.0						0.0	23.6
80	77	133	107 /105	学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしていますか	小	30.7	52.2	16.6	0.5						0.1	11.4
						19.7	44.6	26.1	9.6						0.0	-5.4
					中	25.1	44.4	22.6	7.8						0.1	-5.2
81	78	133	108 /106	言語活動について、国語科だけでなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか	小	22.9	48.6	20.0	8.6						0.0	-10.9
						33.8	42.7	16.6	6.8						0.1	-5.0
					中	43.9	53.5	2.5	0.0						0.0	2.9
82	79	133	110 /108	学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか	小	41.0	55.9	3.0	0.0						0.0	0.5
						31.4	65.7	2.9	0.0						0.0	-0.9
					中	32.3	61.6	6.0	0.0						0.1	3.2
83	80	133	新	学校として業務改善に取り組んでいますか	小	54.8	43.9	1.3	0.0						0.0	6.6
						48.2	49.3	2.5	0.0						0.0	1.2
					中	44.3	54.3	1.4	0.0						0.0	4.1
84	81	133	111 /109	校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか	小	40.2	55.4	4.3	0.0						0.0	3.0
						41.4	52.9	5.7	0.0						0.0	1.4
					中	40.0	53.1	6.8	0.1						0.1	1.2
85	82	133	111 /109	校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか	小	28.6	52.9	18.6	0.0						0.0	-0.6
						29.2	56.8	13.7	0.2						0.1	-4.5
					中	37.6	56.1	6.4	0.0						0.0	-1.5
86	83	133	新	学校として業務改善に取り組んでいますか	小	39.1	55.1	5.8	0.1						0.0	-0.5
						31.4	57.1	11.4	0.0						0.0	-3.5
					中	34.9	55.8	9.2	0.1						0.1	-2.2
87	84	133	111 /109	校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか	小	58.6	40.1	1.3	0.0						0.0	0.7
						57.9	40.6	1.4	0.0						0.0	0.2
					中	44.3	52.9	2.9	0.0						0.0	-4.8
88	85	133	111 /109	校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか	小	49.1	47.8	3.0	0.1						0.0	0.3
						34.4	61.8	3.8	0.0						0.0	-14.5
					中	48.9	48.5	2.5	0.0						0.0	-1.2
89	86	133	111 /109	校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか	小	34.3	58.6	7.1	0.0						0.0	-11.7
						46.0	50.8	3.0	0.0						0.1	-3.9
					中	78.3	19.7	1.3	0.6						0.0	7.9
90	87	133	111 /109	校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか	小	70.4	24.7	4.8	0.2						0.0	2.9
						65.7	27.1	7.1	0.0						0.0	17.6
					中	48.1	37.3	14.1	0.5						0.0	7.4

※【その他】とは、『選択肢以外の回答や複数回答』されたものである。

学校質問紙 選択肢一覧

※質問番号の 数/数は、(小学校の番号) / (中学校の番号) を示す。

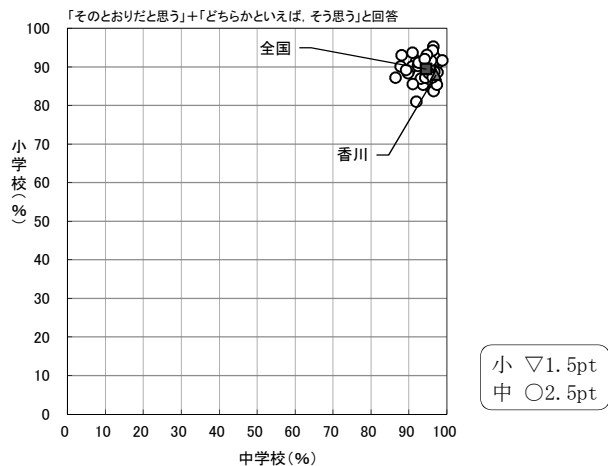
質問番号	選 択 肢
12, 13	1 そのとおりだと思う 2 どちらかといえば、そう思う 3 どちらかといえば、そう思わない 4 そう思わない
15/*	1 行った 2 行っていない
16/15～20/19, 72/69～76/73 78/75～83/80	1 よくしている 2 どちらかといえば、している 3 あまりしていない 4 全くしていない
21/20～27/26, 30/29, 34/33, 37/36～40/39, 42/40～49/47, 52/50～57/55, 61/58, 63/60～71/68, 77/74	1 よく行った 2 どちらかといえば、行った 3 あまり行っていない 4 全く行っていない
28/27	1 ほぼ毎日 2 週1回以上 3 月1回以上 4 学期に1回以上 5 ほとんど、または、全く行っていない
29/28	1 週2回以上 2 週1回以上 3 月1回以上 4 学期に1回以上 5 ほとんど、または、全く行っていない
31/30, 32/31	1 よく行った 2 行った 3 ほとんど行っていない
33/32	1 よく行っている 2 どちらかといえば、行っている 3 ほとんど行っていない 4 地方公共団体における独自の学力調査を実施していない
35/34, 36/35	1 年間の授業のうち、おおよそ3/4以上で行った 2 年間の授業のうち、おおよそ1/2以上、3/4未満で行った 3 年間の授業のうち、おおよそ1/4以上、1/2未満で行った 4 年間の授業のうち、おおよそ1/4未満で行った 5 行っていない
41/*	1 実施していた 2 実施していなかった
50/48	1 配置されていた 2 配置されていない
51/49	1 週1回以上 2 月1回以上 3 学期に1回以上 4 ほとんど、または、全く行っていない
58/*	1 4泊5日以上の教育課程に位置づけられた自然の中での集団宿泊活動を行った(今後行う予定) 2 3泊4日の教育課程に位置づけられた自然の中での集団宿泊活動を行った(今後行う予定) 3 2泊3日の教育課程に位置づけられた自然の中での集団宿泊活動を行った(今後行う予定) 4 1泊2日の教育課程に位置づけられた自然の中での集団宿泊活動を行った(今後行う予定) 5 教育課程に位置づけられた自然の中での集団宿泊活動は行っておらず今後も予定はない
59/56	1 行っている 2 行っていない
60/57	1 よく参加している 2 参加している 3 あまり参加していない 4 全く参加していない
62/59	1 そう思う 2 どちらかといえば、そう思う 3 どちらかといえば、そう思わない 4 そう思わない 5 取組を行っていない
84/81	1 ほぼ毎日 2 週に2～3日程度 3 月に数日程度 4 ほとんど行っていない

4 学校質問紙回答結果グラフ

【規範意識、自己有用感等】

授業中私語が少なく、落ち着いている

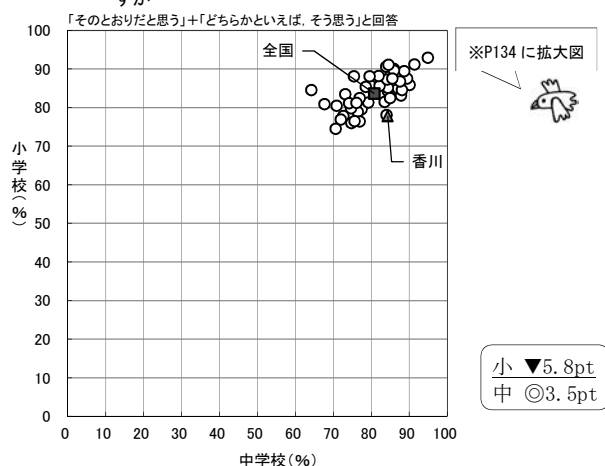
■ 12/12 調査対象学年の児童生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか



【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】

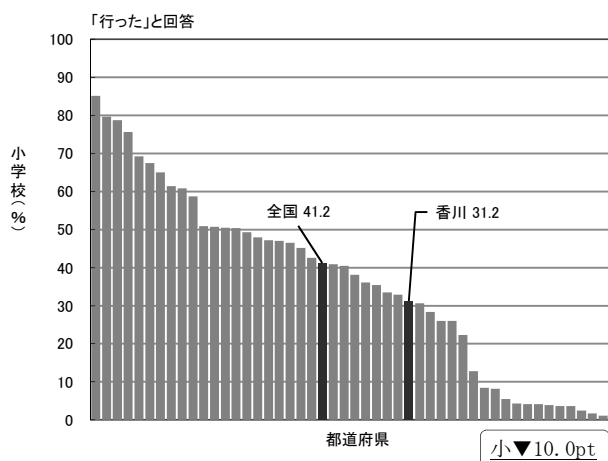
自分で考え、自分から取り組むことができる

■ 13/13 調査対象学年の児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか



【小学校】進級する際に、クラス替えをしたか

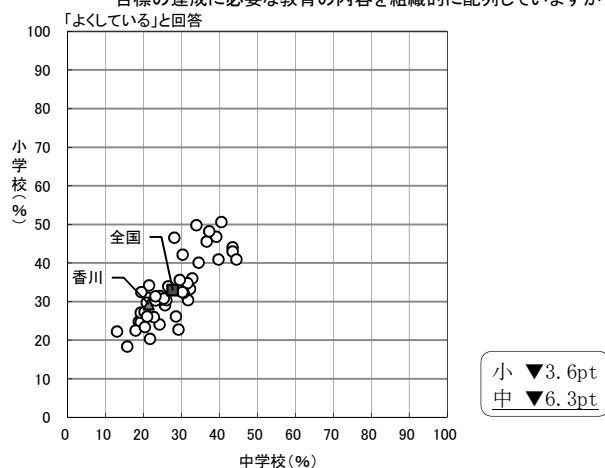
■ 15/* 調査対象日現在の第6学年の児童が、第6学年に進級する際に、クラス替えをしましたか



【カリキュラム・マネジメントなど、学校運営に関する取組状況】

横断的な視点で内容を組織的に配列した指導計画

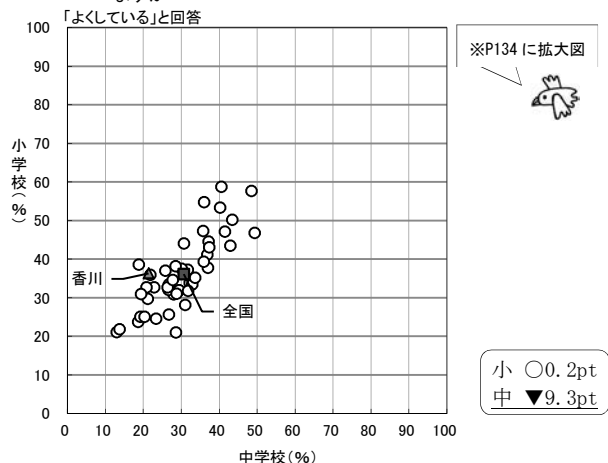
■ 16/15 指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか



【カリキュラム・マネジメントなど、学校運営に関する取組状況】

各教科等の教育目標や内容の相互関係が分かる教育課程表

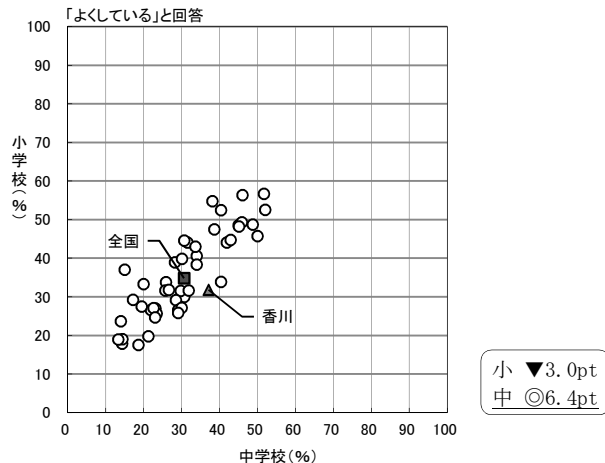
■ 17/16 教育課程表(全体計画や年間指導計画等)について、各教科等の教育目標や内容の相互関係が分かるように作成していますか



【カリキュラム・マネジメントなど、学校運営に関する取組状況】

PDCA サイクルの確立

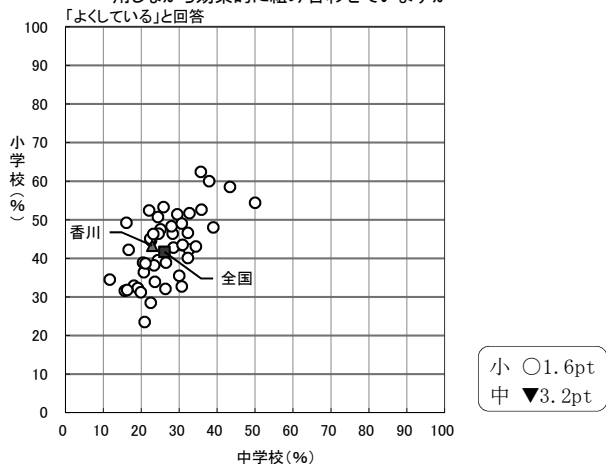
■ 18/17 児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか



【カリキュラム・マネジメントなど、学校運営に関する取組状況】

人的・物的資源等の活用

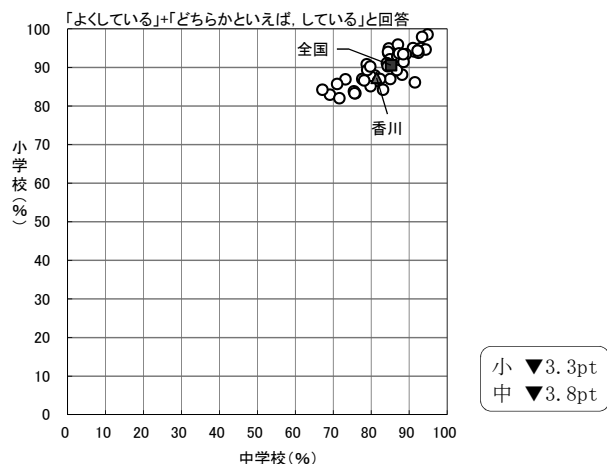
- 19/18 指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか



【家庭や地域との連携】

家庭や地域との連携

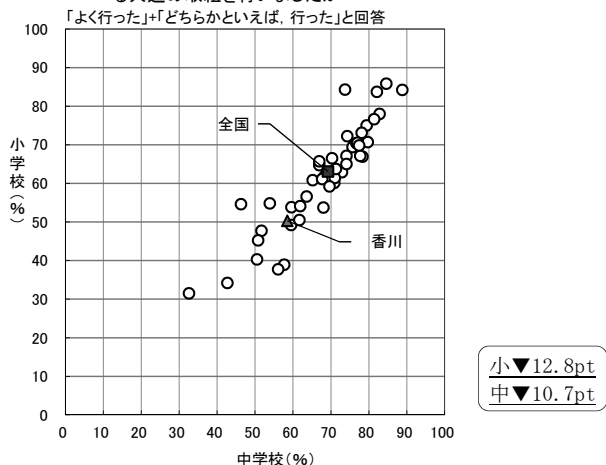
- 20/19 教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか



【小学校教育と中学校教育の連携】

小中学校の教育課程に関する共通の取組

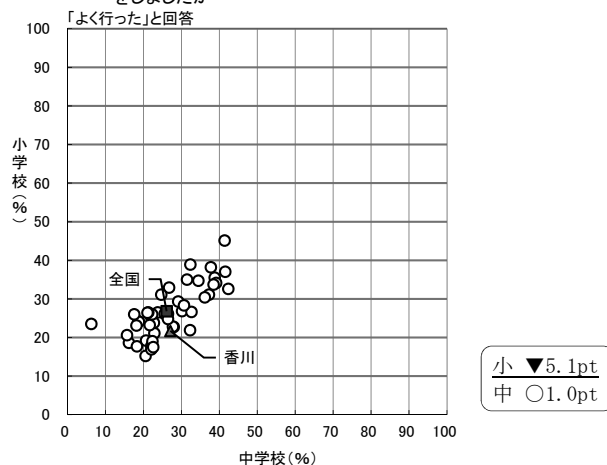
- 21/20 前年度までに、近隣等の小中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか



【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】

習得・活用・探究を見通した指導方法の改善及び工夫

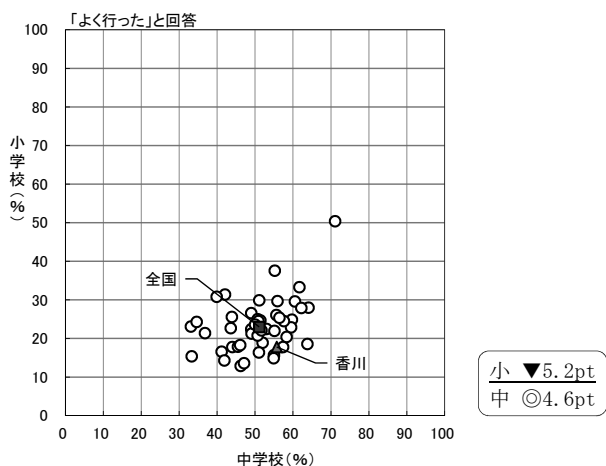
- 22/21 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか



【規範意識、自己有用感等】

将来の仕事や夢について考えさせる指導

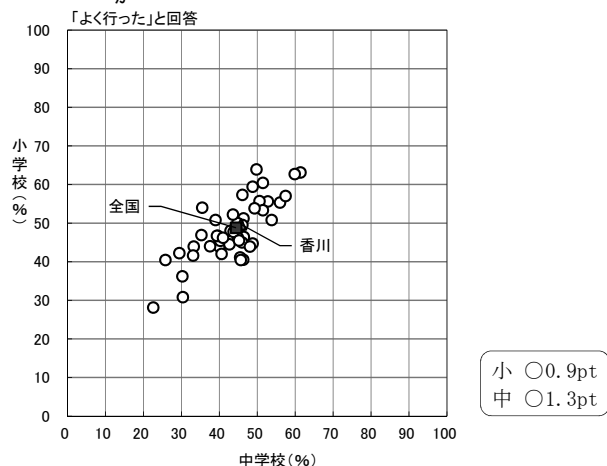
- 23/22 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか



【規範意識、自己有用感等】

学級全員で挑戦する課題

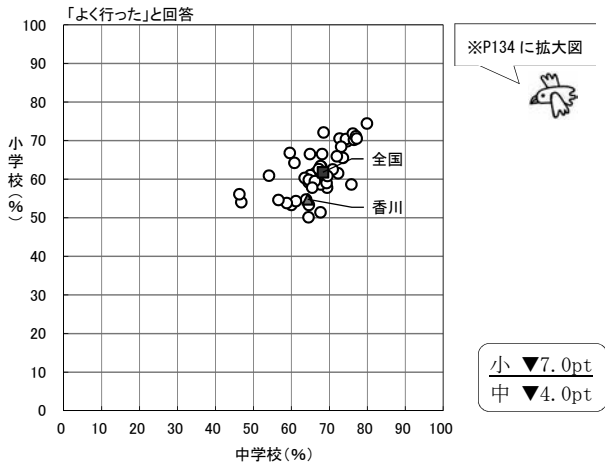
- 24/23 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか



【規範意識、自己有用感等】

学級規律の維持

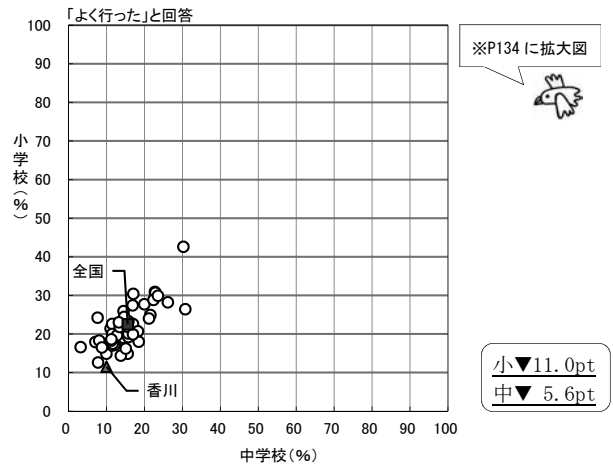
- 25/24 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど)の維持を徹底しましたか



【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】

各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かす機会

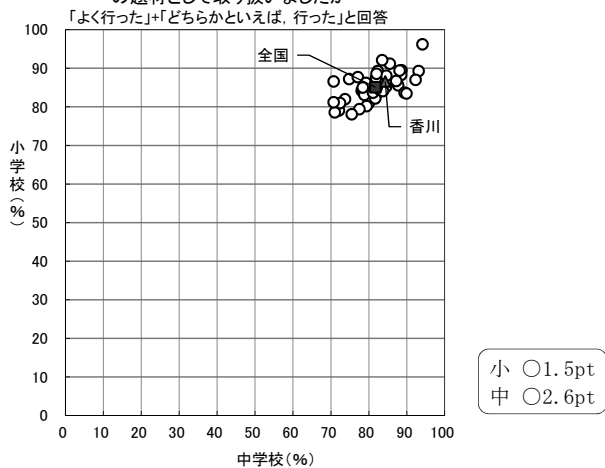
- 26/25 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度に、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか



【地域や社会に関わる学習活動等の取組】

地域や社会の出来事を学習の題材として取り扱う

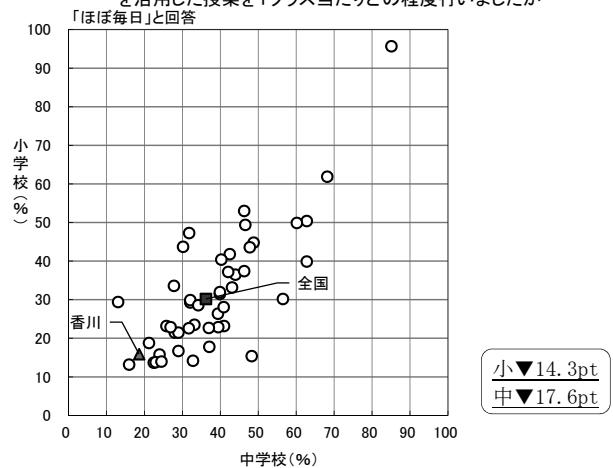
- 27/26 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度に、教科等の指導に当たって、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱いましたか



【ICTを活用した学習状況】

教員がICTを活用した授業

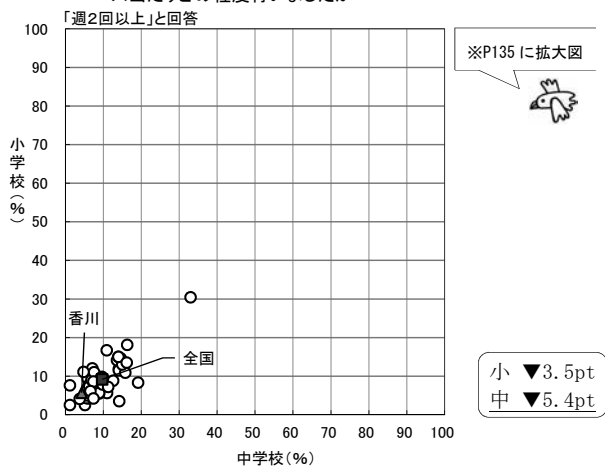
- 28/27 調査対象学年の児童生徒に対する指導において、前年度に、教員が大型提示装置(プロジェクター、電子黒板等)等のICTを活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか



【ICTを活用した学習状況】

児童生徒がICTを活用した授業

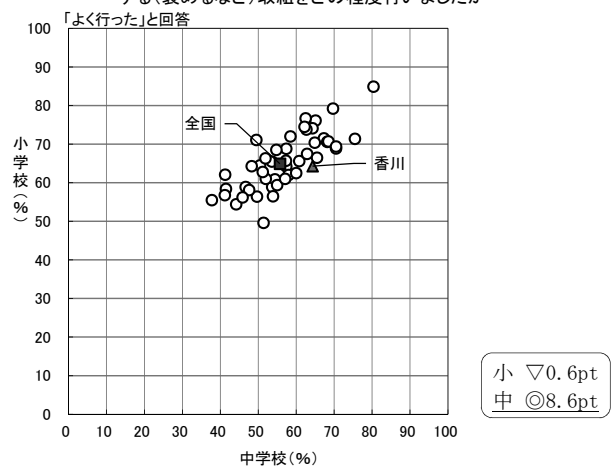
- 29/28 調査対象学年の児童生徒に対する指導において、前年度に、児童生徒がコンピュータ等のICTを活用する学習活動を1クラス当たりどの程度行いましたか



【規範意識、自己有用感等】

よい点や可能性への積極的な評価

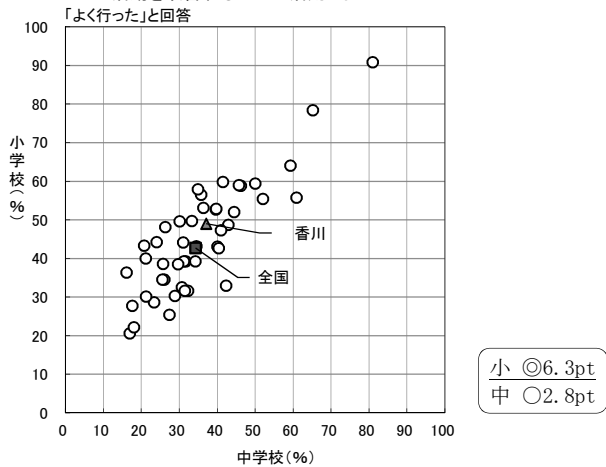
- 30/29 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組をどの程度行いましたか



【全国学力・学習状況調査等の活用】

学校全体での教育活動の改善

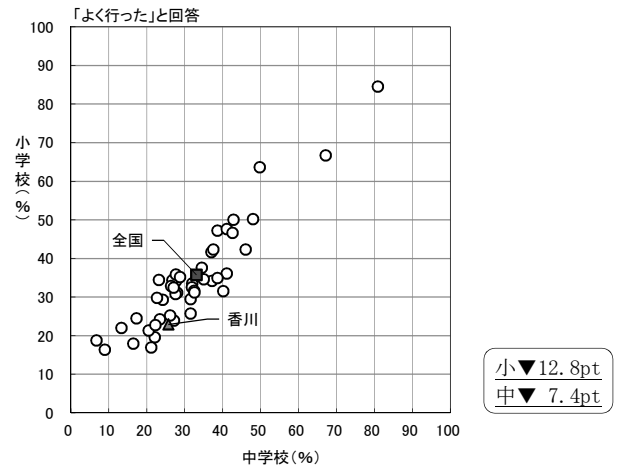
- 31/30 平成29年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか



【全国学力・学習状況調査等の活用】

保護者や地域の人たちへの公表や説明

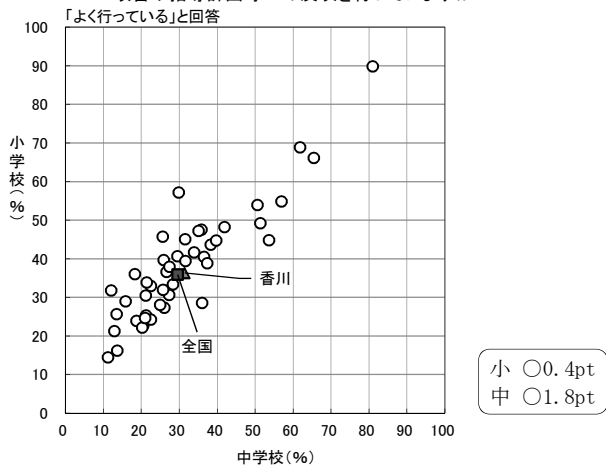
- 32/31 平成29年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか（学校のホームページや学校だより等への掲載、保護者会等での説明を含む）



【カリキュラム・マネジメントなど、学校運営に関する取組状況】

具体的な教育指導の改善や指導計画への反映

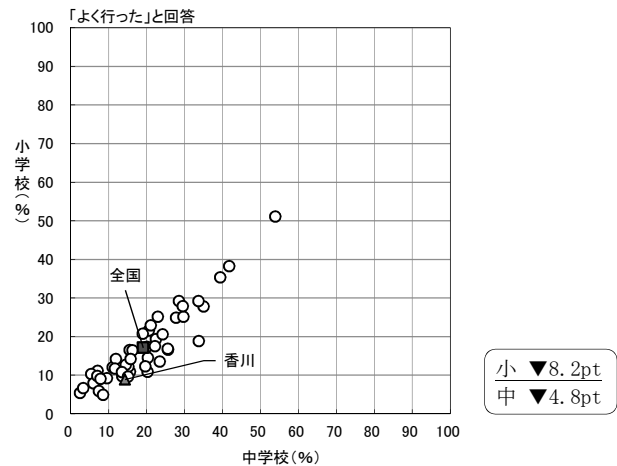
- 33/32 全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか



【小学校教育と中学校教育の連携】

小中学校間での成果や課題の共有

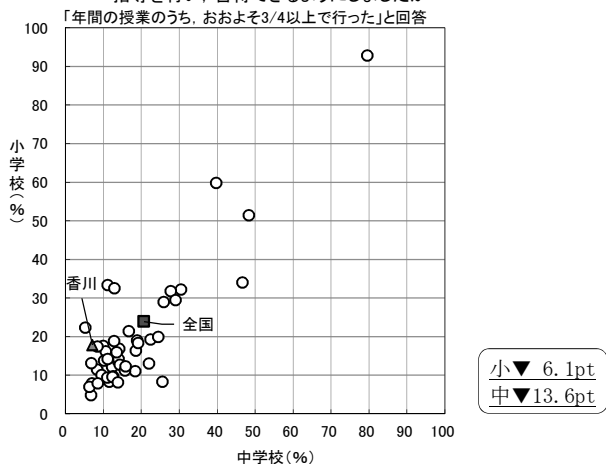
- 34/33 平成29年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小中学校と成果や課題を共有しましたか



【個に応じた指導】

習熟の遅いグループへの少人数指導

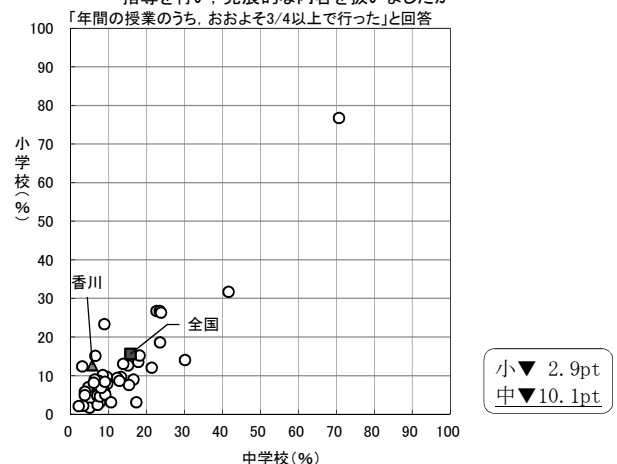
- 35/34 調査対象学年の児童生徒に対して、算数・数学の授業において、前年度に、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか



【個に応じた指導】

習熟の早いグループへの少人数指導

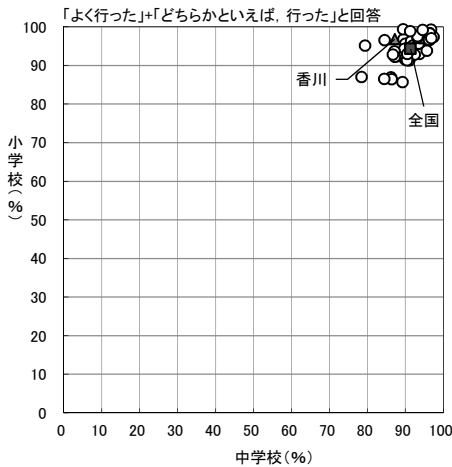
- 36/35 調査対象学年の児童生徒に対して、算数・数学の授業において、前年度に、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱いましたか



【算数・数学科の指導方法】

補充的な学習の指導

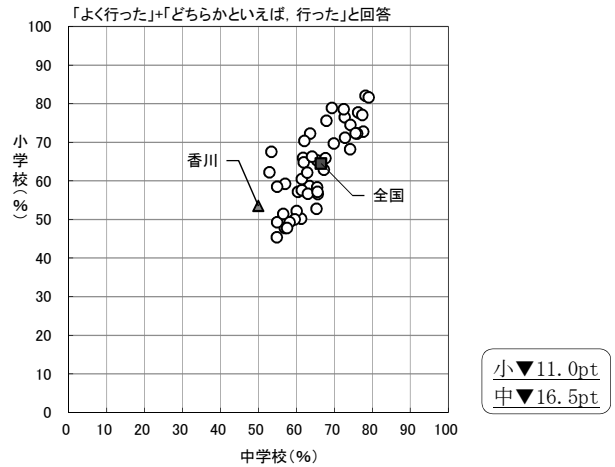
- 37/36 調査対象学年の児童生徒に対する算数・数学の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか



【算数・数学科の指導方法】

発展的な学習の指導

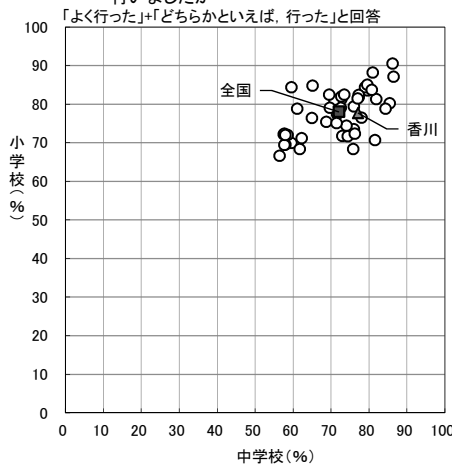
- 38/37 調査対象学年の児童生徒に対する算数・数学の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか



【算数・数学科の指導方法】

実生活における事象との関連を図った授業

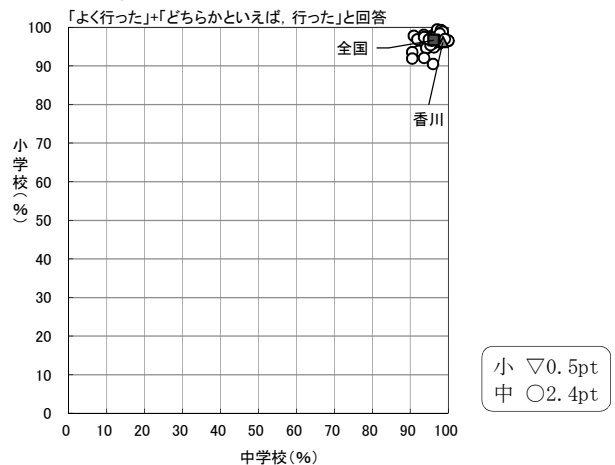
- 39/38 調査対象学年の児童生徒に対する算数・数学の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか



【算数・数学科の指導方法】

計算問題など反復練習をする授業

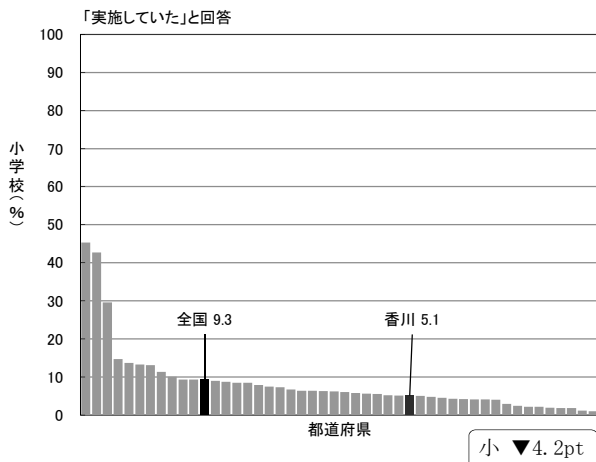
- 40/39 調査対象学年の児童生徒に対する算数・数学の指導として、前年度までに、計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか



【算数・数学科の指導方法】

【小学校】教科担任制の実施

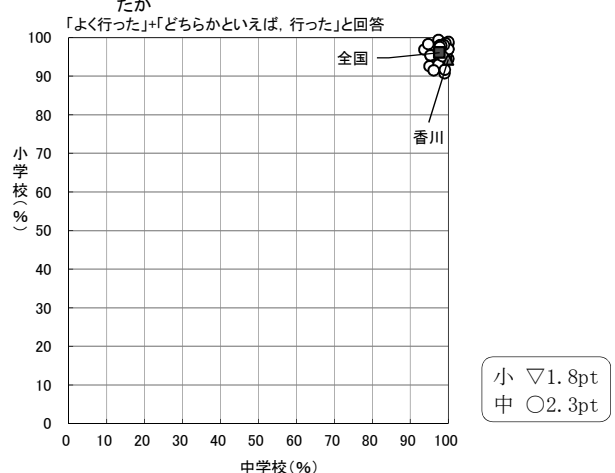
- 41/* 調査対象学年の児童に対する算数の授業では、前年度までに、教科担任制を実施していましたか



【理科の指導方法】

好奇心や意欲を喚起する工夫

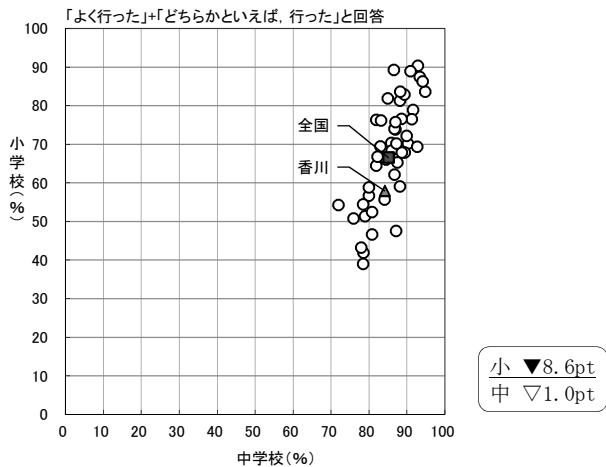
- 42/40 調査対象学年の児童に対する理科の授業において、前年度に、児童の好奇心や意欲が喚起されるよう、工夫していましたか



【理科の指導方法】

補充的な学習の指導

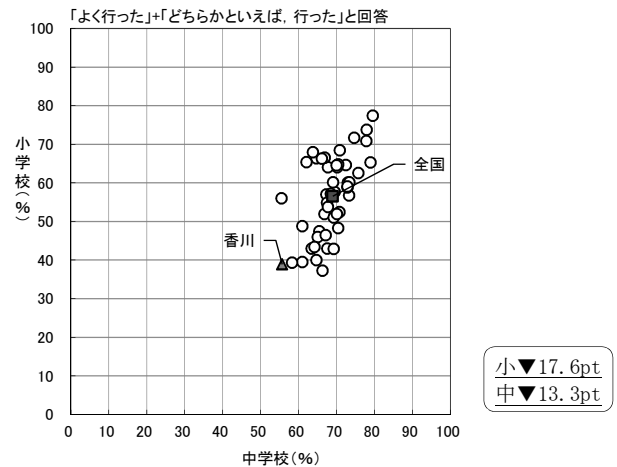
- 43/41 調査対象学年の児童生徒に対する理科の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか



【理科の指導方法】

発展的な学習の指導

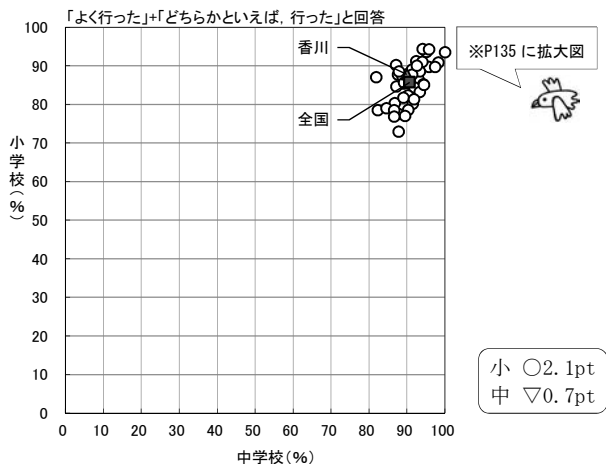
- 44/42 調査対象学年の児童生徒に対する理科の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか



【理科の指導方法】

実生活における事象との関連を図った授業

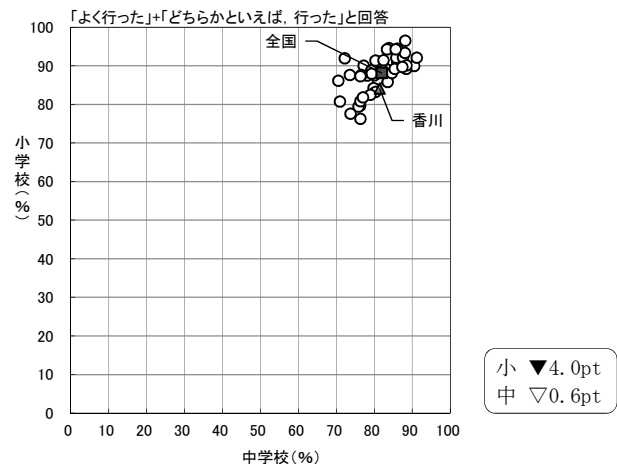
- 45/43 調査対象学年の児童生徒に対する理科の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか



【理科の指導方法】

科学的な体験や自然体験

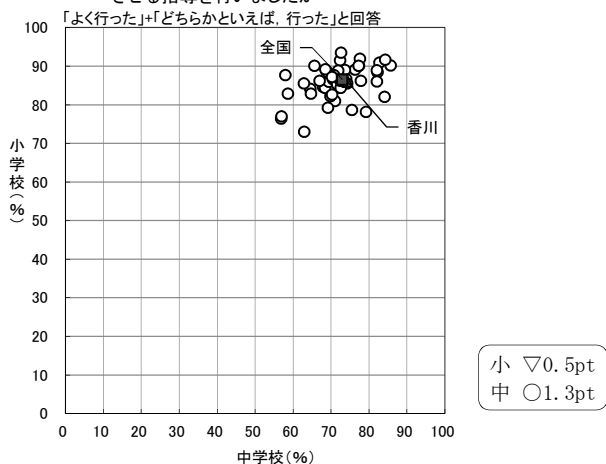
- 46/44 調査対象学年の児童生徒に対する理科の指導として、前年度までに、児童が科学的な体験や自然体験をする授業を行いましたか



【理科の指導方法】

仮説をもとに観察、実験を計画

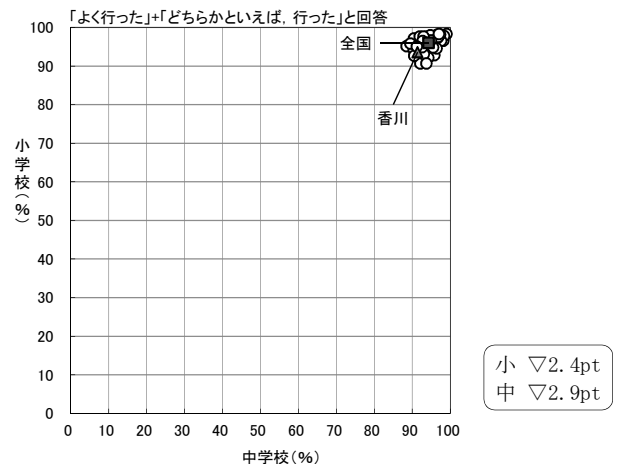
- 47/45 調査対象学年の児童生徒に対する理科の指導として、前年度までに、自ら考えた仮説をもとに観察、実験の計画を立てさせる指導を行いましたか



【理科の指導方法】

観察・実験の結果を整理・分析し考察・解釈

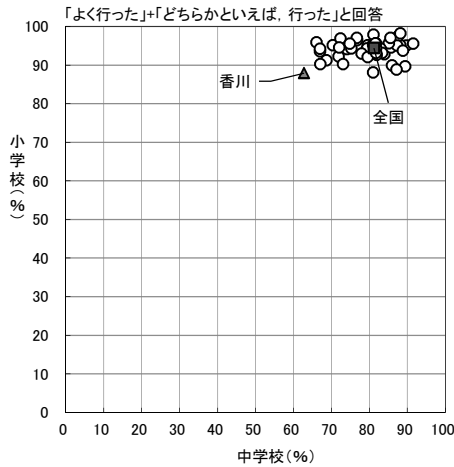
- 48/46 調査対象学年の児童生徒に対する理科の指導として、前年度までに、観察や実験の結果を整理し考察する(分析し解釈する)指導を行いましたか



【理科の指導方法】

観察・実験の記録に関する指導

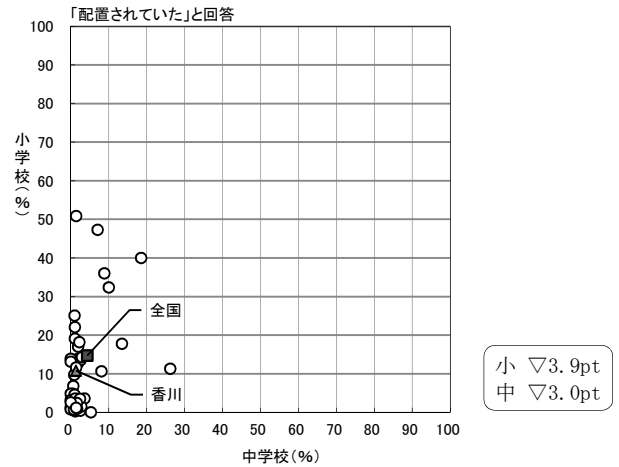
- 49/47 調査対象学年の児童に対する理科の指導として、前年度までに、観察や実験におけるカードやノートへの記録・記述の方法に関する指導を行いましたか(小学校)
調査対象学年の生徒に対する理科の指導として、前年度までに、観察や実験のレポートの作成方法に関する指導を行いましたか(中学校)



【理科の指導方法】

観察・実験補助員の配置

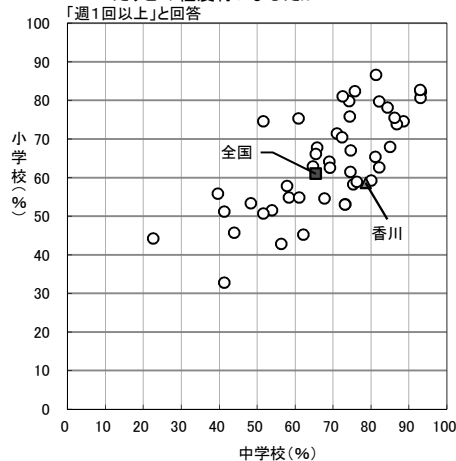
- 50/48 調査対象学年の児童生徒に対する理科の授業やその準備において、前年度に、観察実験補助員が配置されていたか



【理科の指導方法】

観察・実験の実施

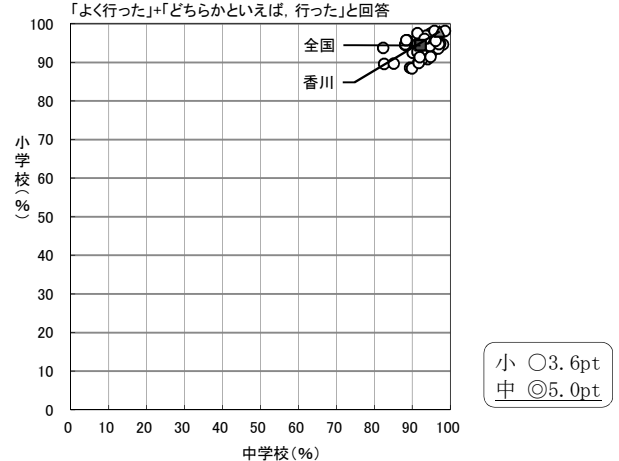
- 51/49 調査対象学年の児童生徒に対する理科の授業において、前年度に、理科室で児童が観察や実験をする授業を1クラス当たりどの程度行いましたか



【規範意識、自己有用感等】

児童生徒の特性に応じた指導上の工夫

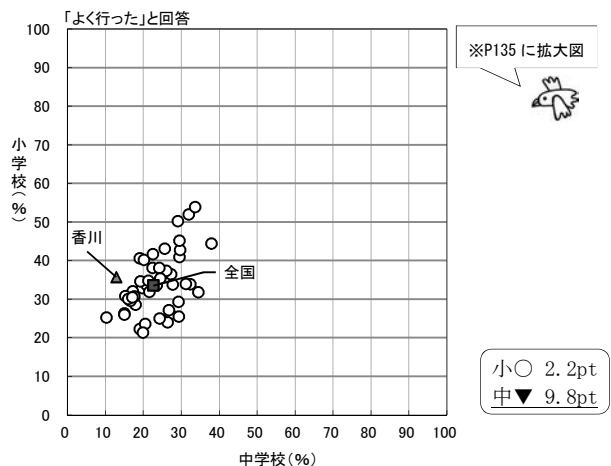
- 52/50 学校の教員は、特別支援教育について理解し、前年度までに、調査対象学年の児童に対する授業の中で、児童の特性に応じた指導上の工夫(板書や説明の仕方、教材の工夫など)を行いましたか



【家庭や地域との連携】

地域の人材を外部講師として招聘した授業

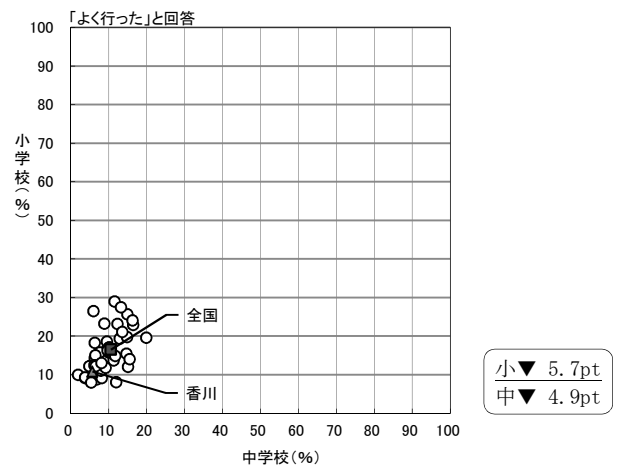
- 53/51 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか



【家庭や地域との連携】

ボランティア等による授業サポート

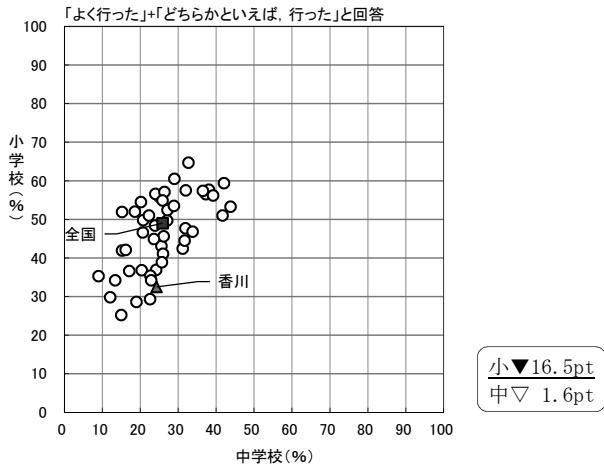
- 54/52 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、ボランティア等による授業サポート(補助)を行いましたか



【家庭や地域との連携】

博物館や科学館、図書館を利用した授業

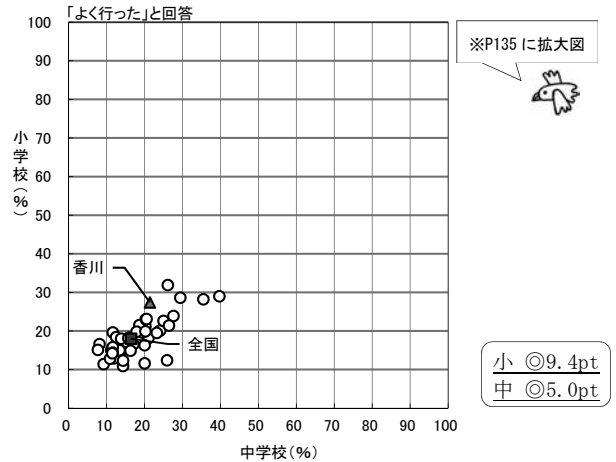
- 55/53 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、博物館や科学館、図書館を利用した授業を行いましたか



【地域や社会に関わる学習活動等の取組】

地域や社会をよくするために何をすべきか考えさせる指導

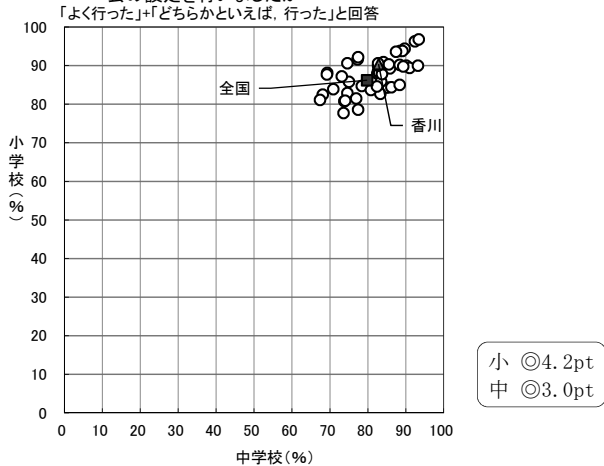
- 56/54 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えさせるような指導を行いましたか



【地域や社会に関わる学習活動等の取組】

地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会

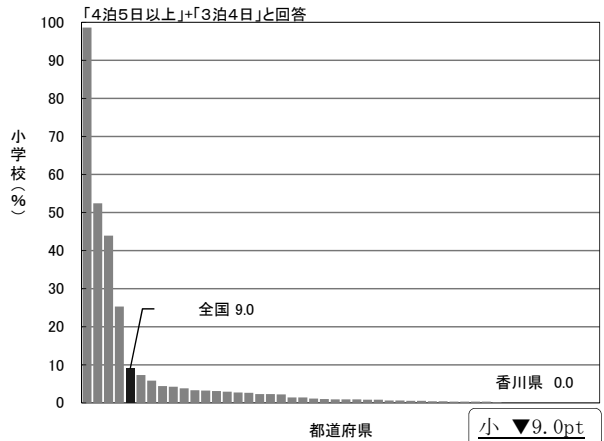
- 57/55 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会の設定を行いましたか



【地域や社会に関わる学習活動等の取組】

【小学校】集団宿泊活動の実施

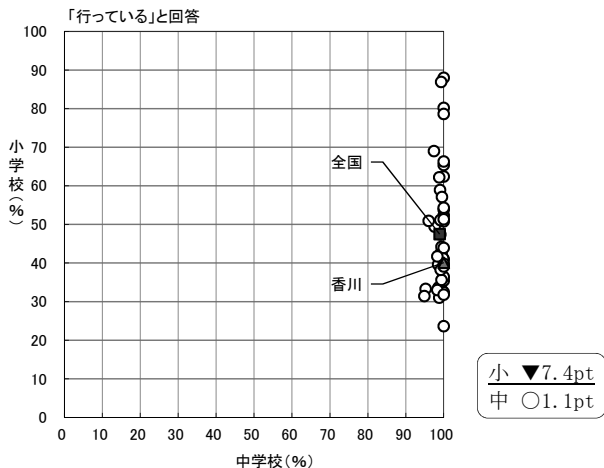
- 58/* 調査対象学年の児童生徒に対して、小学校在籍期間中に、教育課程に位置づけられた自然の中での集団宿泊活動を行ったことがあるか、または今後行う予定がありますか(複数回実施した場合は、最も長期のもの)



【地域や社会に関わる学習活動等の取組】

職場体験や職場体験活動の実施

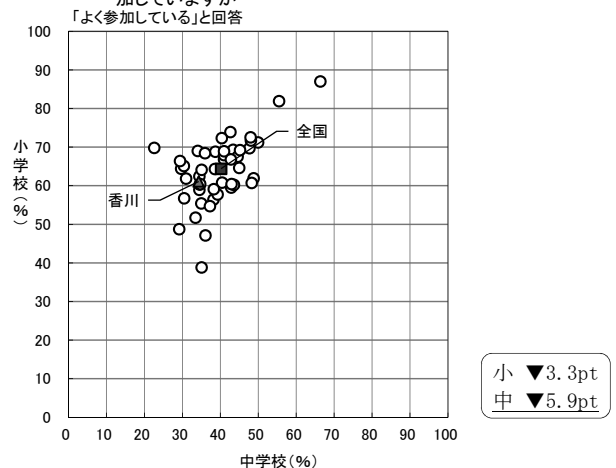
- 59/56 職場見学や職場体験活動を行っていますか



【家庭や地域との連携】

保護者や地域の人参加

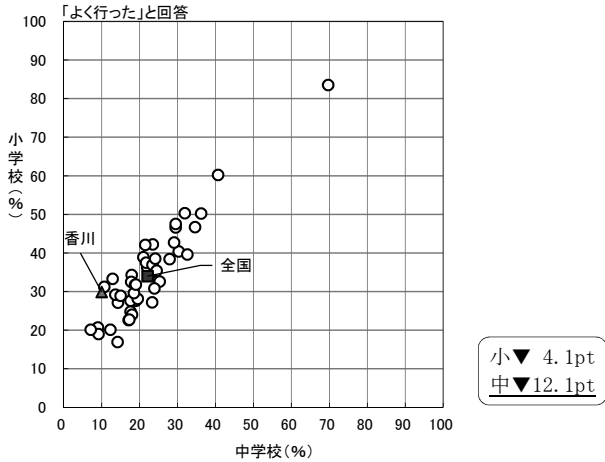
- 60/57 保護者や地域の人々が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加していますか



【家庭や地域との連携】

保護者や地域の人との協働による活動

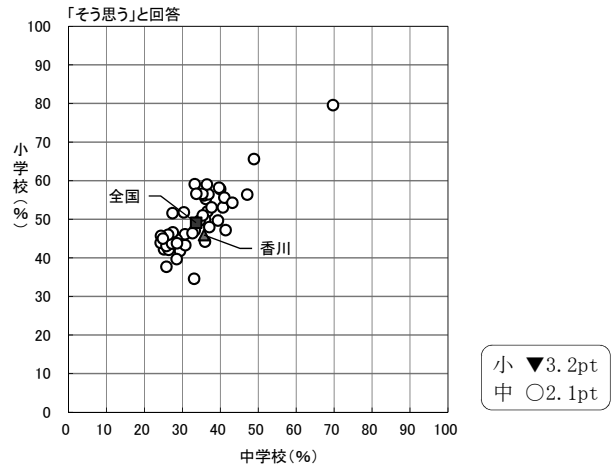
- 61/58 地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、(60/57)の質問にあるような保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか



【家庭や地域との連携】

保護者や地域の人との協働による活動の効果

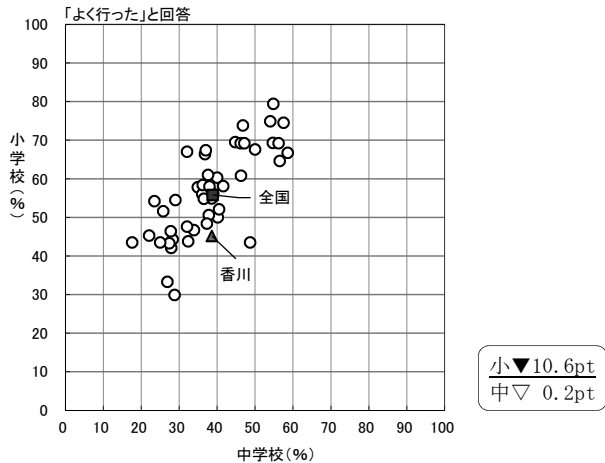
- 62/59 (60/57)の質問にあるような保護者や地域の人との協働による取組は、学校の教育水準の向上に効果がありましたか



【家庭学習】

家庭学習を促す働きかけ (国語／算数・数学共通)

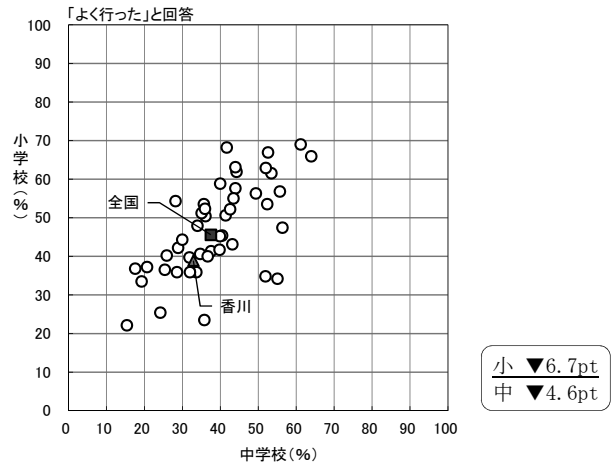
- 63/60 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか(国語／算数・数学共通)



【家庭学習】

家庭学習の与え方についての共通理解 (国語／算数・数学共通)

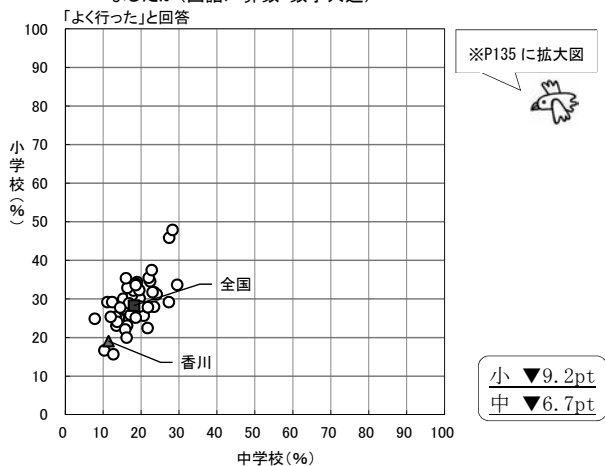
- 64/61 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか(国語／算数・数学共通)



【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】

調べたり、文章を書いたりする宿題 (国語／算数・数学共通)

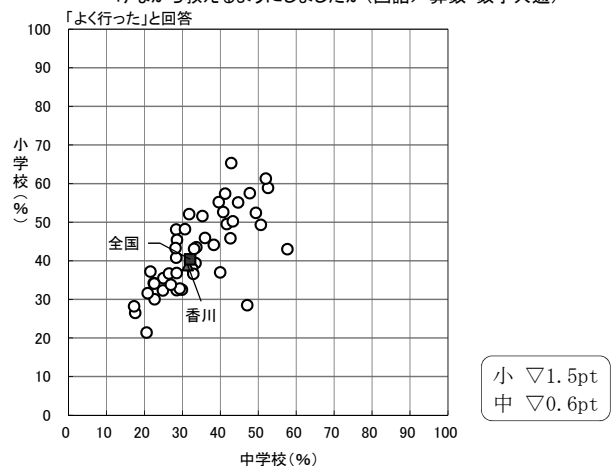
- 65/62 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えましたか(国語／算数・数学共通)



【家庭学習】

家庭での学習方法等に関する指導 (国語／算数・数学共通)

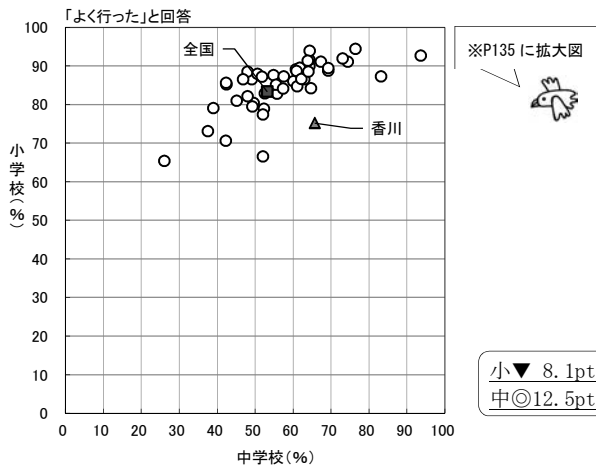
- 66/63 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしましたか(国語／算数・数学共通)



【家庭学習】

家庭学習の課題（算数・数学）

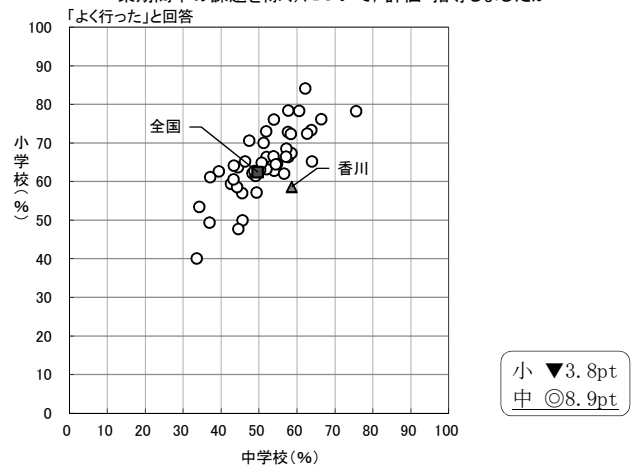
- 67/64 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、算数・数学の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えましたか



【家庭学習】

家庭学習の課題についての評価と指導（算数・数学）

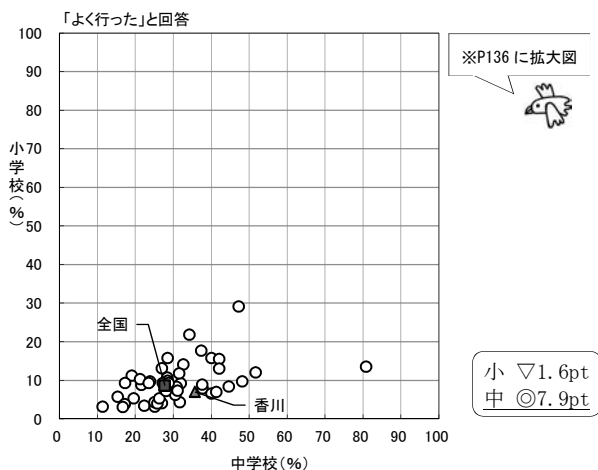
- 68/65 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、算数・数学の指導として、児童生徒に与えた家庭学習の課題（長期休業期間中の課題を除く）について、評価・指導しましたか



【家庭学習】

家庭学習の課題（理科）

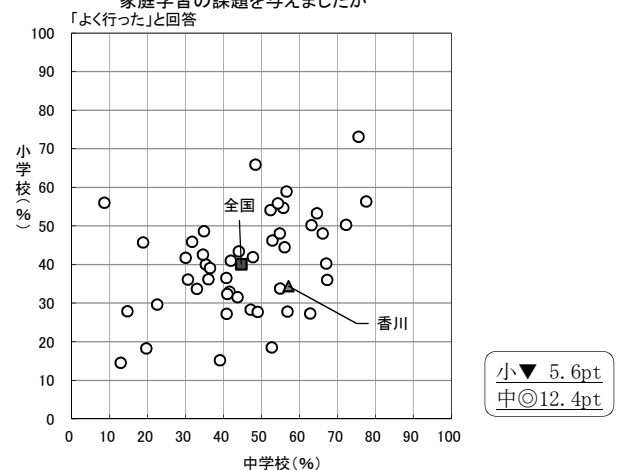
- 69/66 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、理科の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えましたか



【家庭学習】

長期期間中の自由研究や課題研究（理科）

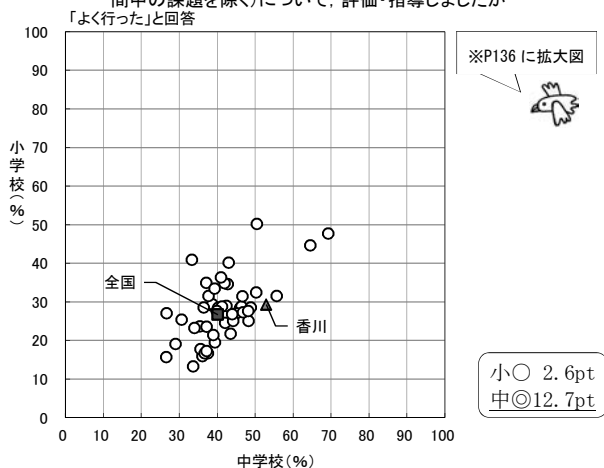
- 70/67 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、理科の指導として、長期休業期間中に自由研究や課題研究などの家庭学習の課題を与えましたか



【家庭学習】

家庭学習の課題についての評価と指導（理科）

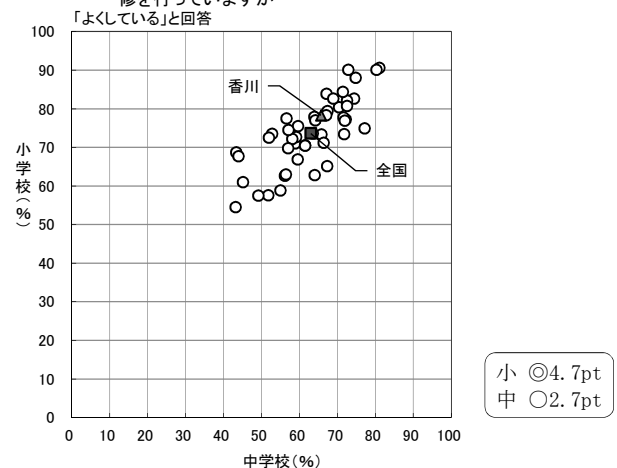
- 71/68 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、理科の指導として、児童生徒に与えた家庭学習の課題（長期休業期間中の課題を除く）について、評価・指導しましたか



【教職員の資質能力の向上】

組織的・継続的な研修

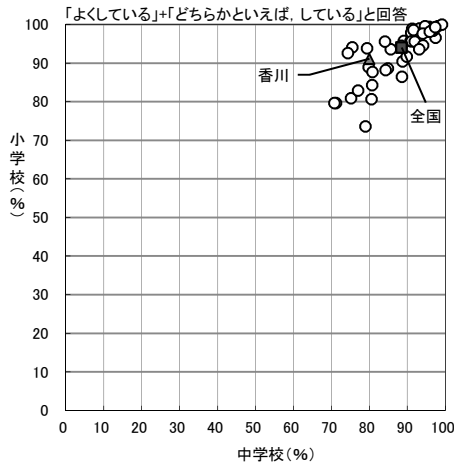
- 72/69 校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っていますか



【教職員の資質能力の向上】

テーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修

- 73/70 学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか

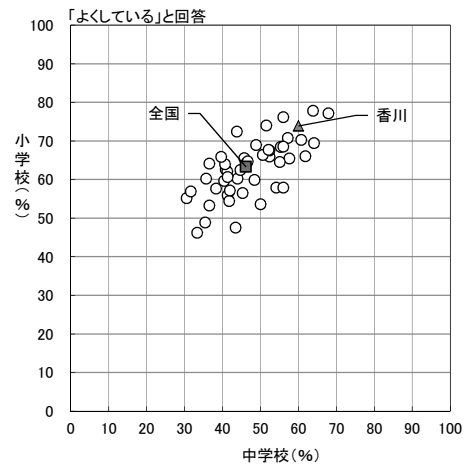


小 ▽2.9pt
中 ▼8.5pt

【教職員の資質能力の向上】

実践的な研修

- 74/71 模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っていますか

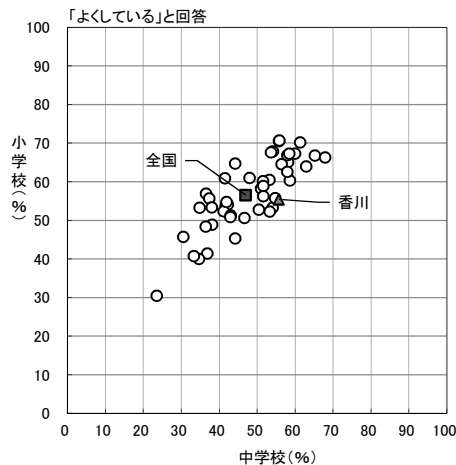


小◎10.6pt
中◎13.8pt

【教職員の資質能力の向上】

学校外での研修の機会

- 75/72 教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしていますか

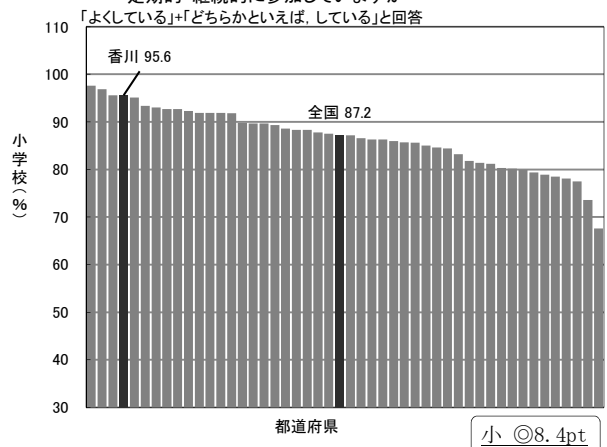


小 ▽1.1pt
中 ◎8.7pt

【教職員の資質能力の向上】

【小学校】教科教育に関する研究会等に参加

- 76/* 個々の教員が、自らの専門性を高めていこうとしている教科・領域等を決めており、校外の教科教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか

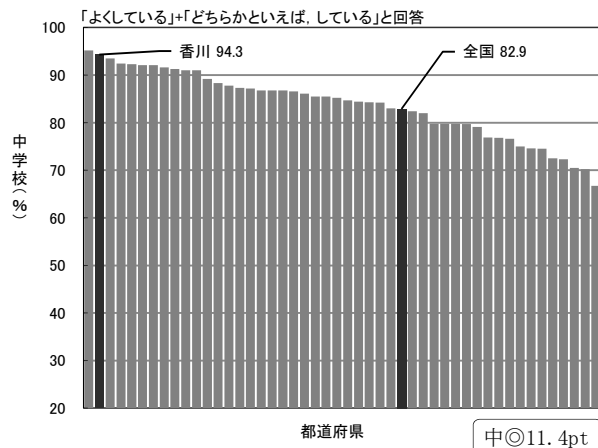


小 ◎8.4pt

【教職員の資質能力の向上】

【中学校】教科教育に関する研究会等に参加

- * /73 教員は、校外の教科教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか

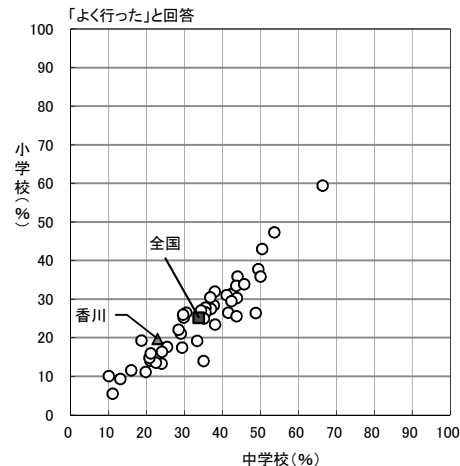


中◎11.4pt

【小学校教育と中学校教育の連携】

小中学校の合同研修

- 77/74 前年度までに、近隣等の小中学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか

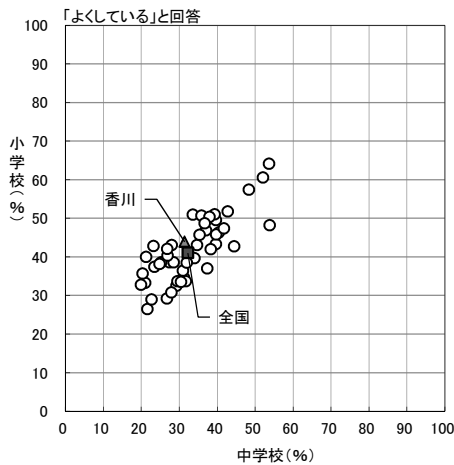


小 ▼5.4pt
中 ▼10.9pt

【教職員の資質能力の向上】

研修成果の反映

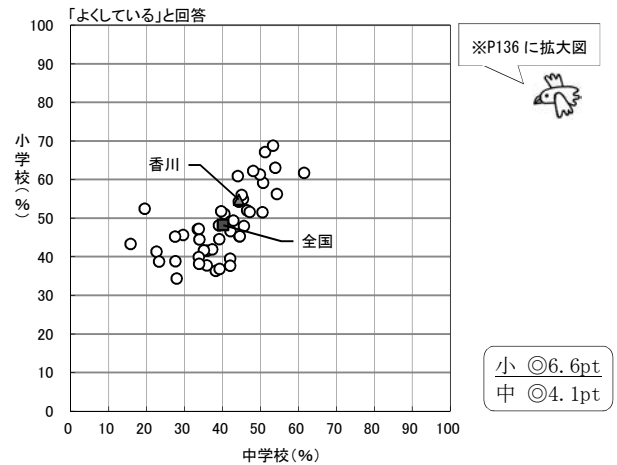
- 78/75 教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させていますか



【教職員の資質能力の向上】

指導計画の作成にあたっての協力

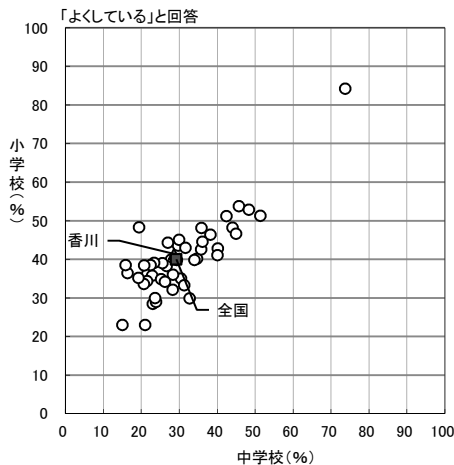
- 79/76 学習指導と学習評価の計画の作成に当たっては、教職員同士が協力合っていますか



【教職員の資質能力の向上】

言語活動の実施状況や課題の検討

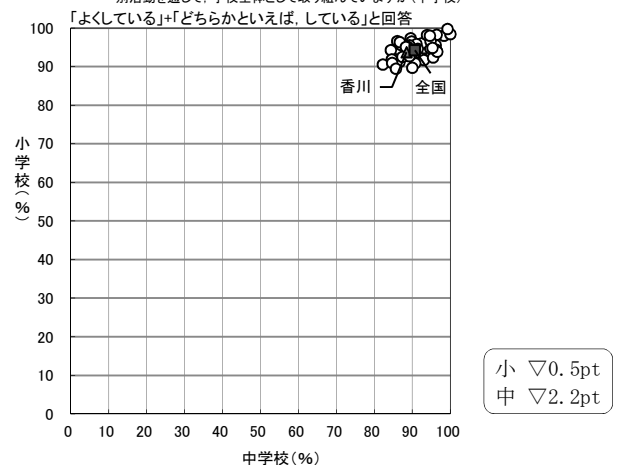
- 80/77 学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしていますか



【カリキュラム・マネジメントなど、学校運営に関する取組状況】

学校全体としての言語活動の取組

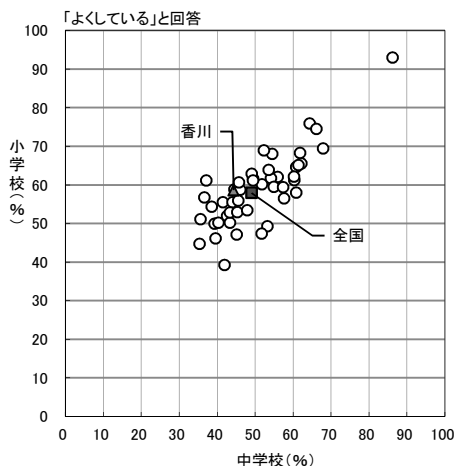
- 81/78 言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか(小学校)
言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか(中学校)



【教職員の資質能力の向上】

学級運営の状況や課題への組織的な取組

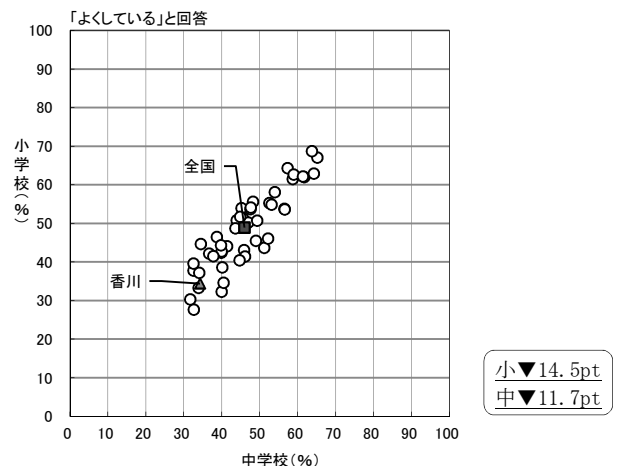
- 82/79 学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか



【カリキュラム・マネジメントなど、学校運営に関する取組状況】

学校全体としての業務改善の取組

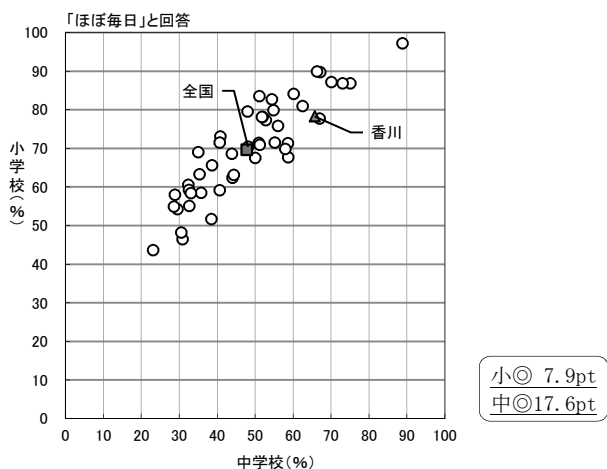
- 83/80 学校として業務改善に取り組んでいますか



【教職員の資質能力の向上】

校長による授業参観

■ 84/81 校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか



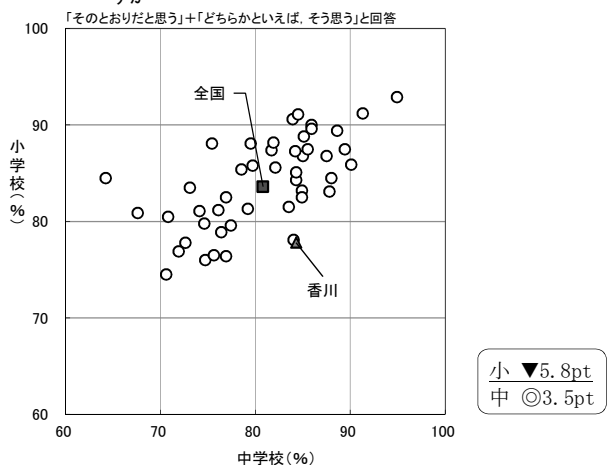
参考:香川県教育センター「アクティブ・ラーニング ノ スメ in かがわ Leaf. 5『アクティブ・ラーニングで全員参加の学校づくり!』」(平成 28 年 10 月)より

学校質問紙回答結果グラフ【拡大図】

【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】

自分で考え、自分から取り組むことができる

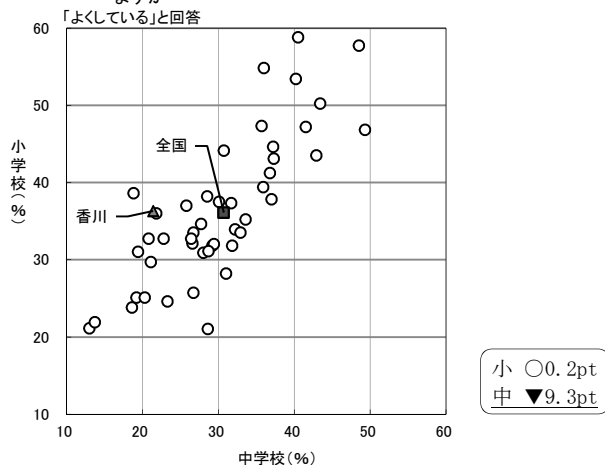
■ 13/13 調査対象学年の児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか



【カリキュラム・マネジメントなど、学校運営に関する取組状況】

各教科等の教育目標や内容の相互関係が分かる教育課程表

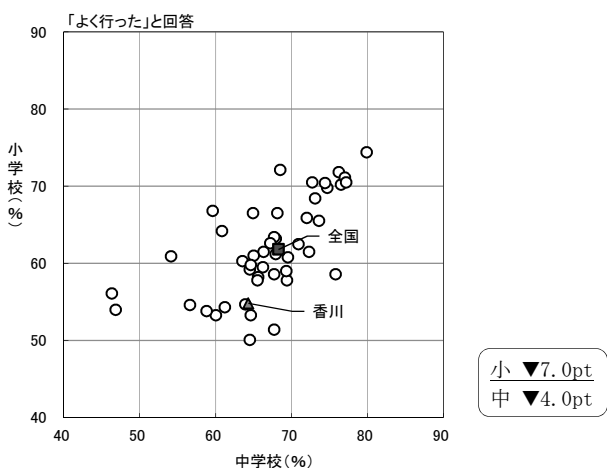
■ 17/16 教育課程表(全体計画や年間指導計画等)について、各教科等の教育目標や内容の相互関係が分かるように作成していますか



【規範意識、自己有用感等】

学級規律の維持

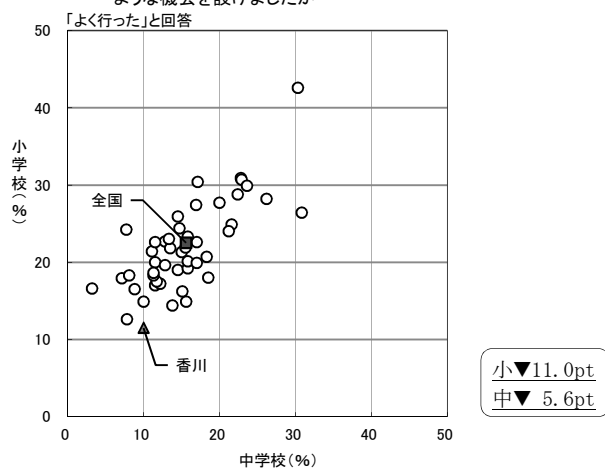
■ 25/24 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど)の維持を徹底しましたか



【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】

各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かす機会

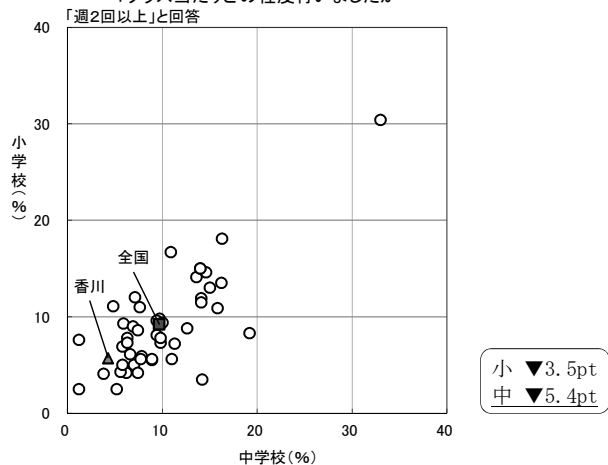
■ 26/25 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度に、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか



【ICTを活用した学習状況】

児童生徒がICTを活用した授業

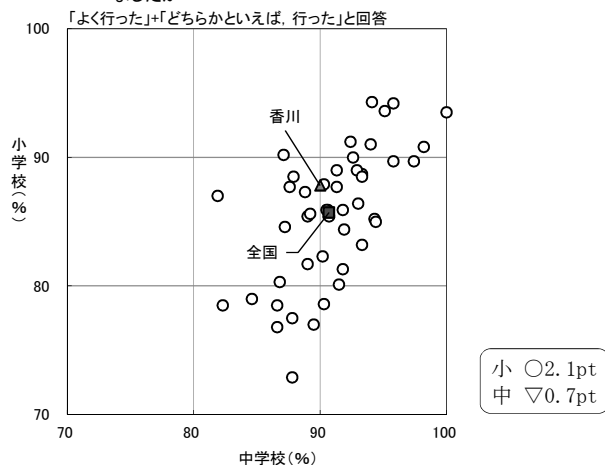
- 29/28 調査対象学年の児童生徒に対する指導において、前年度に、児童生徒がコンピュータ等のICTを活用する学習活動を1クラス当たりどの程度行いましたか



【理科の指導方法】

実生活における事象との関連を図った授業

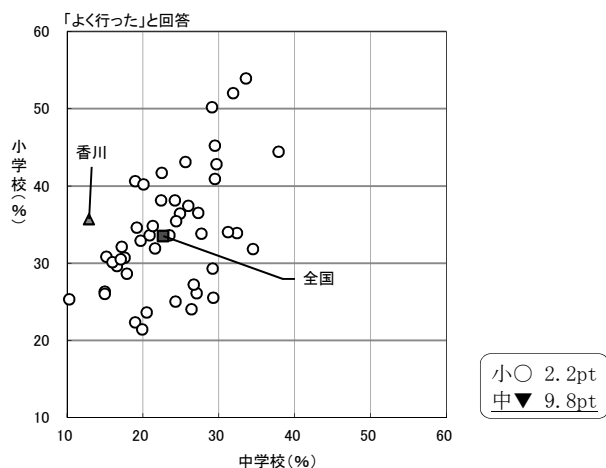
- 45/43 調査対象学年の児童生徒に対する理科の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか



【家庭や地域との連携】

地域の人材を外部講師として招聘した授業

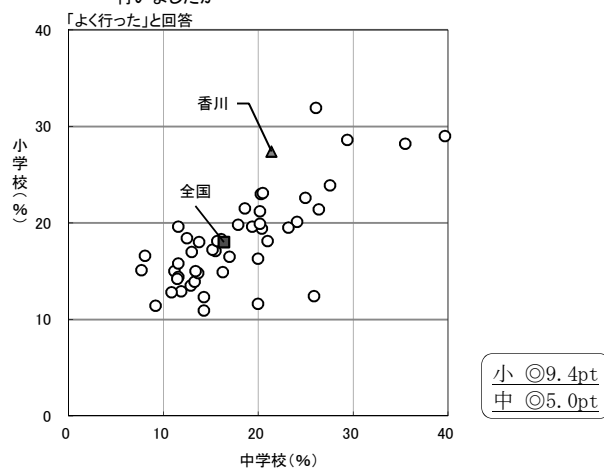
- 53/51 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか



【地域や社会に関わる学習活動等の取組】

地域や社会をよくするために何をすべきか考えさせる指導

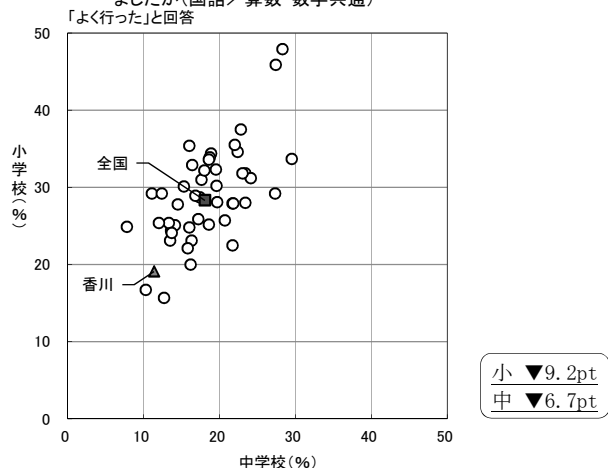
- 56/54 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えさせるような指導を行いましたか



【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】

調べたり、文章を書いたりする宿題 (国語／算数・数学共通)

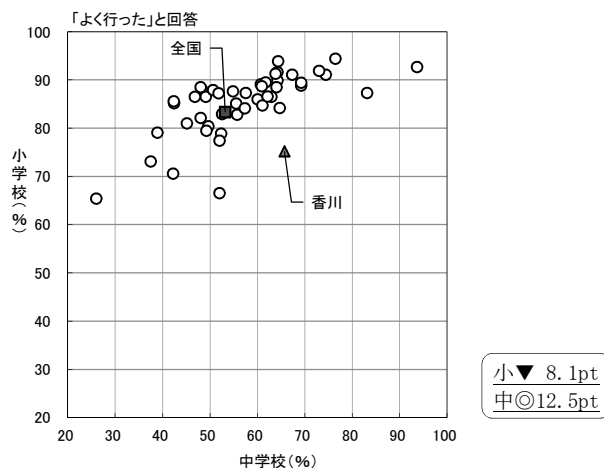
- 65/62 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えましたか(国語／算数・数学共通)



【家庭学習】

家庭学習の課題(算数・数学)

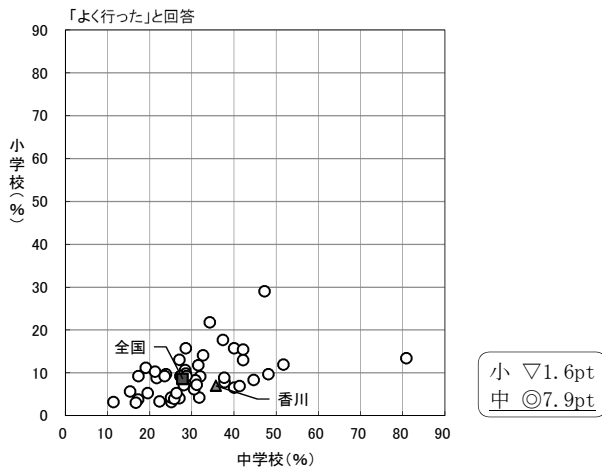
- 67/64 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、算数・数学の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか



【家庭学習】

家庭学習の課題（理科）

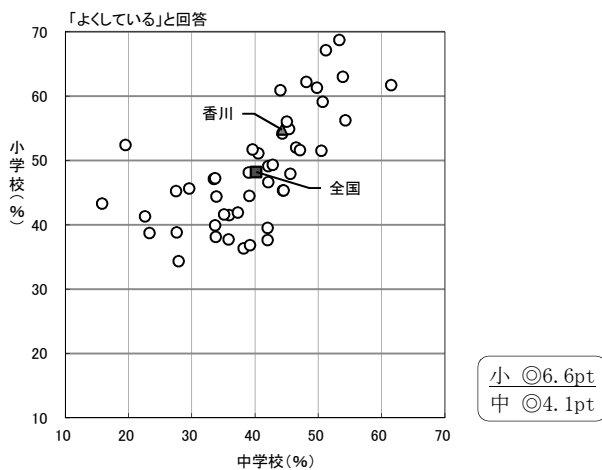
- 69/66 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、理科の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたが



【教職員の資質能力の向上】

指導計画の作成にあたっての協力

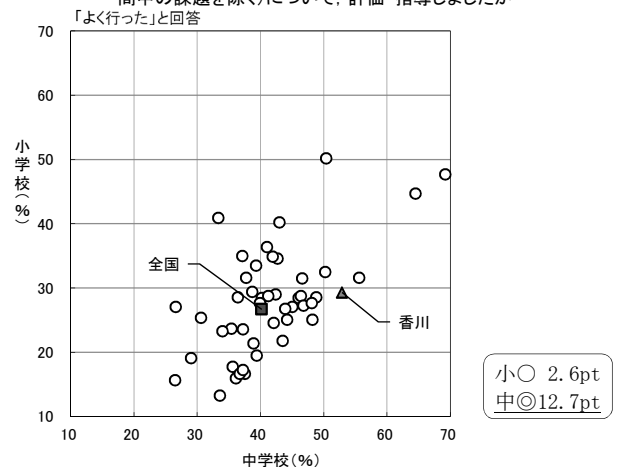
- 79/76 学習指導と学習評価の計画の作成に当たっては、教職員同士が協力し合っていますか



【家庭学習】

家庭学習の課題についての評価と指導（理科）

- 71/68 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、理科の指導として、児童生徒に与えた家庭学習の課題(長期休業期間中の課題を除く)について、評価・指導しましたか



参考: 香川県教育センター 平成 29 年度 研究成果報告書
「協働的な学習における ICT の活用に関する調査研究『未来の学びにつながるICTを活用した授業づくり～教師活用型から児童生徒実践型へ～』(平成 30 年 2 月)より